

平成 27 年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成 28 年 12 月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1	外部評価について	1
(1)	外部評価の目的	1
(2)	外部評価の対象	1
(3)	外部評価の方法	1
(4)	審議過程	1
2	評価	1
3	平成27年度事業全体に対する評価・指摘事項等	7
4	第3期中期目標期間全体に対する評価・指摘事項等	8
5	事業別評価	
1.	地域における男女共同参画推進リーダー研修（女性関連施設・地方自治体・団体）	9
2.	男女共同参画推進フォーラム	12
3.	大学等における男女共同参画推進セミナー	15
4.	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	18
5.	女性関連施設に関する調査研究	21
6.	若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究	23
7.	男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究	25
8.	女子大学生キャリア形成セミナー	27
9.	女性関連施設相談員研修	29
10.	行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修（女子中高生夏の学校）	31
11.	教育・学習プログラムの開発	34
12.	男女共同参画統計に関する調査研究	36
13.	調査研究成果の普及	38
14.	情報資料の収集・整理・提供	42
15.	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	44
16.	図書のパッケージ貸出	46
17.	女性アーカイブ機能の充実	48
18.	女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース+実技コース）	50

19. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	52
20. アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	55
21. 国際協力機構との連携による研修	58
22. N W E C国際シンポジウム	61
23. 国際的なネットワークの構築	63
24. 利用者への学習支援と利用の拡大	65
25. ガバナンス・内部統制の充実	67
26. 人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し	70
27. 業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価	73
28. 契約の点検・見直し	76
29. 外部資金の導入	78
30. 自己収入の拡大	80
31. 情報セキュリティ体制の充実	82
6 外部評価の観点	84
7 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成27年度)	85
8 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	97
9 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	98
10 自己点検評価調書の記載について	99

参考資料編

(括弧) 内は、事業シートのNo

1. (1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修(女性関連施設・地方自治体・団体)」実施要項	-- 103
2. (1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修(女性関連施設・地方自治体・団体)」 参加者概況	-- 108
3. (1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修(女性関連施設・地方自治体・団体)」 アンケート集計結果	-- 109
4. (1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修(女性関連施設・地方自治体・団体)」 フォローアップアンケート集計結果	-- 119
5. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」実施要項	-- 120
6. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況	-- 125
7. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果（参加者）	-- 127
8. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果（運営者）	-- 130
9. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果（特別講演）	-- 132
10. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果（シンポジウム）	-- 135
11. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」アンケート集計結果（映画）	-- 138
12. (2) 「男女共同参画推進フォーラム」フォローアップアンケート集計結果	-- 140
13. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項	-- 144
14. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」参加者概況	-- 148
15. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」アンケート集計結果	-- 149
16. (4) 「ダイバーシティ推進リーダー会議」実施要項	-- 152
17. (4) 「ダイバーシティ推進リーダー会議」参加者概況	-- 154
18. (4) 「ダイバーシティ推進リーダー会議」アンケート集計結果	-- 155
19. (4) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項	-- 159
20. (4) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況	-- 162
21. (4) 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」アンケート集計結果	-- 163
22. (8) 女子大学生キャリア形成セミナー実施要項	-- 167
23. (8) 女子大学生キャリア形成セミナー参加者概況	-- 170
24. (8) 女子大学生キャリア形成セミナーアンケート集計結果	-- 171
25. (9) 女性関連施設相談員研修実施要項	-- 175
26. (9) 女性関連施設相談員研修参加者概況	-- 179
27. (9) 女性関連施設相談員研修アンケート集計結果	-- 180
28. (10) 「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」実施要項	-- 188
29. (10) 「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」参加者概況	-- 194
30. (10) 「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 (女子中高生用)	-- 195
31. (10) 「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 (教員用)	-- 203

3 2. (10) 「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～」アンケート集計結果 （保護者用）	210
3 3. (11) 学習オーガナイザー養成研修実施要項	217
3 4. (11) 学習オーガナイザー養成研修参加者概況	221
3 5. (11) 学習オーガナイザー養成研修アンケート集計結果	222
3 6. (11) 埼玉県私立短期大学協会との連携授業実施要項	230
3 7. (11) 埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」実施状況	232
3 8. (14) 女性教育情報センターの運営	233
3 9. (15) 女性情報ポータルの整備充実	234
4 0. (18) 「女性アーキビスト養成研修（基礎コース）+（実技コース）」開催要項	235
4 1. (18) 「女性アーキビスト養成研修（基礎コース）+（実技コース）」アンケート集計結果	238
4 2. (20) 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」実施要項	249
4 3. (20) 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」アンケート集計結果	251
4 4. (21) 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」実施要項	253
4 5. (21) 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」 アンケート集計結果	256
4 6. (22) 「NWE C国際シンポジウム」実施要項	257
4 7. (22) 「NWE C国際シンポジウム」アンケート集計結果	259
4 8. (24) 利用状況	261
4 9. (24) 延べ利用者数・宿泊室利用率の推移	262
5 0. (24) 利用回数別利用状況	263
5 1. (24) 目的別利用状況	264

1 外部評価について

(1) 外部評価の目的

NWECでは、NWECが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWECでは、平成23年度から27年度までの第3期中期目標期間において、中期目標・中期計画に「適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う」としており、27年度計画においては、「自己点検と連動した外部評価を実施する。」としている。

これを受け、第3期中期目標期間の最終年度である平成27事業年度の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWECから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等をとりまとめた。

(4) 審議過程

平成28年度は計2回の委員会を以下のとおり開催。

第1回では、年度計画にある6本の柱毎に評価の対象となっている各事業の実施概要について確認を行い、第2回では、各委員から出た評価について意見交換を行い、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書をとりまとめる予定。

平成28年6月6日（月） 第1回外部評価委員会

- ・平成27事業年度外部評価の進め方
- ・平成27事業年度実施事業の概要説明

平成28年9月14日（水） 第2回外部評価委員会

- ・6本の柱毎の評価について
- ・平成27事業年度外部評価報告書総論について

2 評価

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力向上

指導者の資質・能力の向上への取組みに関しては、企業、大学、自治体、女性関連施設等の多様なアクターと連携しながら着実に推進してきており、個々の事業の内容や成果を見ても、そのことはよく表れている。各事業のテーマも、「貧困問題」、「北京世界女性会議から20年」、「男女共同参画の視点による大学での取組み」、「男性の家庭進出」といったタイムリ

一なものが取り上げられており、それぞれの事業への参加者の満足度が大変に高かったところをみても、高い評価に値する。また、ある事業の成果（成果物）を他の事業に活用するといった工夫も見られることは、大変望ましい。さらに、一部の事業について、1日目を東京都内の会場で開催後、NWE Cに移動して宿泊研修を行うという日程・会場上の工夫も、参加者の大幅な増大につながっているものと考えられ、高く評価できる。

従前から取り組んできた特定の事業の成果を他の事業のプログラムや教材等に活用することや、参加者の地域バランスの偏りの改善については、着実に進展してきているものの、今後さらなる創意・工夫や努力が求められよう。

<地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉>

◆応募倍率124.2%の応募者があり45都道府県から参加者の幅も広く期待と評価も定着している。メディアとの連携で「女性の貧困」をテーマに取り上げる等タイムリーな活動であり、フォローアップ調査の回収率が99.2%という高水準であったことから、その質の高さと参加者からの評価の高さがうかがえる。第4期の活動も期待したい。

<男女共同参画推進フォーラム>

◆参加者数が1,200人を超えるこれまでの実施の中で最も多くなっており、男女共同参画とそれを推進する人材への教育を十分に果たすことができたと考える。これほどの人数を集められたのは、今までのフォーラムの評判やプログラムの充実、広報活動の努力によるものと考える。

<大学等における男女共同参画推進セミナー>

◆質の高い活動が定着している名古屋大学の元総長を基調講演に招聘するなどの工夫とともに、大学内での男女共同参画推進リーダーに加えて、新たに入試担当者、就職担当者、総務・人事担当者など、大学での男女共同参画推進に直接関わる実務部門の職員にまで参加対象者を広げて、より実践的で効果的な成果をめざした積極的な取組姿勢が高く評価できる。また2日間の日程のうち、1日目を都内で実施し、移動・宿泊を経て2日目はNWE Cで実施するという新たな開催方法を採用することで、多くの参加者を得、そこでの満足度も高い。

<企業を成長に導く女性活躍促進セミナー>

◆「ダイバーシティ推進リーダー会議」と「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」は、前者が後者の企画を行うための現場のニーズと課題把握を目的として有機的に統合された運動事業として位置づけられており、個別事業を連関させることでシナジー効果を生み出す有効な試みとして、今後とも大いに期待できる事業展開の可能性を示したものといえる。また、いずれにおいてもアクション・ラーニングの手法を導入するなどプログラム内容の充実度も高く、参加者の満足度も高い。特に、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」においては、2日間の日程のうち、1日目を都内で実施後、移動・宿泊を経て2日目はNWE Cで実施するという新たな開催方法を採用しており、その結果として、応募倍率140%という高い関心が示されたことは喜ばしいことである。さらに、タイムリーな得たテーマを設定したことでもプログラムの有用度や満足度を高めているものと考える。

◆このセミナーは、企業を成長に導くのみならず、女性が働きやすい環境をつくることで中心

の企业文化を改革することにつながるものであり、今後のさらなる拡充が期待される。

＜女性関連施設に関する調査研究＞

◆地域における女性の活躍推進を明らかにし、地域に根付いた男女共同参画の在り様を示している。地方公共団体における男女共同参画担当部局の役割について、検討すべき問題点も見いただされ、大変有益な研究結果が示されたと考える。この結果を活用し、地域における男女共同参画の推進とそのための事業などを展開し、男女共同参画を普及していくことが期待される。

2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

ここではNWE Cに期待される最も中心的な役割の一つである女性教育、家庭教育の喫緊の課題に対する教育プログラム開発や普及がこの柱全体のテーマであり、いずれも社会の動きを敏感に反映する内容でNWE Cの特徴が十分打ち出せている。またこの分野全体を通して、女子中高生、短期大学生、4年制女子大学生というように、事業対象者の年代をきめ細かく区切り、それぞれの年代の女性にとって最も必要性の高い内容を提供するという方向性が顕著に示されており、このような企画のあり方自体が、NWE Cの中心的な役割としての女性教育全般に対する深い問題意識の表れとして高い評価に値するといえる。中学、高校から大学までさまざまな教育機関との連携も順調に進んでおり、今後は、事業によってはさらに参加者の増加に関して積極的に取り組むことで、一層の成果が挙げられるものと期待される。

＜若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究＞

◆NWE Cのミッションを踏まえた取組みと言え、今後、調査結果の蓄積と活用が期待できる。

＜男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究＞

◆放送大学との提携でオンラインコンテンツを作成し、幅広い受講生に向けた取組みがなされている。オンラインであるということは、時と場所を選ばずに自由に学習が行えることを意味しており、遠隔教育の利点を活かした受講生の拡大に寄与している。

＜女子大学生キャリア形成セミナー＞

◆女子大学生キャリア形成セミナーに参加する学生の参画意識は高く、参加した学生のプログラムの満足度は高い。今後は、応募倍率の向上に向けて広報の方法をどうするかの検討が必要である。

＜女性関連施設相談員研修＞

◆現代の女性の悩みに関するテーマを捉えており、満足度、有用度ともに高い。参加者アンケートでも「現場すぐに応用できる内容、現場窓口で素晴らしい助言ができる自信がもてた」「ホスピタリティ溢れるスタッフの対応が嬉しかった」とあり、現場の相談員の皆さんにすぐに役立つ研修が行われたことが理解できる。

＜女子中高生夏の学校＞

- ◆安定した質と高い評価を得ており、今後も継続を期待したい。応募倍率が178%と高い事から、定員枠をもう少し拡大することが必要である。

＜教育・学習プログラム実施に関する支援＞

- ◆埼玉県私立短期大学協会や埼玉大学との連携事業は、地元の学生たちのために自らの今後のキャリアを考えたり、また具体的に統計データの活用について学んだりするなど、学生のためになる研修になったと考える。

3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

NWECの最大の特色である、男女共同参画に関する国内最大規模の資料・情報収集機能と情報発信機能をフルに発揮している点で、ナショナル・センターとしての役割を十分に果たしている。今年度もその期待に十分応えた事業が展開されていると評価できる。

＜男女共同参画統計に関する調査研究＞

- ◆NWECの主催事業に加えて、男女共同参画センターや行政機関等での研修にも男女共同参画統計データが活用されるなど、事業成果の活用に新展開が認められる。
- ◆調査研究の成果は、NWEC主催事業の講義・ワークショップ等で活用されるなどの成果がある。データでの情報発信が難しいが重要なテーマなので、今後の調査研究と情報発信を期待する。次年度計画への反映として述べられているホームページ上のデータ提供の検討はぜひ実施していただきたい。

＜調査研究成果の普及＞

- ◆報告書・冊子を作製し、適宜配布されている。一つ一つの研究は、タイムリーであり、今後の男女共同参画を推進するために重要な課題ばかりである。ウェブも有効に使われており、研究結果が容易にダウンロードできるようになっている。

＜男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供＞

- ◆レファレンス・サービスや文献複写サービスなどの利用数が前年度より大幅に伸びるなど、情報提供・活用に向けた積極的姿勢が随所にうかがえる。
- ◆地味な作業であるが、とても重要な業務である。特に、新聞切り抜き資料の件数が伸びている。こうした資料の提供は、NWECでしかできないものである。
- ◆ナショナル・センターとしては将来にわたり価値を提供できる活動だと考える。人員不足のなか作業量増加は厳しいとは思うが、ぜひ継続して活動いただきたい。

＜女性情報ポータル及びデータベースの整備充実＞

- ◆平成27年度も年間目標アクセス数を上回っている。ナショナル・センターとして重要な業務であるので、引き続き最新情報の提供をお願いしたい。

<女性アーカイブ機能の充実>

- ◆他に見られないNWE C独自の機能をフルに生かした事業として、資料の収集・デジタル化に関して年度目標1千点をはるかに超える1,514点の新規受け入れを実施し、展示室利用件数も第3次中期計画目標値の5万件を上回るなど当初の予定以上の成果が示されており、ナショナル・センターとしてのNWE Cの情報収集・提供事業の重要な意義があらためて内外に示された取組として大いに評価されるべき結果となっている。
- ◆NWE Cで収集し、データ化しているアーカイブ事業は大変に貴重である。今後もその収集範囲を拡大していくことが望まれる。
- ◆NWE C施設を訪問された方々にとって付加価値となる質と量の展示を今後もぜひ継続していただきたい。NWE Cの交通の不便さはあるものの広い敷地と施設の良さを生かした充実した展示情報が、高付加価値として訪問者の期待を超えるものになることを期待したい。

4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等や関係府省との連携・協働の推進

- ◆協働での事業実施数は当初予定の7を大きく上回って倍以上の18にも上っており、連携先も官公庁から独立行政法人、教育団体、大学関係、NPOと多岐にわたっていることも特徴的である。こうした多様な連携先の開拓によって、特色ある企画の実現やこれまで以上に新たな講師、参加者の拡大にもつながっていく展望が開けていることも重要な成果である。平成23年度からの連携機関累積数も83に達しており、事業としての当初の目的以上の成果が果たせたといってよい。さらに、事業の効果的運営だけでなく、多彩なアクターとの連携によりNWE Cの知名度アップが期待できることも重要である。今後とも多様な連携先と時宜にかなったテーマを設定して社会的ニーズに応える連携事業を実施し、NWE Cのみならず連携先での男女共同参画の取組み促進につながる展開が一層望まれる。
- ◆協働実績累積件数は83件にもなり、多くの機関との連携が認められる。連携先として放送大学という多様な学生の存在する機関を選ばれたことは、男女共同参画の普及という点から、連携先にとっても良いものであると思う。
- ◆内閣府で男女共同参画・女性活躍の推進に向けた重点事項として男女共同参画推進事業を実施しているが、その中にも、男女共同参画センターの職員・スタッフに対する研修を位置づけ、NWE Cも連携の枠組みに入ることも是非検討してはいかがか。
- ◆目標の7機関を上回る18機関と連携ができており、大変評価できる。協働事業の広がりによりNWE C及びその活動の認知も広がってきているような印象を持っている。今後とも様々な機関との連携を期待したい。

5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携・協働の推進

- ◆アジア地域を中心に国際的な連携関係が確立されていることは高く評価できる。今後ますますその役割を果たすべきだと考える。

<アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー>

- ◆NWE Cのナショナル・センターとしての対外的機能の発揮が最も期待されるのが、この国際貢献・連携・協働の推進に関わる分野と言ってよい。今年度も時代の要請に応える適時性

の高い事業が揃っているが、とりわけ「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」では、女性の起業というきわめて今日的な観点からの経済的エンパワーメントがテーマとなっており、時代の強い要請に答えようとする前向きの姿勢が高い評価に値しよう。結果として有用度・満足度ともに90%以上という高い数値が示されたことが、この事業の意義と成果を明確に表している。

- ◆5か国の担当者を参加者とし、タイムリーなテーマでの研修がなされた。事前に義務付けたベストプラクティスをテーマとしたポスターの作製が大変興味深い。今年はこれまでに参加がなかったミャンマーからも2名招聘し、参加対象国を増やしている。研修参加者間ではSNSを使ったネットワークが作られ、セミナー後も効果が継続している。
- ◆例年、参加者定数（10人）規模の参加者と有用度・満足度100%を継続している優良セミナーである。男性の専門家の講義を期待する声が出るなど興味深い反応もあり、その活動成果を国内事業へ活かしていくことで付加価値を上げることも期待したい。

<国際協力機構との連携による研修（課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」）>

- ◆海外事情への関心と理解、そこからの気づきと学びを得る良い活動であり評価できる。多様な参加者ニーズに応えるための新たな企画・運営への気づきが次年度計画への課題として取り上げられているが、NWE C全体および他団体の活動レベルの引き上げにも貢献できる課題だと考えるので、今後の検討成果を期待したい。

<NWE C国際シンポジウム>

- ◆テーマを「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」と同じテーマに設定したことで、両事業の効率的・有機的な連携が図られたことは評価できる。

<国際的なネットワークの構築>

- ◆「国際的なネットワークの構築」においては特に情報発信を積極的に行ってNWE Cの取組の普及に努めるなど、積極的な事業展開の方向性が示されている点も高く評価できる。

6 NWE C利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

- ◆利用者の新規開拓、増加のために、NWE Cが熱意を持ってさまざまな方向から努力を傾注していることは、これまでの外部評価でも常に各委員が指摘してきた特徴であり、都心から、あるいは地方から遠いという地理的に不利な条件や、利用者側に広がる経済的格差などを考慮すれば、現状においてすでに最大限の経営的努力が行われていることは異論のない所であろう。しかしながら、その中でも、PFI化を導入し民間の手法やノウハウを活用した利用拡大への取組を開始したり、地道な訪問活動などを通して企業や商工会に対する誘致活動に努めたりするなど、さらなる多様な取組を実践していこうとしている姿勢が継続していることは大いに評価される。特に若年世代への広報や利用拡大の工夫を積み重ねた結果、高校の利用実績が増加するなど着実な成果が上がっていることなども高く評価したい。将来にわたって、特に長期的な利用者層の拡大と定着という観点からの粘り強い取組がさらに期待される。

- ◆宿泊室利用率の上昇は、利用拡大戦略の効果であり、訪問活動など大変な苦労をされていることがわかる。情報提供やアーカイブ企画展、館内のパネル展示の充実など、恵まれた施設環境における良質の情報提供の価値を浸透させるとともに、初めて利用した利用者の声をきちんと把握し、今後の利用促進に役立てることを期待する。
- ◆NWE Cの主催事業参加者以外の一般の利用者に対し、展示等様々な努力をしていることは評価できる。
- ◆宿泊率利用率は40.6%と残念ながら目標の55%には達成していないが、少しずつ宿泊室率も上昇していることは評価できる。

3 平成27年度事業全体に対する評価・指摘事項等

平成27年度に実施された事業は、どの事業も前進している。研修等におけるプログラムの内容は大変に洗練されており、受講者の満足度、有用度ともに高い。また、調査研究や資料情報の提供、国際貢献についても、タイムリーなテーマでかつ適切な内容で実施されており、我が国のナショナル・センターとして極めて優れた成果を挙げている。

NWE Cは、ナショナル・センターとしての本来のミッションを理事長から職員に至るまでしっかりと認識した上で、新規事業の積極的な開拓、既存事業の内容充実に向けた創意工夫、効率的な業務運営のための諸々の取組み、といった各種の努力が全体にわたって顕著に行われている。特に、多くの事業の「質」が年ごとに向上していることを高く評価したい。こうした活動実態は、時代の動きを常に敏感にキャッチして社会の要請に応えうる新たな事業に果敢にチャレンジしていく積極的な姿勢と、多くの関係する機関・団体との連携・協働を随所に図り、効率的な業務運営に努めつつ、男女共同参画の促進をそうした様々なルートを通じてできるだけ多方面に広げていこうとする中核的拠点施設としての役割意識に基づくものであり、NWE Cの存在意義を高めるものとなっている。

他方、こうしたスタッフの努力が過重な負担となり、かえってNWE Cの本来の業務を弱体化させることはないよう、様々な関係機関との連携・協働を事業の内容面でも運営面でも一層進めて、男女共同参画推進ネットワークの中核的拠点として果たすべき役割を全うすることが重要である。また、近年、重要な政策課題となっている「女性の活躍推進」というテーマをNWE Cがそのミッションに即して具体化することを期待したい。

なお、宿泊室等の稼働率については、様々な創意・工夫によって、PFI化の効果が出てきていることは好ましいことではあるが、近年のNWE Cに課せられた効率的な施設運営という課題が、それ自体として活動の自己目的にならないように十分留意する必要がある。PFI化をはじめとするさらなる効率化の努力が追求されていることはもちろん重要だが、効率化は、事業の「質」の担保や定員・予算の範囲によって限界づけられており、無限定ではない。この点を十分踏まえる必要があろう。

4 第3期中期目標期間全体に対する評価・指摘事項等

第3期中期目標期間全体を通して、NWE Cが、その活動全体によって、我が国における男女共同参画の推進に果たしてきた功績は、極めて大きい。このことは、毎年行われてきたNWE Cの諸活動に対する評価が極めて高い水準を維持し続けてきたことを見れば明らかである。これは、ひとえに、理事長以下すべてのスタッフが、男女共同参画推進に関する強い使命感を持ちつつ、適切な現状認識と深い課題解決に向けての洞察力を備え、高度な専門性をもって事業を企画・立案し、国内外のさまざまな機関・団体と積極的に連携・協働を図りながら、旺盛な行動力を発揮して実践的かつ効果的に活動の推進を図ってきた成果にほかならないと考えられる。とりわけ、NWE Cがナショナル・センターとして、我が国の基幹的な男女共同参画推進の拠点であるという自覚のもとに、卓越した情報収集能力と企画力を発揮して、最新の動向を的確に踏まえつつ、タイムリーな新規事業を次々に打ち出してきたNWE Cスタッフの専門職としての力量の高さは、特筆に値する。

その一方で、このような優れた人的資源と成果を有するNWE Cが、この中期目標期間において、常に利用者の拡大をはじめとする運営の効率化といった、その本来的なミッションとはいささか次元の異なる課題への対応において膨大なエネルギーを傾注せざるをえなかつたという状況は、その本来的任務との関係において、今一度考慮されるべき問題であると言わざるをえない。NWE Cのスタッフの努力を多しつつ、次の中期目標期間への移行にあたり、改めて、評価方法や評価基準そのものあり方についての再検討が必要な時期にきていると考える。

今後は、男女共同参画の本来の趣旨である、男性・女性共に活躍する社会を目指すため、男性のジェンダー意識や働き方、価値観等へ働きかけることが今まで以上に求められてきており、こうした観点から、プログラムの内容、参加者、講演者等への男性参画を広げることを検討いただきたい。また、女性を取り巻く課題は企業内にとどまらないのであり、引き続き関係する事業の情報発信も含め今後の活動の充実を期待したい。

5 事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ①地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉

事業名	地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(1)	計3名

年度実績概要
1. 趣旨 地域における男女共同参画の推進を図るため、女性関連施設、地方自治体、民間団体の職員を対象とした学習の場を提供する。男女共同参画推進リーダーとして必要な知見、マネジメント能力、ネットワーク構築力を向上させるための高度で実践的な研修を実施する。
2. 実施概要 「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」をテーマとし、研修の前半では、4省庁の施策説明及び講義などから、女性活躍推進に向けた最新の施策や喫緊の課題などについて理解を深めた。後半のコース別ワークショップでは、女性関連施設等における女性活躍と男性の働き方改革や、地方自治体における戦略的取組、団体における困難を抱えた女性に対する支援やエンパワーメント等について、全国の好事例による報告を基にグループワークを行った。加えて、情報交換等により、参加者相互のネットワークづくりを図った。
3. 開催日時・会場 平成27年5月20日(水)～22日(金) 2泊3日 NWEC
4. 研修内容の分析 初日午前に実施したプレ講義では男女共同参画の基礎知識を歴史的背景から解説し、研修の導入に最適であった。今回のテーマでもある「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」と題した講演では、女性活躍を推進するには家庭内での家事分担や男性の長時間労働の是正は重要であり、ワークライフバランスや女性の活躍は経済的な成長に大きく影響していることなどが伝えられた。また調査報告として、NHK報道局から、今までに社会問題となってきた女性の貧困について取材を通して見えてきた課題とその背景について提言があった。省庁による施策説明では、例年実施している内閣府、文部科学省、厚生労働省に、経済産業省も加えて、女性の継続就労を支援する企業への働きかけについての情報提供を行った。
また、コース別ワークショップは、各コースとも課題に対応するヒントを多く含んだ事例の厳選により、高い評価を得た。本研修の趣旨である、男女共同参画の視点を踏まえた、あらゆる女性の活躍する社会の実現に向けて連携・協働関係の構築支援をするため、参加者が一同に集う「課題把握のディスカッション」「全体会」は、3者の連携・協働関係を意識した構成とし、情報交換会や自由交流の実施の工夫により、ネットワークの構築に貢献することができた。さらに本研修を各地域でどのように生かすかを計画する「研修成果の活用プラン」により、研修成果を生かす学びのサイクルを構築した。
5. 研修対象者の厳選 全コースにおいて、参加者の決定にあたって実際の業務・活動内容の確認を行う等、基幹的な指導者を厳選した。なお、地方公共団体コース参加者はほとんどが新規参加者であった。
6. 内容評価 全体の有用度 98.5% (非常に有用 62.1%、有用 36.4%) 【99.2% (非常に有用 64.6%、有用 34.6%)】 全体の満足度 97.0% (非常に満足 44.3%、満足 52.7%) 【93.8% (非常に満足 51.9%、満足 41.9%)】
7. 影響評価 研修6か月後に実施したフォローアップ調査では、研修の成果が仕事や活動に役立ったとの回答が 99.2% であり、特に「大いに役立っている」との回答が平成26年度の44.6%から平成27年度は46.8%とその割合が増加している。また、研修の成果を普及・活用した方法は「研修内容の報告・説明」80.5%、「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」38.3%、「来年度事業・予算への反映」32.0%と高く、「研修資料を活用した勉強会・研修会の開催」「所属組織・団体の体制づくり・整備への提言」がともに15%を超えるなど、研修によって得た知識や情報を幅広く積極的に活用している。

8. フォローアップ調査回収率向上のための取組

研修成果の活用プランを研修時のアンケート用紙と統合し、質問項目を厳選・簡略化した結果、フォローアップ調査の回収率は 99.2% となった。

9. 参加者の地域バランス

関東甲信越以外のすべての地域で参加者が増え、47 都道府県中 45 都道府県から参加があり、参加者の地域バランスも相対的に改善されている。また講師及び事例報告者を各地域ブロックから選出するなど多様な事例を提供した。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- (1) 参加者 : 141 名(女性 116 名、男性 25 名) 定員 120 名
- (2) コース別 : 女性関連施設管理職コース 59 名、地方自治体コース 53 名、団体リーダーコース 29 名
- (3) 年代別 : 20 代 5 名(3.5%)、30 代 22 名(15.6%)、40 代 33 名(23.4%)、50 代 44 名(31.2%)、60 代 22 名(15.6%)、70 代以上 6 名(4.3%)、無回答 9 名(6.4%)
- (4) 地域別 : 北海道・東北 15 名、関東 49 名、甲信越 10 名、北陸・東海 18 名、近畿 12 名、中国・四国 16 名、九州・沖縄 21 名

2. アンケート結果

- (1) 男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた : 95.5%
- (2) 男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた : 96.1%
- (3) 地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた : 88.2%

3. 主な意見・感想等

- ・時代に合ったテーマ設定で、これからの展開を考える上で大変参考になった。
- ・男女共同参画を様々な角度から考えることができた。
- ・様々な話や事例を聞く中で、自分自身のエンパワーメントになった。

事業実績

※応募倍率は申込者総数(含キャンセル) ÷ 定員である。

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員(人)	120	120	120	120	120
参加者数(人)	130	132	163	138	141
応募倍率(%)	117.5	110.8	149.2	125.0	124.2
満足度(%)	90.6	96.0	99.2	93.8	97.0
有用度(%)	97.0	98.9	100	99.2	98.5
フォローアップ調査(%)	79.4	90.6	93.8	94.0	99.2

地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26	H27
北海道・東北	11.5	9.1	9.8	12.3	10.6
関東	38.4	51.5	51.1	39.9	34.8
甲信越	8.5	6.8	4.9	7.3	7.1
北陸・東海	13.1	9.9	11.0	10.9	12.8
近畿	6.9	6.1	6.1	10.1	8.5
中国・四国	7.7	6.8	6.1	9.4	11.3
九州・沖縄	13.9	9.8	11.0	10.1	14.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：政府の成長戦略である「女性活躍の推進」をテーマに取り上げ、男女共同参画の視点から多角的にとらえた内容としている。					
独創性：ナショナルセンターとして、地域において男女共同参画を推進する主体である女性関連施設・地方公共団体・民間団体の三者が全国規模で一堂に会する研修を実施している。					
発展性：講師及び事例報告者は、各組織・機関にとって有用と思われる事例を各地域ブロックから選定した。また、全国からの参加者との情報交換や交流を支援することで、多様な地域及び主体からなる協働関係を構築するきっかけとなりうる。					
効率性：女性関連施設管理職コースの運営に関し、特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催により行うことで、NWEC と全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性関連施設のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てたことは効率性向上の取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度	フォローアップ調査		
判定	A	A	A		
○応募倍率：124.2%					
○プログラムの有用度：98.5%（非常に有用 62.1%、有用 36.4%）					
○フォローアップ調査：99.2%（非常に役立った 46.8%、役立った 52.4%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	今年度は、NHK 取材班による「女性の貧困」をテーマとした映像を交えた報告をプログラムに組み込んだ。メディア機関との連携は、ナショナルセンターとして招聘に成功したものであり、非常に満足度が高かった。参加者によるプログラムの満足度及び有用度は今年度も評価が非常に高く、フォローアップ調査では期間中で最も高い評価を得ており、研修で得た成果をそれぞれが現場に持ち帰り、実際に広く活用していることが伺える。
A	女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを地域で男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的指導者に対し、高度で専門的な研修と情報交換の場を継続的に提供した。参加者による満足度及び有用度は常に 97% を超えて評価が非常に高い。フォローアップ調査においても年々評価が上がり、参加者のニーズに基づいたプログラムとして適切であり、ねらいを十分に達成できたと考えられる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○男女共同参画推進の基幹的指導者の養成を目的として、第4期も引き続き実施する。
○施策説明については、適時性も踏まえ、必要と考えられる省庁との連携をさらに進めたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 (2) 男女共同参画推進フォーラム

事業名	男女共同参画推進フォーラム	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(2)	計4名

年度実績概要	
1. 趣旨	男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一同に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修。組織分野を超えて連携・共同して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成も図る。
2. 実施概要	1日目は林文子横浜市長による特別講演「超成熟社会の鍵は”女性”」を開催。待機児童ゼロをはじめとする女性活躍推進にかける思い、行政トップとしてのリーダーシップなどについて語った。2日目のシンポジウム「北京世界女性会議—あの時、今、そしてこれから—」では、各パネリストより北京世界女性会議後の20年間における政府・NPOの国内外の取組報告及びレビューと今後に向けての提言があった。最終日は、女性の起業や自立、夫婦の問題、過疎化、高齢者の活躍について実話を基に描いた映画「人生、いろどり」上映会を実施した。また期間中、一般公募団体及び個人によるワークショップ43件及びパネル展示6件を実施。日頃の研究成果や実践活動報告、質疑応答、協議が行われた。このほかNWEC提供プログラムとしてワークショップ3件、資料展示、NWECボランティアによる交流プログラムを実施した。
3. 開催日時・場所	平成27年8月20日(木)～8月22日(土) 2泊3日 NWEC
4. 研修内容の分析	3日間のプログラムやワークショップでは、全国各地から様々な分野・活動・年代の参加者が集い、最新の動向、活動実践、研究成果の発表や報告などを行った。全体テーマ「一人ひとりの活躍が社会を創る」には、男女共同参画社会の実現には、ひとにぎりのトップリーダーの活躍だけではなく、社会を構成している一人一人が、それぞれの持ち場、領域で自分の持っている能力・個性を發揮していくことが求められている、女性の活躍推進は、ごく一部の女性のためだけではない、というメッセージをこめた。
5. 研修対象者および課題の厳選	一般公募による募集ワークショップのテーマ設定を第3次男女共同参画基本計画に沿った内容とし、実施団体の選定については外部有識者を交えた「ワークショップ選定委員会」を開催した上で厳選した。
6. 内容評価	全体満足度96.0%、特別講演満足度91.7%、シンポジウム満足度91.6%、映画「人生、いろどり」上映会満足度97.7%と、参加者からは3日間を通して90%以上の満足度を得ることができた。
7. 影響評価	募集ワークショップ(ワークショップの部及びパネル展示の部)運営者満足度95.7% (とてもよかったです76.6%、よかったです19.1%)
8. フォローアップアンケート(2016年2月実施)	有用度 95.9% (非常に役に立った59.2%、役立った36.7%) 回収率 100.0% (ワークショップの部43件、パネル展示の部6件) アンケート用紙送付後も、担当者が積極的に運営団体に働きかけ回収を促した結果、平成26年度と同様に回収率100%を得た。
9. 参加者の地域バランス	参加者の約7割が関東である。約3割弱の他地域からは、全国からほぼバランスよく参加者を得た。
10. 全国フォーラムにおける交流機会の充実	期間中はフェアトレード製品や地元の女性起業家、障害者の自立支援に取り組むNPOによるブースも設置し、参加者同士の交流を促した。またNWECボランティアに対して、このフォーラムへの参画を研修の機会と位置づけ、交流プログラムの自主企画・運営・実施を通じて、参加者との交流を図ると共に、ボランティア自身の学習とエンパワーメントの機会とした。
11. 大学や企業等からの参加促進状況	

参加者全体に対する「研究者・大学教員」の割合は、55名（4.4%）「会社員・企業関係者」は32名（2.6%）と少ない割合であるが、募集ワークショップやパネル展示にも出展し、大学やダイバーシティ先進企業などにおける男女共同参画推進の成果報告の場として活用されている。また、大学ゼミ授業の成果発表として学生自身によるワークショップも実施されるなど、学校教育現場との連携の可能性も少しずつ広がっている。

12. 関係機関及び団体との連携

会館提供ワークショップの1つを復興庁男女共同参画班と共に、シンポジウムは北京+20 NGOフォーラム実行委員の協力を得て実施し、企画・運営・集客面で協力を得たほか、女性教育情報センター前で開催した資料展示においてアーカイブ資料の提供を受けた。また、このフォーラム全体を外務省主催「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW!2015）」の趣旨に賛同する「シャイン・ウィークス」公式サイドイベントとして登録した。

13. フォローアップアンケート調査結果の研修プログラムへの反映

平成26年度のフォローアップ調査に寄せられた意見を反映し、興味関心を持ち始めた人も気軽に参加できるプログラムとして映画上映会を実施し、好評を得た。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- (1) 参加者：1,252名（女性1,073名、男性179名） 定員1,000名
- (2) 年代別：10代 24名（1.9%）、20代 69名（5.5%）、30代 71名（5.7%）、40代 135名（10.8%）、50代 207名（16.5%）、60代以上 655名（52.3%）、無回答 91名（7.3%）
- (3) 地域別：北海道・東北 85名、関東 906名、甲信越 111名、北陸・東海 51名、近畿 36名、中国・四国 20名、九州・沖縄 31名、※無回答 12名を除く

2. アンケート結果

- (1) 全体の満足度 96.0%（とても満足した 46.2%、満足した 49.8%）
- (2) 特別講演「超成熟社会の鍵は”女性”」満足度 91.7%（とてもよかったです 60.6%、よかったです 31.1%）
- (3) シンポジウム「北京世界女性会議～あのとき、今、そしてこれから」満足度 91.6%（とてもよかったです 55.2%、よかったです 36.4%）
- (4) 映画「人生、いろどり」上映会 97.7%（とてもよかったです 72.7%、よかったです 25.0%）

3. 主な意見・感想等

- ・たくさんの方々と刺激的な出会いがあり、実り多い研修になった。
- ・女性たちのネットワークの力が大いに發揮され、未来への希望や志につながった。
- ・具体的な行動への示唆に富んだ大変参考になるフォーラムだった。

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員（人）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
参加者数（人）	905	1,035	1,049	1,165	1,252
応募倍率（%）	90.5	103.5	104.9	116.5	125.2
満足度（%）	89.1	88.8	88.2	94.8	96.0
有用度（%）	99.7	98.2	95.0	—	—
フォローアップ調査（%）	100.0	100.0	95.2	97.9	95.9

参加者内訳

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者数（人）	905	1,035	1,049	1,165	1,252
企業	23	54	33	57	32
大学	72	50	58	37	55
学生	19	22	28	33	54

地域バランス (%)

	H23	H24	H25	H26	H27
北海道・東北	15.0	10.7	10.9	6.6	6.9
関東	59.9	64.2	66.9	72.0	72.0
甲信越	11.8	11.9	11.3	9.9	9.0
北陸・東海	3.3	4.8	3.3	4.3	4.1
近畿	4.8	4.5	4.7	3.2	2.9
中国・四国	0.9	1.7	1.2	1.6	1.6
九州・沖縄	4.3	2.2	1.7	2.4	2.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		
独創性：男女共同参画に取り組む女性団体や研究者、女性センター職員をはじめ、女性活躍やワーク・ライフ・バランス、キャリア教育等に興味をもつ行政・企業・大学・団体など、幅広い分野から1,000名を越える関係者が全国規模で一堂に会する機会である。平成8年度から長年にわたって実施されている事業は全国でも数少なく、NWECの夏の風物詩として男女共同参画リーダーの間で認知されている。					
発展性：NWECをはじめ、男女共同参画に関する様々な分野・テーマのワークショップやパネル展示が展開され、幅広い手法での情報収集・交換が行われた。地域に戻った学習者の活動の幅を広げることが期待される。また復興庁男女共同参画班や北京+20NGOフォーラム実行委員会等、関係機関・団体との連携によるプログラム展開は、新たな層やこれまでの参加者の掘り起しと、今後の連携先の可能性をひろげることになり、内容・運営共に発展性がある。					
効率性：講堂は600名定員のため、講演・シンポジウム中は本館ロビー等でモニター視聴を行ったほか、パネル展示や情報交換コーナーを本館に分散して設置するなど、施設をフル活用し参加者の動線の過集中を抑えることで、述べ1,900名を超える参加者を受け入れることができた。また東武鉄道株式会社の協力を得て東武東上線各駅へのポスター配布及び主要駅へのちらし配架を実施(無償)したほか、北京+20NGOフォーラム実行委員会から関係団体へ周知を行ったことで、効率的かつ集中的な広報を行うことができた。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの満足度	フォローアップ アンケートの有用度		
判定	A	A	A		
○応募倍率：125.2%（定員1,000人、応募者1,252人）					
○プログラムの満足度 参加者：96.0%（とても満足した46.2%、満足した49.8%） ワークショップ運営者：95.7%（とてもよかったです76.6%、よかったです19.1%）					
○フォローアップアンケートの有用度：95.9%（非常に役立った59.2%、役立った36.7%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	応募倍率、満足度ともに目標を達成した。また事業実施にあたり関係機関・団体など多様な分野からの協力及び参画があったことは、NWECが培ったネットワークの成果である。プログラム内容も、様々な出来事の節目を捉え今年ならではのトピックスを取り上げることで、参加者にこれまでの男女共同参画の歩みを伝え、新たな課題を提示した。よって本研修のねらいは十分達成することができた。
A	平成25年度からは、男女共同参画社会の実現に向けた課題解決に資するプログラムの実施に重点を置く研修事業として実施、分野横断的に連携・協働を推進するためのネットワーク形成を目指して、内容の充実を図ってきた。参加者同士の日頃の実践・活動の情報交換・発信の場としての機能も果たしながら、時流とニーズに合った企画の展開は、5年間を通じて参加者からの評価も高く、数値目標をクリアしており、ねらいを充分達成したと言える。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○分野横断的に課題を共有し、ネットワークを構築する研修の場として、第4期も継続して実施する。
○後半の2年間は、特別講演、シンポジウムとともに、600席の講堂が満席となり大盛況であった。今後も社会的知名度の高い講師によるプログラムを盛り込むことで、男女共同参画推進の波及効果を高める。映画上映では、講座やセミナーと違う切り口で男女共同参画について考える機会となった。参加者アンケートでも、全体を通じて一般向けの内容を求める声がある一方、ナショナルセンターならではの専門的かつ高度な内容のプログラムの希望も寄せられている。フォーラムの趣旨や今後の男女共同参画推進の方向性を見据えたテーマ設定が今後も求められる。
○男女共同参画推進の次世代リーダーとなる学生や若手研究者等の参加を得られるようアプローチを工夫したい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ③大学等における男女共同参画推進セミナー

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(1)	計3名

年度実績概要	
1. 趣旨	大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向け、それに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行う。
2. 実施概要	1泊2日で実施した研修の前半では、大学において男女共同参画の推進に取り組む意義や男女共同参画の視点から大学の経営戦略を考える講義を行った。後半は、2つのテーマに分かれて分科会を実施。分科会では、各校での現状と課題について情報交換するとともに、自校での男女共同参画の推進に役立つ事例や女子学生のキャリア形成支援事例の発表とグループ討議を行った。最後に、分科会報告とまとめの会として全体会を行い、参加者全体で情報を共有した。
3. 開催日時・場所	平成27年12月3日(木) 東京四ツ谷会場 主婦会館プラザエフ 平成27年12月4日(金) NWEC
4. 研修内容の分析	本セミナーでは、大学が進むべき方向についての基調講演や講義、これまで各大学が取り組んできた女性活躍推進についての具体的な好事例の紹介や、これから男女共同参画推進をとりまく状況についての豊富なデータ分析を通じ、学内で男女共同参画に携わる教職員を対象とした、専門的、実践的なプログラムを組んだ。 UN Womenにおいて女性が活躍する世界10大学の1つに選ばれた今が旬の名古屋大学で平成27年3月まで総長をされていた濱口道成氏をお招きし、「21世紀の日本は女性が救う」をテーマに、名古屋大学にて推進してきた男女共同参画の取組をもとに基調講演が行われた。 また、「日経WOMAN」編集長、日本経済新聞社・編集委員として多くの取材や記事執筆を手がけた野村浩子氏には「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか?~企業の取組の視点から~」をテーマに、今、企業の多くは、組織の生き残りをかけ、女性の活躍やダイバーシティの促進に本気で取り組んでおり、女性の活躍促進は、世界的に見ても先進国を中心を目覚ましく進んでおり、これから日本の日本を考える上で極めて重要な課題となっていることなどについて講義が行われた。 大学側と企業側の2つの視点を企画に盛り込むことにより、特に、学長をはじめとする管理職や総務課・入試、就職課等の大学経営に携わる大学職員等も広く関心を持ち、大学における男女共同参画推進の重要性に気付いた。会場は、初日を東京四ツ谷会場(プラザエフ)で行うことで、アクセスの良さを集客につなげた。
5. 研修対象者の厳選	過去2年間、研修参加者募集に苦労したことから、対象者を「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員」から、「大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員」に広げ、学内において男女共同参画推進を実質的に担う方々に研修の場を提供するようにした。
6. 課題の厳選	日本の高等教育における男女共同参画の関心度の低さが、人材育成や知の創造といった「大学の使命の達成」の阻害要因であるという課題に加え、大学間競争が高まる中で、教員組織と職員組織の連携・協働の必要性が増す中で、研究者養成だけでなく、理事長・理事、学長・学部長などトップマネジメント人材やこれらを支えるスタッフ人材の発掘・育成には、男女共同参画の視点に立った人材登用が必要であるという課題を取り上げることにより、時代に適合した特色ある大学経営を進めるための経営戦略の1つに「男女共同参画」を位置付けて取り組むことが大学の研究力を上げ、学生を指導していく上で極めて有効であると提案した。
7. 内容評価	全体の有用度 94.1% (非常に有用 50.1%、有用 44.0%)

全体の満足度 98.9%（非常に満足 62.2%、満足 36.7%）

8. 参加者の地域バランス

関東・甲信越からの参加者は全体の 47.8%。残りの約 50.0%は、北海道・東北、北陸・東海、近畿、中国・四国、九州・沖縄地区からバランスよく参加者が集まつた。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- (1) 参加者：115名（女性 78名、男性 36名、無回答 1名） 定員 80名
- (2) 所属別：国公立大学 51名、私立大学 28名、高等専門学校 15名、その他 21名（企業、官庁等）
- (3) 職種別：教員系 35名、職員系 78名、その他 2名

2. アンケート結果

- (1) 全体の満足度 98.9%（非常に満足 62.2%、満足 36.7%）
- (2) 基調講演「21世紀の日本は女性が救う」有用度 100.0%（非常に有用 80.5%、有用 19.5%）
- (3) 分科会1「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」の有用度
100.0%（非常に有用 56.4%、有用 43.6%）
分科会2「女子学生のキャリア形成支援」の有用度
100.0%（非常に有用 69.6%、有用 30.4%）
- (4) 全体会の有用度 98.1%（非常に有用 41.5%、有用 56.6%）

3. 主な意見・感想等

- ・運営側のスタッフの方々がとても感じがよく、様々なところで配慮をしていただいていると感じた。また、多くの方と交流ができ、多くの学びと刺激を受けた。
- ・女性活躍推進法に基づく取組が求められる中で、とてもタイムリーなテーマだったと思った。
- 2日間のプログラムの構成がとても充実しており、自然と他大学の職員と親睦を図ることができた。
- ・濱口先生のお話は、女性の声やニーズをきめ細かくひろいあげて、サポート体制を整備されただけでなく、発展、継続させる仕組みを作り上げた点も素晴らしいと思った。野村先生のお話はジャーナリストらしくデータをもとに、現状、課題を明確にされており、非常に勉強になった。

事業実績

※H27年度は当日キャンセルなし。応募倍率は申込者数÷定員。

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員（人）	80	80	80	80	80
参加者数（人）	88	90	87	79	115
申込者数（人）	93	94	94	81※	116
応募倍率（%）	116.3	117.5	117.5	101.3	145.0
満足度（%）	94.2	92.0	97.2	95.4	98.9
有用度（%）	100.0	98.6	98.6	98.5	94.1

地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26	H27
北海道・東北	15.9	13.3	16.1	17.0	13.9
関東	35.2	38.9	35.6	35.0	46.1
甲信越	5.7	2.2	4.7	3.0	1.7
北陸・東海	9.1	13.3	11.5	10.0	14.8
近畿	10.2	12.2	10.3	11.0	8.7
中国・四国	15.9	6.7	11.5	14.0	7.8
九州・沖縄	7.9※	13.3	10.3	10.0	7.0

※H23年度の「九州・沖縄」には海外からの参加者(1名)も含む

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：少子高齢化の進行や大学間競争の高まりを背景に、大学にも経営改革が求められている。このような近年の高等教育機関をとりまく状況をふまえ、男女共同参画を大学の「経営戦略」に位置づけてプログラムを展開したことは、時宜を得たアプローチである。					
独創性：国公私立の大学、高等専門学校の高等教育機関を対象とし、男女共同参画の視点から組まれた学習プログラムは他に類を見ない。宿泊施設を活用したプログラムは、全国各地から集まった参加者同士のネットワークを広げ、他校の取組を通して自校の課題を把握し、解決のヒントにつながる情報を得る機会を提供している。					
発展性：各課題に即した講義やテーマ別分科会での各大学等での事例報告やグループ討議などを通して、自校の課題を把握し、課題解決に向けた実践力を養うことにより、各校での取組の発展性を期待することができる。					
効率性：分科会の事例の選定は、研究国際室が実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」のヒアリング調査先や調査研究の成果としてまとめた「実践ガイドブック」掲載事例からも選定することによって、調査研究の成果と研修事業の循環を意識しながら、効率よく人選を進めた。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判定	A	A	A		
○応募倍率：145.0%					
○プログラムの有用度：94.1%（非常に有用 50.1%、有用 44.0%）					
○プログラムの満足度：98.9%（非常に満足 62.2%、満足 36.7%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	<p>今回も有用度、満足度ともに100%近い評価を得ることができた。</p> <p>学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制の整備・継続がいまだ十分とはいえない状況の中で、課題解決に向けて先進的・積極的な取組を展開している大学等の事例報告や分科会でのグループ討議、情報交換などを通して、全体の動向や他校の取組状況について、宿泊型で参加者同士が寝食を共にしながら、インターネット等ではなく、面と向かって、直接多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。</p> <p>今年で6年目の実施となる本研修は、高等教育機関の男女共同参画推進という目的のもと、大学等で男女共同参画を担当している教職員を対象に、各機関の課題に応じた内容の充実を図ってきた。毎年、ニーズに合った企画で参加者からの評価も高く、ねらいを充分達成したと言える。</p>
A	<p>大学等における男女共同参画推進への取り組みは進みつつあるが、十分であるとは言えない。また、文部科学省の支援事業終了後の女性研究者支援をいかに継続していくか、男女共同参画社会実現のための文系理系と問わない女子学生へのキャリア形成支援の方法、さらに、女性研究者支援をさらに拡大するための性別役割分担意識の醸成と男性中心型労働慣行の変革が、これからますます不可欠となる。</p> <p>その中で、各課題に対する基本的な考え方、先進的な取り組みを行っている学校の事例、分科会での討議など、全体の動向や他校の推進状況について多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。</p> <p>過去5年間のアンケート結果を見ても、満足度、有用度ともに100%に近い数字となっていることからも、高い評価を得ており、本研修のねらいは十分達成できたと思われる。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○第4期も継続して事業を実施する。
○当該事業も定着し、平成27年度には定員を大幅に超える応募を得ることができた。ライフイベントに直面した卒業生支援や社会貢献としての女性の生涯学習支援への大学の貢献、女子高校生に特化した学生募集戦略の工夫等、大学との「女性」に関する総合的・包括的な戦略づくりへの支援を入れるなどプログラムを充実させ、大学の教務や広報担当者をも更に惹きつけていくとともに、東京会場での実施など、引き続き工夫が必要である。

事業実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 年度計画の項目
年度計画の項目 (I-1-(1) (4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 (4)企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

事 業 名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(1)、客員研究員(3) 計 6 名

年度実績概要
1. 趣旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象とした学習の場を提供した。
2. 実施概要 【ダイバーシティ推進リーダー会議】 「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施に向けて、企業における課題を把握し、その解決方策を探るための会議として、企業関係者の参加を募りつつ開催した。 1日目は「女性の活躍を創出するために～成功のカギは働き方改革と男性の家庭進出～」と題して、ワークライフコンサルタントのパク・スックチャ氏による講演が行われた。続いて参加者とパク氏との活発な意見交換が行われ、企業における女性活躍推進に向けて多くのヒントが提示された。 2日目は、統計から見た女性の活躍と企業のパフォーマンスの関係について、NWECから情報が提供された。続いてのディスカッションでは、「アクションラーニング」の手法を用いつつ、現場で課題となっている長時間労働や男性管理職の巻き込み方など解決策について討議した。 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】 1日目のプログラムは、放送大学東京文京学習センター（茗荷谷）で実施。労働経済学の視点から一橋大学大学院経済研究科教授の川口大司氏による講演、続いて厚生労働省の中込左和氏による「女性活躍推進法」の説明が行われた。その後「女性活躍推進に“本気”で取り組む」と題したパネルディスカッションでは、金融業、IT企業、製造業からパネリストに迎え、各社の先進的な具体的な取組の紹介がされた。 2日目はNWECに会場を移し、リーダーシップに実効性のある「アクションラーニング」の手法を用いたグループワークを行い、参加者自身が職場での課題を出し合い、多様な視点からの解決策を探る実践的な研修を行った。
3. 開催日時・場所 【ダイバーシティ推進リーダー会議】 平成27年7月10日（金）～11日（土） NWEC 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】 平成27年10月15日（木）～16日（金） 放送大学東京文京学習センター及びNWEC
4. 研修内容の分析 【ダイバーシティ推進リーダー会議】 本会議はダイバーシティの推進リーダーを対象に、少人数による参加者同士の距離の近い会議形式の研修とした。専門家による講演から企業における女性活躍の最新情報を得て、企業での女性活躍促進の第一線に立って取り組んでいる参加者ならではの課題を出し合い共有し、即、実践に取り入れられるような工夫について探った。この会議において企業における女性活躍推進の鍵が「長時間労働の是正」であることが改めて認識された。 【企業を成長に導く女性活躍促進セミナー】 本研修では国の成長戦略の柱でもある「女性活躍推進」をさらに進めることを目的に、講演とパネルディスカッションを組み立てた。講演では「なぜ日本は女性の活躍が進まないのか」と題して、労働経済学の視点から最新の統計等を使って、「統計的差別」「予言の自己成就」の話も交えながら、女性が働き続けられる仕組みづくりや男性の働き方改革など社会システムが変化する必要性が解説された。パネルディスカッションでは、異業種から3社を招き、「本気で取り組む」をキーワードに具体的な先進事例の紹介と共に、パネリスト自身のキャリア形成が参加者に対してロールモデルとしての役割も果たす人選を心がけた。また省庁との連携も昨年度よりさらに進め、経済産業省と厚生労働省の後援を得た。厚生労働省からは8月に成立したばかりの「女性活躍推進法」の解説を行い、会場からも具体的な内容について活発な質問も出された。参加者自身のワークとして行っている「アクションラーニング」を使ったグループワークでは、実際に職場で直面している問題を解決することはもちろん、自社に持ち帰り、実際に職場で活用できる会議ツールとして、実践演習を通して習得できる体験を探り入れた。

5. 研修対象者の厳選

企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなど女性人材活用の推進者を対象として限定した。

6. 参加者の地域バランス

東北 4.2%、関東 85.3%、北陸・東海 5.2%、近畿、中国・四国 2.1%、九州 1.1%と、昨年に比べて近畿、中国・四国、九州からの参加者もありさらに広い範囲から参加者が増加した(企業を成長に導く女性活躍促進セミナー)。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

(1) 参加者 : 96 名 (女性 78 名、男性 18 名) 定員 80 名

(2) 地域別 : 北海道・東北 4 名、関東 82 名、北陸・東海 5 名、近畿 2 名、中国・四国 2 名、九州・沖縄 1 名

2. アンケート結果

(1) 有用度 98.8% (非常に有用 55.9%、有用 42.9%)

(2) 満足度 97.6% (非常に満足 53.0%、満足 44.6%)

3. 主な意見・感想等

・ダイバーシティやアクションラーニングの内容を具体的に知ることができた。

・公的研究機関から参加したが、民間企業の取組の紹介及び実情は大変参考になった。

・女性活躍推進法の指針や最新情報をタイムリーに入手できて有意義だった。

事業実績

※応募倍率は申込者総数(含キャンセル) ÷ 定員である。

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度
	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回
参加定員 (人)	80	100	80	100	80	100	80
参加者数 (人)	62	55	47	46	67	62	96
申込者数 (人)	68	79	47	59	84	68	112
応募倍率 (%)	85.0	79.0	58.8	59.0	105.0	68.0	140.0
満足度 (%)	97.5	95.8	96.9	93.7	95.1	93.6	97.6
有用度 (%)	97.6	100.0	100.0	93.7	100.0	97.9	98.8

地域バランス

	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度
	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回
北海道・東北 (%)	—	—	—	—	5.2	—	4.2
関東 (%)	87.0	98.5	89.3	100.0	76.8	100.0	85.3
甲信越 (%)	—	1.5	—	—	6.4	—	—
北陸・東海 (%)	6.5	—	6.4	—	5.2	—	5.2
近畿 (%)	6.5	—	4.3	—	6.4	—	2.1
中国・四国 (%)	—	—	—	—	—	—	2.1
九州・沖縄 (%)	—	—	—	—	—	—	1.1

自己点検評価調書

1. 定性的評価観

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：国の経済成長戦略として、企業における女性の活躍促進が掲げられており、また社会活動におけるダイバーシティ、働き方の改革、仕事と家庭生活の両立への必要性から時宜を得た取組である。					
独創性：男女共同参画の視点を正面に据えたプログラムである。NWECの調査研究の活用やグループワークでの実践の豊かな経験を取り入れている。宿泊施設を活用し、緑豊かな環境で研修者が課題に集中して取り組むことができ交流も深められる点も NWEC ならではの事業である。					
発展性：企業セミナーでは昨年に引き続き経済産業省、加えて今年から厚生労働省の後援も得て、関係府省等との連携を進めている。昨年に引き続き、読売新聞の掲載協力を得るなど、メディアの取材も積極的に呼び込んでいる。NWECでの「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」の調査研究においても参加者の協力を得ている。地方公共団体や独立行政法人に周知したところ、地方自治体から 8 名、独立行政法人等から 11 名の参加があり、「女性活躍推進は企業に学べ」という潮流がみられた。今後も幅広い広報を心がける。					
効率性：企業セミナーでは 1 日目を東京会場として集客の効率性を高め、放送大学の協力により会場使用料を負担することなく事業を実施できた。					

2. 定量的評価観

観点	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判定	A	A	A		
○応募倍率：企業セミナー 140.0%					
○プログラムの有用度：企業セミナー 98.8%（非常に有用 55.9%、有用 42.9%）					
○プログラムの満足度：企業セミナー 97.6%（非常に満足 53.0%、満足 44.6%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	昨年度からは企業のみならず、官公庁からの参加もあり、企業の女性活躍推進に向けた本セミナーのニーズが多方面から求められている。企業セミナーの応募倍率が一昨年度の 58.8%から 105%、本年度は 140%と上昇している理由として、1 日目を東京会場としたことで都心から参加しやすかったことが考えられるが、8 月に成立したばかりの「女性活躍推進法」の影響も見られ、企業をはじめ、官公庁、地方公共団体、法人等からの参加者も増加した。昨年度共催の経済産業省に加え、厚生労働省からの後援も得て、関係省庁との連携をさらに進めており、ねらいを十分達成できたと考える。
A	女性の活躍を促進する上で、企業分野における人事担当者等の意識啓発は欠かせないと認識に基づき、平成 24 年度の試行開催を経て、平成 25 年度から正式に年度計画に位置づけて実施した事業である。NWEC としては新規領域ではあったが、女性活躍推進の社会的なニーズや女性活躍推進法成立などから年々参加者が増加し、定員を超える応募となっている。参加者からの有用度、満足度が共に毎年 95%を超えて高い評価を得ている。省庁連携も進め、男女共同参画の視点に立った女性活躍促進をテーマに絞り、実践的なグループワークを取り入れるなど、NWEC 独自の色を出したプログラムの内容を追求しており、参加者からもその点が高く評価された。企業における男女共同参画推進リーダーのネットワークづくりの場としても参加者から評価されており、セミナー参加者による交流も行われており、ねらいを十分達成できたと考える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○第 4 期も、時宜を得たテーマを据えながら、事業を継続する。
○広報については、経済産業省のダイバーシティ 100 選企業や厚生労働省のポジティブアクション認定企業などをはじめ、官公庁でのダイバーシティ推進のニーズから独立行政法人にも広報し、これまで以上の応募を得ることができた。今後は、新聞社や各地域の商工会議所、共催、後援団体の HP や Facebook なども協力を仰ぎ、さらに広く周知する。
○リピーターの参加者が比較的多いため、グループワークをこれまで行ってきたアクションラーニングから他の会議手法などの導入なども考えて次年度は企画を進めたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ①女性関連施設に関する調査研究

事業名	女性関連施設に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(1)、情報課専門職員(1) 計3名

実績概要
1. 趣旨 女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、新たな課題の実態把握と分析を5年計画で行う調査研究の5年次として、喫緊の政策課題である「女性の活躍推進」を取り上げる。特に「他機関との連携」に着目し、女性関連施設や地方公共団体等の現状・課題を明らかにする。また、調査研究の成果を踏まえ、地域における女性活躍推進の実践に役立つ手引書を作成する。
2. 実施概要 (1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修」において、アンケート調査の実施及び「女性の参画」をテーマとする自由交流の場の運営を通して参加者から情報収集を行い、本調査の枠組や方向性を確認、調整した。 (2) 女性関連施設382(「女性関連施設データベース」更新のための調査に同封)及び地方公共団体(都道府県・政令市・中核市・特例市・特別区等178)を対象に、質問紙調査を実施し、情報収集を行った。 (3) 上記(1)(2)の調査結果から好事例を選定し、女性関連施設や地方公共団体の関連部局、その他の関連機関にヒアリング調査を行った(調査機関数:21、同じ地方公共団体の異なる部局を数に含めると31か所)。 (4) 上記(1)-(3)の分析結果をもとに、『地域における女性の活躍推進実践ガイドブック——地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割』を作成し、NWECAホームページでも公開した。 なお、調査研究の実施にあたっては、大学の研究者や地方公共団体職員等からなる検討委員会(外部委員は5名)を組織し、調査の実施や情報の共有、調査結果の検討を行った。
3. 得られた知見 (1) 女性の活躍推進は、企業における管理職・経営層の意識改革や女性リーダー育成、起業支援、再就職支援、大学生への支援、地域団体における女性の意思決定過程への参画、農村漁村女性への支援等、多岐にわたっており、様々な関連機関が工夫して取り組んでいること、またそれらの工夫の詳細が明らかになった。 (2) 女性の活躍推進にかかる取組と男女共同参画推進とのつながりや、女性関連施設や地方公共団体の男女共同参画担当部局の役割について、検討すべき課題がある地域が少なからずあることが確認された。
4. 成果の活用 (1) ガイドブックの作成・配布 調査研究の成果をもとに、女性関連施設や地方公共団体の職員等が活用することを想定したガイドブックを作成し、関連機関に配布するとともに、NWECAホームページでも公開した。 (2) 研修のプログラムへの反映・研修での成果の普及 平成28年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修」の企画にあたり、事業課と連携し、プログラムの構成や事例報告の選定に反映させた。また本研修では、上記ガイドブックを研修資料として配付し、調査研究結果やガイドブックの活用方法について情報提供を行い、成果の普及を図る。

実績を裏付けるデータ																								
「地域における男女共同参画推進リーダー研修」における情報提供「情報機能について」(「女性関連施設データベース」を含む女性情報ポータルサイトWinet等の活用法)有用度95.2%(非常に有用21.6%、有用73.6%)																								
事業実績																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修資料の作成部数(部)</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>フォローアップ調査結果(%)</td> <td>79.4</td> <td>90.6</td> <td>93.8</td> <td>94.0</td> <td>99.2</td> </tr> <tr> <td>内容評価(%)</td> <td>71.7</td> <td>100.0</td> <td>100.0</td> <td>90.5</td> <td>95.2</td> </tr> </tbody> </table>	指標	H23	H24	H25	H26	H27	研修資料の作成部数(部)	1	1	1	1	1	フォローアップ調査結果(%)	79.4	90.6	93.8	94.0	99.2	内容評価(%)	71.7	100.0	100.0	90.5	95.2
指標	H23	H24	H25	H26	H27																			
研修資料の作成部数(部)	1	1	1	1	1																			
フォローアップ調査結果(%)	79.4	90.6	93.8	94.0	99.2																			
内容評価(%)	71.7	100.0	100.0	90.5	95.2																			

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性		
判定	A	A	A		
適時性：「女性の活躍推進」は、持続可能な社会を実現していくための重要な政策課題として、各府省や地方公共団体、女性関連施設等で進められている。これらの取組は多様な分野にわたるため、連携体制の構築が欠かせない。「第4次男女共同参画基本計画」においても、地域ぐるみで女性の活躍を推進していく体制を強化する必要性が言われており、時宜にかなった調査研究であると言える。					
独創性：各地域における多様な機関や分野にわたる取組の現状・課題について、男女共同参画の推進との連関や、女性関連施設や地方公共団体の男女共同参画担当部局の役割に主眼を置いている点は、独自性や高い専門性を示している。					
発展性：調査研究の成果は、地域において女性の活躍を推進するための実践に役立つように、ガイドブックというわかりやすい形にまとめた。このガイドブックには、女性活躍推進にかかる政策の動向、女性関連施設や地方公共団体等が担うべき役割、効果的な取組を支える連携の方法について掲載されている。また、地域経済の活性化、起業、再就職、若者、地域団体、農業・漁業等、様々な分野や対象について、ヒアリング調査をもとにした豊富な実践事例も提示している。関連機関への配布や、研修等での活用により、地域における取組の普及が期待できる。					

2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度	学習プログラム・参考資料作成数			
判定	A	A			
○平成27年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設、地方自治体、団体〉」における情報提供「情報機能について」（「女性関連施設データベース」を含む女性情報ポータルサイトWinet等の活用法）：有用度95.2%（非常に有用21.6%、有用73.6%）					
○調査研究の成果をもとに、女性関連施設や地方公共団体の職員等が、地域において女性の活躍推進にかかる取組を進める際に活用できる『地域における女性の活躍推進実践ガイドブック——地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割』を作成した。本ガイドブックは、女性関連施設や地方公共団体の男女共同参画担当部局、その他の関連機関に配布し、NWECホームページでも公開した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	観点評価に示したとおり、本調査研究は、「適宜性」、「独創性」、「発展性」等において高く評価することができる。喫緊の政策課題である「女性の活躍推進」に取り組むにあたり不可欠となっている「連携」に着目して調査研究を実施し、その成果をガイドブックとしてまとめ、地域への普及・還元を図っている。
A	5年計画で実施した本調査研究は、各年次において計画どおりに実施された。研修資料の作成部数及びフォローアップ調査結果、内容評価の実績も十分である。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
調査研究の成果は、次年度以降の研修や講師派遣事業において活用し、普及を図る。また、女性関連施設や地方公共団体において男女共同参画を推進するために必要な調査研究について、引き続き情報収集やニーズの把握に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ①若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

事 業 名	若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)	計3名

年度実績概要
1. 趣旨 生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立って行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。平成27年度は、本年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査を実施する。
2. 実施概要 平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査（「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」）を実施するため、以下を行った。 (1)「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会を2回開催した（平成27年6月8日、平成28年3月25日） (2)上記検討委員会およびメール会議において、関連領域の先行研究及び先行調査をふまえて、調査票を策定した。 (3)平成27年4月～平成27年9月に、日本経済団体連合会女性の活躍推進委員会企画部会に所属する企業や、「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会委員からご紹介いただいた企業、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加企業などを訪問し、本調査への協力を依頼した。これらの結果、17社の参加を得てパネル調査を実施することとなった。 (4)平成27年4月15日付「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」実施要項に基づき「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」の実施のために提供された個人情報の取扱いに関する覚書を作成し、調査参加企業（うち、締結を希望した13社）と締結した。 (5)平成27年7月～平成28年1月に、パネル調査参加企業を対象として、新入社員の採用方針や平成27年度新入社員の実態、新入社員の育成、女性の活躍推進に関する取組などについてヒアリング調査を実施した（17社中、15社から協力を得た）。 (6)平成27年11月～12月に、初期キャリア形成期の女性の意識及び実態についてより理解を深めるため、平成26年度に就職先が決定した女子大学生に対する、追跡ヒアリング調査を実施した（7名）。
3. 得られた知見 パネル調査の第一回調査では、すでに入社1年目からキャリアをめぐる意識に男女差があることが明らかにされた。今後の追跡調査によって、それらの男女差が拡大もしくは縮小するのか、その要因は何であるかを検証することが重要であるといえる。
4. 成果の活用 パネル調査の第一回調査結果について、全調査項目の回答結果を男女別に集計した報告書を作成し、調査参加企業、各省庁・省庁所管機関、学会などに広く配布した。 各調査参加企業から得たテーマに即して分析した報告書を作成し、当該企業に配布した（11社）。
実績を裏付けるデータ
・平成27年10月に、パネル調査の第一回調査を実施した（回答数1,258名、回答率58.9%）。 ・平成27年11月～12月に、平成26年度に就職先が決定した女子大学生を対象とする追跡ヒアリング調査を実施した（7名）。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：働く場面で女性がより活躍できるよう、女性の採用・登用・能力開発等のための事業主行動計画の策定を義務づける女性活躍推進法が制定・施行され、第4次男女共同参画基本計画の中で重要事項とされている「第2分野 政策・方針決定過程への女性の参画拡大」において、「将来役員や管理職に就くことが期待される女性社員の育成を促す」ことが掲げられている。そして近年、女性管理職の育成において、入社直後の「初期キャリア期」に成長と経験を先取りさせるなどの施策が提言されていることから、時宜を得た調査研究といえる。					
独創性：「初期キャリア期」の男女の意識及び実態については、十分なデータが蓄積されていない。「対象者を固定して、長期にわたり、同じ内容の項目についてたずねる」パネル調査を実施することで、初期キャリア期の男女の意識の「変化」と「変化の要因」について、より精緻に把握することを試みる。					
発展性：既存の調査研究によって、入社直後の人的資源投資がキャリア形成や就業継続を左右することが示唆されている。そこで本調査研究を通じて、若年男女のキャリア形成を支援する学習プログラム・研修資料の作成に資する知見を得たい。					
効率性：「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」検討委員会及びメール会議において集中的に審議を行い、短期間で調査票を精査・策定した。					

2. 定量的評価

観点	若年男女のキャリア形成に関する意識把握				
判定	A				
平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査と、平成26年度に就職先が決定した女子大学生に対する、追跡ヒアリング調査を実施した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査と、平成26年度に就職先が決定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施し、初期キャリア形成期の女性の意識及び実態について理解を深めるためのデータを得た。
A	平成23・24年度には「地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発」及び「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発」、平成25年度には「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究」を実施した。これらの調査研究については、成果をもとに学習プログラムや研修資料を作成済みである。平成26年度には、平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第一回調査を実施するための準備を行い、平成27年度に第一回調査を実施した。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
次年度は、パネル調査の第二回調査を実施し、調査結果をふまえて報告書を作成する。さらに会館リポジトリを通じてNWECホームページ上に公開し、研究成果を発信する予定である。NWECが有するネットワークを通じて、全国の企業・大学に研究成果をフィードバックし、NWECが実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムやキャリア教育プログラムの企画・実施にも研究成果を生かす。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 (2)男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究

事 業 名	男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)、専門職員(1) 計4名

実績概要
1. 趣旨 女性のキャリア支援に関し、教育・学習支援の対象や内容、メディアを活用した手法等について検討することを目的とした調査研究を実施する。2年計画で行う調査研究の1年次として、放送大学等との連携で作成するオンラインコンテンツの内容等を検討し、教材を作成する。2年次はオンライン授業を実際に実施するとともに、内容を検討する。
2. 実施概要 女性のキャリア支援に関して、オンラインで提供する講座を開発することを決定。放送大学と協力して講座を開発するための協定を締結し、「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」と題した全8回のオンライン講座のシラバスを検討し、①講義の収録、②事例報告者のビデオ収録、③掲載用資料の作成、④学習活動の検討と作成、⑤データ・音声・字幕確認、⑥動作確認を行い、平成28年度4月開講の講座を作成した。
3. 得られた知見 ・従来の放送講座と双方向型学習を基礎にしたオンライン講座に関する違い ・オンラインで講座を提供するための動画やビデオ、音声、写真、素材の提供方法や著作権許可の課題 ・ネットワーク環境に応じた教材作りの必要性（動画の画質等） ・学習目的や内容によって異なる双方向学習のありかたについて検討する必要性 ・シラバスと学習活動を一体的に検討する必要性
4. 成果の活用 「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を作成し、平成28年度4月から放送大学のオンライン講座としての提供を通じて、講座を運用予定。
【実施内容】 ・「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」全8回を作成 回 テーマ 1 オリエンテーション 一変動する女性の生き方・働き方とキャリアデザイン 2 女性のキャリアとライフコースの多様性 3 変化する女性の働き方 一女性のキャリアと社会活動 4 変化する女性の働き方 一女性と就労継続 5 女性が働きやすい環境づくり 一ワーク・ライフ・バランス 6 キャリアデザインに役立つリーガル・リテラシー 7 キャリアデザインに役立つ情報とICT活用 8 私のキャリアをデザインする
実績を裏付けるデータ 「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を作成し、平成28年度4月から放送大学を通じて提供。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		
適時性：教育再生実行会議の「「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」（平成 27 年 3 月 4 日）は、女性の活躍支援等についての実践的なプログラムの提供や、学びやすい環境の整備として e ラーニングを活用した教育プログラムの提供を推進している。女性のライフコースの多様化が一層進みつつある中で、女性のキャリアデザインをテーマにしたオンライン講座の開発は女性の活躍推進法の施行のタイミングにもあい適時性がある。					
発展性：これまで会館の提供する事業は、全国の基幹的指導者が来館することを前提に行われてきたが、放送大学と協定を締結して、オンライン講座の開発を行ったことで、受講生の幅が全国の個人に広がることになり発展性がある。					
効率性：放送大学と協定を締結して、これまで会館で蓄積した研究、研修、情報の成果をオンライン講座という手法を活用して提供することとなった。初年度に e ラーニング講座の作成まで効率的に実施することができた。翌年度から有料講座として提供するため効率的である。					

2. 定量的評価

観点	学習プログラム・参考資料作成数				
判定	A				
全 8 回のオンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」を作成し、平成 28 年度に放送大学を通じて提供されることが決定。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	計画どおり、1 年で女性のキャリアデザイン入門をテーマにしたオンライン講座を作成しており、e ラーニング講座の制作に関する知見を得ることができ、目標を達成している。
A	男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及として、女性のキャリアデザインをテーマにしたオンライン講座を開発しており、順調に実施された。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
e ラーニング講座のイメージの統一を図るために、多岐に渡る関係者間での調整を深める必要がある。初年度作成した講座を運用しつつ、放送大学と連携して、より双方向性や持続性のある講座を開発する。また、会館のこれまでの調査研究の成果も生かしつつ、e ラーニング講座の教材として活用するための方策を検討する必要がある。さらに、会館が独自で提供する e ラーニング講座の対象、内容、方法等について検討を進める必要がある。 なお、放送大学と連携して提供する講座は対象を絞ることが困難なため（例えば、受講生を女性に限るなど）幅広い層を対象に学習者のニーズにあった学習をいかに提供していくか検討を深める必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的調査研修の実施 ③女子大学生キャリア形成セミナー

事業名	女子大学生キャリア形成セミナー	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(2)、客員研究員(1)	計5名

年度実績概要
1. 趣旨 自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること（自主自立）、②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと（ライフ・プランニング）、③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながること（社会を変える・支える志）の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図る。
2. 実施概要 「キャリアを考えることは、人生を考えること」を主題に、1泊2日の合宿形式で実施した。講義により働く女性を取り巻く環境の現状と課題把握を踏まえ、ロールモデルによるパネルディスカッションから、企業等で働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わる様々な出来事について学ぶとともに、グループワークにより自分自身のキャリアプランを考え、参加者同士で共有した。
3. 開催日時・場所 平成28年2月20日(土)～21日(日) NWEC
4. 研修内容の分析 これまでNWECが実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用し、ノウハウ型の就活セミナーとは一線を画し、人生を俯瞰した長期的視点でプログラムを構成した。 最初の講義では、働く女性が直面する課題や問題が参加者にとって明確化し自分の問題としてとらえる意識ができた。続くパネルディスカッションでは、パネリストが困難を乗り越えてきた視点や価値観を学び、夜の「パネリスト、OG企画委員等との交流会」では、参加者がパネリスト等とより近く、親しく会話することで女性のキャリア形成への理解を深めるとともに、お互いのネットワークを広げる機会となった。 2日目には初日の講義やパネルディスカッションの内容を踏まえ、「グループワーク①・②」を実施。「グループワーク①」では、初日の気づきの整理と共有をし、社会との主体的な関わりについて「ワールド・カフェ」の手法を交え討議した。「グループワーク②」では、今後の各自のキャリアを見据えながらワークシートに記入、明日からのアクションプランの作成と発表をし、自分の思いや考えを見る化した。3回目となる今年度は、1期生、2期生のOGが企画委員として準備に運営にと参画したことは、「学びの循環」につながっている。

実績を裏付けるデータ
1. 参加者の概況 茨城1名、埼玉1名、千葉1名、東京7名、神奈川5名、山梨2名、長野3名（広域関東圏への広報）
2. アンケート結果 プログラムの満足度：100.0%（非常に満足81.0%、満足19.0%）
3. 主な意見・感想等 ・実際に働いている女性ととても近い距離で話すことができ、普段聞けないことを聞くことができよかったです。 ・同年代の人と将来について初めてたくさんシェアできた。人の考えもわかり新しい自分を知ることができた。 ・小さな一步でも踏み出すことの大切さを改めて知った。このつながりを大切にしていきたい。

事業実績					
指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員(人)	—	—	50	30	30
参加者数(人)	—	—	10	19	21
応募者数(人)	—	—	12	24	28
応募倍率(%)	—	—	24.0	80.0	93.3
満足度(%)	—	—	100.0	100.0	100.0

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	B	
適時性：働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきているものの、組織において意思決定に関わる女性の割合はきわめて低い状況の中、将来の社会や組織を支える女性リーダーの育成は時宜にかなうものである。					
独創性：就職のための方法や技術を学習するのではなく、就職も含めたライフプランを考える長期的な視点で各プログラムを構成している。宿泊を伴う研修の利点を活かし、夜間には参加者と講師等がより親しく会話する交流会を開催することで、女性のキャリア形成に関する理解をさらに深めるとともに、参加者同士のネットワークを広げる機会を設けている。					
発展性：これまで NWEC が埼玉県私立短期大学協会や埼玉大学と連携して実施してきた大学生を対象にしたキャリア形成プログラムにおいて蓄積した知見をプログラムに盛り込んだ。また、平成 27 年度に研究国際室が行った「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」から女子大学生の就職前と後の意識の講義も活用している。また、OG 企画委員 5 名が、チラシ作りや企画、当日の交流会やグループワークにも参画するなど参加者の学習を支援し、本事業は学びの循環にもなっている。					
効率性：講師は共催団体と NWEC 職員で構成され、また開催場所も NWEC であり、短い期間と最小限のスタッフで参加者の変容が大きく、リーダーシップ 111 との共催により成果が高かったことなどから効率的な実施となった。しかしながら企画委員に研修を修了した学生を採用してチラシやポスター制作上の助言を得たり、リストティング広告や二次元バーコードの利用等の工夫を重ねたりしたもの、定員を充足させることができなかった。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの満足度			
判定	B	A			
○応募倍率：93.3%					
○プログラムの満足度：100.0%（非常に満足 81.0%、満足 19.0%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	パネリストがロールモデルとして二日間参加者と積極的に関わることで、参加者は自己理解を深め、自己肯定感を高めることができ、意欲的に参加する姿勢が形成された。グループワークでは長時間にもかかわらず、積極的かつ活発な話し合いが見られ、将来に対する意思表明を一人一人が具体的に行うことができた。参加者同士のネットワークづくりが円滑に行われているのみならず、第 1・2 期に参加した OG が企画委員となり研修にもオブザーバーとして出席するなど、今後の学びの循環が期待できるところである。応募倍率が 100% に達しなかったことは今後の課題である。
A	女性活躍促進という喫緊の課題に対応する事業である。平成 25 年度に、リーダーシップ 111 から連携を求められた機会を的確に捉え、これまで NWEC が実施した調査研究の成果やプログラム開発の実績を活用しつつ、女子大学生を対象としたキャリア形成プログラムを開発・実施した。第 2 期から続く、埼玉大学や埼玉県私立短期大学協会との連携事業の成果を着実に発展させ、男女共同参画の視点をもった女子大学生キャリア形成のアプローチを達成している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○第 4 期も内容を充実・発展させながら、事業を継続する。
○過去 3 年間、徐々に応募人数は増えているものの、未だ達成していない定員充足を図るため効果的な広報のあり方を探る。
○青森県立保健大学、中部大学、東雲短期大学をはじめ、各大学より当該プログラムについての問い合わせを受けており、女子学生を対象としたキャリア形成セミナーに対する関心の高まりが感じられる。今後は、当該セミナーにかかる大学への情報提供に力を入れ、将来的には、今は NWEC で実施しているセミナーが、大学において実施されるような方向へ向けていきたい。
○過去にセミナーに参加した学生が企画委員となって参加している。今後も 1 期生～3 期生のつながりを構築していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ①女性関連施設相談員研修

事業名	女性関連施設相談員研修	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(1)	計3名

年度実績概要
1. 趣旨 女性関連施設の相談員を対象に、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的な研修を行う。
2. 実施概要 今年度は、参加者が研修成果を持ち帰って業務に反映しさらに波及効果を高めるために、年度の早い時期に実施した。研修の前半は講義を通して、男女共同参画の視点に立った相談業務の意義と役割、支援に必要な法知識、DVと貧困を生み出す社会的背景と課題に関する理解を深めた。後半は、相談者の力量を高めるために課題別の分科会においてワークショップを行い、相談者のための具体的な方策を学んだ。全体会では、関係機関との連携、切れ目のない支援への重要性などを改めて認識した。
3. 開催日時・場所 平成27年6月10日(水)～12日(金) NWEC
4. 研修内容の分析 課題別分科会では、グループワークなどで実践的な学びを深め、参加者相互の情報共有を行った。今年度は「DV」に焦点をあて、心理的・社会的背景、実際の対応の方法など講義や分科会を増やし、また埼玉県内の特別支援学校見学も実現し、暴力を受けた子どもへの総合的な支援なども取り上げた。またストーカー被害、SNSに関わるネット暴力など、現代的かつ社会的な問題も組み込んだ。
5. 研修対象者の厳選 研修にDVが多く含まれ、専門的、実践的な内容であるため、例年の女性関連施設、NPO・民間団体、配偶者暴力相談支援センターを対象者とした。全国からの参加があり、地域的にもバランスがとれた。

実績を裏付けるデータ
1. 参加者の概況 北海道・東北 11名(11.3%)、関東 28名(10.3%)、甲信越 10名(10.3%)、北陸・東海 16名(16.5%)、近畿 3名(3.1%)、中国・四国 13名(13.4%)、九州・沖縄 16名(16.5%)
2. アンケート結果 プログラムの有用度：100.0%(非常に有用 74.4% 有用 25.6%) プログラムの満足度：96.6%(非常に満足 61.8% 満足 34.8%)
3. 主な意見・感想等 ・研修会が不足している中、広範囲にわたる知識を得ることができ満足、他の方との交流もできた。 ・現場すぐに応用できる内容でスキルアップできた。 ・同じ業務に取り組んでいる仲間がいることを知り心強く感じた。

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員(人)	120	80	80	80	80
参加者数(人)	153	100	101	81	97
応募倍率(%)	180.8	130.0	133.8	106.3	135.0
満足度(%)	92.1	95.6	93.8	96.2	96.6
有用度(%)	98.5	100.0	99.0	98.7	100.0

※H23年度は内閣府委託事業と合同開催。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性		
判定	A	A	A		
適時性：近年急速に顕在化しており、第3次男女共同参画基本計画第9分野「女性に対するあらゆる暴力の根絶」でも指摘されている配偶者からの暴力被害支援の他に、第7分野から「貧困」、第8分野から「外国人」、また近年増加しているストーカー、SNSなどに関する相談事案など、現代的課題を取り上げた。講義やグループワークを通して、参加者の持つ課題意識に応えることができた。					
独創性：NWECの機能を活用した情報提供や男女共同参画の視点からの相談の意義と役割を考えや、社会的な課題にも対応する分科会を行った。全国的なネットワークを活用して開催した本事業は、相談者をエンパワーメントするための力量を高める機会となり、相談者への総合的な視点を持つ独創性のある取組として評価できる。					
発展性：支援に役立つ法知識や関係機関との連携の方策と重要性、相談業務における実際の対応を想定した事例検討、相談員の技能・力量の向上と多岐にわたる相談事業への実践的な反映が期待できる点など、発展性のある取組である。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
判定	A	A	A		
○応募倍率：135.0%					
○プログラムの有用度：100.0%（非常に満足74.4%、満足25.6%）					
○プログラムの満足度：96.6%（非常に満足61.8%、満足34.8%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	<p>引き続き、喫緊の課題である「女性の貧困」や「配偶者からの暴力」についてその背景と実際について学習するプログラムを設けるとともに、「SNSにまつわる相談」や「二次受傷への対応」など相談員として身につけておくことが望ましい知見を養うためのプログラムを盛り込んだ。課題へのアプローチに際しては、その社会的構造の理解や実際の支援に至るまで幅広い切り口で学べるようにしている。</p> <p>守秘義務を伴う業務に就く相談員にとって、全国的な規模で同じ立場の者同士が集まり共に学び語り合える本研修は、「他県の方々と交流でき同じ業務に取り組んでいる仲間がいることは心強く感じた」等の声からも、非常に貴重な情報交換とネットワークづくりの機会である。</p> <p>また、この研修を受けて自身に変容があったかというアンケートでは学習者の93%が「あった」と回答した。相談者を支援するためには相談員自身のエンパワーメントが必要である。</p> <p>以上より、本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できたといえる。</p>
A	<p>第一線で活躍している全国からの講師陣による女性相談の総合的な視点を網羅する研修（講義とグループワーク）と全国からの参加者のネットワークづくりが可能なNWECの研修は高く評価されている。</p> <p>第3期においても、複雑・多様化する女性の悩みに対応するため、当該プログラムについては実施実績を重ねながら精査し、新たな課題を取り入れながら改良を重ねてきた。5年間を通じ、満足度・有用度ともに目標値である85%を大幅に上回っており、目的を十分に達成できたと言える。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○女性の悩みに対する支援を行う地域のリーダーである相談員を対象とした研修機会は限定的であり、相談業務を実施している女性関連施設からも実施の要望が強いため、第4期も継続して取り組んでいく。
○第4次男女共同参画基本計画に基づいた喫緊の課題への対策や支援方法を学び、さらに社会問題になっている若年女性の貧困、人身売買などの実態把握と支援、近年ニーズの増えてきている男性相談への対応、また相談員自身の二次受傷への対策なども盛り込んでいく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い～	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1)、係員(1)	計3名

年度実績概要
1. 趣旨 女子中高生及び身近な支援者である保護者・教員に科学技術の楽しさと多様な分野で活躍する女性たちの姿に触れる機会を提供し、理系進路選択の魅力を伝える。
2. 実施概要 女子中高生プログラムでは、理系分野で活躍している先輩からのキャリア講演や、実験・実習、各学会・企業等によるポスター展示・キャリア相談、留学生との国際交流などを行った。また、学生企画として、理系大学への進学を想定した際の理系人生を疑似体験する「i future～理系人生を体験しよう～」やクイズ形式で理系分野を学ぶ「サイエンスバトル!?!」などを行った。 保護者・教員プログラムでは、学会、大学、企業等の研究者・技術者、大学生（大学院生）との座談会を開催し、活発に話し合いが行われた。
3. 開催日時・場所 平成27年8月6日（木）～8月8日（土） NWEC
4. 研修内容の分析 この事業は、単に講演を聴き、実験・実習をするだけでなく、女子中高生と学生TA、研究者・技術者とのキャリア相談や、天体観望会など、夜遅くまで多くの交流を図ることができ、宿泊施設を活用した2泊3日ならではのプログラムとなっている。また、2泊3日のプログラムで終わるのではなく、参加者が学校、地域に帰って本事業の体験を伝えるアンバサダー活動を実施することにより、参加者以外にも理系進路選択の意義を普及させることや、メンター制による参加者への相談活動、ロールモデル集の作成と配付など、理系進路選択への継続した支援を行っている。宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験プログラムなど、NWECのプログラムは多くの機関の先進的事例となっており、今後も内容を進化させ、継続して実施する。
5. 内容評価 満足度：女子中高生 99.1%（非常に満足 82.1% 満足 17.0%）、保護者 100.0%（非常に満足 100.0%）、教員 100.0%（非常に満足 70.0% 満足 30.0%）である。 有用度：女子中高生 93.9% 保護者 99.3% 教員 94.7%
6. 影響評価 本事業の成果が、実際の進路選択決定にどのような影響を与えているのか、現在高校3年生となっている過去の参加者を対象に、その進路先についてアンケート調査を実施した。回答者の77.4%が進路決定にあたり「本事業が影響した」と回答している。また、進路先の学系統は、56.6%が理系である。
7. 同様の事業を行う他機関への影響 本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行う「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業である。「宿泊型研修」「キャリア講演」「実験・実習プログラム」「理系進路を選択した女性の先輩との交流」など、JSTの同事業を受託する後発の他機関でも同様のプログラムが見られ、本事業が与える影響は大きい。
8. 保護者を対象としたプログラムの充実 保護者対象のプログラムでは、法政大学理工学部教授の松尾由賀利氏を迎えて、理系の楽しさを知り、女子中高生の理系選択のサポートになってもらうための企画を考えた。講話の後は、女子中高生を理系に送り出す立場の方々を交えてのグループディスカッションで日頃疑問に思う事、不安に思う事を話し合う機会を設けた。
9. 教員を対象としたプログラムの充実 教員対象のプログラムでは、各校種間の教員同士のディスカッションや情報交換等を通じて、それぞれの学校に戻った時にこの経験をどう活かすかについて考える機会となっている。また、理系女子を支援する教員同士のネットワークが構築された。今後、このネットワークの拡大を図りつつ、次年度以降のプログラムを発展させていく。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

中学3年生47名、高校1年生35名、高校2年生27名、高校3年生4名、保護者11名、教員10名

2. アンケート結果（フォローアップ調査 回答数72件）

- ・TAを希望する・希望してもよい（59名・89.0%）
- ・夏学3日間を経験してその後の生活に与えた影響は、
ア 自分自身の進路について、よく考えるようになった（67名・93.1%）
イ 学校での授業内容について、よく理解できるようになった（8名・11.1%）
ウ 定期テストや模試、通知表などの成績が上がった（1名・1.4%）
エ 家族や学校の先生、友達などと進路についてよく話すようになった（41名・56.9%）
オ 役立つことはなかった（0名・0%）

3. 主な意見・感想等

【女子中高生】

- ・先輩方から貴重なお話をいただき、質問にも答えて下さり大変有難かった。今後このような体験はできないだろうと思うし、この3日間は非常に有意義なものであったと思う。TAになって戻ってきたい。

【保護者】

- ・本当にたくさんの講師の先生方・スタッフの方々に関わっていただき、ぜいたくで有意義な3日間だった。娘が今後どのような進路選択をするのか、見守る姿勢が大切であると学んだ。

【教員】

- ・進路指導の際、決まった枠を知りたがる傾向にあることに気付いた。今回、夏学で出会った女性たちはどの方も生き生きしていて、巡り合せや偶然で道が拓けてきた方が多かった。確実な職業に向う進路指導という側面と、夢を貫く勇気をもつことの素晴しさ、という両面を伝えていきたいと思った。

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員（人）	-	100	100	100	100
参加者数（人）	19	118	129	112	113
応募倍率（%）	-	200.0	222.0	153.0	178.0
満足度（%）	-	98.2	98.2	98.0	99.1
有用度（%）	-	91.5	94.2	93.7	93.9
フォローアップ調査（%）	-	51.7	68.2	75.0	63.7

参加者内訳

指標	H23	H24	H25	H26	H27
女子中高生（人）	19	118	129	112	113
中学3年生	7	39	48	42	47
高校1年生	5	43	43	37	35
高校2年生	6	31	33	29	27
高校3年生	1	5	5	4	4
保護者（人）	-	16	22	18	11
教員（人）	-	14	18	11	10

地域バランス

(%)

	H23	H24	H25	H26	H27
北海道・東北	5.3	14.9	11.2	17.0	12.4
関東	78.9	34.5	36.1	38.4	43.4
甲信越	-	5.4	10.7	3.6	8.0
北陸・東海	10.5	10.1	11.2	15.1	8.8
近畿	-	12.8	7.7	2.7	7.1
中国・四国	-	7.4	9.5	11.6	11.5
九州・沖縄	-	14.9	13.6	11.6	8.8
その他（海外）	5.3	-	-	-	-

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：理工系の女性人材の不足に対応し、理系女性人材が求められる中において、女子中高生の理系進路選択への支援となるよう、キャリア講演、実験・実習やポスター展示・キャリア相談、国際交流、学生企画など充実したプログラムを実施、提供している。					
独創性：単に理系の面白さを伝えるだけではなく、女性研究者・技術者や女子大学生・大学院生・社会人といったロールモデルとの交流や、ロールモデル集の作成、配付を通じ、女性のキャリア形成をいかに進めるかという視点が盛り込まれたプログラムを提供している。					
発展性：参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを積み上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。					
効率性：国立研究開発法人科学技術振興機構の委託事業として300万円の外部資金を得て実施した。また、日本学術會議の共催、男女共同参画学協会連絡会の後援、39の学会・団体等の協賛により実施した。企画委員や当日スタッフを含めた実行委員は、150名強のボランティアとして運営面での協力を得ることにより効率的な運営をしている。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの満足度	プログラムの有用度		
判定	A	A	A		
○応募倍率：女子中高生 178.0%，保護者・教員 42.0%					
○プログラムの満足度：女子中高生 99.1%，保護者 100.0%，教員 100.0%					
○プログラムの有用度：女子中高生 93.9%，保護者 99.3%，教員 94.7%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の委託事業として300万円の外部資金を得、男女共同参画学協会連絡会の後援、30を超える学会・団体等の協賛により実施した。企画委員や当日スタッフを含めた実行委員150人が原則ボランティアとして参加しており、事業規模に比べ、予算的に極めて効率的な運営が行われた。参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを積み上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。参加者の満足度も99.1%と極めて高く、研修実施状況は順調である。
A	平成28年度には、平成17年度以来、11回にわたる開催実績となった。ボランティアベースで活動している企画委員をはじめとする人的資産と並び、研修内容についても、継続によるノウハウの積み上げが脈々と活用されている。平成26年度からは、すでに理系を目指すことを決めている女子中高生だけでなく、理系と文系の進路選択に迷う女子中高生も対象に加え、実験・実習や学生企画などを通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容とした結果、こうした参加者からも有用度において高い評価を得ている。また、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性研究者・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動の循環が実現した点は、息の長い取り組みの成果である。寄附金を募ることを検討する委員会も設置され、将来的にはJSTの受託に頼らず長く継続できる事業として確立するための取組も進められており、第3期を通じて事業が更に軌道に乗るとともに、女性のキャリア形成の視点をもった理工系女子育成プログラムのオピニオンリーダーとしての地位を確立している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○理工系女性人材の育成が求められていることと並び、女子学生へのキャリア形成支援や教員に対する男女共同参画学習に関するプログラム開発に資することから、第4期も継続して事業を実施する。
○今後は、女子学生へのキャリア形成支援について学ぶ教員コースのプログラム内容を充実させると同時に、教員免許状更新講習を併せて実施する。
○大人数のスタッフが関わる事業運営について、効果的な事務の進め方を工夫していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ③教育・学習プログラムの開発

事業名	教育・学習プログラムの開発
担当課室	事業課
スタッフ	情報課長、専門職員(1)、事業課長、専門職員(2)、客員研究員(1)、係員(1) 計7名

年度実績概要
1. 趣旨 大学・学校・企業・官公庁等の管理職・人事担当者等や学生等を対象に効果的な教育・学習を支援するプログラムの開発、男女共同参画行政や女性関連施設等からの照会に対応し、講師紹介を行う。
2. 概要 (1) 大学と連携した事業実施 ①埼玉大学との連携事業（6年目）（受講学生は女性11名 男性7名 計18名） ・2単位、木曜3限、全15回。 ・テーマは「男女共同参画社会を考える・大学と出会う2」全15回授業のうち2回をNWECが担当。研究国際室長による「男女共同参画とは：男女共同参画社会形成に向けた国立女性教育会館の取組」をテーマとした講義、専門職員によるWinetを活用した情報収集の方法及び統計データの活用についての講義、及び情報センターを利用しての情報収集を行った。 ②埼玉県私立短期大学協会との連携授業（6年目）（受講学生は3大学より21名） ・平成27年9月8日（火）～10日（木）（2泊3日）NWECで実施。前期2単位。 ・男女共同参画や女性の就労継続の意義などについて、講義、ジェンダー統計、キャリアトーク等多彩な切り口からライフプランを設計する力量形成を学んだ。 (2) 学習オーガナイザー養成研修 ・平成28年1月13日（水）～15日（金）（2泊3日）NWECで実施。 ・男女共同参画の視点からの学習プログラム企画実績を持つ者を対象とし、知見・技能のブラッシュアップを図る。男女共同参画及びキャリア開発の基礎的理解、成人学習、NWECに蓄積された知見やノウハウなどの高度な内容を、講義及びワークショップ形式により具体的な理解を促すことができた。 (3) 学習プログラム相談 国際女性教育振興会や千葉県男女共同参画課、大分大学など、全国の男女共同参画部局や大学、団体等からの学習支援の依頼があり11件の講演講師等の紹介依頼を行った。（男女共同参画担当部局5件、大学3件、民間3件） (4) 主催事業の一部動画配信 「地域における男女共同参画推進リーダー研修」「NWEC国際シンポジウム」「男女共同参画推進フォーラム」など主催事業の基調講演や講義について、講師の了解がとれたものについては、ホームページにて動画配信を行い、主催事業に参加できなかった者にも広く学習機会として提供した。 (5) 男女共同参画センターとの共同実施 平成23・24年度にNWEC主催事業としてプログラムを開発・実施したキャリア形成支援研修に基づき、平成25年度に群馬県ぐんま男女共同参画センターとNWECが共催で「女性のためのハッピーキャリア大研究」を実施。平成26・27年度は、同センターが同事業を自立実施（NWECから講師派遣）。
実績を裏付けるデータ
学習オーガナイザー養成研修 1. 参加者概況（女性センター等職員18名、女性団体関係者8名、行政職員3名、大学職員3名、その他3名） 2. アンケート結果 満足度100.0%（非常に満足78.8%、満足21.2%） 有用度100.0%（非常に有用84.8%、有用15.2%）

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：男女共同参画視点からのキャリアをテーマとした学習に対するニーズも高まっており、主催事業の実施だけでなく、女性関連施設はもとより、大学なども対象に据え、男女共同参画学習の専門機関として、学習（授業）プログラムに対する指導・支援を行うことは時宜にかなっている。					
独創性：男女共同参画に関する Center of centers として、女性関連施設等からの要望をくみ上げ、主として女性関連施設等で研修や講座の企画を行う職員を対象とした知見・技能のブラッシュアップの場を設定したことは NWEC ならではの取組である。また、「男女共同参画の視点に立ったキャリア開発」の概念や長年にわたり構築してきたプログラムデザインなど NWEC の成果をあますところなく盛り込んだプログラムとなっている。					
発展性：NWEC が開発・実施した「複合キャリア形成プログラム」が平成 25 年度の共催実施を経て、平成 26・27 年度も地域のセンターの単独主催で実施された。また、埼玉県私立短期大学協会と連携して開発した女子大学生を対象としたキャリア学習プログラムの知見を、「女子大学生キャリア形成セミナー」に活用するなど、実施主体の広がりや研修成果の活用がみられる。					
効率性：「学習オーガナイザー養成研修」の講師は、1 名を除き、NWEC 職員または企画委員で構成されており、開催場所も NWEC であることから、予算上極めて効率的な実施となった。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの満足度	プログラムの有用度		
判定	A	A	A		
○学習オーガナイザー養成研修：定員 30 名に対して 35 名の参加					
○学習オーガナイザー養成研修満足度：100.0%（非常に満足 78.8%、満足 21.2%）					
○学習オーガナイザー養成研修有用度：100.0%（非常に有用 84.8%、有用 15.2%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	埼玉大学や埼玉県私立短期大学協会との連携プログラムは既にプログラム内容も精査されている。若年層を対象とした学習機会の提供として、上記機関との連携も順調である。 試行的な実施として 2 年目になる学習オーガナイザー養成研修は、前年度に引き続き、応募倍率も充足し、満足度・有用度ともに極めて高く、取り組みは好調である。
A	第 3 期は、埼玉大学や埼玉県私立短期大学協会と連携して行う、大学生を対象とした男女共同参画の視点をもったキャリア形成プログラムの開発を進めた。平成 25 年度からは、開発したプログラムを活用し、NWEC において「女子大学生キャリア形成セミナー」の実施につなげた。 一方、新たな事業として、女性関連施設において研修を企画・実施する職員の資質向上の機会がほしいという要望に応え、平成 26 年度より「学習オーガナイザー養成研修」を実施するなど、男女共同参画を推進するための喫緊の課題に対する学習プログラムの開発に努め、成果を上げている。 また、来館できない者への学習機会の提供として、インターネットを使った主催事業の一部動画配を開始している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○「学習オーガナイザー養成研修」も 2 回の試行を終え、プログラム内容の精査や運営ノウハウの蓄積も増えつつあるため、第 4 期には、正規の研修事業として展開する。今後は、2 泊 3 日では時間が不足して十分に盛り込めないプログラムを e ラーニングで補うなどの手法を試みたい。また、研修修了生が実施する事業への協力、研修修了生による講師・事例報告者への登用などの参加者へのフォローアップを意識し、学習人材の循環と研修成果のさらなる波及効果を目指す。
○教育・学習支援については、動画配信にとどまらず、今後はコンテンツを増やしながら e ラーニングの構築に取り組む。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ①男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、研究員(1)、客員研究員(1)、情報課専門職員(1) 計4名

年度実績概要
1. 趣旨 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために、5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。 本年度は、ミニ統計集「日本の女性と男性」(2015年)を作成するとともに「男女共同参画ニュースレター」を年2回配信する。
2. 実施概要 (1)「統計リーフレット」の作成 ミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して統計リーフレット(A4版三つ折り、日本語版・英語版)を作成した。 (2)「男女共同参画統計ニュースレター」の作成 男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを紹介する「男女共同参画統計ニュースレター」を年2回作成し配信した。男女共同参画ニュースレター第19号の配信先は2009件。 (3)「女性関連施設に関する調査研究」において、「図表でみる都道府県のすがた」を作成し、地方公共団体、男女共同参画センターの職員を対象とする『地域における女性の活躍推進実践ガイドブック』に掲載した。
3. 成果の活用 NWECの主催事業で男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップを実施した。また、男女共同参画センターや行政機関等で企画されている研修事業等においても男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップが実施された。

実績を裏付けるデータ
1. 男女共同参画統計ニュースレター配信数 女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等 第19号 2,009件
2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等 (1)主催事業：地域における男女共同参画推進リーダー研修、女性関連施設相談員研修、企業を成長に導く女性活躍推進セミナー、学習オーガナイザー養成研修、女子大学生キャリア形成セミナー、埼玉大学・埼玉私立短期大学協会との連携事業、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー、アセアン諸国における人身取り対策協力推進セミナー (2)女性関連施設・地方公共団体：埼玉県男女共同参画センター（女性のための政策セミナー）、北九州市男女共同参画センター（北九州市男女共同参画啓発事業）、婦選会館（ジェンダー平等サロン）、茨城県結城市（職員研修）、埼玉県川越市（男女共同参画社会づくり講座）、西東京市男女平等参画推進委員会、全国女性会館協議会（情報事業に携わる方の課題解決・実践研修） (3)その他：東京外国语大学（男女共同参画推進啓発セミナー）、神戸学院大学（職員研修）、福岡女子大学（大学院生キャリア形成支援セミナー）、大分大学「男女共同参画トップセミナー」、JICA（中南米広域ジェンダーセミナー）、韓国女性政策研究院（第7回アジア太平洋地域における開発とジェンダーフォーラム）
事業実績
指標 H23 H24 H25 H26 H27
男女共同参画統計データブックの刊行 ○ ○ ○ ○ ○
統計リーフレットの刊行 ○ ○ ○ ○ ○
男女共同参画統計ニュースレターの配信先 1,508 1,601 1,696 1,801 2,009

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性		
判定	A	A	A		
適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第4次男女共同参画基本計画の「推進体制の整備・強化」に挙げられている「ジェンダー統計の充実」に対応するものである。またCSWでもジェンダー統計の重要性が増しており、国際的動きにも対応しているといえる。					
独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータを収集してデータブックやリーフレットを作成するだけではなく統計ニュースレターの刊行や、NWECCの主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップにデータを活用するなど、総合的に事業を展開している。					
発展性：今後は紙媒体だけではなく国立女性教育会館の男女共同参画統計データベースや政府統計の総合窓口e-Statを活用することによって最新のデータを提供することが可能となる。					

2. 定量的評価

観点	男女共同参画統計ニュースレター配信先				
判定	A				
「男女共同参画統計ニュースレター」は、会館講師、委員等への新規配信先を増やした(2,009件(前年度1,801件))。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	ニュースレターの配信は目標値に達している。また、男女共同参画統計を活用した講義やワークショップについては、昨年の対象者（女性関連施設関係者、行政担当者教員、企業関係者、学生など）に大学関係者を加えた。また、国際会議で日本の現状を紹介するなど、男女共同参画統計データの普及に努めた。
A	中期計画にそって『男女共同参画統計データブック』『男女共同参画統計リーフレット』『男女共同参画統計ニュースレター』を計画的に作成し、ニュースレターな配信数も目標値に達している。統計データを活用した講義やワークショップも対象を広げ充実させた。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
毎年出される統計データも数多くあることから、3年ごとのデータブックの作成では最新のデータ提供に対応することが難しい。そこで新しいデータを迅速に更新できるホームページ上のデータ提供を検討することが必要である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ②調査研究成果の普及

事業名	調査研究成果の普及
担当課室	研究国際室、情報課
スタッフ	研究国際室長、研究員(3)、専門職員(1)、情報課専門職員(1) 計6名

年度実績概要
1. 報告書、冊子等の作成 (1) ミニ統計集 日本の女性と男性 2015 日本語版 1,500 部、英語版 500 部印刷、主として情報提供及び主催事業等で配布 (平成 27 年度男女共同参画統計に関する調査研究) (2) 地域における女性の活躍推進 実践ガイドブックー地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割 1,100 部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配布 (平成 27 年度女性関連施設に関する調査研究) (3) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査 300 部印刷、主に調査協力企業に配布 (平成 27 年度若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究) (4) 2015NWEC リーダーセミナーレポート「女性の起業と経済的エンパワーメント」 350 部印刷、主としてリーダーセミナー研修生、推薦者・機関等に配付 (平成 27 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー) (5) NWEC 実践研究 第 6 号「女性のエンパワーメント」 800 部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配付 (平成 27 年度 NWEC 実践研究)
2. 国立女性教育会館リポジトリ・ホームページへの掲載 (1) 「NWEC 実践研究」第 6 号を論文単位でリポジトリに掲載 (2) ミニ統計集、報告書等については、NWEC ホームページにダウンロードできる形で掲載
3. NWEC が実施する事業における普及 (1) 大学等における男女共同参画に関する調査研究 ① 大学等における男女共同参画推進セミナー（有用度 91.1%） (2) 男女共同参画統計に関する調査研究 ① 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー（情報提供） ② 学習オーガナイザー養成研修（有用度 100.0%） (3) 女子大学生キャリア形成セミナー ① 若年男女のキャリア形成支援に関する意識及び支援に関する調査研究（満足度 95.2%）
4. 会館以外での普及 ① 大学等における男女共同参画に関する調査研究：大分大学・福岡女子大学・東京外国語大学・神戸学院大学 ② 東南アジアにおける男女共同参画政策の比較研究：市川房枝記念会 第三回ジェンダー平等政策サロン ③ 男女共同参画統計に関する調査研究：茨城県結城市・福岡県北九州市

実績を裏付けるデータ
事業実績（別紙）

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		
適時性：若年男女のキャリア形成支援、男女共同参画関連情報の収集・発信等、「第4次男女共同参画基本計画」の各重要分野に焦点をあて調査研究を実施・情報発信したことは、政策的にも適宜にかなったものである。					
発展性：各種報告書、ガイドブック、レポート等の作成及びホームページや会館リポジトリへの掲載、「統計ニュースレター」の配信、「男女共同参画と男性」情報サイトの運営・保守など、調査研究成果の普及は、今後の事業展開等において役立つものである。					
効率性：調査研究の実施、報告書及びガイドブック等の作成にあたっては、外部人材を活用して効率的かつ専門的に行なうなど、経済的・時間的効率の向上を図った。					

2. 定量的評価

観点	調査結果の普及 媒体数				
判定	A				
事業計画どおりに作成した報告書等は、女性/男女共同参画センター、都道府県の男女共同参画担当課長等に送付するとともに、NWEC ホームページ及び会館リポジトリにダウンロードできる形で掲載をした。さらに、「女性関連施設に関する調査研究」では、平成 23 年度から平成 27 年度の 5 年間実施した成果として、地方公共団体の男女共同参画や女性活躍推進を担当する職員、男女共同参画センターの職員、これらの機関が担うべき役割や連携の仕方等をまとめたガイドブックを作成。より広く調査研究の成果を普及することに尽力した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施しており、昨年度、Web によるアンケート調査(プリテスト)を行った調査研究では、今年度から 5 年間の追跡パネル調査を行い、第一回調査結果について男女のキャリア意識を比較した報告書を作成した。さらに、他の調査研究では、当初、予定に無かったガイドブックを作成するなど、より広く調査研究成果を普及した。
A	各調査研究において、報告書やガイドブックの作成、Web サイトの開設・運営・保守等、年度計画どおりに実施しており、併せて、NWEC ホームページや会館リポジトリ等によりダウンロードできる形で掲載した。NWEC 主催事業にて調査報告を行い、すべてにおいて高い評価を得るなど、男女共同参画の普及に努めた。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度も継続する調査研究においては、ナショナルセンターとして引き続き女性/男女共同参画センターや自治体等と連携して事業や報告、講義等を行い調査研究成果の普及に努めるとともに、Web サイトを随時更新する。また、放送大学と連携して女性のキャリアデザインに関するオンライン講座を開発・運用。NWEC 主催事業及び教育機関、女性関連施設等においても活用しやすい情報の収集・共有・発信にも努める。

事業実績

年度	指 標	作成部数
平成二十三年度	男性の地域活動および男女共同参画に関するアンケート調査 －全国の女性関連施設との連携協力にもとづく調査－	1,300
	韓国における女性への起業支援と地域の活性化－韓国調査報告書－	1,000
	女性関連施設の指定管理者導入施設に関する調査報告・事例集	1,000
	NWEC国際シンポジウム報告書（日本語）	1,200
	NWEC国際シンポジウム報告書（英語）	1,000
	NWEC実践研究 第2号	800
平成二十四年度	地域課題の解決と女性の経済的自立に向けて	900
	男女共同参画と男性 男性の家庭・地域参画を進める学習プログラムハンドブック	1,100
	女性関連施設の災害関連事業に関する調査報告・事例集	800
	NWEC国際シンポジウム報告書（日本語）	1,000
	NWEC国際シンポジウム報告書（英語）	650
	NWEC実践研究 第3号	800
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（日本語）	3,000
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（英語）	1,000
	大学における男女共同参画についてのアンケート調査報告書（科学研究費補助金）	1,000
	女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究－複合キャリア形成過程とキャリア学習－報告書（科学研究費補助金）	100
平成二十五年度	社会参画と女性のキャリア形成事例集（科学研究費補助金）	800
	男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援ハンドブック	1,000
	男女共同参画の視点に立った外国人女性の困難等への支援のための参考資料	900
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（日本語）	2,000
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（英語）	500
	女性関連施設の情報事業に関する調査報告・事例集	1,000
	NWEC国際シンポジウム資料集	250
	NWEC実践研究 第4号	800
平成二十六年度	国連婦人の地位委員会(CSW)早わかり	1,000
	実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進	450
	2014NWECリーダーセミナーレポート（日本語）	300
	2014NWECリーダーセミナーレポート（英語）	200
	NWEC国際シンポジウム資料集	200
	NWEC実践研究 第5号	800
	第59回 国連婦人の地位委員会(CSW)早わかり	1,500
	女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究－日中韓の比較から－報告書	150

平成二十七年度	ミニ統計集「日本の女性と男性」（日本語）	1,500
	ミニ統計集「日本の女性と男性」（英語）	500
	地域における女性の活躍推進 実践ガイドブック－地方公共団体や男女共同参画センターの新たな連携と役割	1,100
	男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査	300
	2015 NWE Cリーダーセミナーレポート	350
	NWE C国際シンポジウム資料集	250
	NWE C実践研究 第6号	800

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等 の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等 の提供 ①情報資料の収集・整理・提供

事業名	情報資料の収集・整理・提供
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1)係長(1)専門職員(1)係員(5) 計8名

実績概要
1. 趣旨 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。
2. 実施概要 地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報を収集を図った。更に、収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出した他、レファレンス・サービス、文献複写サービス、館内見学会の実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。
3. 成果 【収集資料】 「収集資料統計」参照。企業や大学のダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い、「女性活躍」や「ワークライフバランス」に関する図書を受け入れた。大学が刊行する男女共同参画に関する広報誌等も全国的な収集を心がけた。また、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を収集した。これらは女性教育情報センターで受け入れ、広く一般の利用に供している。 【学習支援】 図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示である「女性と宇宙」等を実施すると同時に、資料リストを女性情報ポータルWinet上で公開し、男女共同参画推進のための学習・教育を支援した。 更に、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」や、埼玉県私立短期大学協会との連携事業「平成27年度女子大学生のためのキャリア形成講座」の中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当し、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。
実績を裏付けるデータ

事業実績					
指標	H23	H24	H25	H26	H27
収集資料統計					
・図書資料	2,286	2,266	2,368	2,644	2,480
・新聞切り抜き	19,501	19,478	22,225	22,657	23,744
・和雑誌	69	19	24	50	34
・洋雑誌	12	9	21	1	1
・海外の専門データベース	3	3	3	3	3

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	効率性			
判 定	A	A			

独創性：「地方行政資料」は、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を集中的に収集し備え付けているコレクションであり、専門性に優れたコレクション構築として高く評価できる。

効率性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示とあわせて、特定の地域や機関で網羅できない資料をナショナルセンターとして集中的に収集しており、効率性が評価できる。

2. 定量的評価

観 点	資料・情報の収集数				
判 定	A				

図書は例年とほぼ変わらない冊数を受け入れた。新聞切り抜き件数は4年前の平成23年度より20%以上増加した。パッケージ貸出やデータベースでの提供等で資料の利用も着実に図られており、定量的に評価できる。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	図書は例年とほぼ変わらない冊数を受け入れた。新聞切り抜き件数は4年前の平成23年度より20%以上増加した。
A	資料の収集は概ね着実に取り組まれており、地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。リポジトリの充実により文献複写サービスの利用は減少しているが、パッケージ貸出等で資料の利活用が図られている。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として新規受入すべき図書が受入対象から漏れている事例が発生している。今後は複数職員による再チェックを行い、選書漏れを防ぐ。
また、職員数の増加が見込めない中、新聞記事切り抜きの件数がここ数年で大幅に増加しているため、切り抜き作業の分担内容の見直しが必要である。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

事業名	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実		
担当課室	情報課		
スタッフ	専門職員(1)	係長併専門職員(1)	係員(5) 計7名

実績概要
1. 趣旨 <p>「女性情報ポータル “Winet” (Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性情報ナビゲーション（リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内） ・NWEC作成のデータベース ・女性情報 CASS (NWEC 作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索)
2. 実施概要 <p>女性情報ポータル “Winet” の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度はコンテンツの随時追加・修正等を行うとともに、「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」（平成26年12月26日、文部科学省）における情報の一元化・発信の提言を受け、女性情報ナビゲーションの分野とリンク先の刷新を行うなど、ユーザビリティの向上と提供情報の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○データベース化件数：669,100件 (31,330件増) ○アクセス件数：391,670件 (29,951件増)
3. 成果 <p>第三期中期計画期間中の目標値である、アクセス件数30万件、データベース化件数60万件は平成25年度に既に達成しているが、平成27年度もアクセス件数は年度目標の30万件を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「女性情報ナビゲーション」 分野、リンク先の全面的な見直しを行った。 (2) 「文献情報データベース」 総件数595,890件 (28,481件増) 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。 (3) 「国立女性教育会館リポジトリ」 総件数6,750件 (63件増)。 (4) 「女性情報レファレンス事例集」 累計287事例 (7事例増) (5) 「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。農村婦人の家は閉館や地域の公民館に移行しているものが多いため、平成27年度より登録対象から外した。登録数 施設概要525件（内、Web登録の施設は142館）、実施事業（情報・相談以外）35,330件（内、平成27年度開催の事業は399件）、情報事業371件、相談事業316件。 (6) 「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』（男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成）のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。 (7) 「大学等における男女共同参画イベント情報」を、2015年9月ホームページ上に開設し、平成27年10月～平成28年3月までに96件のイベントを掲載した。

実績を裏付けるデータ
平成27年度の詳細は別紙参照
事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
データベース化件数	545,671	573,394	601,634	637,770	669,100
アクセス件数	273,456	285,985	367,306	361,721	391,670

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		

適時性：女性情報ナビゲーションの分野、リンク先の刷新は、情報提供の適時性を高めている。

発展性：「大学等における男女共同参画イベント情報」の開設は、情報提供と共有の場として、男女共同参画の展開に資するものである。

効率性：「女性関連施設データベース」は、全国の男女共同参画センター等と共同で構築し、他機関との連携を図るものとして評価できる。

2. 定量的評価

観点	データベース化件数	アクセス件数			
判定	A	A			

○データベース化件数：669,100件（31,330件増）

○アクセス件数：391,670件（29,951件増）

○地域における男女共同参画推進リーダー研修「情報提供「NWECCの事業展開について」1)情報機能について：有用度95.2%（非常に有用21.6%、有用73.6%）

○女性関連施設相談員研修「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」：有用度92.4%（非常に有用29.4%、有用63.0%）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	平成27年度のアクセス件数は、中期計画期間中の目標30万件を上回り、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った成果が出ている。データベース化件数も669,100件と目標値60万件以上を達成した。
A	アクセス件数もデータベース化件数も中期計画の目標値を上回っている。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等

今年度はポータルのコンテンツの一つ「女性情報ナビゲーション」の分野、リンク先の全面的な刷新を行った。次年度も引き続き、データベースの更新など最新の情報が幅広く入手できるよう内容の充実を図り、ページ構成やリンク関係などを整理して訪問者にわかりやすい形で提供する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ③図書のパッケージ貸出

事業名	図書のパッケージ貸出
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長（1）専門職員（1）係長（1）係員（3） 計6名

実績概要	<p>1. 趣旨 各施設における男女共同参画を推進するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸出を実施する。</p> <p>2. 実施概要 大学、女性関連施設、公共図書館、高等専門学校等の機関を対象とし、男女共同参画社会形成を目指した様々なテーマに合致する図書について、ここ数年以内に出版された比較的新しい図書を中心に、「キャリア・しごと」「家庭・家族」など複数のジャンルを組み合わせて原則100冊のパッケージにまとめ、貸出を行っている。NWECであらかじめ用意したパッケージを3か月ごとに入れ替えながら年間を通して貸し出す「年間パッケージ」と、相手館の事業とのタイアップなどに合わせてパッケージ内容をカスタマイズし一定期間貸し出す「個別パッケージ」に分けている。 平成27年度は個別パッケージ貸出の申込が8件あり、前年度の5件から増加した。 また平成27年度は、図書が手に取られた数をカウントしたり、棚から離れている時間を計測したりするシステムを搭載したブックトラック「レコピック」を図書と同時に貸出するサービスを試行的に開始し、2館に対して貸出を行った。</p> <p>3. 成果 平成27年度までの累計利用機関数は107機関であり、第3期中期目標期間数値目標（20機関以上）を達成した。</p>
------	--

実績を裏付けるデータ					
事業実績					
指標	H23	H24	H25	H26	H27
貸出機関数	17	6	31	34	19
図書のパッケージ貸出件数	55	57	75	77	52
パッケージ冊数	8,438	6,506	7,989	7,339	5,057

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：ここ数年以内に出版された比較的新しい図書を他機関に貸し出し、男女共同参画の知識を普及させるという、時宜に合わせた事業として評価できる。					
独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書のパッケージ貸出サービス」は、全国的にも珍しく、特に専門図書館では例を見ないサービスである。					
発展性：大学図書館、高校図書館、公共図書館と、館種を超えた図書館へ貸し出す地域連携パッケージは、地域の連携ネットワークへ発展する可能性があり、高く評価できる。					
効率性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、全国の図書館等を拠点として一定期間図書を貸し出すことにより男女共同参画の知識の普及を図っているため、効率性が高く評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	連携機関数	貸し出し数			
判 定	A	A			
サービス開始後、累計 90 機関への貸出を実施した。平成 27 年度は 19 機関に対して年間 52 回、延べ 5,057 冊の資料を貸出し、年度目標 4 機関以上を大幅に上回る実績をあげ、第 3 期中期目標期間数値目標（累計 20 機関以上）を達成した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度目標4機関以上を上回る19機関への貸出を達成した。
A	第3期中期目標期間数値目標（累計20機関以上）を達成した。遠隔地への図書の貸出を通じて、女性教育情報センターが収集した専門的な資料を全国で活用できる図書サービスの拡大、館種を超えた図書館の連携を行った。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
図書パッケージ貸出業務の効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務の定型化を一層進める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ①女性アーカイブ機能の充実

事業名	女性アーカイブ機能の充実
担当課室	情報課
スタッフ	課長(1) 専門職員(1) 係員(2) 計4名

年度実績概要
<p>1. 趣旨 女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能とするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料の収集・整理・保存および提供・公開を行い、男女共同参画の推進に関する啓発、学習・研究支援等に資する。</p> <p>2. 概要 女性アーカイブセンターにおいて、女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等によって提供・公開する。会館のもつ全国の女性関連施設とのネットワークを活かして東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進め、国立国会図書館が運営するポータルサイトと連携させる。また、他機関と連携して行う企画展示と、アーカイブセンター所蔵資料を用いる所蔵展示を実施する。</p> <p>3. 成果 順調に事業を推進し、今年度の数値目標を達成することができた。 8月に復興庁とNWECの共催企画として「リレートーク 東北はいま～男女共同参画の視点からの復興」を開催し、その中で震災アーカイブに関する講演を行った他、複数の女性関連施設においてアーカイブ事業についての講演を行った。 企画展示「宇宙をめざす」に関連して、「女子中高生夏の学校」における協力各機関と連携を深めた。 また、展示用パネルおよび資料について他機関より利用の申し込みがあり、貸出を行った。</p> <p>【評価指標】 <input checked="" type="radio"/>資料の収集・デジタル化（年度目標1千点以上） 27年度新規受入は1,514点だった。資料選定委員会の助言に基づき資料の受入を行い、女性デジタルアーカイブシステムを通じて全ての目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。 <input checked="" type="radio"/>展示室利用（累計5万件以上） 第3期中期計画の目標値を超えて累計51,418件を達成した。 <input checked="" type="radio"/>女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況（期間中に5機関以上） 中期計画期間中の連携機関数は毎年目標値を超え、27年度も5機関との連携を行った。また企画展の連携企画として講演会を1回行った。</p>
実績を裏付けるデータ

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
デジタル化した史・資料点数（点）	1,068	1,256	1,079	1,081	1,514
展示室への入室件数（件）	11,276	10,658	10,796	8,044	10,295
企画展における連携機関数（機関）	7	7	5	7	5

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性			
判 定	A	A			

独創性：全国の女性関連施設と連携して女性デジタルアーカイブシステムを独自に構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、NWEC災害復興支援女性アーカイブは、女性の視点を災害復興支援記録に活かすという独自性を持っている。

発展性：企画展示においては、女性と宇宙との関わりというテーマのもと、連携機関を新規開拓した他、「女子中高生夏の学校」における協力各機関ともさらなる連携を深めて事業を行うことができた。

2. 定量的評価

観 点	収集数	デジタル化数	他機関との連携数	展示室入場者数	
判 定	A	A	A	A	

○資料の収集・デジタル化数：平成 27 年度 1,514 点 (H23 年度からの累計 5,998 点)

○連携機関数：5 機関

○展示室入場者数：平成 27 年度 10,295 件 (H23 年度からの累計 51,418 件)

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	各取り組みを順調に進め、中期計画の数値目標を達成することができた。
A	資料の収集・デジタル化数は中期計画目標値が 5,000 点のところ 5,998 点を達成した。 企画展示の連携機関数は毎年 5 機関の目標値を達成した。 展示室入場者数は目標値が 50,000 件のところ 51,418 件を達成した。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
史・資料の収集数は順調に目標を達成したが、NWEC に長く関わっている客員研究員の個人的ネットワークに頼る所が大きいため、今後は担当者が入れ替わっても引継可能な収集手段を構築する必要がある。 展示については、企画展示で引き続き各機関との連携を行いう一方、所蔵展示にも力を注ぐ。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置 3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ②女性情報アーキビスト養成研修

事業名	女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース+実技コース）
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員（1）係員（2） 計3名

年度実績概要
1. 趣旨 女性の歴史を今に生かし未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要である。そのため、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方を対象に、平成21・22年度に「女性情報アーキビスト入門講座」、それを引き継いで平成23年度から「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」を実施した。平成24年度からは実習を通してより実践的に学ぶ（実技コース）を増設し、平成25年度からは（入門）を（基礎コース）と改称して実施している。
2. 実施概要 「基礎コース」では、女性アーカイブ概論をはじめ、著作権、資料の保存・活用に関する知識や情報を提供する講義のほか、アーカイブのネットワークや構築の事例報告を行った。「実技コース」では、展示施設の空間づくりについてワークショップを行い、紙資料の修復に関する技術について実習を行った。
3. 開催日時（場所） 平成27年12月9日（水）～12月11日（金） ①基礎コース：12月9日（水）～12月10日（木）1泊2日 ②実技コース：12月10日（木）～12月11日（金）1泊2日
【評価指標】 ○女性アーカイブ実務者への学習支援状況（年度目標20名以上） 「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）+（実技コース）」を実施し、「基礎コース」に25名、「実技コース」に19名の参加を得た。実技コースは毎年好評につき定員を倍の20人にした。 ○アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」において情報交換会を実施し、それぞれの立場や仕事状況などについて相互理解を深められるよう配慮した。過去の修了者間では、有志が集まりNWECAフォーラムに参加するなどの交流が続いている。
文科大臣からの指摘事項： アーキビスト養成研修については、時宜に応じたテーマを取り入れるなど、より充実したプログラム内容となるように改善を図ることが期待される。

実績を裏付けるデータ
事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
入門（基礎）コース					
参加者定員（人）	30	30	30	30	30
参加者数（人）	40	32	34	27	25
実技コース					
参加者定員（人）	-	10	10	10	20
参加者数（人）	-	12	11	10	19

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：女性アーカイブの構築・運営に役立つ基礎的かつ新鮮な情報を提供しており、ナショナルセンターとして全国的に女性アーカイブ構築の推進を支援する取り組みとして評価できる。					
独創性：女性アーカイブに主眼を置き独自に開発している専門的な研修プログラムは他に例をみないものであり、ユニークである点が評価できる。					
発展性：外部の展示運営施設に積極的に声をかけ講師に招くことで会館とのネットワークづくりを広げている。また、参加者間および講師とのネットワークが広がることにより、新たな事業展開につながる可能性がある。					
効率性：「基礎コース」では女性アーカイブセンターおよびアーカイブ展示室の見学と取り組みを紹介し、「実技コース」ではアーカイブ展示室を会場としたワークショップを行った。女性アーカイブセンターの所蔵資料や関係施設を積極的に活用している点で評価できる。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	B	A			
○応募倍率 「基礎コース」：0.83倍=83%（募集定員30名、応募者25名） 「実技コース」：0.95倍=95%（募集定員20名、応募者19名）					
○有用度 「基礎コース」：98.7%（非常に有用74.5% 概ね有用25.2%） 「実技コース」：100.0%（非常に有用82.4% 概ね有用17.6%）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	参加者アンケートでは、「基礎コース」「実技コース」とともに全体の有用度が98%以上となり、研修内容を高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で活かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。
A	5年間で延べ210名が参加し、「中期目標期間中に女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場を100名以上に提供する」という目的はすでに達成した。また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する役割も果たした。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者にとってより魅力的な研修となるよう、プログラムの内容や全体の流れを見直して改善を図る。基本となる内容を維持しながらも、新しいテーマを取り入れる可能性を探り、更に洗練したプログラムを目指す。あわせて、広報の範囲や手法をより拡張して本研修の周知に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の室の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の室の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

事 業 名	国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要	
1 趣旨	
(1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。 また、全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に講師を派遣する。
(2) 関係府省との連携強化	各関係府省との連絡会を開催し、各府省の取組等の情報を共有するとともに、各種事業を実施する際には、関係府省から、企画についての助言や施策説明等による参画、広報面での協力を得るなど、具体的な連携を充実させる。
2 実績	
(1) 全国の関係機関・関係省庁との協働実績【18機関（実数）（協定2、共催5、受託2、後援9）】	
【連携協定による協働：2】	
①埼玉大学（大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進）	
②放送大学学園（男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究）	
【共催機関数：5】	
①復興庁（男女共同参画推進フォーラム）	
②NPO法人全国女性会館協議会（地域における男女共同参画推進リーダー研修く女性関連施設・地方自治体・団体>）	
③埼玉県私立短期大学協会（大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進）	
④日本学術会議「科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」（女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～）	
⑤リーダーシップ111（女子大学生キャリア形成セミナー）	
【受託機関数：2】	
①独立行政法人科学技術振興機構（JST）（女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～）	
②独立行政法人国際協力機構（JICA）（課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」）	
【後援機関数：9】	
①厚生労働省、経済産業省（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー）	
②男女共同参画学協会連絡会（女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～）	
③一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構（大学等における男女共同参画推進セミナー）	
(2) 関係省庁との情報共有実績	
①運営委員会出席：5府省（内閣府2回、文部科学省2回、外務省1回、厚生労働省2回、経済産業省2回）	

- ②主催事業への講師派遣：12回（内閣府2回、文部科学省2回、警視庁1回、法務省1回、厚生労働省5回、経済産業省2回）
 ③関係省庁との情報共有（訪問・電話・メール等）：80件

（4）上記の他、

- ①「女性関連施設に関する調査研究」を全国382箇所の女性／男女共同参画センター及び178の地方公共団体の協力により実施。
- ②「若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究」を調査協力企業17社の協力を得て、新規学卒者2,137名を対象に実施した。
- ③「女性関連施設相談員研修」では、分会会において、埼玉県警察本部子ども女性安全対策課の協力を得て、「ネット暴力の実情と防止等」を取り上げたグループワークを実施した。
- ④「女子中高生夏の学校2015」では、51の学会・団体の協力を得た。
- ⑤女性教育情報センターは、図書パッケージ貸出サービスとして大学、高校、女性関連施設等19機関へ貸出を実施した。
- ⑥人身取引啓発パネル『「人身取引」と「女性に対する暴力」をなくすために』を、1. 港区男女共同参画センターDV防止週間パネル展、2. 国際ソロップチミスト新居浜みなみにパネル展示用リーフレットを併せて提供した。

3 連携の内容と効果について

- （1）NPO法人全国女性会館協議会との連携においては、互いの知見やネットワークの蓄積を持ち寄りプログラム企画会議を重ねることで、より質の高い研修内容を企画することができた。
- （2）埼玉県私立短期大学協会との連携においては、短期大学生を対象としたキャリアアラニング研修について協会から寄せられたリクエストにきめ細かく対応することで、実践的なプログラムの開発を進めることができた。
- （3）埼玉大学との連携で大学における授業の中にNWECの講義を設けることができ、若年層、特に男子学生に対するアプローチについて知見を深めることができた。
- （4）女性アーカイブ企画展においては、7機関の企業・団体等から資料提供等の協力を得た。
- （5）平成21年度から実施した国際協力機構(JICA)の受託事業「国別研修タイ」の実績により、平成24年度から26年度までの3年間、アジア諸国を対象とした「地域別（課題別）研修」をNWECで実施。平成27年度からは ASEAN諸国を対象とした「課題別研修」を受託することとなり、今まで以上の連携効果が見込まれる。

	H23	H24	H25	H26	H27
協働実績(累計件数)	15	30	48	65	83
協働実績件数	15	16	18	17	18
内訳 連携協定	1	1	1	1	2
共催件数	12	11	11	7	5
受託件数	2	2	2	2	2
後援件数	0	2	4	7	9

注) 平成24年度については、受託及び後援に同一機関が含まれる。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：平成26年12月26日付で文部科学省から出された「国立女性教育会館における政策実施機能を強化するための関係府省と連携しての運営・組織体制の在り方について」の中で、関係府省との連携を一層強化する必要性が指摘されたことを受け、各省庁からの運営委員会出席や主催事業への講師派遣等が着実に実施された。					
独創性：女性教育のナショナルセンターとして、関連省庁を初め関連機関の連携協力により、全国規模から国際的な事業まで多様な研修等で充実したプログラムを提供できたことは、NWECならではのものである。					
発展性：様々な省庁や機関と連携することにより、今後も幅広い事業展開が期待できる。					
効率性：関係省庁による参加者募集の広報協力や連携機関による実施経費分担や人的支援経費や人的労力の節減ができた。関係省庁や連携機関のメンバーに、NWECの事業展開や男女共同参画・女性の活躍促進への理解を進めることができた。					

2. 定量的評価

観点	提携数	講師等派遣数	関係省庁との連携・情報共有		
判定	A	A	A		
○提携数：18機関（連携協定2、共催5、受託2、後援9）					
○講師等派遣実績：平成26年度18件 → 平成27年度42件					
○関係省庁との連携・情報共有（運営委員会出席：5府省、主催事業講師派遣：12回、情報共有：80件）					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成27年度は、女性関連施設、女性団体だけでなく、省庁や独立行政法人、大学、学術機関、団体等、さまざまな分野の機関・団体と連携を行い、目標の7機関を上回る18機関と連携ができ、十分目標を達成している。
A	平成23年度からの連携機関の累計も83機関となり、十分に当初の目的を達成している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
関係省庁や関係機関との連携の実施は、NWECの事業の充実をもたらすだけでなく、連携先及び関係者の男女共同参画の取組の促進につながることから、今後もあらゆる機会を捉えて拡大していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

事業名	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー
担当課室	研究国際室
スタッフ	専門職員(1)、係長(1)、係員(1)、派遣社員(1) 計4名

年度実績概要
1. 趣旨 開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成27年度は、女性の起業と経済的エンパワーメントをテーマとして設定し研修を行う。
2. 実施概要 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。
3. 開催日時・場所 平成27年9月28日(月)～10月2日(金) (受入期間: 9月27日(日)～10月3日(土)) NWEC、経済産業省、昭和女子大学他
4. アジア太平洋地域における拠点としての取組 研修生には、出身国(5カ国)における男女共同参画政策と、経済分野での女性の参画に関するベスト・プラクティスをテーマとしたポスターを事前に提出するよう義務づけた。研修生が作成したポスターは日本語に翻訳、パネルに加工した。パネルは研修終了後も女性教育情報センター前に展示し、国内外からの会館利用者への情報提供などに活用している。
5. 研修の内容評価 研修の有用度と満足度はともに100%であった。特に男女共同参画センター横浜の女性起業支援の取組及び昭和女子大学での坂東真理子学長との意見交換の評価が高かった。
6. 研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況 平成25年度は実践事例報告が、遠方であることと多忙を理由に数名の講師に断られたため講師への依頼が研修開始間際となつた。平成26年度は前年より早めに講師交渉を開始したため、円滑に講師を決定することができた。
7. 参加対象国は過去4年間(平成23年度から平成26年度)で13カ国を網羅した。平成27年度はこれまで参加がなかったミャンマーから2名を招へいした。

実績を裏付けるデータ
1. 参加者の概況 10名
2. 国籍 カンボジア、インド、ミャンマー、ベトナム、フィリピン(各2名)
3. アンケート結果 研修の有用度 100.0% (非常に有用 70.0%、有用 30.0%) 研修の満足度 100.0% (非常に満足 90.0%、満足 10.0%)
4. 2015NWECリーダーセミナーレポート 女性の起業と経済的エンパワーメント 250部

事業実績					
指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者定員(人)	10	10	10	10	10
参加者数(人)	11	9	9	9	10
満足度(%)	100%	100%	100%	100%	100%
有用度(%)	100%	100%	100%	100%	100%

参加国実績

(人)

国名	H23	H24	H25	H26	H27
バングラデシュ	2	—	—	—	—
カンボジア	1	2	2	2	2
中国	2	—	—	—	—
インド	1	—	—	2	2
インドネシア	1	—	—	—	—
韓国	1	1	—	—	—
ネパール	1	—	—	—	—
パキスタン	1	—	—	—	—
スリランカ	1	—	—	—	—
フィリピン	—	2	1	2	2
タイ	—	2	2	1	—
ベトナム	—	2	2	2	2
モンゴル	—	—	2	—	—
ミャンマー	—	—	—	—	2

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：男女共同参画の推進のためには、女性の経済的自立は不可欠な要素である。本研修のプログラム構成は研修期間中に各国の女性起業支援に関する政策や具体的な取組を学ぶことに主眼をおいた。専門家による講義と関係機関の視察からは、女性の起業には継続的な支援やメンター制度が必要なことや、日本の農山村女性をとりまく課題について学習し、活発な意見交換を行うことができた。					
独創性：研修カリキュラムはNWECCがこれまで築いてきた人的ネットワークを活かし、省庁や女性関連施設、NPO法人、研究者、学校関係者に講義や視察を依頼し、限られた日程でテーマについて学ぶことができるよう配慮した。					
発展性：研修生が研修から学んだ知見を基に国別報告をまとめ、2015NWECC リーダーセミナーレポートとして日本語と英語で刊行した。レポートはホームページ上でダウンロード可能な形式で公表し、研修成果の普及につとめている。					
効率性：日英両言語での研修の企画、講師との調整、実施は専門職員、研究国際係長、係員及び派遣社員の4名体制を行い、講義資料の準備、謝金支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。					

2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度	プログラムの満足度			
判定	A	A			
100%の研修参加者が有用と回答した。教材（とても有用80%）、研修の運営（非常に効率的90%）に関する評価が高かった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されている。アンケートでは満足度、有用度ともに90%以上となっており、研修生のニーズに合致した研修となった。質疑応答も活発に行われ、研修生が女性の起業に関する各国の取組みに関する知識を得る機会を提供できた。
A	これまでの研修参加者とはFacebookや国連婦人の地位委員会等で情報交換をするとともに、東南アジア諸国の男女共同参画政策に関する調査研究の協力を得るなど人的交流を継続している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
研修最終日の評価会では、研修生より「講師が全員女性であったので男性の専門家の講義も受講したかった」との意見があり、次年度以降は検討していきたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 (2)国際協力機構との連携による研修

事業名	国際協力機構との連携による研修（課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」）	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究員(1)、係長(1)	計2名

年度実績概要
1. 趣旨 独立行政法人国際協力機構(JICA)がアジア地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。対象国をアセアン地域に広げた3年計画の第1年次。 人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が各国の人身取引対策に関する取組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。
2. 実施概要 ①参加者 カンボジア、ベトナム、タイ、フィリピン、ラオス、ミャンマー、マレーシアの人身取引対策の予防と保護の分野に携わる中央・地方政府機関職員（司法・法執行・入管、婦人保護、ソーシャルワーカー等）。 ②研修内容 ・これまで行った国別研修及び課題別研修の経験と成果を踏まえ、各国の人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有 ・人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を行うための発表と討議 ・日本の人身取引対策の全体像及び男女共同参画視点に立った女性に対する暴力に対する取組の理解を図るために、行政や民間の関係機関の視察と意見交換 ・幅広い関係者（①関係省庁等、②地方自治体の女性相談所等、③民間団体（母子自立支援施設、若年女性支援団体、移住労働者支援団体等）、④弁護士や有識者等）を講師・見学先として、意見交換・講義を実施 ・関係者の意見交換・相互理解を深めるために、スキットを取り入れたワークショップを実施 ・労働搾取を防止するために、技能実習制度についての講義を新たに追加
3. 開催日時 平成27年10月19日(月)～10月30日(金) (7カ国14名：女性11名、男性3名) 開催場所 NWEC、JICA、内閣府、婦人相談所、女性関連施設、社会福祉協議会、民間団体等
4. アジア太平洋地域における拠点としての取組 研修について委託元及び研修生から高い評価を得ている。また、研修生は、帰国後に自国及びメコン地域で関係者を集めた成果発表会で研修成果を報告しており、NWECが日本で実施した研修成果が各国に広がっている。研修最終日前日に開催される「成果発表会と意見交換会」には駐日各大使館や有識者が参加し、情報を交換の貴重な場であり今後もぜひ参加したいとのフィードバックを得た。
実績を裏付けるデータ
1. 参加者の概況 7カ国14名（女性11名、男性3名）（各國政府が選定・推薦しJICAとNWECで選定） 2. アンケート結果 有用度100.0%（とても有用50.0%、有用50.0%）

事業実績

指標	H23	H24	H25	H26	H27
参加者数（人）	14	24	15	12	14
有用度（%）	100.0	100.0	93.0	91.7	100.0

注) H23, H24（一部）は、母語による国別研修、H23～H25は保護関係者中心、H26は司法執行関係中心

参加国実績

(人、()内は女性で内数)

国名	H23	H24	H25	H26	H27
タイ	14(9)	10(5)	2(1)	-(-)	2(2)
ベトナム	-	3(1)	3(2)	1(1)	2(2)
ミャンマー	-	5(5)	5(3)	5(4)	4(4)
フィリピン	-	2(2)	1(-)	2(2)	1(0)
カンボジア	-	2(1)	2(2)	2(-)	2(2)
ラオス	-	2(1)	2(2)	2(1)	2(0)
マレーシア	-	-	-	-	1(1)
計	14(9)	24(15)	15(10)	12(8)	14(11)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：人身取引問題は、地球規模の課題であると同時にアジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的に重要な課題である。グローバル化に伴い移住労働者に関する関心やニーズも高く、適時性が高い。					
独創性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の中間で多分野連携協働をテーマに行われる複数カ国を対象としたワークショップ型の研修は、他に同様の例はなく独創的である。					
発展性：これまで行った課題別研修の評価が高く、平成27年度から新たに3年間の予定で実施した。今回は初めてマレーシアが加わり、参加国数が7か国となり、今後の発展が望める。日本での研修を契機に、日本で講師を務めた省庁団体関係者がメコンでの研修講師として招聘されている。					
効率性：NWECの国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と行政や団体等とのネットワークをいかして企画したプログラムである。NWECの研修宿泊施設を利用し、委託管理収入も得ており効率性が高い。					

2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度				
判定	A				
(終了者アンケートにおける回答) 研修参加者の全体の有用度 100.0% (とても有用 50.0%、有用 50.0%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	人身取引の分野における国際研修の実施を通じて、人身取引対策に携わる関係者の国を越えた相互理解を深めた。同時に、国内の行政や女性保護関係者、民間団体が、人身取引国際的な課題について認識を深め、国内外のネットワークを深める役割も果たした。研修参加者からは帰国後に自国で役立つ知識や情報、国内外のネットワークを強化する機会を得たとともに、日本の男女共同参画施策及び女性に対する暴力に関する取組を学ぶ貴重な機会になったと高く評価された。
A	人身取引の分野で、途上国の女性の置かれている立場に着目して、被害の防止や女性被害者の保護とエンパワーメントの観点で、 ASEAN 地域 7 か国の連携を目的に参加型研修を実施したことや、 NWEC の調査研究や国際・国内研修の成果を活用することで本研修の充実を図ったことは、地球規模の課題を取り上げ国際貢献、連携協力を推進するという中期計画の目的に合致している。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
国によって人身取引問題の現象や取り巻く状況が大きく異なると同時に、参加者の専門も法執行や保護など分野によって一人ひとりの研修ニーズが異なる。異なる背景の参加者の研修効果を高め、活発な意見交換を図るために、ディスカッションやワークショップの持ち方、多岐にわたる人身取引問題のどこに焦点を当てるか、研修の企画・運営を引き続き工夫していく必要がある。共有した各国の貴重な情報を研修成果として、見える形で発信する方策について検討の余地がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためによるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ③NWE C国際シンポジウム

事業名	NWE C国際シンポジウム
担当課室	研究国際室
スタッフ	専門職員(1)、係長(1)、係員(1)、派遣社員(1) 計4名

年度実績概要																														
1. 趣旨 本事業の目的は女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることである。																														
2. 実施概要 行政職員、在日大使館職員、女性関連施設職員、大学院生、援助関係者等を対象として、「ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント」をテーマとした国際シンポジウムを実施した。																														
3. 開催日時・場所 平成28年2月12日(金) 13:30~17:00 主婦会館プラザエフ																														
4. アジア太平洋地域における拠点としての取組 (1)女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、シンポジウムのテーマについて課題を共有し、解決の方策について議論することを目指した。 (2)アジア太平洋地域における男女平等政策について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定した。																														
5. シンポジウムの内容評価 (1)第Ⅰ部基調講演では、女性の経済的自立を支援するフィリピン女性委員会のプロジェクトについて講演を行った。第Ⅱ部パネルディスカッションでは、女性の起業を支援している政策投資銀行による取組に加え、若手女性起業家による報告を行った。 (2)基調講演とパネルディスカッションの資料は事前に日英二カ国語の資料集を作成し、シンポジウム参加者に配付したほか、会館のホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表している。また基調講演の動画も配信している。																														
実績を裏付けるデータ																														
1. 参加者 63名(定員100名) 2. アンケート結果 有用度 第Ⅰ部基調講演 100.0% (非常に有用 66.7%、有用 33.3%) 第Ⅱ部パネルディスカッション 100.0% (非常に有用 73.9%、有用 26.1%) 満足度 100.0% (非常に満足 70.4%、満足 29.6%)																														
事業実績																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者定員(人)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>50</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>130</td> <td>80</td> <td>114</td> <td>56</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>満足度(%)</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>97</td> <td>88</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>有用度(%)</td> <td>96</td> <td>99</td> <td>87</td> <td>87</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	指標	H23	H24	H25	H26	H27	参加者定員(人)	100	100	100	50	100	参加者数(人)	130	80	114	56	63	満足度(%)	100	100	97	88	100	有用度(%)	96	99	87	87	100
指標	H23	H24	H25	H26	H27																									
参加者定員(人)	100	100	100	50	100																									
参加者数(人)	130	80	114	56	63																									
満足度(%)	100	100	97	88	100																									
有用度(%)	96	99	87	87	100																									

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が平成27年8月に成立し、働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その能力を十分に發揮できる仕組みづくりが求められている。平成27年度のシンポジウムでは、女性の起業を支援する国内外の取組を取り上げた。					
独創性：東南アジア地域で先進的な男女共同参画を実施しているフィリピンの事例を提示した。					
発展性：国際シンポジウムでの議論をより広く普及させるため、前年度より基調講演に日本語字幕を付し、動画を会館ホームページ上で配信している。					
効率性：シンポジウムの企画、講師との調整、実施は専門職員、研究国際係長、係員及び派遣社員の4名体制で行い、講義資料の準備、謝金の支払い手続き等、全て円滑に行うことができた。また、当日配布資料を事前に資料集として冊子に印刷し、シンポジウム終了後も参加者が学習・普及啓発活動のために活用できるよう留意した。					

2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度	プログラムの満足度			
判定	A	A			
○有用度 第Ⅰ部基調講演 100.0% (非常に有用 66.7%、有用 33.3%)		第Ⅱ部パネルディスカッション 100.0% (非常に有用 73.9%、有用 26.1%)			
○満足度 100.0% (非常に満足 70.4%、満足 29.6%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されている。社会の中で女性が十全に能力を発揮することができるることを目指して、「女性が輝く社会」政策が進められている。本事業を通じて、フィリピンと日本における男女平等を推進するための好事例を学ぶ場を設けた。
A	これまで、「災害復興とジェンダー」「男性にとっての男女共同参画」「女性の経済的エンパワーメント」など、地球規模の課題をテーマとして国際シンポジウムを実施した。男女共同参画の推進に係る先進的な取組に関する議論を深める場を提供することは、中期計画の目的に合致している。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者が定員を下回り集客に課題が残った。次年度以降は、テーマに合わせて広報先を工夫する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3)国際的なネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2)国際的なネットワークの構築

事業名	国際的なネットワークの構築
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、専門職員(1)、研究国際係長(1) 計5名

年度実績概要
1. 海外の協定締結機関等との関係
(1)韓国両性平等教育振興院 (KIGEPE, Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education) 平成 18 年 4 月 26 日、交流及び協力に関する協定を締結
(2)韓国女性政策研究院 (KWDI, Korean Women's Development Institute) 平成 18 年 9 月 28 日、研究交流及び協力に関する協定を締結 <u>平成 27 年 11 月 25 日、同院ヤン・エギョン前女性親和政策戦略委員長が来館、韓国における女性政策の変遷、ジェンダー影響評価の現状と成果についての報告及び会館職員と意見交換を行う。</u> <u>平成 27 年 12 月 14 日、同院主催の「第 7 回アジア太平洋地域における開発とジェンダーフォーラム」に研究国際室専門職員及び研究員が参加。同院と会館の協定に基づく、これまでの調査研究や共同研究事業、ジェンダーに配慮した持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、今後も協力して取り組んでいくことを確認した。</u>
(3)フィリピン大学機構 (University of the Philippines System) 平成 21 年 3 月 11 日、学術協力に関する協定を締結
(4)延辺大学女性研究中心 (中華人民共和国吉林省) 平成 21 年 5 月 12 日、研究交流及び協力に関する協定を締結
(5)カンボジア王国女性省 (Ministry of Women's Affairs of Kingdom of Cambodia) 平成 22 年 4 月 6 日、交流と協力に関する協定を締結 <u>平成 27 年 9 月～10 月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同省職員が参加。</u>
2. 國際的ネットワークの構築
平成 27 年 6 月 9 日～12 日、国際協力機構及びエルサルバドル政府共催の「中南米広域ジェンダーセミナー」に研究国際室専門職員が参加。日本における女性の経済的自立支援のための取組について報告を行った（エルサルバドル）。
平成 27 年 7 月 1 日、ベトナム防衛省女性の地位向上委員会常任委員ブイ・チ・ラン・フォング中佐以下、防衛省代表団 18 名が来館し、ベトナム及びベトナム防衛省における男女共同参画への取組や課題について NWEC 職員と意見交換を行う。
平成 27 年 9 月 28 日～10 月 2 日、NWEC 国際研修「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」を開催。カンボジア、インド、フィリピン、ミャンマー、ベトナムから 10 名が参加。
平成 27 年 10 月 19 日～30 日、国際協力機構 (JICA) 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」を開催。タイ、ミャンマー、ベトナム、フィリピン、カンボジア、マレーシア、ラオスから 14 名が参加。
平成 27 年 11 月 17 日、ベトナム女性連合女性と開発センター視察団ホアン・ティ・アイ・ニーエン団長以下 6 名が来館し、日本国内における女性に対する暴力防止や DV サバイバーへの支援について NWEC 職員と意見交換を行う。
平成 28 年 2 月 12 日、「NWEC 国際シンポジウム」を開催。基調講演者としてエミリン L・ヴェルゾーサ氏(フィリピン)を招聘。基調講演動画を会館ホームページより配信。
平成 28 年 3 月 14 日～24 日、Commission on the Status of Women (CSW : 第 60 回 国連婦人の地位委員会)に日本政府代表団の一員として、研究国際室専門職員及び事業課専門職員の 2 名が参加(ニューヨーク)。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		
適時性：協定締結機関とは、国際研修や調査研究を通じての交流が引き続き行われており、NWEC がアジア太平洋地域との連携を強化していくためにも適切なものである。また、研修修了生とは、調査研究・科学的研究費補助金事業での海外調査の実施や CSW において、更にネットワークの構築を図った。					
発展性：協定締結機関からの国際研修参加をはじめ、海外機関へも訪問し、NWEC 調査研究について報告するなど、来年度以降の調査研究や事業を展開していくためにも適切なものである。					
効率性：国際協力機構から外部資金を得ることにより、管理経費の削減に努めるなど、効率的に事業を実施している。					

2. 定量的評価

観点	協力関係機関数				
判定	A				
女性教育情報センター前での国際研修使用パネルの展示や会館ホームページのみならず、Facebook 上でのシンポジウム参加募集、実施報告掲載など、研修前後から交流を深めるとともに、海外機関からの来館者に対し、これまで実施した調査研究の成果を報告、講義、情報提供等により広く普及した。					
平成 27 年 11 月に協定先である韓国女性政策研究院 (KWDI) から来館、翌 12 月に同院主催のフォーラムに出席。平成 28 年 3 月には国連婦人の地位委員会 (CSW) に参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け準備を進めている。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されており、さらには、これまでの調査研究・事業の成果を活かし、リーフレットを作成、国際研修や NWEC 国際シンポジウムの募集・実施報告を Facebook で行うとともに、会館ホームページで NWEC 国際シンポジウム基調講演を動画配信するなど、情報発信およびネットワークの構築を図るとともに、NWEC の取組を国内外に広く普及させた。
A	協定締結機関とは、活発な人的交流、調査研究、情報・研修事業を通じた相互の情報交換・支援が行われた。協定先である KWDI からの来館及び訪問、CSW に参加し、会館ホームページにて情報を発信。国際研修修了生の所属機関訪問及び CSW での情報交換、女性教育情報センター前での国際研修参加研修生作成のパネル展示など、NWEC の取組を日本国内に普及した。 また、独立行政法人国際協力機構 (JICA) のアジア太平洋地域 7カ国を対象とした研修事業を受託し、途上国の男女共同参画を通じた支援にも大きく貢献している。

※ 上段は年度計画の総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降も、今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、アジア地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための拠点としての役割を果たすとともに、国際研修修了生等とのつながりを一層強めるため、メール配信、情報交換を定期的に行うなど、NWEC を中心としたネットワーク構築を図り、会館ホームページ及び Facebook 等で研修成果を国内外に普及させる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-6-(1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大
年度計画の項目 (I-6-(1)(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大

事業名	利用者への学習支援と利用の拡大
担当課室	事業課
スタッフ	全職員

年度実績概要
1. 利用者への学習支援
(1) 研修プログラム作成支援の実績
NWEC を利用する自治体・団体・グループが企画・実施する研修等のプログラムについて、NWEC 職員が学習相談・利用相談を受け、研修プログラムを作成、実施、支援した。また、実施にあたっては職員だけではなく、時には NWEC ボランティアが参画する機会も提供し、利用者への学習支援をボランティアの学習支援にもつなげた。
(2) 情報提供
・ NWEC を使用する際に会館の設立趣旨や男女共同参画についての理解をより深めてもらうため、希望する団体（学校、企業、市民団体等）には情報提供を行っている。また、下半期からは男女共同参画を学ぶクイズ形式の問題を、大学生用、高校生用、中学生用、小学生用と対象別に 4 種類作成し、事前勉強もしくは利用当日の学習教材とした。
・ 館内におけるパネルの設置
引き続き館内（ロビー、エントランス、レストラン入口横、研修棟）にて、主催事業や国際研修、調査研究の成果として作成したパネル等の展示を行っている。
「組織の意思決定過程における女性の参画や M 字カーブ」「意識調査結果」「女性に対する暴力」など、データをもとに解説した記事を掲載している。
(3) インターネットで提供する学習教材
平成 27 年度は、インターネットによる主催事業のプログラムの配信を 9 件実施した。
2. 利用の拡大
(1) 利用拡大戦略に基づく取組
① 平成 27 年 7 月からの PFI 化に伴い、運営事業者 株式会社ヌエックベストサポート（以下、NBS）が積極的に利用拡大、広報活動を展開しているかについてモニタリングを行った。
② 毎月の定例会議において取組内容の報告を受けるとともに、アドバイスや助言を行った。
③ NBS が 7 月から翌年 3 月に独自で 13 の主催事業を行い、食堂のメニュー改善を図る等の取組が行われた。
④ 埼玉県、群馬県の高等学校 377 校、一般企業 75 社、商工会議所 58 か所に直接出向き会館利用の PR を行った。
(2) 参与による訪問活動
平成 26 年度より利用拡大活動を集中的にすすめるため、参与職（非常勤）を設置し、今年度は県内の商工会連合会や地元企業を中心に 41 件訪問し、加盟する組織へ会館利用の呼びかけをするなど、周知徹底に努めた。
(3) 宿泊室利用率の実績（期間目標 55%）
平成 27 年度は 40.6% となり、平成 26 年度より 2.8 ポイント上昇した。PFI 化による NBS の運営に委託した成果のきざしが出ている。

実績を裏付けるデータ																																										
事業実績																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊室利用率 (%)</td> <td>31.8</td> <td>33.8</td> <td>40.3</td> <td>37.8</td> <td>40.6</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数(人)</td> <td>114,101</td> <td>122,074</td> <td>126,837</td> <td>117,558</td> <td>121,324</td> </tr> <tr> <td>利用団体数(団体)</td> <td>3,040</td> <td>2,795</td> <td>2,818</td> <td>2,896</td> <td>2,811</td> </tr> <tr> <td>情報提供回数(回)</td> <td>529</td> <td>531</td> <td>505</td> <td>559</td> <td>554</td> </tr> <tr> <td>講義回数(回)</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>利用拡大の取組(訪問活動件数)</td> <td>23</td> <td>—</td> <td>15</td> <td>26</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table>	指標	H23	H24	H25	H26	H27	宿泊室利用率 (%)	31.8	33.8	40.3	37.8	40.6	延べ利用者数(人)	114,101	122,074	126,837	117,558	121,324	利用団体数(団体)	3,040	2,795	2,818	2,896	2,811	情報提供回数(回)	529	531	505	559	554	講義回数(回)	21	14	20	21	10	利用拡大の取組(訪問活動件数)	23	—	15	26	41
指標	H23	H24	H25	H26	H27																																					
宿泊室利用率 (%)	31.8	33.8	40.3	37.8	40.6																																					
延べ利用者数(人)	114,101	122,074	126,837	117,558	121,324																																					
利用団体数(団体)	3,040	2,795	2,818	2,896	2,811																																					
情報提供回数(回)	529	531	505	559	554																																					
講義回数(回)	21	14	20	21	10																																					
利用拡大の取組(訪問活動件数)	23	—	15	26	41																																					

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性		
判定	A	A	A		
適時性：国の資産を有効活用する視点から、平成 27 年 7 月より PFI 化したことは時宜にかなっている。					
独創性：主催事業で培った知識・経験を活かし、NWECC を利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等に対し学習支援を行っていることは、NWECC ならではの知見の活用として評価できる。					
発展性：平成 26 年度より参与職を設置し、利用拡大のための活動を集中的に進める人事を配置している。PFI の導入により民間サービスの手法を活用した利用拡大が期待される。					

2. 定量的評価

観点	研修プログラム作成支援の実績数	宿泊室利用率			
判定	A	B			
○研修プログラム作成支援の実績数：3 件					
○宿泊室利用率：40.6%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	宿泊室率は昨年より 2.8 ポイント上がったものの、期間内目標である 55%には達していない。7 月から PFI 化を導入し、民間の手法やノウハウを活用した利用拡大という新たな取組を開始した。定期的なモニタリングにとどまらず、PFI 業者を中心とした訪問活動により企業や商工会などに対する誘致活動や、定例会議の場をはじめとするさまざまな局面での助言や協力を積極的に行い、利用拡大を後押ししている。男女共同参画をテーマにした研修などの企画を行う行政担当者やセンター職員の相談にも対応した。
B	情報提供や企画展をはじめ、館内のパネル展示やビデオの放映など、来館者に男女共同参画に関する学習をしてもらう具体的な取り組みを重ねている。 利用拡大については、地道だが息の長い取り組みを、理事長をはじめ全職員があらゆる機会を捉えて実施、第 3 期の最終年度には、期間中最高値である 40.6%を達成したが、期間目標値である 55%までの開きは大きい。 国の施設を有効活用するためには、民間の手法を取り入れることが最良の手段であるとの判断から、PFI 事業の導入について数年にわたる検討を重ね、平成 27 年 7 月、実施に踏み切った。 今期、目標値の 55%を達成できなかったものの、PFI 化という、今後につながる大きなチャレンジに踏み切ったことから総合判定を B とする。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
宿泊室率も少しずつではあるが上昇している。今後も利用拡大に向けて PFI 業者を支援していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (II-1-(1))	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実
年度計画の項目 (II-1-(1))	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実

事業名	ガバナンス・内部統制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要
○原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、NWEC が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
○職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
○リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
○外部の有識者及び関係府省からなる「国立女性教育会館運営委員会」を定期的に開催し、会館の事業計画及び実施状況等について協議を行い、「国立女性教育会館運営委員会」から理事長への助言を受け、事業運営を行う。運営委員会の委員の改選時には、幅広い視野から協議・助言を実施するため、委員候補について関係府省に推薦を求める。
<p>(1) 理事長のリーダーシップによる事業運営</p> <p>①会議を通じた課題に関する情報の共有</p> <p>【運営会議】理事長のリーダーシップの確保と効率的業務を目的として、ほぼ毎週、27 年度中 50 回開催した。</p> <p>【役員会】中期計画・年度計画の策定及び進捗状況、予算・決算等の重要事項を審議するため、理事長、理事、監事外が出席し年度中 4 回実施した。</p> <p>【研修・調査研究検討会】事業の充実を図るため、理事長、理事、事業企画に携わる職員が出席して、研修事業の企画・ふり返り及び調査研究の計画・報告を行った。年度中 11 回実施。</p> <p>【自己点検・評価委員会】中期目標を達成するための各年度の業務運営に関する自己点検・評価について、理事長、理事、各課室長等が出席して、年度中 5 回実施した。</p> <p>【内部統制・リスク管理委員会】平成 28 年 3 月 22 日に委員会を開催し、「独立行政法人国立女性教育会館リスク管理基本方針（案）」及び「独立行政法人国立女性教育会館リスク管理要領（案）」の検討を行い「リスク管理基本方針」を制定した。</p> <p>【運営委員会】27 年度中は 11 月と 3 月の 2 回、運営委員会を開催し、内閣府（2 回）、文部科学省（2 回）、外務省（1 回）、厚生労働省（2 回）、経済産業省（2 回）が出席した。また、平成 28 年 4 月からの新委員の改選に当たっては、関係府省による推薦も含め、委員を決定した。</p> <p>②職員研修の実施</p> <p>【館内研修の実施】新任職員を対象とした研修を実施した外、全職員を対象に情報セキュリティ・内部統制研修、男女共同参画に関する研修（2 回）を実施した。</p> <p>【4 法人共同実施研修への参加】教員研修センター、国立青少年教育振興機構、国立特別総合支援研究所と共同実施した新任職員研修、人事制度研修、階層別研修（中堅職員）へ延べ 14 名が参加した。</p> <p>【外部研修への参加】各府省や法人等が実施する人事、情報公開・個人情報保護、文書管理、内部統制、評価関係等の研修 37 件の研修へ、延べ 52 名が参加した。</p> <p>(2) リスク管理体制の整備と実績</p> <p>①リスク管理に関する規程等の整備</p> <p>平成 26 年 6 月の独立行政法人通則法の改正に伴い、国立女性教育会館業務方法書の改定を始め、内部統制、以下のリスク管理に関する規程の制定又は改正を行うとともに、運営会議やメール等を通して全職員への周知徹底を図った。さらに、平成 27 年 12 月 16 日に「サイバーセキュリティ、独立行政法人の内部統制」に関する職員研修を実施し、サイバーセキュリティを始め、独立行政法人及び会館の内部統制、リスク評価について理解を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「会館内部統制及びリスク管理規則」「会館リスク管理基本方針」の制定

- ・「会館監事監査規程」の改正
- ・「会館監査室規程」「会館内部監査規程」の制定
- ・「反社会的勢力に対する基本方針」の制定
- ・「中期計画等の策定、進捗管理体制及び評価に関する指針」の制定

(3) コンプライアンス体制の整備について

①コンプライアンスに関する規程等の整備

以下の規程について制定又は改正し、運営会議や役員会・監事監査・内部監査の際や職員研修を通じて、周知徹底を図っている。

- ・「会館行動指針」の制定
- ・「特定個人情報等の安全管理に関する基本方針」の制定及び「会館の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程」の改正
- ・「会館における研究活動上の不正行為に関する基本方針について」の改正

②内部監査

「会館内部監査規程」により監査室員が、内部監査を平成28年1月20日に実施。指摘事項は、特に無かった。

③監事監査

「監事監査規程」に基づき、2名の監事による監査を実施。平成27年度は「監事監査計画」に基づき、四半期毎に計4回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果は理事長に報告され、いずれも是正改善を必要とする事項は無かった。

5. 年度計画の着実な実施について

「研修・調査研究事業検討会」や「自己点検・評価委員会」の開催、全課室横断的な取り組みを計画的に実施するとともに、毎週の運営会議における各課室からの事業実施状況の報告により、年度計画の着実な実施に努めた。

6. 法人のミッションの周知

役員に対しては役員会等において、職員に対しては館内研修や運営会議等の場所において周知しているが、組織が小規模なため、理事長の方針が迅速且つ直接役職員に伝えられる機会が多い。また、事業の企画段階では「研修・調査研究事業検討会」、実施後は「自己点検・評価委員会」の際に、再確認がなされている。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	A	A			

適時性：平成 26 年 6 月 13 日に改正された通則法に基づき、業務方法書や会館規程の制定・改正を実施した。
効率性：教員研修センター・国立青少年教育振興機構・国立特別総合支援研究所と共同で職員研修や内部監査を実施することにより効率化を図った。

2. 定量的評価

観 点	役員会実施回数	監事監査実施回数	運営委員会 実施回数	運営会議実施回数	
判 定	A	A	A	A	

○役員会規程に基づき、予定されていた 4 回の役員会を開催した。
○監事監査計画に基づき、予定されていた 4 回の監査を実施した。
○運営委員会規程に基づき、予定されていた 2 回の運営委員会を開催した。
○運営会議規程に基づき、原則として毎週火曜日、理事長、理事、課室長、各課連絡担当係長を構成員とする運営会議を開催した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	独立行政法人通則法の改正伴い、業務方法書や会館規程の制定・改正を行い、これまで実施してきた運営会議、役員会、研修・調査研究検討会、自己点検・評価委員会に加えて、新たに内部統制・リスク管理委員会の規程を整備し、研修を通じて職員に周知するとともに、内部統制・リスク管理委員会を開催した。委員会では、「リスク管理基本方針」を制定するなど、理事長のリーダーシップのもと、内部統制を着実に推進した。さらに、監事監査、内部監査等を実施し、コンプライアンス体制を整備した。 また、運営委員会の開催に当たっては、関係府省の参加を得るとともに、委員の改選に当たっては推薦を得るなど、確実な協力・連携が図られている。
A	業務方法書や規程を整備し、着実に内部統制、リスク管理、コンプライアンス体制を整備・実施した。 また、関係府省との協力・連携も着実に実施している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等

次期中期目標期間も職員が一体となって、小規模組織であることから理事長のリーダーシップが存分に發揮できる利点を活かし、引き続き内部統制やリスク管理、コンプライアンス体制を充実し、関係府省と連携・協力し、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (II-2-(1))	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 人件費・管理運営の適正化 (1) 人件費・管理運営の適正化
年度計画の項目 (II-2-(1))	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 2 人件費・管理運営の適正化 (1) 人件費・管理運営の適正化 (2) 保有資産の見直し

事業名	人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長(1)、総務課専門官(1)、人事・企画係長(1)、会計係長(1) 専門職員(1)、係員(1) 計6名

年度実績概要
政府の給与改善を踏まえ、引き続き人件費削減を図るとともに、業務運営の見直しと自己収入等の増加に向けた努力を不断に行い、中期目標期間中に、一般管理費については平成22年度比15%以上、その他の事業費（外部資金で実施する事業及び利用の増加による支出増等を除く）については平成22年度比5%以上を削減する。
1. 人件費・管理運営の適正化 引き続き、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。 また、平成27年人事院勧告に基づく国家公務員給与法の改定に準拠し、役職員給与も同様に対応した（平成28年2月に27年4月に遡って実施）。 (1) 一般管理費効率化 平成27年度 90,026千円 22年度比99%（中期計画期間中の目標値：85%） (2) 業務経費効率化 平成27年度 311,425千円 22年度比79%（中期計画期間中の目標値：95%） (※中期計画期間中の目標値は、22年度の基準金額に対する割合) (3) 人件費削減状況 平成27年度 172,173千円 23年度比98%
2. 給与水準の適正化と結果の公表 役職員の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。 ラスパイレス指数は、事務職が国家公務員比80.1、研究職が国家公務員比57.7となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。
3. 保有財産の見直し 平成23年度に埼玉県から借り受けているNWECの敷地面積を見直し、敷地の一部返却（草原運動場、テニスコート3面の廃止）による土地借料削減を図った。 平成25年度に策定したPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）「（仮称）国立女性教育会館公共施設等運営事業実施方針」に基づき、平成26年12月には公共施設等運営権を有する者の募集及び選定を行い、平成27年7月からPFIを導入した。
4. 重要な財産の処分 利用を休止しているプール棟については、現在、東京大学の資料保管庫として貸し出している。このような利用形態を踏まえ、今後は資料保存庫への転用を視野に入れて、将来計画を検討する。
5. 諸手当、法定外福利厚生費 (1) 「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 (2) 法定外福利厚生費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 (3) 健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。

実績を裏付けるデータ

<経費削減割合>

	H23	H24	H25	H26	H27	平均値
一般管理費削減割合 (%)	△18%	△12%	△4.5%	△12%	△1%	△9.5%
業務経費削減割合 (%)	△13%	△7%	△12.9%	△13%	△21%	△13.4%

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		

独創性：施設の有効活用について、PFIによる管理運営化を導入。
 発展性：施設の運営を民間業者に委託するPFIの導入により、より積極的な施設の有効活用が期待できる。
 効率性：超過勤務の縮減に向けて、各課室長による職員の労働時間管理を更に徹底した。

2. 定量的評価

観 点	一般管理費効率化	業務経費効率化	人件費削減状況	ラスパイレス指数	
判 定	C	S	B	A	

1. 効率化率（財務諸表及び決算報告書により記載）
 (1) 一般管理費効率化 平成 26 年度 99%（中期計画期間中の目標値：85%）
 (2) 業務経費効率化 平成 26 年度 79%（中期計画期間中の目標値：95%）
 (3) 人件費削減状況 平成 26 年度 98%（平成 23 年度比）
 2. ラスパイレス指数：事務職 80.1、研究職 57.7【26 年度：事務職 83.8、研究職 66.4】

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	業務経費効率化は、大きく目標値を上回っている。一般管理費も平成 22 年度と比較して 1% 削減に止まった。また、人件費については、前年度よりラスパイレス指数がさらに低下し、平成 23 年度比で 2% の削減ができた。 施設運営を民間業者に委託する PFI 化についても、平成 27 年度 7 月から導入したことから、今後の施設の有効活用に期待が持てる。
A	中期目標期間中、業務経費は前年度において大きく目標値を上回ることができた。一般管理費については、各年度ばらつきはあるものの平均 9.5% の削減ができた。 また、人件費についても、毎年度、平成 23 年度に対して削減を図ることができた。同様に、給与水準も国家公務員と比較して、低い水準を保ち続けた

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等	
次年度以降は、新中期目標に沿った新しい事業を展開していくことから、事業を実施する際に外部機関との連携により、講師派遣や広報等に掛かる人的負担や経費負担の削減を戦略的に進めていくことが必要である。	休止中のプール棟については、資料保存庫としての利便性を図るため、必要な将来計画を検討する。 また、導入した PFI については、次年度以降も順調に実施されるように、適切なモニタリングを実施していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (II-3- (1)(2)、4-(1))	II 業務運営の効率化に関する事項 3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善
年度計画の項目 (II-3- (1)(2)、4-(1))	II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善

事業名	業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価
担当課室	総務課
スタッフ	3. 業務運営の改善・効率化：総務課長、専門官、人事・企画係長、会計係長、 専門職員 3 計 7 名 4. 業務運営の点検・評価：全館職員

年度実績概要
<業務運営の改善及び効率化>
○業務運営の改善：効果・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い業務運営に反映させる。積極的に事務事業の外部委託を進め、必要に応じ組織の再編等を行う。
○人材育成、多様な人材の活用：職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。
<業務運営の点検・評価>
○自己点検・評価等による業務の改善：自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。自己点検・評価と連動した外部評価を実施する。評価結果を HP で公表する。
1. 業務運営の改善
原則として毎週火曜日に理事長、理事、各課室長、各課室係長の出席のもと開催される運営会議において、不断の業務見直しを図っている。また、原則月の 1 回開催される課室横断的なメンバーから構成される「研修・調査研究事業検討会」において事業内容の検討及び振り返りを行った。また、年度末に開催する「自己点検・評価委員会」において、次年度に向けた事業の改善点等について検討を行った。
2. 人材育成、多様な人材の活用
(1) 職員研修の計画的実施
職員の資質、能力の向上を図るため、人事異動及び職員採用時の新任職員研修を 4 月に実施した外、全職員を対象とした男女共同参画に関する研修、情報セキュリティ研修（平成 27 年 12 月）を実施した。
また、会館、青少年教育振興機構、特別支援教育総合研究所、教員研修センターの 4 法人合同で実施された「新規採用職員研修」「女性の活躍促進研修」「階層別（中堅職員）研修」や各府省や法人等が実施する人事・個人情報保護・文書管理・内部統制・評価関係の研修にも積極的に参加した。（37 研修に延べ 52 名参加）
(2) 人事に関する計画
文部科学省、国立大学、都道府県の教育委員会と人事交流を実施し、組織活性化を図っている。また、平成 27 年 4 月に、国立大学法人等職員採用試験合格者から 1 名を常勤職員として採用した。
さらに、新分野の開拓のため、企業関係に詳しい客員研究員を 3 名継続して導入している。
(3) 職場環境の整備・充実に関する取組
インフルエンザ予防接種の受診など文部科学省共済組合による厚生経費を適切に活用し、職員の健康管理の支援等、職場環境の保持に努めた。
(4) 危機管理体制等の整備・充実に関する取組
平成 28 年 10 月及び 2 月に利用者のある平日昼間の地震とそれに伴う火災発生、消火、避難誘導の訓練

を実施。

訓練には、比企広域消防本部の消防職員立会いのもと、会館全職員及び PFI 業者が参加し非常時に必要な行動を確認した。

(5) 外部委託の活用

施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託を活用している。また、施設の効率的な運用を図り、職員の業務は男女共同参画の形成に資する事業の企画・実施などの専門的分野に特化するという意図から、施設運営を平成 27 年 7 月から PFI 化した。

(6) 職員評価の取組状況とそのフィードバック状況

職員評価については、従来より勤務評定を適切に行っている。

3. 自己点検・評価

各事業担当者が事業成果を「業務実績報告書」と「自己点検評価調書」で構成される A4 用紙にまとめた。また、計 5 回実施された自己点検評価委員会（理事長、理事、課室長が出席）では、課題の検討を効率化するために、上記報告書・調書とは別に作成した「課題検討シート」に基づく議論を行い組織内で成果と課題を共有した。6 月下旬に評価報告書を文部科学省に提出した。

4. 外部評価委員会

- (1) 平成 27 年 6 月と 9 月に外部評価委員会を実施。12 月に評価報告書を作成し、ホームページで公開した。
- (2) 第 3 期中期計画に記載された事業のうち、平成 27 年度に実施された 31 項目の事業について評価を行った。その実績については、平成 27 年度計画にあげられた目標はほとんど達成されており、新規事業の積極的な開拓、効率的な業務運営のための取組みといった各般の努力が各所にわたって顕著に認められ、それぞれ質の高いサービスが提供されているとしている。一方、「NWE C の活動や情報をより有益に活用してもらうために、何よりもまず、認知度を上げることに力を入れていくことが大切であり、NWE C 自体のもつブランド性をもっと活用できないか」との指摘がなされている。

実績を裏付けるデータ

- | | | |
|------------------|----------------------|-----------------|
| 1. 常勤職員の数（4 月時点） | 平成 27 年度 23 名（役員を除く） | 【平成 26 年度 22 名】 |
| 2. 常勤職員採用数：1 名 | | |
| 3. 職員研修回数 | 館内 4 回、館外 37 回 | |

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		

独創性：運営会議や自己点検・評価委員会は、職員の半数以上の出席のもと開催される。小規模組織の利点を活かし、現場（係長・専門職員）からトップ（理事長）までの情報共有の下、業務改善や事業検証がなされる。

適時性・発展性：27年度は職員の資質向上を図るために、積極的に外部組織への研修への参加を推進するとともに、館内においても「新任職員研修」のほか「男女共同参画」「情報セキュリティ・内部統制」をテーマとする館内研修を実施した。人事を中心に、個人情報保護、文書管理、評価、監査等の研修に職員が参加したことは、今後の内部統制やコンプライアンスの充実につながることが期待される。

2. 定量的評価

観 点	職員研修開催数 (館内4回、館外 37回)	人事交流数			
判 定	A	A			

○国の機関、都道府県、大学等との人事交流

【転入】 1名（埼玉県(1)）
 【転出】 5名（文部科学省(1)、東京大学(2)、長崎大学(1)、群馬大学(1)）

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	
A	職員全体の情報共有が可能であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、運営会議を始め、研修・調査研究検討会、自己点検評価、外部評価等の会議・委員会を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。 職員の多くが多様な研修に参加し、資質向上を図った。また、他機関の協力を得て、定期的な人事交流を実施している。
A	種々の会議や委員会を通して、事業を企画・実施し、その成果について点検・評価を行い、着実にPDCAサイクルを実施した。 定期的な職員の採用や人事交流を行うことで人的資源を確保するとともに、研修の充実を図ることで多様な人材を育成し、充実した事業の実施に繋げている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成27年度は2名の職員が定年退職を迎えることから、平成27年4月に人的資源と業務の質を確保するため、国立大学法人等職員採用試験合格者から1名を常勤職員として採用した。ミッション遂行のために職員の資質向上を目指し、今後は採用した職員の育成に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV- (1))	IV 財務内容の改善に関する事項 (1) 契約の点検・見直し
年度計画の項目 (IV- (1))	IV 財務内容の改善に関する事項 (1) 契約の点検・見直し

事業名	契約の点検・見直し
事業概要	引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長（1）、会計係長（1）、専門職員（1）、会計係（1） 計4名

年度実績概要
1 契約の競争性、透明性の確保 (1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況 ・文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。 (2) 契約の執行体制、審査体制 ・各課室からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。 (3) 契約監視委員会を平成27年9月と平成28年3月の2回開催し、随意契約、一者応札等について報告を行い、審査を受けた。指摘事項もなく、適正な契約を行っているとの評価を受けた。
2 契約実施状況 (1) 随意契約の見直し状況 ・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置（平成22年11月30日）している。また「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づく取組みを着実に実施するため調達等合理化計画を策定し、入札・契約の適正化、調達の合理化等を推進することにより、コストを削減し公正性、透明性を確保した。 ・引き続き入札可能なものについては全て入札を実施し、製本印刷業務等、複数の業務をなるべく一括して入札を行うなど効率的に実施した結果、前年度より4件少ない11件となった。平成27年度随意契約の実績は、入札不可能な水道料金、土地借料、郵便料金（信書）3件と国との契約である、排水処理施設設計積算業務の1件。 (2) 一者応札について ・一者応札の削減に向け、引き続き「充分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、平成27年度は0件であった。 (3) 再委託は、無し。 (4) 関連法人は、無し。
実績を裏付けるデータ
1 入札実績 : 11件【26年度 15件】 2 随意契約状況 : 4件（水道料金：埼玉県嵐山町、土地借料：埼玉、郵便料金（信書）：日本郵便、排水処理施設設計積算業務：国土交通省関東地方整備局【26年度 5件】 3 一者応札状況 : 0件【26年度 1件】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	A	A			

適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。
 効率性：一者応札の削減に向け、引き続き充分な公告期間の確保、入札条件の緩和など、契約業務を効率的に実施した。事柄の性格上、定められた手続きの適切な適用に尽力した。

2. 定量的評価

観 点	随意契約数	一者応札数	契約監視委員会開催数		
判 定	A	A	A		

○随意契約数 27 年度 4 件【26 年度 5 件】
 ○一者応札数 27 年度 0 件【26 年度 1 件】
 ○契約監視委員会開催数 契約監視委員会規則に基づき、27 年 9 月と 28 年 3 月の 2 回実施。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	整備された規程に基づく契約が執行されており、透明性も確保されている。契約監視委員会も確実に開催されている。 隨意契約は、入札とすることが不可能な水道料金、土地借料、郵便料金（信書）、排水処理施設設計積算業務の 4 件に限られている。 低価格物品等の調達等においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されている。
A	中期目標期間中、整備された規程に基づく契約が執行されており、透明性も確保されている。契約監視委員会も確実に開催されている。随意契約も、随意契約とすることが不可能な件に限って実施されている。 低価格物品等の調達等においても、契約に関する競争性も確保されていると言える。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、次年度以降も適正な契約の実施に努め、NWECA ホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の確保を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV- (2))	IV 財務内容の改善に関する事項 (2) 外部資金の導入
年度計画の項目 (IV- (2))	IV 財務内容の改善に関する事項 (2) 外部資金の導入

事業名	外部資金の導入
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計 26 名

年度実績概要
科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受け入れを行い、外部資金を確保する。
1. 受託事業経費 平成 27 年度は 2 機関から合計 5,051 千円の事業を受託。 【平成 26 年度実績：2 件、4,925 千円】
2. 科学研究費補助金 平成 27 年度は 2 件、合計 2,650 千円を獲得。 【平成 26 年度実績：3 件、4,200 千円】
3. 寄附金収入 平成 27 年度は目的寄附金など 9 件、合計 676 千円の収入。 【平成 26 年度実績：19 件、794 千円】

実績を裏付けるデータ														
1. 受託事業経費 (1) 女子中高生夏の学校 2015 (独立行政法人科学技術振興機構 JST) 2,994 千円 (2) 課題別研修 (独立行政法人国際協力機構 JICA) 2,056 千円														
2. 科学研究費補助金 (1) 女性デジタルアーカイブシステムデータベース 2,000 千円 (2) 東南アジアにおける男女共同参画の政策の比較研究 650 千円														
3. 寄附金収入 (1) 女性アーカイブ寄附金 3 件 280 千円 (2) 科学・技術分野の女性人材育成支援事業支援寄附金 5 件 386 千円 (3) 女性教育振興寄附金 1 件 10 千円														
4. 外部資金導入実績														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>獲得件数 (件)</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>獲得件数 (件)</td> <td>5 件</td> <td>7 件</td> <td>21 件</td> <td>24 件</td> <td>13 件</td> <td>70 件</td> </tr> </tbody> </table>	獲得件数 (件)	H23	H24	H25	H26	H27	合計	獲得件数 (件)	5 件	7 件	21 件	24 件	13 件	70 件
獲得件数 (件)	H23	H24	H25	H26	H27	合計								
獲得件数 (件)	5 件	7 件	21 件	24 件	13 件	70 件								

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	A	A	A		

適時性：独立行政法人の運営費交付金が確実に削減されていく中で、受託や科研費を活用しながらの事業運営を図ることは時宜に適っている。

独創性：男女共同参画推進や女性のエンパワーメントというテーマで資金獲得を進めているのは NWEC ならではの成果である。

発展性：科学研究費補助金の獲得により実施される研究成果が、研修プログラムの開発にも活用されており、NWEC の事業運営形態を活かした発展的な取組であると言える。

2. 定量的評価

観 点	受託事業経費	科研費獲得額	寄附金収入額		
判 定	A	B	A		
1.	受託事業経費	2 件	5,051 千円		
2.	科学研究費補助金獲得額	2 件	2,650 千円		
3.	寄附金収入額	9 件	676 千円		

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	昨年度に引き続き外部資金を獲得するため、受託事業や科学研究費補助金の申請を行うとともに、寄付金を得るため広く広報を行った結果、13 件（8,377 千円）の資金を獲得することができた。
A	自己収入拡大のため、積極的に外部資金の獲得に取り組んだ結果、中期目標期間中、目標件数 25 件を上回る 70 件の外部資金を獲得した。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き次年度以降も外部資金導入を促進するが、特に受託事業については、人件費をはじめとする事実上の持ち出しがないかどうかを見極めながら決定していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV-(3))	IV 財務内容の改善に関する事項 (3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (IV-(3))	IV 財務内容の改善に関する事項 (3) 自己収入の拡大

事業名	自己収入の拡大
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員

年度実績概要

○積極的な広報活動や新たな利用者層の開拓、寄附金の拡大など自主的な取り組みのほか、受益者の負担を適正なものとする観点から、情報センターのデータベース利用に一部受益者負担を導入すること等により、自己収入を拡大する。

1. 積極的な広報活動

平成 27 年 7 月から PFI を導入した結果、新たな利用者層の開拓のため、PFI 業者により利用案内や自主事業（ファミリーコンサート、いちにち動物村など）について、町や県の観光協会、近隣の社会教育施設との連携等を通じて、積極的な広報が行われた。さらに、埼玉県、群馬県の 377 の高等学校、一般企業 75 社、商工会議所 58 間所に直接出向き会館利用の PR を行った。

会館は、会館及び内閣府・文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NWEC の取組について積極的に広報を行った。

また、内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシ・パンフレットや NWEC 概要チラシ等の配布を積極的に行なった。

さらに、平成 28 年度のホームページ改定に向けて、プロジェクトチームを立ち上げ、HP の入札仕様書を作成した。

2. 自己収入増加に向けた取組状況

- (1) 会館OBが商工会連合会や地元企業を訪問し利用を呼びかけた。
- (2) 積極的な外部資金の導入を進め、受託事業 2 件、科学研究費補助金 2 件、寄附金 9 件を獲得した。

3. 情報センターのデータベース利用に対する一部受益者負担の導入

検討の結果、女性教育情報センターにおいて、端末を使用してのデータベースを利用する者を対象に、利用料（複写料を含む。）を徴収することとし、平成 27 年 6 月から導入した。

実績を裏付けるデータ

自己収入の実績

(1) 受託事業収入	5,051 千円	【前年度 4,925 千円】
(2) 科学研究費補助金収入	2,650 千円	【前年度 4,200 千円】
(3) 寄附金収入	676 千円	【前年度 794 千円】
(4) 研修施設使用料金収入	29,856 千円	【前年度 103,813 千円】
(5) 受取運営権収益	33,481 千円	
(6) その他事業収入（科学研究費補助金間接経費、文献複写料、職員講演料等）	2,778 千円	【前年度 2,869 千円】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	A	A	A		

適時性：PFI の導入をきっかけに、PFI 業者による訪問活動等を通じた新たな利用層への働きかけを行うとともに、会館も引き続き積極的な広報を行ったことは、時宜にかなっており、今後の企業の利用が期待できる。

発展性：PFI の導入や HP 改定に向けての取組は、今後の利用拡大に向け期待できる。

効率性：職員の数が限られているため、利用拡大のための活動には限界があったが、会館 OB の協力を得て大学・企業等の訪問が実施できた。

2. 定量的評価

観 点	研修施設使用収入	受取運営権収益			
判 定	A	A			

○研修施設使用料金収入	29,856 千円	【前年度 103,813 千円】
○受取運営権収益	33,481 千円	

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	PFI 業者による様々な手段や媒体を活用した積極的な広報活動だけでなく、会館による積極的な広報活動により、自己収入の拡大や外部資金の獲得も図られている。
A	PFI 業者と連携した広報により、利用拡大や新たな利用者の開拓が行われており、研修施設使用収入や受取運営権収益などの自己収入が確保された。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成 27 年度から施設運営の PFI を導入したが、今後は、PFI 業者と連携してより一層 NWEC の広報に努め、PFI 事業の経常収益のプラスを目指していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (VIII-4・5)	VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 5 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (VIII-(1))	VIII その他主務省令で定める業務運営に関する事項 (1) 情報セキュリティ体制の充実

事業名	施設・設備の計画的設備、快適な環境構築及び情報セキュリティ体制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、会計係長、専門職員(2)、係員 計5名

年度実績概要	
1. 計画	<p>(1)長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、利用者が安全で快適に利用できる環境を提供するため、必要な施設・設備の改修等を計画的に進める。</p> <p>(2)施設の有効活用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。</p> <p>(3)情報の安全管理を徹底するため、セキュリティポリシーの見直しを定期的に行うとともに、職員研修を実施する。</p>
2. 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築	<p>(1)安全で快適な環境を提供するための計画的改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶室の雨樋、土壁の防腐改修 ・女性教育情報センター窓紫外線除去フィルム貼り ・研修棟大会議室電光掲示板設備更新 ・体育館への通路照明機器新設 ・宿泊棟・体育館雨漏り改修
3. 情報セキュリティ体制の充実	<p>(1)セキュリティポリシーの見直し状況</p> <p>セキュリティポリシーに基づく実施手順について、現実に即しているか検討を行い、情報を守るためにクラウドシステムによるメールサービスを平成27年1月から導入した。</p> <p>また、昨年度に引き続き、C S I R T構築・運用支援業務協力体制についてひきつづき検討を行った。</p> <p>(2)職員研修の実施</p> <p>職員の不審メールへの対応について状況を調査した。その結果を受け、不審なメールへの対応手順について職員に周知徹底するとともに、手順を事務室内のだれでも見える場所に掲示した。</p> <p>また、平成27年12月16日に全職員を対象に、埼玉県警本部から講師を招いて「サイバー犯罪の現状と対策」について、内部統制研修と併せて実施した。</p> <p>(3)個人情報保護規程の制定、改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本年金機構の個人情報流出事案を受け、「独立行政法人国立女性教育会館の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程第14条」に基づく「情報の消去等」について指針を制定した。 ・個人番号制度の導入により、特定個人情報保護について規定を定める必要が生じたため「特定個人情報等の安全管理に関する基本方針」の制定、及び「独立行政法人国立女性教育会館の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程」の改正を行った。また規程に基づき、特定個人情報等事務取扱担当者を指定した。
実績を裏付けるデータ	
1. 施設に対する利用者の評価	NWEC を利用する団体及び個人に対し、退館時に提出する「利用者カード」により、施設等に対する評価を調査した結果、回答者の「非常に快適だった」「快適だった」で示される満足度が合計99.5%であった。【前年度実績 98.4%】
2. 情報セキュリティ研修【平成27年12月16日実施 28名参加】	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	A		
適時性：クラウドシステムによるメールサービスの導入を始め、新任職員研修や定期的な研修及び機会あるごとに情報セキュリティに関する注意喚起によって職員のセキュリティに関する関心を高めることができている。					
効率性：情報セキュリティ研修は、埼玉県警の協力受け、専門家による分かり易い研修を内部統制研修と併せて効率的に実施した。					

2. 定量的評価

観点	利用者の満足度	セキュリティポリシー研修の実施	セキュリティに関するトラブル件数		
判定	A	A	A		
<input type="radio"/> 設備等についての満足度 99.5%【前年度実績 98.4%】					
<input type="radio"/> 年度計画に記載されるセキュリティポリシーに関する研修を確実に実施した。（平成27年12月16日）					
<input type="radio"/> 不正アクセス、ウィルス・不正プログラム感染等により、利用者に被害を与えることがなかった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	茶室の雨樋、土壁の防腐改修、女性教育情報センター窓紫外線除去フィルム貼り、研修棟大會議室電光掲示板設備更新、体育館への通路照明機器新設、宿泊棟・体育館雨漏り改修などきめ細かな利用者の利便性及び安全・安心に配慮した施設・設備の改善を実施している。 セキュリティポリシーについても、見直しを通して更に充実したシステム構築を実施し、決められた研修を確実に実施している。
A	中期目標期間中を通して、利用者の満足度が高かった。 情報セキュリティに関する研修も、毎年度実施し、不正アクセス、ウィルス・不正プログラム感染等が発生することはなかった。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
次年度以降も情報セキュリティに関する人材が不足しているため、今後計画的・定期的な職員研修の充実によって人材育成を図っていく。

6. 外部評価の観点

- ◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・先行事例の有無 ・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関の事業内容の分析 ・事業内容に対する事業参加者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・他国における同種の機関との関係 ・国内における代替可能な機関の有無 ・海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えていているか 〔高度専門性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参加者が中心となって行う講習会等の有無 ・事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	<ul style="list-style-type: none"> ・内部資源の把握とそれに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果の把握とそれに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果の把握とそれに着目した事業計画の分析

7. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成27年度）

平成27年3月23日
文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年度3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成27年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

（1）基幹的指導者に対する研修等の実施

①地域における男女共同参画リーダー研修（女性団体施設、地方自治体、団体）

- ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。

②男女共同参画推進フォーラム

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

③大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・大学、短期大学、高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進部局の責任者等を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性研究者支援、女性リーダーの養成方策、男女共同参画社会の実現に向けた女子学生キャリア形成支援を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

④企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダー等を対象に、企業内の男女共同参画及び女性の活躍を促進するための実践的なセミナーを実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

①女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、人材育成、災害復興時における男女共同参画の視点等、新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の5年次として、全国の女性関連施設が取り組む事業や組織形態に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発

・普及

(1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究

- ・生涯を見据えた早期からのキャリア形成支援を、男女共同参画の視点に立って行うための方策を探ることを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の2年次として、大学・大学院を卒業後、正規職に就いた男女を対象とする意識調査を実施する。

②男女共同参画の教育・学習支援に関する調査研究

- ・女性のキャリア支援に関し、教育・学習支援の対象や内容、メディアを活用した手法等について検討することを目的とした調査研究を実施する。
- ・2年計画で行う調査研究の1年次として、放送大学等との連携で作成するオンラインコンテンツの内容等を検討し、教材を作成する。

③学生を対象としたキャリア教育の推進

- ・大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、学生を対象としたキャリア教育プログラムを開発し、大学等と連携して実施する。
- ・参加者の85%以上から学習プログラム・研修資料に関するプラス評価を得る。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修

①女性関連施設相談員研修

- ・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談業務の質の向上を図るため、女性に対する暴力や女性の貧困など、喫緊の課題解決に必要な知識・技能習得のための、専門的・実践的な研修を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上のプラス評価を得る。

②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

- ・社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。
- ・平成27年度は、科学技術振興機構の委託を受け、女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えることを目的として「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い

い～」を実施する。研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

③教育・学習プログラム実施に関する支援

- ・研修プログラムの内容や調査研究の成果を、ホームページなどを通じて広く公開し、男女共同参画に関する事業を実施する関係機関等の参考に資する。
- ・男女共同参画をテーマとした研修等を実施する女性センター等への支援として、企画・実施に係る資質を向上させる学習の機会を提供するとともに、講師紹介などのサービスを実施する。また、男女共同参画人材情報データベースの掲載情報を充実させる。

3. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

(1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・『男女共同参画統計データブック2015』の内容、提供方法を見直し、利用しやすい男女共同参画統計データ集について検討する。
- ・「統計リーフレット」を刊行する。
- ・男女共同参画統計を理解するための研修資料を対象別に作成する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を2,000件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研の成果について、ホームページやリポジトリ等を通じて普及する。

(2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①情報資料の収集・整理・提供

- ・男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書について、地域レベルでは收拾困難な広域的、専門的な資料を収集するとともに、レファレンスサービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
- ・引き続き大学の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集を進めるとともに、企業の男女共同参画、ダイバーシティ推進に資する資料の収集・提供に力を入れる。
- ・研修受講者への学習支援を強化するため、研修テーマに沿った資料リストを女性情報ポータル(Winet)に掲載するなど情報提供を充実させる。
- ・平成26年度より新規に開始した調査研究事業「若年男女のキャリア形成支援に関する意識及び支援に関する調査研究」と連動し、関連する国内外の資料を収集して、会館ホームページでリストを公開する。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実、利便性の向上

- ・女性情報ポータルのアクセスについて、年間30万件以上を達成する。
- ・会館ホームページに掲載する情報の整理、見直しを行うため、女性情報ポータルのコンテンツの一つで、インターネット上の有用な資源への検索システムである「女性情報ナビゲーション」の分類項目の整理、リンク先情報の見直し等を行い、情報をより

分かりやすく提供する。

③図書のパッケージ貸出

- ・各施設における男女共同参画事業を支援するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の貸出を引き続き実施するとともに、高等専門学校への貸出を拡大する。

(3) 女性アーカイブ機能の充実

①女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を1千点以上収集・整理し、女性アーカイブシステム及び女性デジタルアーカイブシステム、展示を通じて利用に供するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・災害復興支援に各地の女性センターが果たした実績（活動記録）を女性アーカイブとして残し、公開する事業「災害復興支援女性アーカイブの構築」を、女性センター等と連携・協力して引き続き行う。
- ・展示室への入室について、累計5万人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。また、連動企画も併せて実施する。

②女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性アーカイブの保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一歩として、実務者30名以上を対象に基礎情報を提供する「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）」を実施する。
また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。
- ・基礎コースの修了生10名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要とされる基本的実技を学ぶ「女性情報アーキビスト養成研修（実技コース）」を実施する。

4. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等や関係府省との連携協力の推進

(1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、職員や客員講師を派遣する。

(2) 関係府省との連携強化

- ・各関係府省との連絡会を開催し、各府省の取組等の情報を共有するとともに、各種事業を実施する際には、関係府省から、企画についての助言や施策説明等による参画、広報面での協力を得るなど、具体的な連携を充実させる。

(3) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

①男女共同参画推進フォーラム【再掲】

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女

共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。

- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

5. 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

(1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

- ・国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

- ・女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、地球規模の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 国際的なネットワークの構築

- ・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・研修成果について、「男女共同参画推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。

6. 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

(1) 利用者への学習支援

- ・施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。
- ・インターネットで提供する学習教材について、引き続き試験的に提供を行うとともに、体系化された学習プログラムのインターネットを通じた配信やオンラインやメディアを活用した研修の在り方について、外部機関との連携を深めつつ検討する。

(2) 利用の拡大

- ・利用拡大戦略（年度）を作成し、連携機関や大学、企業等を含む関係者に対する広報

を行うなど、PFI事業者が取り組む利用者拡大への支援を行う。

(3) 国民への情報発信

- ・会館ホームページに掲載する情報の整理、見直しを行うため、女性情報ポータルのコンテンツの一つで、インターネット上の有用な資源への検索システムである「女性情報ナビゲーション」の分類項目の整理、リンク先情報の見直し等を行い、情報をより分かりやすく提供する。【再掲】

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 適切な法人運営体制の充実

(1) ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。
- ・外部の有識者及び関係府省からなる「国立女性教育会館運営委員会」を定期的に開催し、会館の事業計画及び実施状況等について協議を行い、「国立女性教育会館運営委員会」から理事長への助言を受け、事業運営を行う。
運営委員会の委員の改選時には、幅広い視野から協議・助言を実施するため、委員候補について関係府省に推薦を求める。

2 人件費・管理運営の適正化

(1) 人件費・管理運営の適正化

- ・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。

(2) 保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

3 業務運営の改善

(1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・外部委託する等、事務事業の効率化を検討するとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。
- ・平成27年度から、利用者の増加とサービスの向上等に向け、宿泊・研究施設等の管理運営についてPFIを導入する。

(2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

4 業務運営の点検・評価

(1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。
- ・評価結果をホームページで公表する。

III 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

1 予算（人件費の見積もりを含む。）

別紙1のとおり

2 収支計画

別紙2のとおり

3 資金計画

別紙3のとおり

IV 財務内容の改善に関する事項

(1) 契約の点検・見直し

- ・引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、可能な限り一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。

(2) 外部資金の導入

- ・科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

(3) 自己収入の拡大

- ・宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

V 短期借入金の限度額

- ・短期借入金の限度額は1億4千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

VI 余剰金の使途

- ・会館の決算において、余剰金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業の充実に充てる。

VII その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 情報セキュリティ体制の充実

- ・セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

平成27年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	540
施設整備費補助金	144
入場料等収入	129
受託収入	5
計	818
支出	
業務経費	360
うち研修関係経費	268
うち調査・研究関係経費	31
うち情報関係経費	61
施設整備費	144
受託経費	5
一般管理費	309
計	818

[人件費の見積り]

平成27年度は187百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、休職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

平成27年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
経常費用	738
業務費	365
一般管理費	364
減価償却費	9
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	531
入場料等収入	129
受託収入	5
施設費収益	64
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	
資産見返物品受贈額戻入	9
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

[注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成27年度資金計画

(単位:百万円)	
区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	738
投資活動による支出	80
次期中期目標の期間への繰越金	—
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	540
入場料等収入	129
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	144
前期中期目標の期間よりの繰越金	—

平成27年度施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
機能性向上改修 排水処理施設の改修	144	施設整備費補助金 (平成26年度繰越分)
計	144	

[注記]

金額については見込みである。

なお、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設整備が追加されることがあり得る。

8. 平成28年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

犬 塚 協 太（静岡県立大学国際関係学部教授）

斎 藤 悅 子（お茶の水女子大学大学院基幹研究院人間科学系准教授）

笹 井 宏 益（国立教育政策研究所総括客員研究員）

長 田 三 紀（全国地域婦人団体連絡協議会事務局長）

萩 原 貴 子（株式会社グリーンハウス執行役員）

（敬称略、五十音順）

9. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

(委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

10. 自己点検評価調書の記載について

1. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適當と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能です。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならでは」の高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修やフォーラムをきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	<ul style="list-style-type: none">・政策性・必要性・国際性・緊急性・ナショナルセンターとしての対応	<ul style="list-style-type: none">・独自性・新規性・先駆性・高度専門性	<ul style="list-style-type: none">・影響性・汎用性・応用性・多様性・将来性・モデル性	<ul style="list-style-type: none">・時間的投資・人的投資・設備的投資・内部資源の活用・施設の有効活用・他機関との連携

○定性的評価の基準

(S : 極めて顕著な成果が認められる)

A : 十分に成果が認められる

B : 概ね成果が認められる

C : 一部成果が認められる

D : 成果が認められない

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、原則として、中期計画、年度計画に数値的目標が掲げられているとおりに文部科学省独立行政法人評価委員会の指標を準用し設定した。なお、それ以外の定量的評価の指標については、他の指標との整合性等を考慮し独自に作成した。

事業区分	評価観点	評価基準				
		S	A	B	C	D
研修事業	プログラムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
調査研究事業	プログラムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
情報事業 (※)	男女共同参画統計ニュースレターの配信先		1,800件以上	1,600～1,799件	1,599件以下	
	図書のパッケージ貸出実施状況		4機関以上	3機関	2機関	1機関
理解・利用の促進	データベース化件数		580,000件以上	540,000～579,999件	539,999件以下	
	アクセス件数		300,000件以上	270,000～299,999件	269,999件以下	
連携協力	女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場の提供		20名以上	18～19名	17名以下	
	資料収集数		1,000点以上	900～999点	899点以下	
国際関係	アーカイブ展示室への入室件数		38,000件以上	24,300～37,999件	24,299件以下	
	宿泊利用率		55%以上	45%以上	45%未満 42.5%以上	42.5%未満
業務の効率化 (平成22年度の基準金額に対する割合)	利用者の満足度		80%以上	70～79%	60～69%	60%未満
	共催・受託等機関数		7機関以上	6機関	5機関	4機関以下
外部資金の導入	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの有用度		90%以上	89～70%	69～60%	59%以下
	シンポジウムの有用度		85%以上	84～70%	69～60%	59%以下
業務の効率化 (平成22年度の基準金額に対する割合)	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	連携機関数		2機関以上	1機関	—	—
業務の効率化 (平成22年度の基準金額に対する割合)	一般管理費効率化		85%以下	—	—	85%以上
	業務経費効率化		95%以下	—	—	85%以上
外部資金の導入	外部資金の導入件数		5件	4件	3件	2件以下

※ 「図書のパッケージ貸出実施状況」はセンターの運営、「データベース化件数」、「アクセス件数」はポータルの充実、「女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場の提供」、「資料収集数」はアーカイブの構築に限る

3. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S = 5 点、A = 4 点、B = 3 点、C = 2 点、D = 1 点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$$((4 \text{ 点} \times 3) + (3 \text{ 点} \times 1)) \div 4 = 3.75 \div 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にあります。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述してください。

4. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする。

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| A 達成 | : 計画以上の成果が達成されている |
| B 順調 | : 計画通り実施されており、当該年度計画を 95 ~ 100 % 達成 |
| C ほぼ順調 | : ほぼ計画通り実施されており、当該年度計画の達成率は 80 ~ 94 % |
| D 一部要注意 | : 一部計画の実施に支障があり、当該年度計画の達成率は 50 ~ 79 % |
| E 要注意 | : 計画の実施に注意が必要であり、当該年度計画の達成率は 49 % 以下 |

參考資料

**平成27年度
「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」
実施要項**

1. 本年度テーマ 『一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して』

男女共同参画の目指すところは、一人ひとりが尊重され、男女があらゆる分野に参画することができる社会です。今、「女性活躍推進」が叫ばれていますが、その一方で格差が広がり、女性は今なお活躍できていない現状があります。この研修では、女性が活躍するためには何が必要なのか、どのような方策が必要なのかについて考えます。

2. 本研修のねらい

- (1) 男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- (2) 男女共同参画の中核となるリーダーの関係力・連携力の向上を図ります。
- (3) 実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- (4) 研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かします。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO 法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催）

5. 参 加 者

- (1) 女性関連施設管理職コース：(50名)
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職
- (2) 地方自治体職員コース：(35名)
都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者
- (3) 団体リーダーコース：(35名)
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー

6. 日 程

日程につきましては、表紙裏をご覧ください。

7. 内 容

第1日 5月20日（水）

(希望者のみ参加)

11:00～11:50

プレ講義「男女共同参画の基礎知識」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講 師：石崎 裕子 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部准教授

1 開会

13:10～13:25

- ①主催者あいさつ
②共催者あいさつ

内海 房子 国立女性教育会館理事長
桜井 陽子 全国女性会館協議会理事長

2 プログラムの趣旨説明

13:25～13:30

中光 理恵 国立女性教育会館事業課専門職員

3 講演「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して」

13:30～15:00

★国の「女性活躍の推進」の現状と今後の方向性を知り、男女共同参画を推進するための方策について考えます。

講 師：樋口 美雄 慶應義塾大学商学部教授

4 報告「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題」

15:20～16:40

★男女共同参画や女性活躍の促進に向けた施策についての説明と今後の方向性について理解を深めます。

講 師：市川 浩 内閣府男女共同参画局推進課上席政策調査員

講 師：藤江 陽子 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

講 師：河村 のり子 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐

講 師：関 万里 経済産業省経済産業政策局経済社会政策室係長

5 報告「CSW59（第59回国連婦人の地位委員会）参加報告」

16:50～17:30

★3月にニューヨークの国連本部で開催された、CSW59での議論や採択文書について報告します。

報告者：越智 方美 国立女性教育会館研究国際室専門職員

渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

6 情報交換会（*希望者のみ参加：有料1,000円）

19:30～20:30

★全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立てます。

第2日 5月21日（木）**7 情報提供「NWECの事業展開について」**

9:00～9:35

①情報機能について

★女性情報ポータルサイトWinetや女性デジタルアーカイブシステムなど、NWECの情報

機能やその活用法について詳しく説明します。

説明：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

②研修事業について

★平成27年度の研修事業計画について説明します。

説明：櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課課長

8 調査報告「女性たちの貧困～取材現場から見えた実態～」

9:45～11:00

★「女性活躍」の一方で存在する「女性たちの貧困」について、実際の取材を通して見えてきたその背景や現状、解決に向けての課題を共有します。

講師：宮崎 亮希 NHK 報道局社会番組部ディレクター
村石 多佳子 NHK 報道局遊軍プロジェクト記者

9 報告「課題把握」

11:15～12:15

★地域で女性の活躍を推進するための取り組みについて、それぞれの立場から課題を把握し、明確化・共有化を図ります。

<女性関連施設管理職コース>

報告者：納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業本部長

<地方自治体職員コース>

報告者：櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課課長

<団体リーダーコース>

報告者：藤岡 喜美子 NPO 法人市民フォーラム 21・NPO センター事務局長

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

10 コース別ワークショップI

「男女共同参画の視点に立った女性活躍の課題に迫る」

13:30～16:30

★事例報告に基づいてコースごとにグループワークを行い、実践に役立つ力を身につけます。

<女性関連施設管理職コース>

テーマ：「女性の活躍推進と男性の働き方・暮らし方改革」

★女性の活躍推進について、女性の就業支援と男性の働き方・暮らし方改革の両面からアプローチするため、それぞれの事例報告を踏まえて情報と問題意識を共有し、グループワークで事業展開の方向性を検討します。

報告者：岡本 峰子 札幌市男女共同参画センター センター長

報告者：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター

青森県子ども家庭支援センター 館長

ファシリテーター：仁科 あゆ美 一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団
理事兼統括ディレクター

<地方自治体職員コース>

テーマ：「女性活躍推進と施策の戦略的取組」

★学校教育への具体的な働きかけやDV対策基本計画の策定を紹介し、府内や外部との連携の方法を含めて、女性活躍の推進について考えます。

報告者：日高 照子 かごしま県民交流センター男女共同参画推進課課長
報告者：秋山 恵子 宇都宮市市民まちづくり部男女共同参画課課長
ファシリテーター：真邊 和美 元 岡山市男女共同参画社会推進センター企画調整監

<団体リーダーコース>

テーマ：「困難な状況にある女性の支援と女性のエンパワメント」

★生活困難を抱える女性への支援、企業や行政と協働した地域でのネットワーク構築に取り組む事例報告から、課題を把握し、女性の活躍の推進について考えます。

報告者：藤木 美奈子 一般社団法人 WANA 関西代表理事

報告者：岡本 光子 NPO 法人シーズネットワーク理事長

ファシリテーター：野依 智子 福岡女子大学女性キャリア支援センターセンター長

11 情報提供「女性センターの活用法」

16:45～17:30

★男女共同参画・女性の活躍にかかる行政施策を推進するための拠点である男女共同参画センター等女性関連施設の活用法について、行政幹部・施設トップ双方における経験を踏まえた立場から伝えます。

説明：西本 祥子 北九州市立男女共同参画センター所長

木須 八重子 公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長

12 自由交流〈テーマ別〉(希望者のみ参加)

19:30～21:00

★参加者がテーマごとに有志で集い、情報交換や交流を行います。

本館 1 階ラウンジに夕食を済ませてお集まりください。

第3日 5月22日(金)

13 コース別ワークショップⅡ

「男女共同参画の視点で課題を解決する事業を検討する」

9:00～11:30

★男女共同参画の視点で課題を解決する事業のあり方について、コース別に検討しヒントを得ます。ワークショップⅠで話し合われた方向性をもとに具体的な事業構築につなげます。

<女性関連施設管理職コース>

テーマ：「働き方の二極化と困難な状況にある女性への支援」

報告者：佐藤 加代子 秋田県中央男女共同参画センター センター長

ファシリテーター：田端 八重子 もりおか女性センター センター長

<地方自治体職員コース>

テーマ：「他組織との協働と実効性の高い取組」

ファシリテーター：真邊 和美 元 岡山市男女共同参画社会推進センター企画調整監

<団体リーダーコース>

テーマ：「他組織との協働と実効性の高い取組」

ファシリテーター：野依 智子 福岡女子大学女性キャリア支援センター
センター長

14 全体会「課題の共有、連携・協働のために」

11:45～12:35

★各コース別ワークショップで話し合われた報告を基に、男女共同参画の推進について連携・協働の視点から討議を行います。

報告者：仁科 あゆ美 一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団
理事兼統括ディレクター

報告者：真邊 和美 元 岡山市男女共同参画社会推進センター企画調整監

報告者：野依 智子 福岡女子大学女性キャリア支援センター センター長
コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

15 ふりかえり

12:35～12:40

★アンケート記入

16 閉会 あいさつ 西澤 立志 国立女性教育会館理事

12:40 終了

8. 研修成果の活用プラン

研修の受付当日、アンケートと共に「研修成果の活用プラン」を配付いたします。
研修後の成果活用をお考えの上ご参加ください。

9. その他

- (1) 期間中職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。
あらかじめご了承ください。
- (2) 研修期間中、参加者の所属する施設や団体、地方公共団体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換する情報交換コーナーを設置します。お持ちになった資料を各自で所定の場所に並べ、参加者の方が資料を自由にお持ち帰りできます。

平成27年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」参加者概況

2016年4月12日 現在

1. 性別

参加者			定員 120 名		
女性関連施設	地方自治体	団体リーダー	女性	男性	計
計	計	計	計	計	計
女性	44	45	27	116	
男性	15	8	2	25	
計	59	53	29	141	

2. 年代別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	-	-	3	2	-	-	3	2	5
30代	4	1	12	2	3	-	19	3	22
40代	10	4	14	2	2	1	26	7	33
50代	14	8	13	1	8	-	35	9	44
60代	8	2	2	-	9	1	19	3	22
70代以上	1	-	-	-	5	-	6	-	6
無回答	7	-	1	1	-	-	8	1	9
計	44	15	45	8	27	2	116	25	141

3. 勤務形態

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤（専任）	26	12	33	4	6	2	65	18	83
（兼任）	4	1	10	3	-	-	14	4	18
無回答	-	1	-	-	-	-	1	1	
非常勤（専任）	5	-	1	-	2	-	8	-	8
（兼任）	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	1	-	1	-	1
嘱託（専任）	3	-	1	-	1	-	5	-	5
（兼任）	-	-	-	-	2	-	2	-	2
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	6	1	-	1	15	-	21	2	23
計	44	15	45	8	27	2	116	25	141

4. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

				女	男	計
(1)公立I:管理運営者が教育委員会				-	1	1
(2)公立I:管理運営者が男女共同参画担当部課				9	7	17
(3)公立II:指定管理者を導①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等				11	5	16
②管理運営者が企業				4	-	3
③管理運営者がNPOなど				10	1	11
(4)私立				-	-	-
(5)その他				2	1	3
(6)無回答				8	-	8
計				44	15	59

* その他の内容 *

5. プレワークショップへの参加

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	18	10	27	3	9	1	54	13	67

6. 情報交換会

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	39	11	41	6	20	1	100	17	117

7. 自由交流

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	29	7	30	2	16	1	75	9	84

8. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	18	1	2	-	17	1	37	2	39
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	14	-	2	-	14	1	30	3	33
会館を利用し、事業を実施したことがある	2	-	-	-	2	-	4	-	4
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	3	-	3	1	2	-	8	1	9

9. 地域別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	1	-	1	2	-	-	2	2	4
青森県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
岩手県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
宮城県	2	-	3	-	-	-	5	-	5
秋田県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
山形県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
福島県	-	1	1	-	-	-	1	1	2
茨城県	-	-	2	-	1	-	3	-	3
栃木県	-	2	2	-	1	-	3	2	5
群馬県	1	-	2	-	-	-	3	-	3
埼玉県	2	-	1	1	4	1	7	2	9
千葉県	3	-	1	-	1	-	5	-	5
東京都	10	1	3	1	5	-	18	2	20
神奈川県	4	-	-	-	-	-	4	-	4
山梨県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
新潟県	1	-	3	1	-	-	4	1	5
長野県	1	1	2	-	-	-	3	1	4
富山県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
石川県	-	-	-	-	2	-	2	-	2
福井県	-	-	2	-	1	-	3	-	3
岐阜県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
静岡県	1	1	-	1	-	-	2	2	4
愛知県	1	1	3	-	-	-	4	1	5
三重県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
京都府	-	-	1	-	-	-	1	-	1
大阪府	3	2	1	-	-	-	4	2	6
兵庫県	1	-	2	-	-	-	3	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
島根県	1	-	-	-	-	-	-	1	1
岡山県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
広島県	1	-	2	-	1	-	4	-	4
山口県	-	-	2	-	3	-	5	-	5
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
愛媛県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
高知県	1	-	-	-	1	-	1	1	2
福岡県	2	-	1	-	3	-	6	-	6
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
長崎県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
熊本県	1	1	3	2	1	1	5	4	9
大分県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
宮崎県	1	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	-	-	-	1	-	1
計	44	15	45	8	27	2	116	25	141

10. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	12	3	15	10.6
関東	43	6	49	34.8
甲信越	7	3	10	7.1
北陸・東海	15	3	18	12.8
近畿	9	3	12	8.5
中国・四国	14	2	16	11.3
九州・沖縄	16	5	21	14.9
合計	116	25	141	100.0

平成27年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」
アンケート集計結果

(最終報告) 平成27年12月8日

参加者数	141名
アンケート対象者	137名
アンケート回答数	134件
アンケート回答率	97.8%

1 本研修に関する意見・感想をお聞かせください。

【20日 プレ講義「男女共同参画の基礎知識」(希望者)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	22	20.2	6	26.1	1	50.0	29	46.0
有用であった	27	24.8	6	26.1	1	50.0	34	54.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	47	43.1	10	43.5	-	-	-	-
無回答	13	11.9	1	4.3	-	-	-	-
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	63	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	7	13.2	15	28.3	6	23.1	1	50.0	29	46.0
有用であった	15	28.3	14	26.4	4	15.4	1	50.0	34	54.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	26	49.1	21	39.6	10	38.4	-	-	-	-
無回答	5	9.4	3	5.7	6	23.1	-	-	-	-
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	63	100.0

<非常に有用であった理由>

- ・男女共同参画社会の実現のために、一般市民にわかりやすく伝えるポイントが理解できた。
- ・イントロダクションとなる研修に向かう心構えができた。
- ・時系列でわかりやすく日本の男女共同参画の歴史が学べた。

<有用だった理由>

- ・日本が進んできた男女共同参画社会づくりの歴史の変遷がよくわかった。
- ・基本法などのポイントがわかりやすく説明されて、自分が説明するときにも役立つ。
- ・全員に共通理解を元にして、これから講座展開をするという心構えが感じられよかった。

【20日 講義「一人ひとりの女性が活躍する社会を目指して】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	81	74.4	15	65.3	1	50.0	97	74.6
有用であった	24	22.0	6	26.1	1	50.0	31	23.8
あまり有用でなかった	-	-	1	4.3	-	-	1	0.8
有用でなかった	1	0.9	-	-	-	-	1	0.8
参加しなかった	2	1.8	1	4.3	-	-	-	-
無回答	1	0.9	-	-	-	-	-	-
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	130	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	41	77.4	40	75.5	15	57.7	1	50.0	97	74.6
有用であった	12	22.6	10	18.8	8	30.9	1	50.0	31	23.8
あまり有用でなかった	-	-	1	1.9	-	-	-	-	1	0.8
有用でなかった	-	-	-	-	1	3.8	-	-	1	0.8
参加しなかった	-	-	2	3.8	1	3.8	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	1	3.8	-	-	-	-
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	130	100.0

<非常に有用であった理由>

- ・統計資料を見るだけではわからない背景も詳しく講義していただき、これから行政が何をすべきか参考になりました。
- ・女性の就労意欲とそれを阻害しかねない要因がよく理解できました。
- ・若い女性の地方からの流出についてよく理解できた。データの解説が的確で分かりやすかったです。

<有用であった理由>

- ・統計資料を活用した女性の活躍の困難さを必要性・重要性と認識することができた。
- ・統計の分析を聞かせていただいて、それが戦略としていかせるように努めたいと考えさせられました。
- ・人口移動データとまちづくりの話が興味深かったです。

【20日 報告「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※
非常に有用であった	34	31.2	3	13.0	1	50.0	38	29.2
有用であった	69	63.3	16	69.6	1	50.0	86	66.2
あまり有用でなかった	3	2.8	3	13.0	-	-	6	4.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	1.8	1	4.4	-	-	-	-
無回答	1	0.9	-	-	-	-	-	-
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	130	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	14	26.5	16	30.1	7	26.9	1	50.0	38	29.2
有用であった	35	66.0	34	64.2	16	61.5	1	50.0	86	66.2
あまり有用でなかった	4	7.5	1	1.9	1	3.8	-	-	6	4.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	2	3.8	1	3.8	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	1	3.8	-	-	-	-
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	130	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・現在の政策や国で実施されている施策から、今後の課の計画策定を実施する講座の参考にしたい。
- ・国の施策は各部署にわたり全体がみわたせた。予算を含めた内閣府の説明もあるとよかったです。
- ・省庁の取り組み、トップダウンのもつ力をみた。説明もコンパクトで分かりやすくて大変良かった。

＜有用であった理由＞

- ・男女共同参画に関する各省庁の取り組み・考え方を生の声を聞くことができ、有用だった。
- ・多角的な方法で男女共同参画推進に取り組んでいることが確認できた。
- ・様々な取り組みの情報提出やその具体例も説明していただいたのがよかったです。

【20日 CSW59(第59回国連婦人の地位委員会)参加報告】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	26	23.8	-	-	-	-	26	21.0
有用であった	56	51.4	11	47.8	2	100.0	69	55.6
あまり有用でなかった	18	16.5	9	39.1	-	-	27	21.8
有用でなかった	-	-	2	8.7	-	-	2	1.6
参加しなかった	3	2.8	1	4.4	-	-	-	-
無回答	6	5.5	-	-	-	-	-	-
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	124	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	7	13.2	12	22.6	7	26.9	-	-	26	21.0
有用であった	33	62.3	21	39.6	13	50.1	2	100.0	69	55.6
あまり有用でなかった	9	16.9	15	28.3	3	11.5	-	-	27	21.8
有用でなかった	1	1.9	1	1.9	-	-	-	-	2	1.6
参加しなかった	-	-	3	5.7	1	3.8	-	-	-	-
無回答	3	5.7	1	1.9	2	7.7	-	-	-	-
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	124	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・CSWについて概要をよく理解できた。体験に基づく現地の様子を聞けたのもよかったです。
- ・世界レベルの話を聞く機会がない中、とても有用だった。
- ・国際的な動きについて全く知らなかつたので、とても新鮮で参考になった。

＜有用であった理由＞

- ・世界中のあちらこちらで男女共同参画に関する施策を常時活動していることがとてもよく分かった。
- ・世界で考えられている問題や日本の状況を世界がどう見ているかを分かりやすく知らされた。
- ・直接的には関係ないような話でしたが、世界中で女性のために活発な行動があることを理解した。

【20日 情報交換会(希望者)】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	32	29.4	11	47.8			43	40.6
有用であった	53	48.6	6	26.1	1	50.0	60	56.6
あまり有用でなかった	3	2.8	-	-	-	-	3	2.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	14	12.8	5	21.7	1	50.0		
無回答	7	6.4	1	4.4				
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	106	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	16	30.2	21	39.6	6	23.1	-	-	43	40.6
有用であった	24	45.3	23	43.4	12	46.2	1	50.0	60	56.6
あまり有用でなかった	-	-	2	3.8	1	3.8	-	-	3	2.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	9	17.0	6	11.3	4	15.4	1	50.0		
無回答	4	7.5	1	1.9	3	11.5	-	-		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	106	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・同じ男女共同参画の活動をしている他都市の方々の情報を得ることができて、有意義な時間だった。
- ・同じような悩みをもつ人たちとネットワークづくりに役立った。
- ・出会うことがない人材や同じ状況の方達と話せる機会はとても有用であった。

＜有用であった理由＞

- ・置かれている立場・状況により、いろいろな課題があること、同じ課題があることがわかった。
- ・他市町村との取り組み方が違う点など、改めて分かり充実した時間が持てた。
- ・様々な地域の言葉の節々に何かヒントがあるようで、とてもよい。

【21日 情報提供「NWECの事業展開について」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	25	22.9	2	8.7	-	-	27	21.6
有用であった	75	68.8	16	69.6	1	50.0	92	73.6
あまり有用でなかった	2	1.8	4	17.4	-	-	6	4.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	5	4.7	1	4.3	1	50.0		
無回答	2	1.8	-	-	-	-		
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	125	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	8	15.1	13	24.5	6	23.1	-	-	27	21.6
有用であった	39	73.5	35	66.0	17	65.4	1	50.0	92	73.6
あまり有用でなかった	3	5.7	3	5.7	-	-	-	-	6	4.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	3.8	2	3.8	2	7.7	1	50.0		
無回答	1	1.9	-	-	1	3.8	-	-		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	125	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・NWEC・HPをあまりよく活用していなかったので、今後は更に事業に活かしていきたい。
- ・男女共同参画の情報を簡単に検索する方法を知ることができました。
- ・ヌエックの貴重な学びの歴史を、経済人、政治家に知ってもらって認識してもらいたい。

＜有用であった理由＞

- ・HPの活用法がよく理解できた。今度は調べるや女性情報ウェブも活用したい。
- ・ナショナルセンターとしての役割を果たしていただきありがたい。
- ・HPの見方・使い方、また、NWECの事業についてよく分かった。

【21日 調査報告「女性たちの貧困～取材現場から見えた実態～】】 ※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	84	77.1	13	56.6	1	50.0	98	76.6
有用であった	20	18.3	9	39.1	—	—	29	22.6
あまり有用でなかった	1	0.9	—	—	—	—	1	0.8
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	2.8	1	4.3	1	50.0	—	—
無回答	1	0.9	—	—	—	—	—	—
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	128	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	37	69.8	41	77.4	19	73.1	1	50.0	98	76.6
有用であった	14	26.4	10	18.9	5	19.2	—	—	29	22.6
あまり有用でなかった	—	—	—	—	1	3.8	—	—	1	0.8
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	1.9	2	3.8	1	3.8	1	50.0	—	—
無回答	1	1.9	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	128	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・メディアをうまく取り入れることで新鮮を感じ、実際に見聞きしてきた人たちの生の声は説得力があった。
- ・目には見えない貧困についてなかなか知ることの出来ないところだったので、学べてよかったです。
- ・若い世代の貧困に悩む女性の切実な想いが伝わり、底辺の底上げが重要な課題と思った。
- ・「輝く女性」管理職だけでなく本当の意味での女性の支援について現場が見えた。

＜有用であった理由＞

- ・女性の貧困の実態がよく分かる報告だった。相談員に伝達したい。
- ・取材までの流れなど具体的に分かった。
- ・自分の問題意識について考えさせられるものだった。

【21日 報告「課題把握」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	59	54.1	7	30.5	1	50.0	67	53.6
有用であった	42	38.5	12	52.2	—	—	54	43.2
あまり有用でなかった	1	0.9	3	13.0	—	—	4	3.2
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	2.8	1	4.3	1	50.0	—	—
無回答	4	3.7	—	—	—	—	—	—
合計	109	100.0	23	100.0	1	50.0	125	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	26	49.1	27	50.9	13	50.0	1	50.0	67	53.6
有用であった	23	43.3	20	37.7	11	42.4	—	—	54	43.2
あまり有用でなかった	1	1.9	3	5.7	—	—	—	—	4	3.2
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	1.9	2	3.8	1	3.8	1	50.0	—	—
無回答	2	3.8	1	1.9	1	3.8	—	—	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	125	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・具体的な担い手の事例紹介や市民団体との協力・連携・市民団体の考え方の転換などから気づきがあった。
- ・3つのコースの課題を共有出来た。他コースとの連携がしやすくなる。
- ・話し合いの前に何が今必要なのかの大前提を捉えられてよかったです。
- ・はっきりと課題が見えてきて頭の中が整理された。

＜有用であった理由＞

- ・午後のワークショップの導入としてよかったです。
- ・行政と委託や指定管理、それぞれの立場について学べた。
- ・連携することの意義を十分理解することができた。
- ・各グループごとの課題が分かり共有できた。
- ・横の繋がりが大切でお互いの考え方を理解することも重要だと思いました。

【21日 コース別ワークショップ「男女共同参画の視点に立った女性活躍の課題に迫る」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	59	54.1	11	47.8	1	50.0	71	56.8
有用であった	41	37.6	10	43.5	—	—	51	40.8
あまり有用でなかった	1	0.9	2	8.7	—	—	3	2.4
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	3.7	—	—	1	50.0	—	—
無回答	4	3.7	—	—	—	—	—	—
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	125	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	31	58.5	29	54.7	10	38.5	1	50.0	71	56.8
有用であった	20	37.7	21	39.6	10	38.5	—	—	51	40.8
あまり有用でなかった	1	1.9	1	1.9	1	3.8	—	—	3	2.4
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	1	1.9	3	11.5	1	50.0	—	—
無回答	1	1.9	1	1.9	2	7.7	—	—	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	125	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・事業をコーディネートする力を持つことがより効果的な事業を生むことに気付かされた。マネジメント力の必要性。
- ・運営センターの悩みが共通していることを改めて感じました。他センターでされていることを事業に取り入れられないか所内で検討したい。
- ・行政・他団体との連携に成功している事例が素晴らしいと思った。
- ・DV基本計画の策定は素晴らしいと思った。
- ・具体的な取組例を伺うことができ、とても参考になりました。

＜有用であった理由＞

- ・具体的な事例が聞けてよかったです。まずはパクルというのもいいなと思った。
- ・他センターの取組は参考となった。
- ・よりテーマを絞っての討議は勉強になる点が多くあった。
- ・分野が実務と異なっていたが、子供時からの教育はとても重要。

【21日 情報提供「女性センターの活用法」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	28	25.7	1	4.3	—	—	29	24.8
有用であった	55	50.5	14	60.9	—	—	69	59.0
あまり有用でなかった	11	10.1	5	21.8	—	—	16	13.7
有用でなかった	1	0.9	2	8.7	—	—	3	2.5
参加しなかった	7	6.4	1	4.3	1	50.0	—	—
無回答	7	6.4	—	—	1	50.0	—	—
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	117	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	10	18.9	13	24.5	6	23.1	—	—	29	24.8
有用であった	32	60.3	28	52.8	9	34.7	—	—	69	59.0
あまり有用でなかった	7	13.2	6	11.3	3	11.5	—	—	16	13.7
有用でなかった	1	1.9	1	1.9	1	3.8	—	—	3	2.5
参加しなかった	1	1.9	2	3.8	5	19.2	1	50.0	—	—
無回答	2	3.8	3	5.7	2	7.7	1	50.0	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	117	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・行政に頼るだけでなく、センターも行政の仕組みを理解し、知る努力をする必要があると思った。
- ・行政・センター両方の理由、経験者からのメッセージは参加者皆にとって有益だった。
- ・行政での経験豊かな方がセンター長を務められる好事例だった。

＜有用であった理由＞

- ・頼られるセンターとして役割を果たさなければと思った。
- ・行政担当者に聞いてもらいたかった。
- ・女性センターの活用については、行政と十分に連携・協働していくことが求められると改めて思った。

【21日 自由交流(テーマ別)希望者のみ】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	23	21.1	4	17.4	-	-	27	44.3
有用であった	29	26.6	1	4.3	1	50.0	31	50.8
あまり有用でなかった	2	1.8	-	-	-	-	2	3.3
有用でなかった	-	-	1	4.3	-	-	1	1.6
参加しなかった	37	34.0	15	65.3	1	50.0		
無回答	18	16.5	2	8.7	-	-		
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	61	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	4	7.5	14	26.4	9	34.6	-	-	27	44.3
有用であった	11	20.8	12	22.6	7	26.9	1	50.0	31	50.8
あまり有用でなかった	1	1.9	1	1.9	-	-	-	-	2	3.3
有用でなかった	-	-	1	1.9	-	-	-	-	1	1.6
参加しなかった	27	50.9	17	32.1	8	30.8	1	50.0		
無回答	10	18.9	8	15.1	2	7.7	-	-		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	61	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・他市町の状況で参考になる内容があり、持ち帰って検討したいと思った。
- ・自分の所属団体に戻って具体的に取り入れる方法を知ることができて有効だった。
- ・参加者からのたくさんの情報がもらえた。
- ＜有用であった理由＞
- ・同じ課題が施設にもあること、その解決の糸口が分かり、今後の施策のヒントが得られた。
- ・各地の方々と情報共有できて参考になった。
- ・施設のありなし、NPOの有無、いろいろな状況での取組が大変参考となった。

【22日 コース別ワークショップⅡ「男女協働参画の視点で課題を解決する事業を検討する」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	64	58.7	12	52.2	-	-	76	66.7
有用であった	26	23.8	8	34.9	-	-	34	29.8
あまり有用でなかった	3	2.8	1	4.3	-	-	4	3.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	7	6.4	1	4.3	1	50.0		
無回答	9	8.3	1	4.3	1	50.0		
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	114	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	35	66.0	24	45.2	17	65.4	-	-	76	66.7
有用であった	11	20.8	18	34.0	5	19.3	-	-	34	29.8
あまり有用でなかった	1	1.9	3	5.7	-	-	-	-	4	3.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	3.8	3	5.7	3	11.5	1	50.0		
無回答	4	7.5	5	9.4	1	3.8	1	50.0		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	114	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・グループ内で様々な取組を聞き、ご経験のある方たちと一緒に企画することで、感覚を研ぎ澄ますことが出来たのと同時に、自分の課題の抽出につながった。
- ・現在の取組の中で閉塞感があったのでヒントをたくさんもらえた。
- ・課題を洗い出し、事業の周知、組み立てなど具体的に作業ができるので参加者として事業の見直しをしてみたい。
- ・具体的な戦略について話し合うことが出来よかった。

＜有用であった理由＞

- ・実践的なワークだったので参考になった。戻って取り入れたい。
- ・実際に皆で考え、シミュレーションすることで参考となる点が多くかった。
- ・課題の共有と事業を行う上での具体的な内容を得ることができた。
- ・具体的な施策の方針を話すことができたので取り入れることができると思う。

【22日 全体会「課題の共有、連携・協働のために」】

※は不参加、無回答を除いた割合

	女性	%	男性	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	28	25.7	5	21.7	-	-	33	35.1
有用であった	44	40.3	12	52.3	-	-	56	59.6
あまり有用でなかった	3	2.8	2	8.7	-	-	5	5.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	9	8.3	1	4.3	1	50.0	94	100.0
無回答	25	22.9	3	13.0	1	50.0		
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	94	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	※合計	※%
非常に有用であった	10	18.9	12	22.6	11	42.3	-	-	33	35.1
有用であった	29	54.7	18	34.0	9	34.6	-	-	56	59.6
あまり有用でなかった	-	-	5	9.4	-	-	-	-	5	5.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	7.5	2	3.8	4	15.4	1	50.0	94	100.0
無回答	10	18.9	16	30.2	2	7.7	1	50.0		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	94	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・短時間で課題が整理されていてよかった。
- ・今後の取り組むべき方向を確認できた。
- ・自分が参加できなかったコースでの話し合いが分かり、問題意識を共有出来た。
- ・なぜ連携が必要なのか分かった。

＜有用であった理由＞

- ・課題解決に向けた具体的な発表がよかったです。
- ・各ワークショップの状況・成果が聞けて、自分のワークショップについてもふり返すことができた。
- ・戦略的に動く→明確になって仕事の進め方にヒントを得られた。

2 この研修内容は有用でしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	71	65.2	10	43.5	1	50.0	82	61.2	62.1	98.5
有用であった	35	32.1	13	56.5	-	-	48	35.8	36.4	
あまり有用でなかった	2	1.8	-	-	-	-	2	1.5	1.5	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	0.9	-	-	1	50.0	2	1.5		
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	29	54.7	35	66.0	17	65.4	1	50.0	82	61.2	62.1	98.5
有用であった	23	43.4	17	32.1	8	30.8	-	-	48	35.8	36.4	
あまり有用でなかった	-	-	1	1.9	1	3.8	-	-	2	1.5	1.5	1.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.9	-	-	-	-	1	50.0	2	1.5		
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

＜非常に有用であった理由＞

- ・時代に合ったテーマを設定して頂き、これから展開を考える上で大変参考になった。地域性はあるものの一貫した方向性で事業展開をしておられる各施設の状況や取り組みの交流が参考になった。
- ・テーマに沿ったプログラムが組まれており、とても分かりやすい研修であったし、私には大変有用であった。
- ・特に今後の課題である困難を抱える女性の現状ややるべきことなどを議題にできてよかったです。
- ・吟味された企画で、どれも無駄がなく、あちこちに参考になるものがちりばめられていた。地元に戻って生かしたいと思う。
- ・連携の強みを教わった。

＜有用であった理由＞

- ・コース別研修ではあったが、コースそれぞれの参加者が途中意見交換出来る機会もあった。
- ・タイムリーなテーマでも多く取り入れられていて大いに参考になった。
- ・今自分が抱えている課題の解決のヒントが得られた。
- ・同県の方と知り合うきっかけになり、今後の連携がしやすくなった。
- ・専門家の講義と国の取組について一度に聞ける機会はあまりないので有意義な研修である。

3 この研修は満足でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	52	47.7	6	26.1	—	—	58	43.3	44.3	97.0
満足した	53	48.6	16	69.6	—	—	69	51.5	52.7	
少し物足りなかった	3	2.8	1	4.3	—	—	4	3.0	3.0	3.0
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	1	0.9	—	—	2	100.0	3	2.2	—	—
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	22	41.5	22	41.5	14	53.9	—	—	58	43.3	44.3	97.0
満足した	30	56.6	30	56.6	9	34.6	—	—	69	51.5	52.7	
少し物足りなかった	1	1.9	1	1.9	2	7.7	—	—	4	3.0	3.0	3.0
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	—	—	1	3.8	2	100.0	3	2.2	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

<非常に満足した理由>

- ・他施設の方とのネットワークを作ることができた。自分自身のエンパワーメントにつながった。
- ・企画のヒント、新たな人脈ができた。

- ・交流の場があり、業務上の悩みなどを話し共感しあえた。課題が整理できた。

<満足した理由>

- ・講演や事例発表はどれも素晴らしかった。多くのことを学ぶことができ満足している。
- ・全国的な課題、目標、データを感じることが出来た。
- ・講師の人選に満足。
- ・他県の市町村の方の状況を聞けたこと。

4 研修の達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画の視点、考え方を学ぶことができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	61	56.0	7	30.4	1	50.0	69	51.5
おおむねできた	44	40.4	14	60.9	1	50.0	59	44.0
あまりできなかった	2	1.8	2	8.7	—	—	4	3.0
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	1.8	—	—	—	—	2	1.5
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	25	47.1	27	50.9	16	61.5	1	50.0	69	51.5	51.5	95.5
おおむねできた	26	49.1	24	45.3	8	30.8	1	50.0	59	44.0	44.0	
あまりできなかった	2	3.8	—	—	2	7.7	—	—	4	3.0	4.5	4.5
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	2	3.8	—	—	—	—	2	1.5	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	36	33.0	5	21.7	1	50.0	42	31.3
おおむねできた	65	59.6	17	74.0	1	50.0	83	62.0
あまりできなかった	3	2.8	1	4.3	—	—	4	3.0
できなかった	1	0.9	—	—	—	—	1	0.7
無回答	4	3.7	—	—	—	—	4	3.0
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	12	22.6	19	35.8	10	38.5	1	50.0	42	31.3	32.3	96.1
おおむねできた	38	71.7	30	56.6	14	53.9	1	50.0	83	62.0	63.8	
あまりできなかった	3	5.7	1	1.9	—	—	—	—	4	3.0	3.1	3.9
できなかった	—	—	—	—	1	3.8	—	—	1	0.7	0.8	
無回答	—	—	3	5.7	1	3.8	—	—	4	3.0	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	30	27.5	4	17.4	—	—	34	25.4
おおむねできた	64	58.7	14	60.9	—	—	78	58.2
あまりできなかった	10	9.2	5	21.7	—	—	15	11.2
できなかった	5	4.6	—	—	—	—	5	3.7
無回答	—	—	—	—	2	100.0	2	1.5
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	16	30.2	12	22.6	6	23.1	—	—	34	25.4	26.8	88.2
おおむねできた	31	58.5	30	56.7	17	65.4	—	—	78	58.2	61.4	—
あまりできなかった	6	11.3	6	11.3	3	11.5	—	—	15	11.2	11.8	11.8
できなかった	—	—	5	9.4	—	—	—	—	5	3.7	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	2	100.0	2	1.5	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(4)地域課題解決のための組織の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	14	12.8	2	8.7	—	—	16	11.9
おおむねできた	74	67.9	11	47.8	—	—	85	63.5
あまりできなかった	16	14.7	10	43.5	—	—	26	19.4
できなかった	1	0.9	—	—	—	—	1	0.7
無回答	4	3.7	—	—	2	100.0	6	4.5
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	9	17.0	5	9.4	2	7.7	—	—	16	11.9	12.5	78.9
おおむねできた	31	58.5	32	60.4	22	84.6	—	—	85	63.5	66.4	—
あまりできなかった	12	22.6	12	22.6	2	7.7	—	—	26	19.4	20.3	21.1
できなかった	1	1.9	—	—	—	—	—	—	1	0.7	0.8	—
無回答	—	—	4	7.6	—	—	2	100.0	6	4.5	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(5)地域課題解決のための事業や企画の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	21	19.3	4	17.4	—	—	25	18.7
おおむねできた	70	64.2	12	52.2	1	50.0	83	61.9
あまりできなかった	11	10.1	7	30.4	—	—	18	13.4
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	7	6.4	—	—	1	50.0	8	6.0
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	15	28.3	6	11.3	4	15.4	—	—	25	18.7	19.8	85.7
おおむねできた	30	56.6	33	62.3	19	73.1	1	50.0	83	61.9	65.9	—
あまりできなかった	7	13.2	9	17.0	2	7.7	—	—	18	13.4	14.3	14.3
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	1.9	5	9.4	1	3.8	1	50.0	8	6.0	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(6)地域で男女共同参画を推進するための連携・協働の在り方について、手がかりを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	22	20.2	4	17.4	—	—	26	19.4
おおむねできた	73	66.9	16	69.6	1	50.0	90	67.2
あまりできなかった	10	9.2	3	13.0	—	—	13	9.7
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	4	3.7	—	—	1	50.0	5	3.7
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	13	24.5	9	17.0	4	15.4	—	—	26	19.4	20.2	89.9
おおむねできた	37	69.8	36	67.9	16	61.5	1	50.0	90	67.2	69.8	
あまりできなかった	3	5.7	5	9.4	5	19.3	—	—	13	9.7	10.1	10.1
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	3	5.7	1	3.8	1	50.0	5	3.7	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

(7)全国の各地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
十分できた	27	24.8	8	34.8	—	—	35	26.1
おおむねできた	71	65.1	8	34.8	—	—	79	59.0
あまりできなかった	5	4.6	6	26.1	—	—	11	8.2
できなかった	2	1.8	1	4.3	—	—	3	2.2
無回答	4	3.7	—	—	2	100.0	6	4.5
合計	109	100.0	23	100.0	2	100.0	134	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	不明	%	合計	%	※%	※%
十分できた	18	34.0	9	17.0	8	30.8	—	—	35	26.1	27.3	89.1
おおむねできた	29	54.7	36	67.9	14	53.8	—	—	79	59.0	61.7	
あまりできなかった	5	9.4	3	5.7	3	11.5	—	—	11	8.2	8.6	10.9
できなかった	—	—	2	3.7	1	3.8	—	—	3	2.2	2.4	
無回答	1	1.9	3	5.7	—	—	2	100.0	6	4.5	—	—
合計	53	100.0	53	100.0	26	100.0	2	100.0	134	100.0	100.0	100.0

5 今後この研修で取り上げてほしいテーマ・内容・方法等について、自由にお書きください。

- 困難を抱えている女性にクローズアップした研修(生きづらさ、働きづらさ、DV、女性の貧困等)
- LGBTなどのマイノリティについて、ボランティアや男性にとっての男女共同参画(生き方・働き方)について。
- 企業などが行っている男女共同参画の取り組みや高齢者や障がい者等、福祉の現場での男女平等について。
- コース別ワークショップだけでなくテーマ別ワークショップも取り入れてほしい

6 国立女性教育会館の事業や施設等についてのご要望やご意見を自由にお書きください。

- 宿泊施設が安くきれいでとてもよく、自然がたっぷりでとても心地よい。
- 時間・費用の点でなかなか事業に参加できないのでインターネットなど遠隔地でも参加できるような研修。
- 部屋でインターネットを利用できるのがよかったです。

7 研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答可)

項目		人数(134人中)	%(134人中)
①行政から	男女協働参画課	58	43.3
	教育委員会	1	0.7
	その他の行政	4	3.0
②社会教育施設などから	女性関連施設	10	7.5
	公民館・生涯学習センター	1	0.7
③団体・組織から	男女共同参画団体・女性団体	14	10.4
	NPO上記以外の団体等から	—	—
④国立女性教育会館から	ホームページ	56	41.8
	メールマガジン	2	1.5
	フェイスブック	—	—
	ダイレクトメール	36	26.9
⑤その他		4	3

その他(具体的に)

- 当館の館長から
- 講師として依頼された
- 全国女性会館協議会から

平成27年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修＜女性関連施設・地方自治体・団体＞」
フォローアップアンケート集計結果(最終)

2016. 1. 26

●回答者について

	対象者	回答数	%
管理職コース	52	52	100.0
地方自治体コース	50	50	100.0
団体リーダーコース	27	26	96.3
合計	129	128	99.2

回収率: 99.2%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

(※%は「無回答」を除いた割合)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	59	46.1	46.8
b. 役立った	66	51.5	52.4
c. あまり役立たなかった	1	0.8	0.8
d. 役立たなかった	-	-	-
無回答	2	1.6	
合計	128	100.0	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
125	99.2

※無回答を除く

2 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (128名中)	件数	% (59名中)	件数	% (66名中)
研修内容の報告・説明	103	80.5	45	76.3	57	86.4
各種広報資料への執筆・公表	10	7.8	6	10.2	3	4.5
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	21	16.4	14	23.7	7	10.6
所属組織・団体の体制づくり・整備への提言	20	15.6	8	13.6	12	18.2
来年度事業・予算への反映	41	32.0	18	30.5	22	33.3
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	49	38.3	25	42.4	24	36.4
その他	10	7.8	5	8.5	4	6.1
合計	254		121		129	

(表の中のa～bは、設問1におけるプラス回答者の件数とする)

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (128名中)	件数	% (59名中)	件数	% (66名中)
研修資料の提供	27	21.1	12	20.3	15	22.7
研修内容の説明	27	21.1	14	23.7	13	19.7
各種広報資料への執筆	4	3.1	3	5.1	1	1.5
勉強会・研修会での指導・助言・協力	35	27.3	19	32.2	16	24.2
他の組織・団体の体制づくり・整備への指導・助言・協力	19	14.8	9	15.3	10	15.2
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	31	24.2	17	28.8	13	19.7
ネットワーク構築に向けた働きかけ	22	17.2	9	15.3	13	19.7
その他	14	10.9	7	11.9	5	7.6
合計	179		90		86	

(表の中のa～bは、設問1における回答件数とする)

平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画社会を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティや女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施します。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図ります。

2. テーマ

一人ひとりの活躍が社会を創る

3. 日 程

平成27年8月20日（木）～8月22日（土） 2泊3日

4. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

5. 参加者

男女共同参画に関心のある方（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、並びに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む）1000名

6. 内 容

【第1日】8月20日（木）（受付12:15～17:00 本館ロビー）

（1）開会 主催者あいさつ 13:15～13:30

（2）特別講演「超成熟社会の鍵は“女性”」 13:30～14:40

保育所待機児童対策をはじめ、女性の活躍支援に精力的に取り組んでいる林市長に、女性活躍にかける思いと今後の展望についてご講演いただきます。

講 師 林 文子 横浜市長

（3）ワークショップ1・パネル展示1 15:30～17:30

会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

【第2日】8月21日（金）（受付9:00～17:00 本館ロビー）

（4）ワークショップ2・パネル展示2 10:00～12:00

会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

(5) シンポジウム「北京世界女性会議ーあの時、今、そしてこれから」13:00~15:00

※「北京+20NGOフォーラム実行委員会」の企画・協力プログラムです。

第4回世界女性会議・北京会議（1995年）は、190か国の政府、3万人を超えるNGOが集う熱氣あふれる大会でした。日本からも5000人を超える女性たちが参加しました。会議で採択された「行動綱領」では、女性と貧困など12の重大問題領域の下、ジェンダー平等のための課題が設定されました。あれから20年・・・私たちは何を達成し、今なおどのような問題があるのでしょう？パネリストがそれぞれ専門の立場から検証し、これからの歩みについて提言します。

パネリスト 林 陽子 国連女性差別撤廃委員会委員長

坂東 真理子 学校法人昭和女子大学理事長

船橋 邦子 北京JAC（世界女性会議ロビイングネットワーク）代表

谷口 真由美 大阪国際大学准教授

コーディネーター 有馬 真喜子 特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会理事長

(6) ワークショップ3・パネル展示3

15:30~17:30

会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

(7) 懇親会（参加費3,000円（税込）、立食）

18:30~20:00

【第3日】8月22日（土）（受付9:00~14:30 本館ロビー）

(8) ワークショップ4・パネル展示4

10:00~12:00

全国から募集したワークショップを行います。

(9) 映画「人生、いろどり」上映会

13:00~15:00

過疎地に住む女性たちによる、いわゆる「葉っぱビジネス」の成功と苦労の実話をモデルとした映画を上映します。地域における男女共同参画の推進、コミュニティビジネスへの女性の参画、農村女性の経済的自立や女性のエンパワーメント、家族のあり方、リタイア後の生き方などについて考えます。

7. ワークショップについて

(1) 趣旨

フォーラム期間中、会館及び一般公募による団体・個人が、男女共同参画、ダイバーシティ及び女性の活躍推進を目的とした日頃の取組や研究、教育、学習、実践活動の発表を行う場として、ワークショップ及びパネル展示を実施します。

日程や内容などの詳細は、別紙「ワークショップ・パネル展示一覧」及び「参加者へのメッセージ」をご参照ください。

(2) テーマ

ワークショップ及びパネル展示のテーマは「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策などを参考に設定した、以下の8分野です。

テーマ : 内容例	
①	女性のキャリア形成支援: 政策・方針決定過程への女性の参画、社会活動キャリアに対する評価、女性の能力開発への支援、女性のライフ・プランニング支援、女性起業家への支援 等
②	企業における女性の活躍推進: 方針決定過程への女性の参画、雇用等における機会の均等と待遇の確保、継続就業、再就職、女性管理職への支援、ポジティブ・アクションの推進 等
③	学校教育における男女共同参画: 大学における男女共同参画推進、科学技術・学術分野への女性の参画、女性研究者の参画拡大、小中学生向けプログラム、女子中高生への理系進路選択支援 等
④	男性にとっての男女共同参画: 男性の男女共同参画に対する理解の促進、男性管理職等への意識啓発、ワーク・ライフ・バランスの推進、男性の家庭・地域への参画、男性に対する相談体制の確立 等
⑤	安全・安心と男女共同参画: 女性に対する暴力の根絶、人身取引、災害・防災への取組、生活上の困難に直面する男女への支援、高齢者・子ども・障害者・外国人等が安心して暮らせる環境の整備 等
⑥	地域づくりにおける男女共同参画: 地域経済の活性化と女性の参画、地域や分野を横断するネットワークづくり、農山漁村女性のエンパワーメント、災害からの復興と地域づくり 等
⑦	男女共同参画センターの役割: 女性関連施設・社会教育施設の機能の充実、団体・NPO活動の支援、指定管理者制度のあり方、男女共同参画情報の発信・活用、女性関連施設における危機管理 等
⑧	国際的連携: 「北京行動綱領」における12重大問題領域に関する課題解決の進捗状況、国際規範の尊重、男女共同参画の視点に立った国際貢献、国際社会・NGO等との連携 等

(3) 会館提供ワークショップについて

会館による研究・実践の成果報告や、関係機関・団体との共催によるワークショップを実施します。

①男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラムを考える

8月20日(木) 15:30~17:30

このワークショップでは、会館が開発したキャリア開発学習プログラムについて紹介するとともに、この学習を実践していく際にプログラム企画の基礎となるニーズ、課題の把握を研修修了者の報告・参加者のグループワーク等によって行います。地域における男女共同参画の推進と、男女共同参画の視点をもったキャリア開発に向けた学習プログラムの展開について考えます。

講 師 神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館客員研究員

亀田 温子 十文字学園女子大学人間生活学部教授

松下 光恵 N P O 法人男女共同参画フォーラムしづおか代表理事

報告者 井上 智美 国立女性教育会館学習オーガナイザー養成研修1期生

ファシリテーター 西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

② 第59回国連婦人の地位委員会（CSW）報告会

8月21日（金）10:00～12:00

第59回国連婦人の地位委員会（以下、CSW）が、2015年3月9日から20日まで国連本部（ニューヨーク）で開催されました。「北京宣言・行動綱領及び第23回国連特別総会成果文書の実施に関する見直しと評価」を優先テーマとして、各国代表や国連の関係機関、NGO代表らによるステートメントの実施、大臣級円卓会合やパネル・ディスカッションが行われました。このワークショップでは、優先テーマに関する議論や、NGOが実施したサイド・イベント等について、CSW参加者がわかりやすく解説します。

報告者 内閣府男女共同参画局

厚生労働省

西鍋 早葵 日本BPW連合会 2015 CSW インターン

山梨県立大学国際政策学科

渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

報告者兼コーディネーター 越智 方美 国立女性教育会館研究国際室専門職員

③ リレートーク「東北はいま～男女共同参画の視点からの復興」

8月21日（金）15:30～17:30

※復興庁男女共同参画班との共催プログラムです。

震災直後から被災地の復興に取り組んできた女性たちが被災地の現状や課題を発信します。震災の経験と教訓を踏まえ、男女共同参画の視点による復興の必要性やノウハウを国内外に発信する取組について共有します。

報告者 伊藤 恵子 NPO法人こそだてシップ理事長

八木 純子 一般社団法人コミュニティースペースうみねこ代表

遠藤 恵 NPO法人市民メディア・イコール副代表

内閣府男女共同参画局

国立女性教育会館情報課

8. ワークショップ選定委員

募集ワークショップ（ワークショップの部、パネル展示の部）の選考と調整を行います。

矢澤 澄子 元東京女子大学教授（委員長）

犬塚 協太 静岡県立大学国際関係学部教授

小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」館長

9. 情報交換コーナー（場所：実技研修棟前通路）

参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますので、ご利用ください。資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

10. 送迎バス

期間中、国立女性教育会館本館前～東武東上線武蔵嵐山駅東口間で無料送迎バスをピストン運行しますのでご利用ください。

* 運行間隔は、武蔵嵐山駅への電車の到着にあわせ、1時間3～4本程度です。

11. アンケート

今後の事業を企画する上での参考といたしますので、アンケートのご協力をお願いいたします。お帰りの際、ご記入いただいたアンケート用紙は、所定の箱にご提出ください。

12. その他

以下の点について、あらかじめご了承ください。

- (1) 参加者同士の交流・情報交換の促進を目的とした場ですので、署名運動や行き過ぎた勧誘、募金等はご遠慮願います。
- (2) 申込書等で得た個人情報については、事業実施のための連絡及び参加者の統計情報として使用します。その取り扱いは厳重に管理し、取り扱いには十分留意します。
- (3) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。

平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況

2015/9/17 集計

1. 参加区別人数

一般参加者			募集WS運営者		講師・会館関係者		合計		
	計	%	計	%	計	%	計	%	
女性	838	86.0	女性	192	85.7	女性	43	79.6	女性
男性	136	14.0	男性	32	14.3	男性	11	20.4	男性
無回答	-	-	無回答	-	-	無回答	-	-	無回答
計	974	100.0	計	224	100.0	計	54	100.0	計
									1,252 100.0

定員	1,000 名
参加者	1,252 名
充足率	125.2 %
平成26年度参加者 1,165名	

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊)、事前申込者(日帰り)、当日申込者(日帰り)、会館ボランティア、実習生等
 募集WS運営者 ワークショップの部及びパネル展示の部運営者
 講師・会館関係者 選定委員、会館プログラム講師、来賓、復興庁、文科省、内閣府、協議会メンバー

【一般参加者・区別人数】 (人)

	宿泊	日帰り	合計
女性	156	682	838
男性	27	109	136
無回答	-	-	-
計	183	791	974

2. 参加日別(延べ人数)

	一般参加者				募集WS運営者				講師・会館関係者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
20日	468	79	547	36.8	111	23	134	40.2	19	1	20	24.7	598	103	701	36.9
21日	583	89	672	45.2	106	14	120	36.0	33	1	34	42.0	722	104	826	43.4
22日	230	39	269	18.1	76	3	79	23.7	27	-	27	33.3	333	42	375	19.7
計	1,281	207	1,488	100.0	293	40	333	100.0	79	2	81	100.0	1,653	249	1,902	100.0

3. 年代別

	一般参加者				募集WS運営者				講師・会館関係者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
10~19歳	1	-	1	0.1	9	4	13	5.8	-	10	10	18.5	10	14	24	1.9
20~29歳	41	14	55	5.6	8	4	12	5.4	1	1	2	3.7	50	19	69	5.5
30~39歳	45	13	58	6.0	11	2	13	5.8	-	-	-	-	56	15	71	5.7
40~49歳	86	23	109	11.2	20	2	22	9.8	4	-	4	7.4	110	25	135	10.8
50~59歳	136	20	156	16.0	36	8	44	19.6	7	-	7	13.0	179	28	207	16.5
60代以上	478	37	515	52.9	102	12	114	50.9	26	-	26	48.1	606	49	655	52.3
無回答	51	29	80	8.2	6	-	6	2.7	5	-	5	9.3	62	29	91	7.3
計	838	136	974	100.0	192	32	224	100.0	43	11	54	100.0	1,073	179	1,252	100.0

4. 職業形態別

	一般参加者				募集WS運営者				講師・会館関係者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
行政関係者	116	58	174	17.9	10	-	10	4.5	12	10	22	40.7	138	68	206	16.5
研究者・大学教員	23	6	29	3.0	18	2	20	8.9	5	1	6	11.1	46	9	55	4.4
小・中・高校教員	3	-	3	0.3	3	-	3	1.3	-	-	-	-	6	-	6	0.5
団体・グループ	496	37	533	54.7	114	13	127	56.7	20	-	20	37.0	630	50	680	54.3
施設関係者	54	5	59	6.1	11	2	13	5.8	-	-	-	-	65	7	72	5.8
会社員・企業関係者	12	9	21	2.2	5	5	10	4.5	1	-	1	1.9	18	14	32	2.6
学生	28	2	30	3.1	15	8	23	10.3	1	-	1	1.9	44	10	54	4.3
その他	70	14	84	8.6	16	2	18	8.0	4	-	4	7.4	90	16	106	8.5
無回答	36	5	41	4.2	-	-	-	-	-	-	-	-	36	5	41	3.3
計	838	136	974	100.0	192	32	224	100.0	43	11	54	100.0	1,073	179	1,252	100.0

5. 都道府県別

(人)

	一般参加者				募集WS運営者				講師・会館関係者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
北海道	30	2	32	3.3	-	-	-	-	1	-	1	1.9	31	2	33	2.6
青森県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	1	-	1	1.9	2	-	2	0.2
岩手県	6	2	8	0.8	2	1	3	1.3	2	-	2	3.7	10	3	13	1.0
宮城県	6	1	7	0.7	-	-	-	-	1	-	1	1.9	7	1	8	0.6
秋田県	4	3	7	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	7	0.6
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	12	5	17	1.7	3		3	1.3	2	-	2	3.7	17	5	22	1.8
茨城県	22	5	27	2.8	1	1	2	0.9	1	-	1	1.9	24	6	30	2.4
栃木県	82	4	86	8.8	8	-	8	3.6	-	-	-	-	90	4	94	7.5
群馬県	58	2	60	6.2	3	-	3	1.3	-	-	-	-	61	2	63	5.0
埼玉県	168	28	196	20.1	29	6	35	15.6	1	-	1	1.9	198	34	232	18.5
千葉県	66	17	83	8.5	10	2	12	5.4	1	-	1	1.9	77	19	96	7.7
東京都	166	34	200	20.5	97	14	111	49.6	20	4	24	44.4	283	52	335	26.8
神奈川県	33	3	36	3.7	18	-	18	8.0	2	-	2	3.7	53	3	56	4.5
山梨県	40	12	52	5.3	3	2	5	2.2	1	1	2	3.7	44	15	59	4.7
新潟県	14	1	15	1.5	-	-	-	-	1	1	2	3.7	15	2	17	1.4
長野県	31	3	34	3.5	-	-	-	-	-	1	1	1.9	31	4	35	2.8
富山県	-	-	-	-	1	-	1	0.4	1	-	1	1.9	2	-	2	0.2
石川県	3	-	3	0.3	-	1	1	0.4	-	1	1	1.9	3	2	5	0.4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1.9	1	-	1	0.1
岐阜県	7	1	8	0.8	-	-	-	-	-	1	1	1.9	7	2	9	0.7
静岡県	9	1	10	1.0	1	-	1	0.4	2	1	3	5.6	12	2	14	1.1
愛知県	10	3	13	1.3	3	-	3	1.3	-	1	1	1.9	13	4	17	1.4
三重県	-	3	3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	0.2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	4	-	4	0.4	-	1	1	0.4	1	-	1	1.9	5	1	6	0.5
大阪府	15	2	17	1.7	3	1	4	1.8	1	-	1	1.9	19	3	22	1.8
兵庫県	2	1	3	0.3	1	1	2	0.9	-	-	-	-	3	2	5	0.4
奈良県	5	-	5	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	5	0.4
和歌山県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
岡山県	3	-	3	0.3	1	-	1	0.4	-	-	-	-	4	-	4	0.3
広島県	3	1	4	0.4	1	-	1	0.4	-	-	-	-	4	1	5	0.4
山口県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
徳島県	1	-	1	0.1	3	2	5	2.2	-	-	-	-	4	2	6	0.5
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	2	-	2	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
高知県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
福岡県	4	1	5	0.5	1	-	1	0.4	3	-	3	5.6	8	1	9	0.7
佐賀県	2	1	3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	3	0.2
長崎県	1	-	1	0.1	1	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	2	0.2
熊本県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
大分県	4	-	4	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	4	0.3
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	3	-	3	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.2
沖縄県	9	-	9	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	9	0.7
不明・無回答	7	-	7	0.7	2	-	2	0.9	-	-	-	-	9	-	9	0.7
	838	136	974	100.0	192	32	224	100.0	43	11	54	100.0	1,073	179	1,252	100.0

**平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」
「男女共同参画推進フォーラム」参加者アンケート集計結果**

参加者数:974名(講師・関係者を除く一般参加者) アンケート回答数:271件 アンケート回答率:27.8%

● 参加プログラム

(複数回答: %は該当者数で割ったもの)

		女性	%	男性	%	不明	%	総計	%
20日 (木)	開会	116	50.9	18	60.0	7	53.8	141	52.0
	特別講演	137	60.1	20	66.7	10	76.9	167	61.6
	ワークショップ1	139	61.0	19	63.3	8	61.5	166	61.3
21日 (金)	ワークショップ2	157	68.9	13	43.3	5	38.5	175	64.6
	シンポジウム	172	75.4	22	73.3	9	69.2	203	74.9
	ワークショップ3	128	56.1	17	56.7	6	46.2	151	55.7
	懇親会	84	36.8	8	26.7	4	30.8	96	35.4
22日 (土)	ワークショップ4	92	40.4	7	23.3	5	38.5	104	38.4
	映画上映会	31	13.6	2	6.7	4	30.8	37	13.7
期間中	パネル展示	102	44.7	12	40.0	4	30.8	118	43.5
	北京世界女性会議	60	26.3	8	26.7	1	7.7	69	25.5
該当者数		228		30		13		271	

● 「フォーラムに参加した感想について」

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とても満足した	94	41.2	13	43.3	7	53.8	114	42.1	46.2
満足した	105	46.0	14	46.7	4	30.8	123	45.3	49.8
少し物足りなかった	7	3.1	1	3.3	-	-	8	3.0	3.2
物足りなかつた	2	0.9	-	-	-	-	2	0.7	0.8
無回答	20	8.8	2	6.7	2	15.4	24	8.9	
合 計	228	100.0	30	100.0	13	100.0	271	100.0	100.0

● 宿泊について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
相部屋でもかまわなかつた	54	23.7	3	10.0	4	30.8	61	22.5	61.6
相部屋はいやだつた	14	6.1	2	6.7	-	-	16	5.9	16.2
どちらでもよかつた	17	7.5	4	13.3	1	7.7	22	8.1	22.2
無回答	143	62.7	21	70.0	8	61.5	172	63.5	
合 計	228	100.0	30	100.0	13	100.0	271	100.0	100.0

※主な感想・ご意見(抜粋)

【今後取り上げて欲しいテーマについて】

- ・ワーク・ライフ・バランス
- ・クオータ制及びパリテ
- ・男女共同参画とメディア
- ・性的マイノリティ(LGBTI)
- ・女性関連施設の運営
- ・女性と男性の健康
- ・DV被害者支援
- ・女性差別撤廃条約への対応
- ・企業におけるキャリア支援
- ・女性活躍推進法について
- ・防災と復興
- ・男性・子どもにとっての男女共同参画

【全体について】

- ・日帰りや1泊で参加することはありましたが、はじめて2泊3日で参加いたしました。たくさんの方々と刺激的な出会いがあり、実り多い研修になりました。ありがとうございます。
- ・初めてNWECの存在を知りました。建物の立派さと広大な敷地に驚きましたが、懇親会に参加して、全国から意識の高い女性が集まる要となるところだと感じました。有意義な時間を過ごすことができました。
- ・女性団体の方々のエネルギー、パワーに敬服しました。皆さん、自分たちの活動に自信と誇りをもって活動しておられる、すばらしいと思います。ただ、一部の参加者の中で、他人の振るまいや言動のあげ足をとるように責めたり、まだ社会を知らない学生の発表に対して厳しい物言いをしたり、自分の主義主張を押し通したいだけの質問をしたりという、悲しくなってしまうような行動もみられました。そのような方々が男女共同参画を語るのか…男女共同参画とは一体何なのだろう…と考えさせられます。
- ・世代に分かれたテーマ設定でのワークショップ等、せっかく素晴らしい内容なのに“若手”的な参加が少なく残念でした。時代に合った現状を把握する為にも工夫が必要かと感じました。
- ・ワークショップの選択に「アタリ、ハズレ」がないように資料もじっくり見たのですが…やはり残念なものもあり、…何かいい方法はないだろうかと思います。発言を強制されたワークショップもあり、発言の有無の自由を尊重するものであってほしいと思います。
- ・久しぶりに参加して、まだ男女共同参画が進んでいないことを感じました。若い方の参加が前回来た時よりも多く、喜しく思いました。次の世代にバトンタッチしなければいけない時、パネリスト等、若い方に出て来てほしいです。
- ・初日防災、2日目国際とかたまってしまい自由にプログラムを選ぶことができず苦慮しました。特に防災はそろそろ忘れられかけている現状もあり、多様性の配慮と女性の参画を全国の情報の受発信の場としてあちこちに参加できるようにしていただきたいです。
- ・女性自身、そして、隣にいる男性の意識改革が必要です。しかし、意識はそう簡単には変わりません。そこで、制度や法律ができるように行動していくことが大切だと感じました。微力ですが、頑張っていきます。
- ・男女共同参画の意味がわからなくて、参加させていただきましたが、一人ひとりが、自分のできる範囲で行動をとることが重要だと言う事がわかりました。
- ・毎年ワークショップを主催し参加していますが、今年は北京+20のシンポジウムや展示、交流会など、とても盛り上がったように感じます。世代がつながっていくよう、皆でがんばりたいですね。
- ・ほとんど毎年参加させて頂いています。又エックの時流をみきわめた内容(シンポ、展示)は地域でNPOとして活動する身では、のがすことができない情報源です。今後とも地域の小さな団体も男女共同参画を進める参考となる情報をよろしくおねがいします。有意義な3日間でした。
- ・とても充実したプログラムだった。特に21日のシンポジウム、W.Sは北京+20の今年のフォーラムの記念すべき内容を含み、又エックと実行委員会のパートナーシップによるすばらしい企画であった。女性たちのネットワークの力が大いに發揮され、未来への希望や志につながった。
- ・特別講演とワークショップ1との間が、時間のあります。早く始めて、その分早く終わってほしい。遠くから来ているので。(1日のみ参加パネル展示はその後見たい人が見るでよいと思う。あるいは開会別に見るとか。・都市部と地方(道県)とで男女共同参画推進の取り組みと現状に差があるのだろうか。なければ今日のプログラムでもよいのだが、かかえている課題が違っているのならば、解決に向けての地方版のプログラムもほしい。ワークショップを出しているところの都道府県名を明記してもらえないものか。(展示一覧表)、またどのショップが有料なのか分かりにくい。
- ・2Hのワークショップも良いですが、内容によっては4H、5Hのワークショップを設定しても良いのではと感じました。毎回勉強になります。宿泊も希望によっては同グループではない人の同部屋を配慮しても良いのではと思います。貴重な意見交流はできるのでは。

● あなたご自身について

①性別、②年齢

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
10代	1	0.4	-	-	-	-	1	0.4
20代	10	4.4	5	16.7	-	-	15	5.5
30代	16	7.0	3	10.0	-	-	19	7.0
40代	29	12.7	4	13.3	2	15.4	35	12.9
50代	51	22.4	5	16.7	1	7.7	57	21.0
60代	81	35.5	6	20.0	2	15.4	89	32.9
70代	35	15.4	6	20.0	2	15.4	43	15.9
80代	4	1.8	1	3.3	-	-	5	1.8
無回答	1	0.4	-	-	6	46.1	7	2.6
合計	228	100.0	30	100.0	13	100.0	271	100.0

③所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a.行政関係者	25	11.0	13	43.4	-	-	38	14.0	14.8
b.研究者・大学教員	11	4.8	1	3.3	-	-	12	4.4	4.7
c.小・中・高校教員	3	1.3	-	-	-	-	3	1.1	1.2
d.団体・グループ	97	42.6	5	16.7	6	46.1	108	39.9	42.2
e.施設関係者(女性／男女共同参画センター・社会教育施設等)	39	17.1	-	-	-	-	39	14.4	15.2
f.企業関係者	4	1.8	-	-	-	-	4	1.5	1.6
g.学生	3	1.3	-	-	-	-	3	1.1	1.2
h.その他※	37	16.2	10	33.3	2	15.4	49	18.1	19.1
無回答	9	3.9	1	3.3	5	38.5	15	5.5	
合計	228	100.0	30	100.0	13	100.0	271	100.0	100.0

※「その他」の主な内容

- ・主婦 5件
- ・一般市民、委員
- ・タウン誌編集
- ・弁護士
- ・NPO法人
- ・議員
- ・男女共同参画推進委員
- ・郵便局員
- ・NPO法人人権擁護委員
- ・甲府市男女共同参画推進委員
- ・地域政党
- ・無職
- ・NWECボランティア
- ・社会福祉法人
- ・農業

④フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	93	40.9	15	50.1	4	30.8	112	41.4	49.9
1回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.4	0.4
2回目	22	9.6	3	10.0	1	7.7	26	9.6	11.6
3回目	29	12.7	4	13.3	1	7.7	34	12.5	15.1
4回目	11	4.8	1	3.3	-	-	12	4.4	5.3
5回目	9	3.9	1	3.3	-	-	10	3.7	4.4
6回目	5	2.2	-	-	-	-	5	1.8	2.2
7回目	1	0.4	1	3.3	-	-	2	0.7	0.9
8回目	5	2.2	2	6.7	-	-	7	2.6	3.1
10回目	10	4.4	-	-	1	7.7	11	4.1	4.9
11回目	2	0.9	-	-	-	-	2	0.7	0.9
12回目	2	0.9	-	-	-	-	2	0.7	0.9
15回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.4	0.4
無回答	37	16.3	3	10.0	6	46.1	46	17.0	
合計	228	100.0	30	100.0	13	100.0	271	100.0	100.0

平成 27 年度「男女共同参画推進フォーラム」

募集ワークショップ(ワークショップの部及びパネル展示の部)運営者アンケート集計結果

2015 年 8 月 31 日現在

ワークショップの部 43 団体

アンケート提出回答率 100.0 %

パネル展示の部

6 団体

アンケート提出回答率 100.0 %

1. 参加人数

人数	WS	%	パネル	%	合計	%
1~20 名	8	18.6	-	-	8	16.3
21~40 名	22	51.2	-	-	22	44.9
41~60 名	8	18.6	1	16.7	9	18.4
61~80 名	4	9.3	-	-	4	8.2
81~100 名	-	-	-	-	-	-
101 名以上	1	2.3	-	-	1	2.0
無回答	-	-	5	83.3	5	10.2
合計	43	100.0	6	100.0	49	100.0

※パネル無回答;「通りがかりの人なので数は不明」

2. ワークショップ/パネル展示を実施してみていかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

選択項目	WS	%	※%	パネル	%	※%	合計	%	※%
とてもよかったです	33	76.7	80.5	3	50.0	50.0	36	73.4	76.6
よかったです	7	16.3	17.1	2	33.3	33.3	9	18.4	19.1
少し物足りなかった	1	2.3	2.4	1	16.7	16.7	2	4.1	4.3
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	4.7		-	-	-	2	4.1	
合計	43	100.0	100.0	6	100.0	100.0	49	100.0	100.0

3. 準備・運営にあたっての意見・感想など(抜粋)

【ワークショップの部】

- ・会場からの発言も多く、地方や中小企業での社風といえる女性差別の実態や裁判に訴えたことにより職場が変わったなどが話された。20人の会場だったので資料を25部しか準備せず足りなくなつた。欲しい人には後日送ることを約束した。
- ・収集したアンケート結果を分析して、企業研修に役立て、又、男女共同参画推進の参考情報とし提供予定です。
- ・準備するに当たり前泊しましたが、それはそれで交流が出来、結果としてよかったです。
- ・参加者がたいへん興味深く、理解していただき有意義でした。男女参画の活源の方々のゆるぎない前進とパワーを受け取って次につなげてゆく応援のワークショップになったと思います。

- ・入口外に貼り出すワークショップタイトルの用紙はもう少し早目にいただきたかった。・定員いっぱいの方にお集まりいただけて大変よかったです。
- ・防災避難所運営ゲーム体験を実施しましたが同じ時間に他の団体も実施されている様子。プログラムが重なっているようだった。自分でも参加したいWSが重なってしまっている。

【パネル展示の部】

- ・パネルの前で説明のために待機していると、参加者の方々が遠慮されて、見に来られなかつた。もっと気軽に説明を求める展示方法を考えていければと考えました。
- ・プログラムの時間の中に、パネル展示のみを紹介、説明できる時間を集中的に作ってほしい。そのようなパネル出展者と参加者との双方向な話ができる仕組みがあつて良いと思う。
- ・パネルが2面のみだったが、最低3面は欲しいです。以前の様に希望枚数を（参加者によって調整があるか最大の上限を予め決めておく）を申告できるようにして欲しいです。

4. ワークショップ実施回数(複数回答)

実施年度	WS	パネル
平成27年度(初めて)	13	一
平成26年度	25	3
平成25年度	25	5
平成24年度	23	3
平成23年度	17	4

平成 27 年度「男女共同参画推進フォーラム」 特別講演「超成熟社会の鍵は”女性”」参加者アンケート集計結果

20 日参加者数:681 名(講師・会館関係者を除く) アンケート回答数:320 件 アンケート回答率:47.0%

●「特別講演」について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかったです	153	59.3	28	59.6	8	53.3	189	59.1	60.6
よかったです	78	30.2	16	34.0	3	20.0	97	30.3	31.1
少し物足りなかった	19	7.4	2	4.3	2	13.3	23	7.2	7.4
物足りなかった	3	1.2	-	-	-	-	3	0.9	1.0
無回答	5	1.9	1	2.1	2	13.3	8	2.5	
合 計	258	100.0	47	100.0	15	100.0	320	100.0	100.0

※主な感想・意見

- ・若い私達が聞くべきお話だと思いました。つい最近まで、林さんが高校を卒業してすぐには、女性が営業なんてありえないという話について、そういった話が信じられませんでした。
- ・「市民はお客様」「市民と役所とのエール交換が大事」この言葉がすごく心に響きました。「市民はお客様」とは分かっていますが、なかなかそういう心構えでできていただろうかとふと考えてしまいました。市民の皆様のために、市民の方へ目を向けてしっかり仕事をしていきたいと改めて、思いました。
- ・「方向性はもうわかっている。これからは具体的にどうするか?」との話はとても共感しました。
- ・実体験で得たものを素直にお話されていたので、分かりやすく心に響きました。成功も失敗も全てご自身の糧にされていらして、私自身の仕事に対する取組の仕方や考え方を見直す機会になりました。環境が悪いからできないのではなく、その状態でどうすれば良いのか考え行動することの大切さも学びました。また、人とのつながりがとても大事だということを改めて感じました。自分は林横浜市長よりはるかに良い環境の中で仕事ができます。”自分がどうなりたいのか”見つめ、考え、行動していきたいと思います。
- ・一人ひとりの活躍が社会をつくる、ぴったりの講演であった。実践に基づく生き方、働き方を述べられそれぞれに男女共同参画への視点から問題と捉え、懸命に信念をもって取り組まれた道はとても説得力があった。人が生きていく上で一人では生きられない、女性営業マンとしてひたむきに取組まれた姿勢は市長になってもごくふつうに職員へ異文化理解と同士づくりとなっている。
- ・林市長が幼少からご苦労ってきたこと、又、営業としてのエピソード等とても感動しました。現在市長として待機児童ゼロに必死に取組まれ素晴らしい実績をあげていることも感動しました。私も、女性議員としてスタートしたばかりですが、女性が活躍できる地域社会づくりを目指し、頑張っていきたいと感じ有意義な時間となりました。

●あなたご自身について

①性別、②年齢 (※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
20代	19	7.4	10	21.3	1	6.7	30	9.4	9.6
30代	19	7.4	7	14.9	1	6.7	27	8.4	8.6
40代	30	11.6	7	14.9	2	13.3	39	12.2	12.4
50代	50	19.3	7	14.9	3	20.0	60	18.8	19.1
60代	89	34.5	6	12.7	5	33.3	100	31.2	31.8
70代	41	15.9	10	21.3	-	-	51	15.9	16.2
80代	6	2.3	-	-	-	-	6	1.9	1.9
無回答	3	1.2	-	-	3	20.0	6	1.9	
合計	258	100.0	47	100.0	15	100.0	320	100.0	100.0

③所属 (※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a.行政関係者	43	16.7	19	40.4	1	6.7	63	19.7	20.9
b.研究者・大学教員	7	2.7	2	4.3	-	-	9	2.8	3.0
c.小・中・高校教員	1	0.4	1	2.1	-	-	2	0.6	0.7
d.団体・グループ	120	46.5	10	21.3	9	60.0	139	43.4	46.1
e.施設関係者(女性／男女共同参画センター・社会教育施設等)	26	10.1	6	12.8	1	6.7	33	10.3	11.0
f.企業関係者	4	1.6	1	2.1	-	-	5	1.6	1.7
g.学生	14	5.4	-	-	-	-	14	4.4	4.7
h.その他※	28	10.8	8	17.0	-	-	36	11.3	11.9
無回答	15	5.8	-	-	4	26.6	19	5.9	
合計	258	100.0	47	100.0	15	100.0	320	100.0	100.0

※「その他」の主な内容

- ・主婦 2件
- ・男女共同参画推進員
- ・委託、元地域推進員
- ・自営
- ・議員
- ・大学 男女共同参画担当者
- ・パート
- ・弁護士
- ・大学 男女共同参画アドバイザー
- ・企画デザイン及びキャリアコンサルタント
- ・元高校教員
- ・おもちゃコンサルタント
- ・社会福祉法人職員
- ・市民活動家
- ・中小企業者

④フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	129	50.0	31	66.0	7	46.7	167	52.2	58.2
2回目	27	10.5	5	10.6	1	6.7	33	10.3	11.5
3回目	22	8.5	2	4.3	—	—	24	7.5	8.4
4回目	17	6.6	2	4.3	1	6.7	20	6.3	7.0
5回目	12	4.7	2	4.3	—	—	14	4.4	4.9
6回目	5	1.9	—	—	—	—	5	1.6	1.7
7回目	2	0.8	1	2.1	—	—	3	0.9	1.0
8回目	1	0.4	2	4.3	—	—	3	0.9	1.0
10回目	9	3.5	1	2.1	1	6.7	11	3.4	3.8
11回目	1	0.4	—	—	—	—	1	0.3	0.3
12回目	2	0.8	—	—	—	—	2	0.6	0.7
13回目	1	0.4	—	—	—	—	1	0.3	0.3
20回目	3	1.2	—	—	—	—	3	0.9	1.0
無回答	27	10.5	1	2.1	5	33.3	33	10.3	
合計	258	100.0	47	100.0	15	100.0	320	100.0	100.0

平成 27 年度「男女共同参画推進フォーラム」

シンポジウム「北京世界女性会議-あの時、今、そしてこれから」参加者アンケート集計結果

21 日参加者数(講師・会館関係者を除く)792 名 アンケート回答数:233 件 回答率:29.4%

●「シンポジウム」について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかったです	99	52.1	21	72.4	6	42.9	126	54.1	55.2
よかったです	69	36.3	8	27.6	6	42.9	83	35.6	36.4
少し物足りなかった	14	7.4	-	-	1	7.1	15	6.4	6.6
物足りなかった	4	2.1	-	-	-	-	4	1.7	1.8
無回答	4	2.1	-	-	1	7.1	5	2.1	
合 計	190	100.0	29	100.0	14	100.0	233	100.0	100.0

※主な感想・意見

- 若い世代には女性差別について見えなくなっているという言葉を聞いて確かにと思った。すごく刺激的だった。
- 女性の権利や健康など自分があたり前だと思っていたことは、パネリストの方々が提言し、策定してきたものと知り、この20年間のご尽力を感じる事ができた。今後の課題については行政担当者として少しでも改善していくよう努力していきたい。
- 具体的な行動への示唆に富んだ大変参考になるフォーラムでした。世代の変化、推進する新たな女性リーダーがそれぞれの立場で活躍されれば嬉しいと思います。
- 北京会議の事が少しあつた気がしました。その頃はフルで働いて、関わっていなかったので。一人一人が行動できること。身近な人と話ができる事。実行する事で変わっていくと思います。
- 当時の雰囲気を思い出し、かつ全体の意味、そして今の課題を短時間に整理してもらい、とても有意義なシンポであった。あのビデオを今日参加できなかった人々にむけて、ビデオにして各地に届けるのも必要なことではないかと思う。
- 北京会議について、今までどんなものか知らなかったが、今回のシンポジウムを通じて、20年前に重大な決議をしていることを知ることができてよかったです。政治や職場管理職の関係では、女性の比率が低いため、今後も解決していく方法を考えなければならないと思った。
- むずかしいテーマで私には大きすぎる。市民の目線で身近なところで、実践できることをもっと勉強したい。参考になりました。(国、県、市町村のテーマでは大きすぎる)
- 各分野で活躍されている方々から元気をいただきました。格差、差別、暴力、健康、多方面から北京世界女性会議から実情を聴き最終的には教育(心の力)が人を育て社会を変えていく重要な役割と思いました。又、女性の役割が重要です。先ず、家庭から周囲から開発活動を積極的にしていく所存です。
- いろいろなジャンルのパネリストからご意見をお聞きすることができ、よかったです。一人一人が問題に关心を持ち、理解し、身近な人に行動することが必要だと思います。国を越え、交流を深め学ぶ…一人一人の家族から地域へ世界へ男女共同参画を進めましょう。よりよい未来のために。
- 今日の話を隣のおばちゃんに話さねばと思います。「どう行動していくか」を。今日参加できてうれしかったです。

●あなたご自身について

①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
20代	13	6.8	3	10.3	-	-	16	6.9	6.9
30代	16	8.4	5	17.2	2	14.3	23	9.9	9.9
40代	26	13.7	6	20.7	-	-	32	13.7	13.8
50代	53	27.9	5	17.2	3	21.4	61	26.2	26.3
60代	53	27.9	2	6.9	3	21.4	58	24.9	25.0
70代	28	14.7	7	24.1	5	35.7	40	17.2	17.2
80代	1	0.5	1	3.4	-	-	2	0.9	0.9
無回答	-	-	-	-	1	7.1	1	0.4	/
合計	190	100.0	29	100.0	14	100.0	233	100.0	100.0

③所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a.行政関係者	25	13.2	8	27.6	1	7.1	34	14.6	15.3
b.研究者・大学教員	8	4.2	1	3.4	1	7.1	10	4.3	4.5
c.小・中・高校教員	-	-	-	-	-	-	-	-	-
d.団体・グループ	77	42.6	7	24.1	6	42.9	90	38.6	40.5
e.施設関係者(女性／男女共同参画センター・社会教育施設等)	34	17.9	3	10.3	-	-	37	15.9	16.7
f.企業関係者	1	0.5	-	-	2	14.3	3	1.3	1.4
g.学生	7	3.7	-	-	-	-	7	3.0	3.2
h.その他※	30	15.8	9	31.0	2	14.3	41	17.6	18.5
無回答	8	4.2	1	3.4	2	14.3	11	4.7	/
合計	190	100.0	29	100.0	14	100.0	233	100.0	100.0

※「その他」の主な内容

- ・一般市民委員
- ・NPO法人、人権擁護委員
- ・男女共同参画推進委員
- ・男女共同参画市民活動(NPO)
- ・DV活動家
- ・婦人部
- ・委嘱、元地域推進員
- ・自営業

④フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	90	47.4	16	55.2	6	42.9	112	48.1	55.4
2 回目	19	10.0	3	10.3	2	14.3	24	10.3	11.9
3 回目	19	10.0	3	10.3	—	—	22	9.4	10.9
4 回目	8	4.2	1	3.4	2	14.3	11	4.7	5.4
5 回目	9	4.7	2	6.9	—	—	11	4.7	5.4
6 回目	3	1.6	—	—	—	—	3	1.3	1.5
7 回目	—	—	1	3.4	—	—	1	0.4	0.5
8 回目	6	3.2	1	3.4	—	—	7	3.0	3.5
10 回目	4	2.1	1	3.4	—	—	5	2.1	2.5
11 回目	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
12 回目	2	1.1	—	—	—	—	2	0.9	1.0
13 回目	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
15 回目	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
16 回目	1	0.5	—	—	—	—	1	0.4	0.5
無回答	26	13.7	1	3.4	4	28.6	31	13.3	
合 計	190	100.0	29	100.0	14	100.0	233	100.0	100.0

平成 27 年度「男女共同参画推進フォーラム」
映画「人生、いろどり」上映会参加者アンケート集計結果

22 日参加者数:348 名(講師・会館関係者を除く) アンケート回答数:57 件 アンケート回答率:15.2%

●「映画上映会」について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とてもよかったです	29	59.2	3	50.0	-	-	32	56.1	72.7
よかったです	9	18.4	1	16.7	1	50.0	11	19.3	25.0
少し物足りなかった	-	-	-	-	1	50.0	1	1.8	2.3
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	11	22.4	2	33.3	-	-	13	22.8	
合 計	49	100.0	6	100.0	2	100.0	57	100.0	100.0

※主な感想・ご意見

- ・どんな事にも一生懸命なら、なんでもできるんだと、年齢は関係ないと思いました。昔忘れていた気持ちを思い出させていただきました。
- ・上勝町のことは、いろいろなところで取り上げられているので、それ程期待をしていなかったが、映画をみて今まで知らなかつたこと、順調に行くまでのことで45日程季節を先取りするために、ハウスで栽培している事など、初めて知ることができて良かったです。隣席された方は、この映画をみたいと思ってたので良かったとおっしゃっていました。
- ・いろどりは今回で2回目でしたが、また勇気をいただきました。女性の自立、夫婦の問題、男女の問題、仕事の問題を考える機会となり、新しい発想が次につながる事を教えていただきました。
- ・画面が1つ1つ美しくて、進み方もゆっくりで、印象に残りました。投資を余りせず、アイディア次第で土地活用できる農業には、これから日本企業へ大きな期待がもてます。
- ・観たかった映画のみの参加でしたが、とても良かったです。次回は他のワークショップにも参加してみたいと思います。
- ・この映画のテーマはNWEC にぴったりだと思いました。女性のエンパワーメントが自然に描かれていた。夫の意識改革が最もむずかしいのですが?それでも可能にしたのはすばらしい!実際は困難でしょうが、そうありたいですね。
- ・とてもよかったです。内容も、日本の景色も、働く意欲も、ゆたかな気持ち、かなしい気持ち、いい時間をありがとうございました。
- ・普段手にしない種類の映画なので、この機会に観ることができたのはよかったです。

●あなたご自身について

①性別、②年齢

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	2	4.1	-	-	1	50.0	3	5.3
30代	3	6.1	1	16.7	-	-	4	7.0
40代	3	6.1	1	16.7	1	50.0	5	8.8
50代	11	22.4	1	16.7	-	-	12	21.1
60代	18	36.7	2	33.3	-	-	20	35.1
70代	11	22.4	1	16.7	-	-	12	21.1
80代	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8
合計	49	100.0	6	100.0	2	100.0	57	100.0

③所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
a.行政関係者	5	10.2	-	-	1	50.0	6	10.5	11.5
b.研究者・大学教員	-	-	-	-	-	-	-	-	-
c.小・中・高校教員	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	1.9
d.団体・グループ	16	32.7	2	33.3	-	-	18	31.6	34.6
e.施設関係者(女性／男女共同参画)	6	12.2	-	-	-	-	6	10.5	11.5
f.企業関係者	2	4.1	1	16.7	1	50.0	4	7.0	7.7
g.学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-
h.その他※	14	28.6	3	50.0	-	-	17	29.8	32.7
無回答	5	10.2	-	-	-	-	5	8.8	
合 計	49	100.0	6	100.0	2	100.0	57	100.0	100.0

※「その他」の主な内容

- ・主婦(3件)
- ・秋田県男女共同参画推進員養成研修中
- ・ボランティア
- ・保育園補助

④フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	24	49.0	4	66.7	1	50.0	29	50.9	63.0
2回目	4	8.2	-	-	-	-	4	7.0	8.7
3回目	3	6.1	-	-	-	-	3	5.3	6.5
4回目	1	2.0	1	16.7	-	-	2	3.5	4.3
5回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
6回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
8回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
9回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
10回目	1	2.0	1	16.7	-	-	2	3.5	4.3
11回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
12回目	1	2.0	-	-	-	-	1	1.8	2.2
無回答	10	20.4	-	-	1	50.0	11	19.3	
合 計	49	100.0	6	100.0	2	100.0	57	100.0	100.0

**平成27年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ・パネル展示
フォローアップアンケート集計結果**

参加ワークショップ数: 49
 アンケート回答数: 49
 アンケート回収率: 100.0 %
 (参考: 26年度回収率 100.0%)

1 フォーラムで実施したことは、その後の業務・活動に役立っていますか。

	件数	%
1. 非常に役立った	29	59.2
2. 役立った	18	36.7
3. あまり役立たなかった	2	4.1
4. 役立たなかった	-	-
合 計	49	100.0

2 ワークショップを実施したことによって得た成果をどのように活用・普及しましたか。
(複数回答可)

	件数 (49件中)	%
1. ホームページや広報資料へのワークショップ実施報告の執筆・公表	21	42.9
2. つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換	33	67.3
3. 勉強会・研修会の開催	20	40.8
4. 講師や報告者として他機関・団体の事業協力	19	38.8
その他	14	28.6

その他(具体的に)

W1	ワークショップで参加者に配布した「人を多く集めた男女共同参画講座事例一覧」の資料はホームページに掲載しているので、多くの人に閲覧されて、「とても役に立つ」と喜ばれている。また、国立の施設でワークショップを行っているということで、男女共同参画センターや生涯学習施設だけでなく、民間団体や労働組合からも「男女共同参画」や「女性が活躍する社会」に関する研修会などの講師を依頼されることが増え、男女共同参画の普及に資することができている。 講座企画塾ホームページ http://ptokei.net/
W2	ドイツ研修の事前研修の意味も含めたワークショップ参加となりましたが、他県の方から評価を頂きまたより一步前に出ることができました。ドイツ研修から戻り仲間の中から出ている、議員6名と会員が、よりつながる為に、50名程で会員として今後の活動をどうしようかと全体研修を行い、このような研修を何度も持つて欲しいと要望が出るほど充実した会員研修ができました。
W4	ワークショップ実施を実績として行政や自治会にPRできた。 ①行政からの男女共同参画事業の受託にかかるプレゼンで又エックでワークショップを開催したと報告することで、活動の信頼感を深めることができた ②ワークショップの成功を糧に、1/30 「誰もが安心・安全に暮らせる街づくり」と題して、盛岡の田端八重子さん、乳幼児を抱えて被災した外国籍のママなどを呼び込んでフォーラムを開催した。参加した自治会長さんたちの好評を得た。 ③多様な方たちを対象とした「多言語の防災ガイドブック」を1年かけてママたちが作成した。
W8	・日本各地から集まった多様な方々に、女性差別撤廃条約の存在や、その活用方法を知ってもらう機会になった。 ・女性を取り巻く多種多様な課題について、女性差別撤廃条約の視点から問題提起することができ、情報の共有が可能となつた。
W9	ゼミの中での報告などを行うときに、ワークショップを行った経験が、学生自身の自信につながったと思われる。

W10	又エックでのワークショップの成果をまとめた添付ニュースレターをご覧ください。 また、当会の活動をFacebookで発信しております。 https://www.facebook.com/quota.japan
W12	①食空間コーディネート協会関東甲信越支部は、初めての試みでしたが、全国から、熱心にご参加いただきよかったです。 ②広い視野に立っての活動の必要性を再認識した。
W14	行政職の方と交流することができました。
W15	* 当団体ホームページへの掲載(参加者のアンケート結果を含む)ホームページは『婦人国際平和自由連盟日本支部』新着情報で検索できます。 * ワークショップ参加者のうち、連絡先(ご住所)をいたいたい方への会報の送付
W16	ワークショップに参加した方が、当法人が実施しているアンケートの趣旨を理解し、協力してくださったこと。参加者自身はもちろんのこと、職場の同僚などに呼びかけてくださいました。
W17	・伝統的な染色文化(紅板締)の復元活動と現代の女性問題の意義が掘り下げられ、共有し確認できたことの、私自身の確信が一番の効果であった。その立場にたっての意見発表を行っている。 ・高崎市医師会展の展示紹介(於高崎高島屋6階ホール)11月 ・高崎 日本絹の里 紅絹作品展示紹介 2月 ・BENI紅写真集の発刊
W21	当方の活動に活用したい。
W25	・世代交替により諸団体の会員の組織や意識に変更が見られるので、いろいろな方法で男女共同参画を伝えていかなくてはならない。研修会を開催し、ワークショップの成果が伝えられて有意義であった。 ・(一社)国女振徳島県支部の研修会で成果を報告した。その会に会員以外の参加者もあり、多くの人に関心を持ってもらえた。
W26	又エック国立女性教育会館研修室で開催しています。源りう会男女共同参画学習会「初めての源氏物語」の受講者の方、(木)(土)また、飯能市立図書館で開催されています。教養講座での受講者の方フォーラムのワークショップに参加されて、大変有意義であったと喜んでいただきました。北海道の各市の方々、その他各県、市の方、今後の講演についてのこと。
W27	本ワークショップ「北京+20以後の課題と戦略」の中心的なテーマとなった「ポスト2015開発目標／持続可能な開発目標(SDGs)」の内容をもっと勉強したいとの意見が、当日、参加者から出された。また、2016年3月に開催される第60回国連女性の地位委員会(CSW)の優先テーマも「女性のエンパワーメントと持続可能な開発との関連性」であることから、「2030アジェンダ」について、さらに理解を深め、動向を共有するために「CSW60にむけての連続勉強会」を2015年11月26日(木)に開催した(於:城西国際大学紀尾井町キャンパス、18:30-20:40)。なお、JAWWは、毎年CSWにNGOとして参加している。
W29	女性差別撤廃条約批准30周年記念連続講座(全4回)の第1回としてワークショップを実施し、条約の普及という団体の目的に照らし大変成果があったので、来年もフォーラムに参加して連続講座の最終回となるワークショップを実施したいと計画している。
W30	・当日ご参加いただけなかった企業系の方のご要望をきっかけに、本年2月に「女性の活躍応援セミナー」を開催。現役女性エグゼクティブご自身による特別講演も含め、好評を得た。さらに新たなネットワークの拡がりにもつながっている。
W32	・プログラムの構成ですが、私どもの行なった時間帯に防災を扱うワークショップが重複していたことがとても残念だった。 ・又エックで実施する利点は、全国から参加されている方々のご意見がその場でお聞きすることができることで、今回のWSも被災地を含む北海道から九州までの参加者からたくさんのご意見を聞くことができた。 ・避難所運営をゲームにして、具体的な内容を盛りだくさんにして行なったことで、参加者から多岐に亘るご意見をいただけた。 ・後日、大分県の参加者より、この講座を実施してほしいとのことで、予算化するための詳細の問い合わせがあった。
W34	参加者の中に公的機関の男女共同参画推進担当の方々が多く、ダイバーシティについて学びたい、企業での推進事例を知りたいという要望が強くありました。個別に参加者への情報提供をしたり、NWEC事業課関係者にご報告したりしています。
W35	・機関紙「マンスリー北京JAC」9月号に内容紹介。対話者の若い世代の方3人に感想を書いていただいた。 ・当日のアンケートで「若い世代との対話」という設定は評価いただいている。 ・対話者の1人をJAWWが行うCSWへの「若者派遣」は応募するよう勧め、採用されて参加できることになった。 ・11月の北京JACとしての北京+20(北京JAC20周年)開催に向けて実績作りになった。
W38	ワークショップ参加者とのつながりができたことで、その後の勉強会などの情報を提供しあっている。
W39	おかげさまで参加者の中のお二人が会に入つておられない「船橋の晶子を語る会」を希望され、H28年3月4日、船橋男女共同参画センター(旧女性センター)で、講演会をする。そのチラシを入れておきます。会のメンバーはすでに10~15名あります。その方たちに当日参加発表してもらう。
W40	『ピーターラビット』から読み解くピアトリクス・ポターの人生、生涯、社会活動キャリアを通して女性の社会進出、活動、起業、男女共同参画、環境保全などを学びあうことの意義を再確認した。ワークショップの参加者が女性の生き方、他者の生き方から学び合うそして地域で活動を広めることを願って。
P2	◎パネル制作の依頼があり、納品しました。これまで、この機会をいたいたいお蔭で、各地の自治体から、問い合わせや借用依頼、制作依頼が来ています。 ◎毎年テーマを変えての制作、発表の場として、自分たちの学習・研究意欲を高めてさせていただいています。

3 今後、会館で実施する事業に望むことなどを、ご自由にお書きください。

W2	28年度も是非ドイツ研修を持参して、フォーラムに参加したいと考えています。
W3	男女共同参画推進フォーラムの募集ワークショップには、NWECフォーラム時代の2009年から7年連続で参加させていただいております。毎年違ったテーマで「男女共同参画落語を含む講演」を提供し、延べ456人の皆さんに来場していただく一方、当会会員も他のワークショップに参加し、交流の輪が広がりました。その結果、2012年以降は全国の自治体、推進団体からの講演依頼が年20回を超えるようになり、昨年、通算の依頼回数が100回に達しました。こうした募集ワークショップの波及効果をさらに高めるため、全国すべての市町村からの参加を、本気で目指してください。どこにも不毛地帯を作らないことが、ナショナル・センターの責務です。
W4	行政の男女共同参画の職員研修で開会の基調講演を聞きに来るのが恒例になっているが、時間の都合で基調講演だけを聞いて帰ってしまう状態になっている。大ホールでの基調講演は関心がない人はきちんと聞かないので、基調講演の代わりに全体ワークショップを実施したら良いのではないか。嫌でも参加せざるを得ないので。
W5	イベント周知やスケジュール調整の関係もあるので、もう少し部屋がどこに取れたかが早く分かるといいと思います。
W6	2015年度のワークショップで福岡市男女共同参画センター（アミカス）の方と知り会いました。その後、アミカスホール（定員300名）にて2016年1月30日に音楽講座『世界の音楽シーンを変えた女性音楽家』を実施しました。参加者は、およそ100名でした。音楽をテーマにすることで、より広がりのある市民の方に施設を知っていただくきっかけになりました。また、音楽と、その歌詞の中に込められた女性音楽家の生の感情を感じていただくことで、同じ女性としての共感を感じていただけたと思います。2016年の夏のエックフォーラムにおいては、少し開催会場を広い部屋でやってみたいと感じております。どうぞ、よろしくお願ひいたします。
W7	女性の自立、地方からの起業、生きがい、人ととの共同参画などを考える機会を望みます
W8	・このフォーラムは、全国から、女性に関する問題について情報を発信したり、共有したり出来る場なので、今後も続けていただきたい。 ・このフォーラムに参加申請してから、決定までの時間を短縮していただきたい。（割り当ての日時や、会場をもっと早くに知りたい） ・NWECの企画事業を、各地で実施していただきたい。
W9	若い世代の方々が、参加しやすい企画を望みます。
W10	プログラム切替の1時間を、現状は撤収30分、準備30分の配分にしてありますが、これを撤収20分、準備40分に変更いただけませんでしょうか。 撤収より、準備の方が時間がかかり、また撤収に20分と思えば、時間通りに終了し急いで片づけをしていただけ、次の方の準備に余裕が出ると思います
W11	これまで何度も、このような機会を与えていただきましたことを、大変ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。
W12	(1)実施型（ワークショップ併用）セミナー (2)開催内容を事前告知・PRができるとより多くの方に参加いただけると思います。
W14	広報の機会をいただき、ありがとうございました。今後とも、どうぞ宜しくお願ひいたします。
W15	今回のフォーラムでは、NGOばかりでなく、全国の各地域自治体で活動されている方々と一緒にして交流することができたことが大変よい経験になりました。ぜひ、毎年このような機会を持っていただければ幸いです。（会報別送）
W16	毎夏のNWECフォーラムに参加し、全国の女性関連施設の職員や利用者の方々と交流することを重視しており、当法人の年度計画にも組み込んでいます。今後も引き続き、実施をお願いいたします。
W17	・運営アンケートにあるように、発表の日が最終日の設定で参加者数も少なく、広がらなかったのを残念に思っている。（一日目、二日目もあいている部屋も見受けられたので）
W20	女性の人権に関する幅広いテーマを扱った事業を展開してほしい。さまざまな立場の女性たちをつなげるような事業も実施してほしい。
W21	同等の催事を関西で開催することを希望します。
W22	・ワークショップ開催の可否の結果通知を、早くしてほしいです。運営者の宿泊数を増やしてほしい。結果通知が遅くなると、2名を超えるスタッフの宿泊場所を探すのが困難になります。研修等での報告書等の販売を復活させて欲しいです。案内ちらしの壁への掲示がダメになる、講堂での講演に参加しパソコンを打っていたら注意を受けた、など規制がきつくなつたように感じます。ワークショップの出展者も少くなり、活気が無くなっていました。この状態が続けば、大阪など遠方から、時間・予算と労力をかけての参加は難しくなります。

W25	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加だったので、よくわからなかった。以下は感じたことである。 ・ワークショップへの参加者が多かったので与えられた部屋が狭く入りきらなかった。もっと広い部屋がほしかった。 ・参加者から問題点が多く出たが話し合う時間が不足した。 ・つながりができる組織・団体との連絡・情報交換ができなかつた。残念に思っている。
W26	<p>夏のフォーラムは今まで通り継続していただけるように希望します。昨年のフォーラムで拝見しました映画大変よかったです。ぜひ今年度または来年度でも結構ですから「稻塚権次郎物語NORIN TEN」を上映していただきたくお願い申し上げます。(農の神と呼ばれた男)</p>
W27	<p>本フォーラム(NWECフォーラム)は、一年に一度、全国から同じ興味や関心を共有する女性たちが集まり、交流できる貴重な機会です。今後もNWECフォーラムの開催が継続され、新たな問題や活動を知り、ネットワークを構築する場としての役割を担っていただきたいと思います。また、草の根の女性たちが参加しやすいよう配慮をお願いします。</p>
W31	<p>女性の起業に係るネットワークづくり等を支援する講座などの事業</p>
W32	<ul style="list-style-type: none"> ・夏のフォーラムは恒例で、楽しみにしている事業です。出会いを楽しみにしていますが、年齢層の高齢化も目立つため、若者を引き込む工夫をしていただきたいです。 ・事業参加者よりのアンケートまとめを添付します。ご参考までに。
W36	<p>大変貴重な場であるので、このフォーラムの継続を望みます。</p>
W38	<p>会館の長期利用を促すような仕組み作り。たとえば 1週間ほど長期のゼミ形式のワークショップにも魅力を感じる。</p>
W39	<p>宣伝ビラを置かせてもらっていても手で配らないと参加者にはもっていかれない。しかし、事前の講演会のダイジェストの宣伝文は読まれて、当日参加することを事前に計画されて参加されている。宣伝の仕方を一考してほしい。</p>
W40	<p>“ワークショップ”に参加できたこと。これを機にさらに楽しく学び合う楽しいグループ活動を活性化できると思うし目指したい。</p>
W41	<p>今年も参加させていただき、ありがとうございます。全国の皆さんと交流できる大変貴重な機会として活用させていただきました。今後も引き続き参加させていただけるよう、活動を充実させていきたいと思います。</p>
W42	<p>毎年、ワークショップを開催して、広い地域や階層の方々とジェンダー平等をすすめる教育の課題について交流を広げたいと考えています。しかし、例年苦労する点は、次の点です。 ①開催日時の決定が遅いこと…参加するメンバーの日程の調節が予定できず、他の課題と重なるなど、不安です。幸い2015年度は、第1希望が通ったのですが、もう少し早めていただきたい。 ②テーマの内容が絞られ過ぎて、私たちの課題と絡みにくい年があること…幸い2015年度は、第3次行動計画全般にわたっていたので、テーマの設定が、私たちの問題意識につながるものとして設定できました。</p>
W43	<p>平成27年度事業に参加させていただいたことは、大きな自信になりました。27年度豊橋男女共生フェスティバルの第一分科会で、減災と克災と題して名古屋大学減災館准教授とのコラボでクロスロードを展開しました。又機会があれば参加させていただきたいと考えています。</p>
P1	<p>今まで、なじみのない方も参加したくなるようなイベントだったり、子育て世代が、参加しやすい仕組み(保育付き)だったり、新たなチャレンジもあってよいのかなと思いました。</p>
P2	<p>◎このフォーラムは、全国から、女性に関する問題について情報を発信したり、共有したり出来る場なので、今後も続けていただきたい。 ◎このフォーラムでの懇親会は、賑やかで、懐かしい人たちとの顔合わせにもなり、大変微笑ましいけれど、残念ながら大音量で話が聞きにくく感じます。(と言っても、代案があるわけでもなく…。)</p>
P3	<p>若い世代に焦点を当てた男女共同参画の企画を期待したい。</p>
P4	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示の運営者がパネルの内容を説明できるような時間帯を設けて欲しい。 ⇒ポスターセッションの時間を設けたらよいのではないでしょうか？ ・パネル展示の場所がわかれているので、できれば一緒にするか、場所がわかるような地図を作成してはどうでしょうか。
P6	<p>安倍政権になり、「女性の活躍推進法」ができたが、経済分野が主で、政治分野がすっぽりと抜けている。18歳選挙権が実施されたことも踏まえて、北欧諸国の事例を参考にして日本版の ◇中高生を対象としての男女共同参画視点の政治教育プログラムを開発する。 ◇男女共同参画の視点が入る教職員向けの研修会を実施する。 ◇一票の格差解消だけでなく男女格差を是正する選挙制度改革を検討する。</p>
	<p>* 愛知県には女性首長が一人もない。2013年1月に憂慮する女性団体仲間と「女性首長を実現する会 あいち」(検索参照)を結成。2014年の一周年行事ではヌエックで知己を得た中川智子宝塚市長の講演。2015年から年に2~3回FL政治塾開講、10月から毎月、塾長ゼミ実施。2016年の三周年では地元の男性国会議員三人を招き「闘論・クオータ制」を実施。</p>

平成27年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学、短期大学、高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められています。

一方、時代に適合した特色ある大学経営を進めるための経営戦略の一つに「男女共同参画」を位置付け、取り組むことが大学の研究力を上げ、学生を指導していく上で極めて有効です。

本セミナーでは、大学が進むべき方向についての基調講演や講義、これまで各大学が取り組んできた女性活躍推進についての具体的な好事例の紹介や、これから男女共同参画推進をとりまく状況についての豊富なデータ分析を通じ、学内で男女共同参画に携わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行います。

2. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

3. 後 援

一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、
日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会
独立行政法人国立高等専門学校機構

4. 会 場

1日目：プラザエフ（主婦会館）
〒102-0085 東京都千代田区六番町15 (JR 四ツ谷駅麹町口すぐ)
2日目：国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

5. 期 日

平成27年12月3日（木）～12月4日（金） 1泊2日

6. 参 加 者

大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労、入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員

7. 内 容

第1日 12月3日(木)

【東京四ツ谷会場：プラザエフ（主婦会館）】

(1) 開会 13:30～13:40

①主催者あいさつ 国立女性教育会館理事長 内海 房子

②プログラムの趣旨説明

(2) 基調講演「21世紀の日本は女性が救う」 13:40～15:10

UN Womenにおいて女性が活躍する世界10大学の一つに選ばれた名古屋大学で平成27年の3月まで総長をされていた、濱口道成氏をお招きし、名古屋大学にて推進してきた男女共同参画の取組を基にお話を伺います。研究と教育という大学の使命を踏まえ、学内全体への男女共同参画意識の浸透や推進体制を構築することの必要性など、大学において男女共同参画の推進に取り組むことの意義をお話しいただきます。

講師：濱口 道成 国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長

名古屋大学名誉教授

文部科学省科学技術・学術審議会会長

(3) 講義「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか？～企業の取組の視点から～」

15:20～16:50

今、企業の多くは、組織の生き残りをかけ、女性の活躍やダイバーシティの促進に本気で取り組んでいます。女性の活躍促進は、世界的に見ても先進国を中心に目覚ましく進んでおり、これから日本を考える上で極めて重要な課題となっています。諸外国をはじめ日本の企業が、今、なぜこれほど熱心に、女性の活躍に取り組んでいるのか。その意義と効果は？「日経WOMAN」編集長、日本経済新聞社・編集委員として多くの取材や記事執筆を手がけた野村浩子さんに、その経験と豊富なデータを踏まえ、組織が女性の活躍促進に取り組む意義や取組のポイントについて解説いただきます。

講師：野村 浩子 ジャーナリスト 淑徳大学教授

(4) 施策説明「女性活躍推進法について」 17:00～17:30

8月に成立した「女性活躍推進法」により、女性活躍促進に向けて、事業主は行動計画の策定と、女性管理職登用や職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組む責務を負うこととなりました。これにより、大学等における取組も、より実行力のある計画が、待ったなしで求められています。ここでは、「女性活躍推進法」を踏まえた行動計画等作成のための説明を行います。

講師：高橋 雅之 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

(5) 情報交換会 17:50～18:50

参加者それぞれが抱える課題の解決に向けた方策について情報を交換するとともに、参加者同士のネットワークづくりを行います。夕食を兼ねた立食形式です。

(参加費3,000円、於：プラザエフ2階エフ)

☆国立女性教育会館へバスで移動（約90分）

※20:30頃到着予定 以降 情報交換会第2部あり

(6) 情報提供「大学における男女共同参画推進の実態」 9:00～9:30

国立女性教育会館が実施した「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の成果をとりまとめた「実践ガイドブック」（本研修テキスト）を用いながら、大学をとりまく状況や直面する課題について解説します。

講師：飯島 紘理

国立女性教育会館研究国際室研究員

(7) 分科会 9:40～12:30

大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、明日からの具体的な取組につながる知見を培います。

<分科会1> 「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」

学内全体で、ワーク・ライフ・バランスの取れた労働環境づくりに取り組むためには、女性だけでなく男性も、育児だけでなく介護も、と支援の対象を拡げていく必要があります。

分科会1では、国立大学と私立大学の取り組み事例をもとに、ダイバーシティ促進の上でも不可欠な研究や仕事と育児・介護といったライフイベントとの両立をめざした環境づくりについて考えます。

事例① 報告者：渡部 修 関西大学総務局人事課人事課長

事例② 報告者：物部 剛 京都産業大学学長室戦略企画担当課長

事例③ 報告者：森永 康子 広島大学副理事・男女共同参画推進室長
広島大学大学院教育学研究科教授

コーディネーター：長安めぐみ 群馬大学 男女共同参画推進室コーディネーター

<分科会2> 「女子学生のキャリア形成支援」

学生のキャリア支援の必要性が叫ばれ数年が経ち、大学のキャリア支援は定着し、発展しつつあります。特に女子学生は、就職に効果的なキャリア支援プログラムがある大学を求めています。

分科会2では、国立大学と私立大学と高等専門学校の取り組み事例をもとに、大学等における女子学生キャリア支援について考えます。大学は、就職だけではなく、その後のキャリアを形成するために、女子学生をどう育て、どのように社会へ送り出すべきかを考えていきましょう。

事例① 報告者：古瀬 憲弘 立教大学キャリアセンター就職支援課

事例② 報告者：武内 真美子 九州大学男女共同参画推進室准教授

事例③ 報告者：内田 由理子 香川高等専門学校詫間キャンパス一般教育科教授

コーディネーター：上西 充子 法政大学教授

☆昼食<レストランらんにて>

12:30~13:30

(8) 全体会

13:45~14:15

各分科会の報告と考察により、参加者の情報共有を行います。

コーディネーター：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

分科会報告者：長安めぐみ 群馬大学男女共同参画推進室コーディネーター
上西 充子 法政大学教授

(9) アンケート記入・閉会

14:15~14:30

8. 情報交換コーナー（場所：研修棟2階大会議室前カウンター）

ご所属大学などのパンフレットやちらしなどを自由に交換するコーナーを設置しますのでご利用ください。

9. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館です。開室時間は以下のとおりです。ぜひご利用ください。

12月4日（金）9:00~17:00

10. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

女性アーカイブセンターでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や女性教育・男女共同参画施策に関する史・資料を収集しています。

平成27年度企画展示「宇宙をめざす～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催中です。ぜひご覧ください。

開室時間：9:00~19:00

11. その他

期間中、職員が撮影した写真・動画資料を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

**平成27年度 大学等における男女共同参画推進セミナー
参加者概況**

平成27年12月3日現在

1. 性別

	合計
女性	78
男性	36
無回答	1
合計	115

定員	80名
申込者	116名
※内キャンセル	2名
参加者	115名
応募倍率	145.0%

2. 参加日別

	女性	男性	無回答	合計
全日程	39	20	—	59
3日のみ	34	15	—	49
4日のみ	5	1	1	7
合計	78	36	1	115

3. 年代

	女性	男性	無回答	合計
20代	4	—	—	4
30代	15	3	—	18
40代	20	9	—	29
50代	19	15	—	34
60代	5	2	—	7
70代以上	—	—	—	—
無回答	11	7	5	23
合計	74	36	5	115

4. 分科会（4日参加者 66名）

	女性	男性	無回答	合計
分科会1 「男女共同参画推進の視点に立った職場環境づくり」	29	9	1	39
分科会2 「女子学生のキャリア形成支援」	15	12	—	27
合計	44	21	1	66

※所属別

	合計
国公立大学	51
私立大学	28
高専(国公私立)	15
その他	21
合計	115

※職種別

	合計
教員系	35
職員系	78
その他	2
合計	115

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	無回答	合計
北海道・東北	11	5	—	16
関東・甲信越	39	16	—	55
北陸・東海	11	6	—	17
近畿	4	5	1	10
中国・四国	6	3	—	9
九州・沖縄	7	1	—	8
合計	77	36	1	115

6. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性	男性	無回答	合計
北海道・東北	北海道	2	—	2
	青森県	—	3	3
	岩手県	1	2	3
	宮城県	4	—	4
	秋田県	—	—	—
	山形県	3	—	3
	福島県	1	—	1
関東	茨城県	1	—	1
	栃木県	1	—	1
	群馬県	1	—	1
	埼玉県	2	2	4
	千葉県	2	1	3
	東京都	26	13	39
	神奈川県	4	—	4
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	2	—	2
	長野県	—	—	—
	富山県	2	—	2
	石川県	2	—	2
	福井県	—	—	—
	岐阜県	2	—	2
北陸・東海	静岡県	3	3	6
	愛知県	1	1	2
	三重県	1	2	3
	滋賀県	—	—	—
	京都府	1	2	3
	大阪府	3	2	5
	兵庫県	—	—	—
近畿	奈良県	—	—	1
	和歌山县	—	1	1
	鳥取県	—	—	—
	島根県	—	—	—
	岡山県	1	1	2
	広島県	1	1	2
	山口県	1	—	1
中國・四国	徳島県	2	—	2
	香川県	1	—	1
	愛媛県	—	—	—
	高知県	—	1	1
	福岡県	3	—	3
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	2	—	2
九州・沖縄	熊本県	—	1	1
	大分県	1	—	1
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	1	—	1
	合計	78	36	115

平成27年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 参加者アンケート 集計結果

平成27年12月17日

参加者数 115 名
回答者 94 名
回答率 81.7 %

1 この研修の満足度はいかがでしたか。

◆ 研修についての満足度

	合計	%	※%	※%
非常に満足した	56	59.5	62.2	98.9
満足した	33	35.1	36.7	
少し物足りなかつた	1	1.1	1.1	1.1
物足りなかつた	-	-	-	
無回答	4	4.3		
合計	94	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

◆ 参考：平成26年度の満足度

	合計	%	※%	※%
非常に満足した	30	44.1	46.2	95.4
満足した	32	47.1	49.2	
少し物足りなかつた	3	4.4	4.6	4.6
物足りなかつた	-	-	-	
無回答	3	4.4		
合計	68	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

〈意見・感想等〉

「非常に満足した」理由

- 運営側のスタッフの方々がとても感じがよく、様々なところで配慮をしていただいていると感じました。 内容も本当に有意義でした
- 女性活躍推進法に基づく取り組みが求められる中で、とてもタイムリーなテーマだったと思います
- 男女共同参画の部署に着任したばかりで知識、ネットワークが不足していました。講演やワークを通し、様々な事例を知り、ネットワークを築けました
- 情報交換の機会となった。また、講演された先生方から多くの学びを得ることができた
- 女子学生のキャリア形成、女性の社会参画の現状、問題点や先進的取り組み等をあらためて認識することができました
- 濱口先生のお話は、女性の声やニーズをきめ細かくひろいあげて、サポート体制を整備されただけでなく、発展、継続させるしくみを作り上げた点も素晴らしいと思いました。野村先生のお話はジャーナリストらしくデータをもとに、現状、課題を明確にされており、非常に勉強になりました
- 職場におけるダイバーシティ推進について様々な視点から考える機会を与えていただきました
- 2日間のプログラムの構成がとても充実しており、自然と他大学の職員と親睦を図ることができました。次回もぜひ参加させていただきたいです！

2 今年度は、1日目を東京会場とさせていただきました。感想をお聞かせください。

◆ 会場について

	合計	%	※%	※%
1日目東京、2日目NWEC	20	21.3	22.5	74.1
2日とも東京がよい	46	48.9	51.6	
2日ともNWECがよい	7	7.4	7.9	24.8
どちらでもよい	15	16.0	16.9	
その他	1	1.1	1.1	1.1
無回答	5	5.3		
合計	94	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3 参加されたプログラムについて感想をお聞かせください。

3-1 基調講演「21世紀の日本は女性が救う」

JST理事長 名古屋大学名誉教授 濱口道成氏

◆ 基調講演の有用度

(※%は「不参加」を除いた割合)

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	66	70.2	80.5	100.0
有用であった	16	17.0	19.5	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
全く有用ではなかった	-	-	-	
不参加	12	12.8		
合計	94	100.0	100.0	100.0

3-2 講義 「なぜ、女性活躍促進に取り組むのか？～企業の取り組みの視点から～」
ジャーナリスト 淑徳大学教授 野村 浩子氏

◆ 講義の有用度

(※%は「不参加」を除いた割合)

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	43	45.8	50.0	91.9
有用であった	36	38.3	41.9	
あまり有用でなかった	7	7.4	8.1	8.1
全く有用ではなかった	-	-	-	
不参加	8	8.5		
合計	94	100.0	100.0	100.0

3-3 施策説明 「女性活躍推進法について」

文部科学省生涯学習政策局 男女共同参画学習課長 高橋 雅之氏

◆ 施策説明の有用度

(※%は「不参加」を除いた割合)

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	27	28.7	34.6	82.1
有用であった	37	39.4	47.5	
あまり有用でなかった	11	11.7	14.1	17.9
全く有用ではなかった	3	3.2	3.8	
不参加	16	17.0		
合計	94	100.0	100.0	100.0

3-4 情報提供 「大学における男女共同参画推進の実施」
国立女性教育会館 研究国際室研究員 飯島 紘理氏

◆ 情報提供の有用度

(※%は「不参加」を除いた割合)

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	17	18.3	30.4	91.1
有用であった	34	36.5	60.7	
あまり有用でなかった	5	5.4	8.9	8.9
全く有用ではなかった	-	-	-	
不参加	37	39.8		
合計	93	100.0	100.0	100.0

3-5 分科会 (アンケート回答者94名のうち、分科会参加は63名)

◆ 分科会1「男女共同参画の視点に立った職場環境づくり」の有用度

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	22	56.4	56.4	100.0
有用であった	17	43.6	43.6	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
全く有用ではなかった	-	-	-	
無回答	-	-		
合計	39	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

◆ 分科会2「女子学生のキャリア形成支援」の有用度

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	16	66.6	69.6	100.0
有用であった	7	29.2	30.4	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
全く有用ではなかった	-	-	-	
無回答	1	4.2		
合計	24	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

3-6 全体会

◆ 全体会の有用度

	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	22	23.4	41.5	98.1
有用であった	30	31.9	56.6	
あまり有用でなかった	1	1.1	1.9	1.9
全く有用ではなかった	-	-	-	
不参加	41	43.6		
合計	94	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」を除いた割合)

平成27年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」実施要項

1. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館 (NWE C)

2. 会 場

国立女性教育会館

3. 期 日

平成27年7月10日（金）～7月11日（土） 1泊2日（※）

4. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進リーダー

5. 日 程

7/10 (金)	12:45 13:15 13:30 14:30 15:10 15:30 17:00 17:30 18:30 20:00										
	受付	開会	講演	パクさん を囲んで	休憩	ディスカッション1	チエック イン	見学	情報交流会		
7/11 (土)	9:00 10:00 10:10	12:00 13:00		15:00 15:15							
	情報 提供	休憩	ディスカッション2	昼 食	ディスカッション3	閉 会					

※「情報交流会」は希望者のみで、有料のプログラムになります。

6. 内 容

第1日 7月10日（金）

（1）開会

主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長

【中会議室】 13:15～13:30

（2）講演「女性の活躍を創出するために

～成功のカギは働き方改革と男性の家庭進出～【中会議室】 13:30～14:30
女性の活躍推進が社会的な大きな流れになる一方で、日本ではなぜ女性の社会的活躍が進まないのか、残業が当たり前の職場風土や根強い性別役割分担意識など、日本独自の事情が存在します。それらの問題点について国際的視野から分析しつつ、女性の活躍を創出していく上で何が必要なのかについて具体的にお話いただきます。

講 師：パク・スックチャ アパショナータ Inc. 代表
ダイバーシティ&ワークライフ・コンサルタント

（3）パクさんを囲んで

講演いただいたパクさんを囲んで、ダイバーシティ推進について参加者の皆さんの課題も踏まえて意見交換します。

【中会議室】 14:30～15:10

～ 休憩～

※休憩時にウィメンズショップ・パッチワークの協力により、有機栽培コーヒーをご提供します（200円）。パッチワークはフェアトレードを扱う女性起業ショップです。

- (4) ディスカッション1 【110 研修室】 15:30～17:00
グループに分かれて参加者同士の自己紹介を通し、企業におけるダイバーシティ推進の背景や課題を共有するためのディスカッションを行います。

- (5) 女性教育情報センター見学 【本館ロビー集合】 17:30～18:00
国内外の10万冊を超える図書や1977年から現在まで34万件以上を蓄積した新聞切り抜き記事など、女性関連の情報が数多く所蔵されている専門図書館を見学します。

※情報交流会【有料3,000円（消費税込）】 【レストラン】 18:30～20:00
○立食形式の交流会です。他企業からの参加者の方との情報交換・ネットワーク作りを行います。

第2日 7月11日（土）

- (6) NWECからの情報提供 【中会議室】 9:00～10:00
「女性の活躍推進が企業のパフォーマンスに与える影響」「女性の活躍推進の障害」「生産性、競争力を高めるために企業は何をなすべきか」等について、国際比較データを交えて紹介します。
講 師：洲脇 みどり 国立女性教育会館客員研究員

- (7) ディスカッション2 【110 研修室】 10:10～12:00
ダイバーシティ推進リーダーがリーダーシップをとる際に必要となるコミュニケーション能力を高める手法の一つであるアクションラーニングを学び、今ある問題に対処するための実践的なディスカッションを体験します。
講 師：堀本 麻由子 国立女性教育会館客員研究員

- (8) ディスカッション3 【110 研修室】 13:00～15:00
アクションラーニングを使った問題解決を図りつつ、企業における女性活躍推進にかかる課題を明らかにし、今後向かうべき方向性を共有します。

- (9) 閉会・アンケート記入 【110 研修室】 15:00～15:15

7. その他

- ・期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成27年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」参加者概況 H.27.7.8現在

定員：30

申込者：16

キャンセル：1

参加者：15

応募倍率：53.3%

1. 性別

	合計
女性	15
男性	-
合計	15

2. 10日講演/パクさんを囲んで

	女性	男性	合計
参加	14	-	14
不参加	1	-	1
合計	15	-	15

3. 10日ディスカッション1

	女性	男性	合計
参加	15	-	15
不参加	-	-	-
合計	15	-	15

4. オプション<情報交換会>

	女性	男性	合計
参加	12	-	12
不参加	3	-	3
合計	15	-	15

5. 11日ディスカッション2

	女性	男性	合計
参加	11	-	11
不参加	4	-	4
合計	15	-	15

6. 11日ディスカッション3

	女性	男性	合計
参加	10	-	10
不参加	5	-	5
合計	15	-	15

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	-	-	-	-
関東	12	-	12	80.0%
甲信越	1	-	1	6.7%
北陸・東海	2	-	2	13.3%
近畿	-	-	-	-
中国・四国	-	-	-	-
九州・沖縄	-	-	-	-
合計	15	-	15	100.0%

7. 都道府県別

	女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	-	-
	青森県	-	-
	岩手県	-	-
	宮城県	-	-
	秋田県	-	-
	山形県	-	-
	福島県	-	-
関東	茨城県	-	-
	栃木県	1	-
	群馬県	-	-
	埼玉県	3	-
	千葉県	1	-
	東京都	7	-
	神奈川県	-	-
北陸・東海	山梨県	-	-
	新潟県	1	-
	長野県	-	-
	富山県	1	-
	石川県	-	-
	福井県	-	-
	岐阜県	-	-
近畿	静岡県	-	-
	愛知県	1	-
	三重県	-	-
	滋賀県	-	-
	京都府	-	-
	大阪府	-	-
	兵庫県	-	-
中国・四国	奈良県	-	-
	和歌山県	-	-
	鳥取県	-	-
	島根県	-	-
	岡山県	-	-
	広島県	-	-
	山口県	-	-
九州・沖縄	徳島県	-	-
	香川県	-	-
	愛媛県	-	-
	高知県	-	-
	福岡県	-	-
	佐賀県	-	-
	長崎県	-	-

平成27年度「ダイバーシティ推進リーダー会議」 アンケート集計結果

H.27.7.16

参加者	15名
アンケート回答数	13件
アンケート回答率	86.7%

女性:13 男性:0

本研修に関する意見・感想

1. 本研修に参加された理由は何ですか。

- ・弊社で進められているポジティブアクション推進の新たな手法としてアクションラーニングを学びたいと思ったので。
- ・昨年に引き続き参加のため、本会議は、貴重な体験となると聞いていた。
- ・自社の取り組みのヒントを得るため、及びネットワーク作り。
- ・企業が対象であったが、考え方や取り組みが官公庁においても活かせるものがあるのではないかと思ったから。
- ・パクさんのご講演に興味があった。
- ・昨年度より当社より参加させて頂いており、ご案内を頂いたため。
- ・女性活躍促進を進めている中で、管理職(男性)の意識改革が課題を感じており、具体的なアクションのヒントを得たく参加しました。
- ・会社が女性活躍について、前向きに検討しはじめ、小委員会を立ち上げ、そのメンバーになった為、自主的にセミナー等に参加しております。会社はセミナー等について情報収集はしておらず、自分達で探して参加しながら女性活躍の情報収集をしております。
- ・会社で自分が推進担当になった為。ダイバーシティに関する正しい知識を得たいと思った為。
- ・継続的な情報収集とネットワークの拡張、強化。パク氏の講演。
- ・国の女性活躍推進の目標値に近づくことすら困難な女性職員体制ではあるが、メンター制度、女性活躍推進研修などを行い、就労継続、意欲向上に努めているところです。特に意欲向上について、広い職種の方々の意見を聞くことで本市の取り組みの参考にさせていただきたいと思った。

2. 「ダイバーシティ(女性の活躍促進)推進」に関する問題意識の変化についてお尋ねします。

①本研修参加前の問題意識をご記入ください。

- ・女性が活躍されている(管理職)方は、結婚されていない方が多いのかなと思っておりましたが、皆様は結婚し、子どもがいらっしゃいながらも、仕事で活躍されていたので、非常に今後の希望が見える研修となりました。
- ・マネジャー研修後の意識改革に焦点があたりすぎていた様に思う。
- ・男性、女性の意識改革は進むのだろうかと思っていた。ダイバーシティを進めると言うことは奥が深いんだと再認識した。
- ・女性の活躍推進方法・取り組み。男性の意識改革。
- ・幹部の理解の低さ、根深い性別役割意識(男女とも・30代以上)
- ・「ダイバーシティ」という言葉は聞いたり、見たりはしたことはあったが、具体的にどういうものなのか知らなかった。
- ・長時間労働、男性の育休・意識
- ・会社として経営戦略として取り組んでおります。
- ・女性のキャリアビジョン、会社からの機会不足、長時間労働がポイントと考えていました。
- ・他の企業はどのように取り組んでいるのか?どんな問題があるのか?本当に女性活躍促進を社会が必要としているのか?
- ・企業が生き残っていく為には、必須の取り組み、活動である。
- ・辞めないための制度整備から活躍(管理職・役員登用等)のフェーズに移っている。
- ・育児休業、時短勤務が定着してきたが、その間のキャリアが抜けることは本人にとっても不安な面もあるが指導的立場になる時期に育休になることも多く、若い職員の指導にも影響がでてきている。制度の充実が進む反面、新たな課題がでてきており、柔軟な働き方はどこまで必要か?と思うことがある。

②本研修参加後の問題意識をご記入ください。

- ・男性社員の意識改革が重要であることを改めて実感致しました。他企業の方の女性活躍が進んでおり、刺激を受けました。
- ・別の角度からの質問を受け、研修は方法のひとつ、真の目的は何か、という一段上の観点からみられたと思う。
- ・意識改革はやはり企業のトップダウンがマストなんだなと思った。一人一人の気づきが肝ではないかと思った。
- ・男性の自立
- ・幹部の理解の低さ、根深い性別役割意識(男女とも・30代以上)を再認識しました。社会全体として取り組む課題であると感じました。
- ・ダイバーシティの本質が、企業の生産性を高めることではなく、もっと根本的な、人が生きていく上での考え方であることが分かり官公庁の組織でも活かせると感じた。
- ・時短の考えが少し変わりました。
- ・女性活躍促進における両立支援等のあり方、立ち位置を考えるきっかけとなりました。
- ・やはり、上記3つ(女性のキャリアビジョン・社会からの機会不足・長時間労働)は重要だと思いますが、特に育成不足。(機会を与えていない)すなわち、男性管理職の意識改革が重要であることを再認識しました。
- ・政府が女性活躍を望んでいる事を知りましたが、働く末端の女性には、その事が届いていない。なので、行動に移れない。企業にも大きなバラツキがあり、真剣さにも違いがある。男性の意識改革を女性に頼るのでなく、男性自身が気づくような政府の取り組みが必要だと考えます。

- ・上記の思い(ダイバーシティを取り組むこと)をさらに強くしました。
- ・活躍推進のためには、男性管理職層の意識改革が必要。今の20~30代にとって良い会社にしていくことを考える必要がある。
- ・男性の意識改革、女性の意識改革、永遠のテーマに今まで以上に取り組む必要があると感じた。年1回男女共同参画講座を全職員向に行ってはいるが、なかなか定着までには至っていない。

3. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり今後の事業を行う際に役立てたりする上でどの程度有用でしたか。

(※は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	84.6	-	-	11	84.6	11	84.6
有用であった	2	15.4	-	-	2	15.4	2	15.4
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	13	100.0	-	-	13	100.0	13	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・まずは、社内の実情を把握していくことから始めたいと思いました。
- ・研修の内容もさることながら、いろんな業種、経歴でみんな頑張っているんだ、ショボくれてる場合じゃない！！と思った。
- ・パク氏の講演。
- ・ダイバーシティやアクションラーニングの手法が官公庁の組織でも実践できることが分かったので、取り入れていきたい。毎年必ず担当者を参加させたいと思っているので、帰庁したら上司に図りたい。
- ・他社の方との情報交換。
- ・情報収集する場が少ない為、また金額面でも会社の援助も少ないので、本研修は大変ありがとうございます。ありがとうございました。
- ・現在、女性を中心に現状についてのヒアリングを行っています。ヒアリングのやり方を一部変える必要があることに気づきました。
- ・現状の課題を共有することができた。参加者同士で気持ちまで通うやりとりがディスカッションできた。
- ・様々な考え方を聞くことができ、少しは柔軟な考え方ができるようになったと思う。

「有用であった」理由

- ・アクションラーニングにて、課題の明確化、具体的なアクションのサジェストを得ることができました。

4. この研修全体の満足度は、いかがでしたか。

(※は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	10	76.9	-	-	10	76.9	10	76.9
満足した	3	23.1	-	-	3	23.1	3	23.1
少し物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	13	100.0	-	-	13	100.0	13	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足した」理由

- ・知識が全然なかったので、講演を初め、様々な企業の方と情報交換ができ、非常に勉強になりました。
- ・知りたかったことのデータがまとめられていて、一目で分かりやすかった。
- ・本年4月から色々なセミナーの総括となりました。他企業の方々の取り組みや思いがきげとても参考になりました。
- ・人脈が広がった。参加者の多様な考え方に対する刺激を受けた。ダイバーシティやアクションラーニングの内容を具体的に知ることができた。
- ・皆さん自分の考えも持つておられ、会社でも重要な存在の方たちだと感じました。私自身も、元気がもらえ頑張らなくてはと前向きな気持ちになりました。
- ・自分への気づき。職場にいるだけでは、決して味わえない、感覚、知識を体験できました。ありがとうございました。
- ・パク氏の講演内容が参加者に響くものであり、その後のディスカッションも活発なやりとりの中に本音が吐き出され良かった。

「満足した」

- ・せっかく良い研修なので、ぜひもっと多くの方に参加して頂きたかった。アナウンスの方法をご検討頂きたいです。
- ・少人数で、じっくりディスカッションができました。アクションラーニングの手法は大変勉強になりました。良い質問ができるように今後意識していきたいと思います。

5. 今後、このような企業向け研修でどのようなテーマ・内容・方法が取り上げられていたら、参加したいと思われますか。

- ・女性活躍における企業のメリット(具体的に)
- ・今回研修は事前に知り、前日の話(講演)等も拝聴したかったと思う。
- ・アクションラーニングのような短い時間で濃い内容の会議の進め方みたいなものがあるといいなと思う。
- ・推進計画立案や見直し方法、男性の自立方法(研修や事例など)
- ・ダイバーシティにむけ、男性の立場からのアドバイスを頂ける研修。
- ・質問の趣旨と異なるが、研修員1名の参加と同時に上司1名を見学者として、参加させることは可能でしょうか。
- ・時間管理、男性意識、役員研修、男性が出席する研修
- ・男性の意識改革。
- ・今は思いつきません。すみません。
- ・女性活躍、男性の意識改革、ダイバーシティ。
- ・女性の活用(特に営業職において)についての研修。
- ・メンバーに男性管理職を交えて議論できる場が欲しい。

6. 国立女性教育会館の事業や施設等について

- ・とても、きれいで、自然あふれる会館でした。お部屋も泊まりやすく、よく眠れました。また食事もおいしかったです。
- ・宿泊施設にタオルをおいて欲しい。
- ・こんなにきれいな内装と思わなかった。(外観と施設名からみて)もっとメディアにてて施設の存在が”知る人は知る”ではなく、知られていけばいいのにと思った。図書もたくさんあるし、もったいない。
- ・図書館に感動しました。利用したいと思います。
- ・施設は横に広く、やや分かりにくい構造でした。案内板が多いと嬉しいです。101周辺はややにおいがあり、気になりました。
- ・多くの蔵書があること、特に男女共同参画に関する資料が全てそろっていることを知らなかつたので、活用できればいいなと感じた。また、このように立派な施設があること自体知らなかつたので、今後、利用していきたいと思っている。
- ・自然に恵まれた環境で、いやされました。今後活用したいです。
- ・〈事業〉継続した研究、データ収集等に驚きました。非常に重要な仕事だと思います。データベース等にはアクセスしてみたいと思います。
- ・〈施設〉縁も多く、素晴らしい環境でした。宿泊・食事とも不満なく、快適に過ごせました。
- ・非常に充実し快適。レストランの方式変更(特に朝のバイキング)が良い。
- ・受講したい事業も多いが、遠方なので参加できなかつた。今回で様子も分かつたので、ホームページをみさせて頂き参加したいと思う。

7. 研修開催の情報を何で知りましたか

- ・社員からの紹介(中光さんからメールを頂いた。)
- ・水蓮会
- ・ホームページ
- ・ダイレクトメール(Eメール)
- ・新聞記事
- ・新聞記事
- ・ホームページ、ダイレクトメール(Eメール)
- ・メールマガジン
- ・ダイレクトメール(Eメール)
- ・中光さんからのメール
- ・ダイレクトメール(Eメール)
- ・メールマガジン
- ・新聞記事

II 参加者自身について(アンケート回答者)

◆性別

	人数	%
女性	13	100.0
男性	-	-
合計	13	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	合計	%
20代	1	7.7	-	-	1	7.7
30代	-	-	-	-	-	-
40代	7	53.8	-	-	7	53.8
50代	4	30.8	-	-	4	30.8
60代	1	7.7	-	-	1	7.7
無回答	-	-	-	-	-	-
合計	13	100.0	-	-	13	100.0

平成27年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

1. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館 (NWE C)

2. 後 援 厚生労働省、経済産業省

3. 会 場

1日目：放送大学東京文京学習センター

東京都文京区大塚 3-29-1

TEL:03-5395-8688

2日目：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL:0493-62-6724

4. 期 日

平成27年10月15日（木）～10月16日（金） 1泊2日

5. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー
※官公庁・独立行政法人の方も参加可能です。

6. 日 程

		12:15	13:00	13:10	14:10	14:20	15:10		17:00	17:30	18:30
10/15 (木)		受付	開会	講演	休憩	説明	パネル ディスカッション	閉会	※情報 交流会	バス 移動	

		9:00	10:00	10:15	12:00	13:00	14:45	15:00			
10/16 (金)		情報 提供	休憩	グループワーク1	昼 食	グループワーク2	閉会				

※「情報交流会」は、希望者のみの有料プログラムになります。

7. 内 容

第1日 10月15日（木）

【東京茗荷谷会場】

(1) 開会

主催者挨拶：内海 房子 国立女性教育会館 理事長

13:00～13:10

(2) 講演 「なぜ日本は女性の活躍が進まないのか

～労働経済学の視点から女性活躍推進の現状を探る～ 13:10～14:10

急速に進む高齢化に直面する我が国において、女性活躍が進まないのはなぜか、労働経済学の視点から分析し、男女ともその持てる能力を生かして働き、家族生活と両立できる社会を目指すための対応策についてお話しいただきます。

講 師：川口 大司 一橋大学大学院 経済学研究科教授

【講師紹介】

川口 大司 氏

早稲田大学政治経済学部経済学科卒業後、一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了後、ミシガン州立大学大学院経済学研究科 Ph.D コース終了。

大阪大学、筑波大学講師、一橋大学大学院助教授、准教授を経て、2013年より現職。

・テレビ出演：NHK 教育テレビ「オイコノミア」講師

・主な著書：『法と経済で読みとく雇用の世界』（大内伸哉共著）（有斐閣 2012年）

『最低賃金改革：日本の働き方をいかに変えるか』（大竹文雄、鶴光太郎共編）（日本評論社 2013年）

(3) 「女性活躍推進法」について

14:20～15:00

講 師：中込 左和

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局

雇用均等政策課 均等業務指導室 室長補佐

(4) パネルディスカッション「『女性活躍推進』に“本気”で取り組む」

15:10～17:00

今や、「女性の活躍推進」は、重要な経営課題の一つとして、どの企業も熱心に取り組んでいます。その中でも、「本気度 No. 1」の企業からパネリストをお迎えし、「本気で取り組む」をキーワードに先進的な企業の成功事例をご紹介します。そして、パネリストご自身の経験談も交えながら、女性の活躍を促進するための課題や方向性についてディスカッションします。

パネリスト：山内 千鶴

日本生命保険相互会社 CSR 推進部

執行役員 CSR 推進部 部長

株式会社日立ソリューションズ

ダイバーシティ推進センタ センタ長

株式会社大塚製薬 常務執行役員 人事部 部長

一橋大学大学院 経済学研究科教授

国立女性教育会館 理事長

パネリスト：小嶋美代子

パネリスト：鳥取 桂

コメンテーター：川口 大司

コーディネーター：内海 房子

【パネリスト紹介】

山内 千鶴 氏

昭和 50 年日本生命保険相互会社入社。総務部受付業務から人事部に移り、平成 11 年業務職から総合職にコース変更。その後、営業課長、店長、業務改善推進室課長補佐、輝き推進室長、担当部長を経て平成 27 年 3 月より現職。

小嶋 美代子 氏

昭和 64 年日立西部ソフトウェア(現・日立ソリューションズ)入社。金融システム開発に従事した後、平成 22 年ブランドマネジメント室部長代理を経て平成 25 年より現職。

鳥取 桂 氏

昭和 57 年入社。中枢神経研究室室長、医薬第二研究所主任研究員などを歴任。平成 19 年からダイバーシティ推進を統括し、平成 22 年より現職。

(5) 1 日目閉会（1 日目のみ参加者アンケート記入及び回収）

17:00～17:10

(6) 情報交流会（希望者のみ） 17:30～18:30
全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。

* 2日目参加者は情報交流会終了後、専用バスにて国立女性教育会館へ移動。

第2日 10月16日(金)

【武蔵嵐山会場】

(7) NWE Cからの情報提供 9:00～10:00
統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進をわかりやすく解説します。
講 師：中野 洋恵 国立女性教育会館 研究国際室長

(8) グループワーク 1 10:15～12:00
グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有し、講演やパネルディスカッションで得たことの相互理解を深めていきます。
講 師：堀本麻由子 国立女性教育会館 客員研究員

(9) グループワーク 2 13:00～14:45
引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行い、話し合ったことを発表して全員で共有します。

(10) 閉会 14:45～15:00
アンケートの記入及び回収
閉会挨拶：櫻田今日子 国立女性教育会館 事業課長

8. その他

職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成27年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況

平成27年10月15日現在

定員：80

申込者 112

キャンセル 16

参加者：96

応募倍率：140.0%

1. 性別

	合計
女性	78
男性	18
合計	96

2. 15日講演・パネルディスカッション

	女性	男性	合計
参加	78	18	96
不参加	-	-	-
合計	78	18	96

3. 15日情報交流会(オプション)

	女性	男性	合計
参加	32	8	40
不参加	46	10	56
合計	78	18	96

4. 16日情報提供

	女性	男性	合計
参加	21	6	27
不参加	57	12	69
合計	78	18	96

5. 16日グループワーク 1

	女性	男性	合計
参加	19	6	25
不参加	59	12	71
合計	78	18	96

6. 16日グループワーク 2

	女性	男性	合計
参加	18	6	24
不参加	60	12	72
合計	78	18	96

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合
北海道・東北	2	2	4	4.2%
関東	68	14	82	85.3%
甲信越	-	-	-	-
北陸・東海	3	2	5	5.2%
近畿	2	-	2	2.1%
中国・四国	2	-	2	2.1%
九州・沖縄	1	-	1	1.1%
合計	78	18	96	100.0%

8. 都道府県別

	女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	-	-
	青森県	-	-
	岩手県	-	-
	宮城県	-	2
	秋田県	-	-
	山形県	1	-
関東	福島県	1	-
	茨城県	4	-
	栃木県	-	-
	群馬県	-	-
	埼玉県	5	2
	千葉県	5	-
甲信越	東京都	45	9
	神奈川県	9	3
	山梨県	-	-
	新潟県	-	-
	長野県	-	-
	富山県	-	-
北陸・東海	石川県	1	-
	福井県	-	-
	岐阜県	-	1
	静岡県	-	1
	愛知県	2	-
	三重県	-	-
近畿	滋賀県	-	-
	京都府	-	-
	大阪府	2	-
	兵庫県	-	-
	奈良県	-	-
	和歌山県	-	-
中国・四国	鳥取県	-	-
	島根県	-	-
	岡山県	-	-
	広島県	1	-
	山口県	-	-
	徳島県	-	-
四国	香川県	-	-
	愛媛県	1	-
	高知県	-	-
	福岡県	-	-
	佐賀県	-	-
	長崎県	1	-
九州・沖縄	熊本県	-	-
	大分県	-	-
	宮崎県	-	-
	鹿児島県	-	-
	沖縄県	-	-
	合計	78	18

平成27年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」

アンケート集計結果

参加者	96	名		
アンケート回答数	84	件	(女性: 69)	男性: 14
アンケート回答率	87.5	%		不明: 1)

1. 事例発表・講演・パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。

- ・講演は労働や経済学という学問的見地からわかりやすく解説され、改めて体系的に知識を習得することができた。
- ・経済学からの視点での女性活躍の必要性について様々なデータが分析されており、上司への説得材料に有効と思った。
- ・一橋川口先生のご講演で、国際比較における日本の状況、日本社会に深く存在する男女差の考え方も背景に女性活躍が進まない状況がよくわかった。企業だけでなく、教育・研究機関どこにおいても長い目で慣習から意識改革する必要があると思った。
- ・今後社内で女性活躍を進める上で説得力のある話ができそうに思う。
- ・経済学の分析というのは、今後社内で理解促進していく中でとても参考になった。
- ・労働経済学による分析データ、法改正の具体的対応など、実践的なものまで勉強になった。
- ・社会的規範が根底にあることを学術的な研究をもとに伺えたことは目の前の課題の難しさを認識するようで大変役立った。
- ・私自身が育休が整わないために出産を機に退職し、子育て後、15年ぶりに復帰、今、産休・育休の女性をサポートするためにどのようなことを背景にしたらしいのか、とても勉強になった。
- ・講演、パネルディスカッションは各社の取組について具体的に聞くことが出来て、自分自身も意識が大変変わった。
- ・なぜこんなにも女性、女性と言われるのか、なぜ必要かが講義でよく理解することができた。
- ・統計的差別の理論、競争心の性差も社会的構築物という点が特に興味を引かれた。
- ・今まで抱えてきた漠然とした疑問を考える糸口となった。
- ・固定的性別役割分業と厚労省からの「女性活躍推進法」がつながる説明で理解に向けてよいものだった。
- ・自社の取組と比較する良いきっかけになった。男性管理職、女性の意識改革が必要とわかった。
- ・当社ではこれから取組を始めるため、良い材料をたくさん集めることができた。トップの宣言効果はとても大きく、まずは経営者に訴える方法、戦略を考えたいと思った。本日頂いた先進例を参考にして当社の状況、社風に合った立案ができるといいと思う。
- ・パネルディスカッションでは具体的な取組例を紹介頂き、また、実行に至るまでの過程や成功の秘訣など非常に参考になった。
- ・優良企業の取組はどこも一人一人の違いを活かしており、女性活躍ばかりをクローズアップしていないことは参考になった。人事をうまく巻き込むことの重要性(イクメン)についても理解したので実践に移したい。
- ・心に響く「女性が活躍するためのメッセージ」をいただけて、このことを弊社の従業員にも伝えていきたい。
- ・研究職、官の方から正しい情報を得ることができてとても有意義だった。
- ・公的研究機関の者として、民間企業の取組のご紹介及び実情は大変参考になった。企業の皆様の本気度が伝わってきた。
- ・社内の制度づくりの手本にしたい。
- ・各企業で先進的な取組はいずれも新鮮であり今後の大学におけるダイバーシティ推進体制の構築につなげていきたい。
- ・当社では企画フェーズから実行フェーズへ移行する時でしたが、紹介された様々なアイディア、施策が参考になった。

2. その他プログラムについてご意見をお聞かせください。

- ・女性活躍推進法について、タイムリーであり最新の情報やポイントがお聞きできて有意義だった。
- ・データ提供は日頃の理解を裏付けるものばかりで社内にも展開したいと思った。
- ・アクションラーニングではたくさんの気づきがあり、ダイバーシティを話し合う必要性と、その方法を学んだ。
- ・アクションラーニングのグループワークで自分ができることとしてアクションプランを立て実行していく。社内でも取り入れると一人一人のスキル・モチベーションも上がっていく手法だと思った。
- ・とても練られた内容で来年以降も可能であれば参加させて頂きたい。
- ・他の企業の方、いろいろなバックグラウンドの方が集まっていて、いろいろな意見が出て有益だった。

3. 本日のセミナーは、あなたにとって有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	39	56.6	8	57.1	—	—	47	55.9	55.9	98.8
有用であった	29	42.0	6	42.9	1	100.0	36	42.9	42.9	
あまり有用でなかった	1	1.4	—	—	—	—	1	1.2	1.2	1.2
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	69	100.0	14	100.0	1	100.0	84	100.0	100.0	100.0

「非常に有用であった」理由

- ・アクションラーニングで質問を投げかけると本質が見えてくることがわかった。
- ・女性活躍に関するセミナーはあっても経済学視点での話は初めてで、会社は危機感をもって取り組む必要性を実感した。
- ・セミナー等による知識のインプットに加え、ネットワーク構築がよかったです。
- ・女性活躍推進法行動計画策定の参考になった。
- ・企業の事例を聞けたこと、成功例のみならず参考になることが多かった。
- ・職種を超えて意見を聞くことができてよかったです。
- ・我が社では女性の管理職はまだまだ少ないが、これからもっと導入していくなければならないと思った。
- ・毎回新しい学びがあり、企業セミナーは有用である。
- ・自社で進めようとしているダイバーシティ関連の施策に役立つものが多かった。
- ・上司・トップの意識の大切さを感じた。
- ・基調講演、女性活躍推進法の説明、企業の先進事例など一連のプログラムで現在必要とされていることがよくわかった。
- ・最新かつweb上では入手できない情報を多数いただいた。
- ・本気で行動している事例紹介がよかったです。

「有用であった」理由

- ・女性に関する問題を様々な視点から見ることができた。
- ・会社としてはそれほど積極的に女性活躍に取り組んではいない中で自分がしっかり頑張ろうと改めて思った。
- ・行政としても参考にできるところがある。
- ・女性が活躍が進まない理由の講演を聞き、自社男女差の状況把握、改善などを考える必要があると思った。
- ・企業の職場改善を推進するに当たり、女性の活躍や活用の必要性を経営者に説明する内容のヒントが得られた。
- ・アクションラーニングで日頃の思い込みを認識できた。

4. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	38	55.1	6	42.9	—	—	44	52.4	53.0	97.6
満足した	28	40.6	8	57.1	1	100.0	37	44.0	44.6	
少し物足りなかった	2	2.9	—	—	—	—	2	2.4	2.4	2.4
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	1	1.4	—	—	—	—	1	1.2	—	
合計	69	100.0	14	100.0	1	100.0	84	100.0	100.0	100.0

「非常に満足した」理由

- ・自社の課題に気付くことが出来た。
- ・セミナーの内容もよかったです、活躍している方と話すことができて、今後のやり方の参考になった。
- ・社内でこじんまり取組をしていたが、同じ悩みを共有する仲間ができて嬉しかった。
- ・ワークライフバランスについて、自分の考えと同じであり勇気づけられました。
- ・異業種の人とお話しするのはおもしろい。
- ・女性活躍推進について様々なゲストスピーカーから現場の声が聞けてよかったです。
- ・宿泊を伴ったことでいろいろな方と交流ができるよかったです。
- ・タイムリーな内容、場所も都内で参加しやすかったです。講師陣もよかったです。
- ・最新の動向を知ることができた。
- ・いただいた企業からのヒントを地方自治体の事業に生かしたい。
- ・多くの企業の方といろいろお話をすると中で、自分自身のスキルアップにもつなげられた。
- ・情報・気づき・ネットワーク・環境・運営などあらゆる面で満足した。

「満足した」理由

- ・快適な環境で落ち着いて参加できた。
- ・講師の方々が多岐にわたっていた。
- ・川口先生の経済学からの視点の話が女性視点ではなく男性視点からでよかったです。
- ・内容の濃いセミナーでした。
- ・バランスのよい研修内容で満足した。
- ・1日目の講演と2日目のワーク中心の内容のバランスがよかったです。
- ・構成がよかったです。法制度についてはやや散漫な内容になり、ポイントを絞った方がよかったです。

5. あなた自身についてお聞かせください

◆性別

	人数	%
女性	69	82.1
男性	14	16.7
不明	1	1.2
合計	84	100.0

◆年代

	合計	%	女性	%	男性	%	不明	%
20代	6	7.1	5	7.3	1	7.1	—	—
30代	19	22.6	15	21.8	4	28.6	—	—
40代	35	41.7	31	44.9	4	28.6	—	—
50代	17	20.2	13	18.8	4	28.6	—	—
60代	2	2.4	1	1.4	1	7.1	—	—
無回答	5	6.0	4	5.8	—	—	1	100.0
合計	84	100.0	69	100.0	14	100.0	1	100.0

◆このセミナーをどのように知りましたか(複数回答)

	女性 11	% (69名中) 15.9	男性 5	% (14名中) 35.7	不明 -	% (1名中) -	合計 16	% (84名中) 19.0
nwecのホームページ	11	15.9	5	35.7	-	-	16	19.0
nwecのメールマガジン	14	20.3	3	21.4	-	-	17	20.2
nwecからのダイレクトメール(郵送)	18	26.1	3	21.4	1	100.0	22	26.2
nwecからのダイレクトメール(Eメール)	9	13.0	1	7.1	-	-	10	11.9
他のメディア媒体から	3	4.3	1	7.1	-	-	4	4.8
その他	13	18.8	2	14.3	-	-	15	17.9
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

他のメディア媒体から(具体的に)

- ・「共同参画」(内閣府)のメルマガ
- ・生涯局参事のメルマガ
- ・静岡県男女共同参画メルマガ
- ・いしかわ女性基金の案内
- ・マナビメールマガジン

その他(具体的に)

- ・社会保険労務士会支部からの案内
- ・自社から講師を派遣しているから
- ・日本女性学習財団からの案内
- ・親会社からの案内
- ・職場の案内
- ・社内から・総務部からの紹介
- ・市からのお知らせ
- ・上司から・社内役員からの指示
- ・NWEC職員からの紹介
- ・グループ会社のダイバーシティ推進本部からの案内
- ・当社ダイバー室長からの薦め

平成27年度「女子大学生キャリア形成セミナー」実施要項

1. 趣 旨

日本における女性を取り巻く状況は、以前よりはるかに改善されていますが、男女平等は未だに実現されていません。働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えましたが、組織における意思決定に関わる女性の割合は極めて低いままです。しかし、我が国が男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、様々な組織において管理的地位に就き、その意思決定に関わるなど、組織活動へ参画することが必要です。

そこで国立女性教育会館では、自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、

①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)

②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知っておくこと
(ライフ・プランニング)

③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるという視点を持つこと
(社会を変える・支える志)

の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、我が国の男女共同参画の推進を図ります。

2. 主 題

「キャリアを考えることは、人生を考えること」

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

リーダーシップ111

★リーダーシップ111（ワンワンワン）は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立されました。グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしている団体です。

5. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

電 話 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

6. 期 日

平成28年2月20日（土）～2月21日（日） 1泊2日

7. 参加者

女子大学生 30名

8. 日 程 (各プログラムの間に10分程度の休憩があります)

2/20 (土)	13:00 13:15 14:00			15:00		16:40		18:10		19:30		21:00	
	受付	開会	講義	パネルディスカッション	パネリストに聞こう	チェックイン・夕食	交流会						
2/21 (日)	9:00 10:00			12:00 13:00		15:00 15:20 15:30		17:00					
	情報提供	グループワーク①	昼食	グループワーク②	閉会	懇親会 *希望者のみ							

・当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」に位置付けられている事業です。

9. 内 容

第1日 2月20日(土)

(1) 受付 13:00～13:15

(2) 開会 13:15～14:00

主催者挨拶：内海 房子 国立女性教育会館理事長
プログラムオリエンテーション：佐伯 加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(3) 講義「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較と女子大学生追跡ヒアリング調査を通して～」 14:00～14:50

統計データを用いた国際比較と、昨年度に大学を卒業した女性の入社後の意識変化を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進をわかりやすく解説します。

講師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(4) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」 15:00～16:30

人生経験を重ねたパネリストの話から、働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わるさまざまな出来事や、働くことの面白さ、課題を乗り越えるための視点を学びます。

パネリスト：平野 こずえ	EMGマーケティング合同会社 人事総務統括部総務部アドバイザー
パネリスト：萩原 貴子	株式会社グリーンハウス執行役員
パネリスト：中光 理恵	国立女性教育会館事業課専門職員
コーディネーター：猪俣 由美子	エンパワーマネジメント研究所代表 兼 人材育成コンサルタント

(5) パネリストに聞こう 16:40～18:10

パネリストを囲んで、もっとお聞きしてみたいこと知りたいことなどを直接質問してみましょう。パネリストの体験の背景や考え方についてより理解する時間です。

(6) チェックイン・夕食・休憩 18:10～19:30

- (7) 交流会 19:30～21:00
パネリスト、コーディネーター、OG 企画委員も交え、小グループで意見交換を行います。いろいろな立場の方のお話を聞くことで自分のキャリアについて掘り下げ、整理し、また参加者同士の交流から自身のネットワークを広げる機会とします。

第2日 2月21日（日）

- (8) 情報提供「女性情報ポータル Winet の紹介と女性教育情報センター見学」 9:00～9:45
女性情報ポータル Winet（ウィネット）の活用方法の説明と女性教育情報センターの見学を通して、女性のキャリア形成に関する資料や情報の探し方を学びます。
講師：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員
- (9) グループワーク① 10:00～12:00
ここまで学んだ内容を踏まえながら自分の思いを整理します。また自分自身を客観的に見つめるとともに、参加者同士で思いを共有しネットワークづくりを進めます。
講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員
- (10) 昼食・休憩 12:00～13:00
- (11) グループワーク② 13:00～15:00
グループワーク①に引き続き、各々キャリアシートの作成を行いながら自分のキャリアデザインを描きます。討議内容の発表、パネリスト等によるコメントを通じ、翌日から具体的に行動できる方策を検討します。
講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員
- (12) 閉会 15:00～15:20
アンケート記入を行い、2日間の研修を振り返ります。最後に修了証を授与します。
- (13) 懇親会（希望者のみ参加） 15:30～17:00
軽食をとりながら2日間の研修を振り返るとともに、参加者同士の交流をさらに深めます。

10. その他

- (1) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。
あらかじめご了承ください。
- (2) 修了生（希望者のみ）には、国立女性教育会館から定期的にメールマガジンを送付します。

平成27年度「女子大学生キャリア形成セミナー」参加者概況(確定)

定員: 30 申込者: 28 参加者: 21
(キャンセル7)

応募倍率: 93.3%

1. 性別

	合計
女性	21

2. 講義

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

3. パネルディスカッション

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

4. パネリストに聞こう

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

5. 交流会

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

6. 情報提供

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

7. グループワーク①

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

8. グループワーク②

	女性
参加	21
不参加	—
合計	21

9. 懇親会

	女性
参加	15
不参加	6
合計	21

10. 都道府県別

	女性
北海道・東北	北海道
	青森県
	岩手県
	宮城県
	秋田県
	山形県
	福島県
関東・甲信越	茨城県
	栃木県
	群馬県
	埼玉県
	千葉県
	東京都
	神奈川県
	山梨県
	新潟県
	長野県
北陸・東海	富山県
	石川県
	福井県
	岐阜県
	静岡県
	愛知県
	三重県
近畿	滋賀県
	京都府
	大阪府
	兵庫県
	奈良県
	和歌山県
中国・四国	鳥取県
	島根県
	岡山県
	広島県
	山口県
	徳島県
	香川県
	愛媛県
	高知県
	福岡県
九州・沖縄	佐賀県
	長崎県
	熊本県
	大分県
	宮崎県
	鹿児島県
	沖縄県
合計	21

平成27年度「女子大学生キャリア形成セミナー」アンケート集計結果(最終報告)

参加者数 21名
アンケート回答数 21件
アンケート回答率 100.0 %

1 各プログラムについて

【20日 講義「働く女性を取り巻く環境～国際データ比較と女子大学生追跡ヒアリング調査を通して～】

	人数	%
非常に満足した	10	47.6
満足した	10	47.6
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加しなかった	1	4.8
無回答	-	-
合計	21	100.0

＜非常に満足した理由＞

- マクロデータ(国際比較)は、ある程度知っている内容だったが、ミクロデータ(女子大生ヒアリング)の実際の生の声が聞けたのは大変有意義だった。正社員として、育児と両立できると知り、安心した。
- 女性を取り巻く環境について詳しく知れてよかったです。自分はどうなるのか、社会に出ていくことが不安ながらも楽しみに感じた。

＜満足した理由＞

- 何人かの個人的な意見が聞けてよかったです。職種別の働き方、キャリアをもっと聞きたい。
- 最初の情報・データの部分は授業やレポートで扱ったのと全く同じものだったけれど、追跡調査は自分で行おうと思ってもなかなかできないことで、貴重に感じました。就活時の企業選択の参考になりました。

【20日 パネルディスカッション「先輩の声を聞く】

	人数	%
非常に満足した	15	71.4
満足した	5	23.8
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加しなかった	1	4.8
無回答	-	-
合計	21	100.0

＜非常に満足した理由＞

- 個人のキャリアを詳しく聞くことができて、とても参考になった。
- 2, 3歳上の先輩に話を聞く機会はたくさんあるけれど、何十歳も先輩に生の声を聞くことはめったにないのでありがたかった。3人それぞれのキャリアが異なり、聞いていていろいろな女性の生き方があるのだと知った。

＜満足した理由＞

- 3人3通りの考えがあって参考になりました。いろいろな生き方がある。働くのが好きというのはすごいなーって思いました。

【20日 パネリストに聞こう】

	人数	%
非常に満足した	14	66.6
満足した	6	28.6
少し物足りなかった	-	-
物足りなかつた	-	-
参加しなかつた	1	4.8
無回答	-	-
合計	21	100.0

<非常に満足した理由>

- ・質問することで深い、詳しい話が聞けてよかったです。また、時間が長かったのでよかったです。
- ・「仕事は続けることが大切」「100:0でなく、やりたいことは挑戦していい！」「小さな仕事でも一所懸命努力していれば見てくれている人はいる」という言葉が印象的でした。
- ・自分が考えてなかった質問とか、他の子の考えを聞けてよかったです。

<満足した理由>

- ・自分は質問することができなかつたが、パネルディスカッションで聞いたことより詳しい話が聞けてよかったです。
- ・質問に答えてもらって何か見えた気がしました。否定→肯定になりました！

【20日 交流会】

	人数	%
非常に満足した	18	85.7
満足した	2	9.5
少し物足りなかつた	1	4.8
物足りなかつた	-	-
参加しなかつた	-	-
無回答	-	-
合計	21	100.0

<非常に満足した理由>

- ・パネリストの方とも同期ともいろいろな話をして聞けて、少し壁を取り払えた点が大きく嬉しかったです。
- ・パネリストの方ととても近い距離で話すことができて、普段は聞けないようなことも聞くことができてよかったです。
- ・個人的に一番楽しかった。普段話す機会がない社会人の方々と身近に話せることは貴重な経験だった。

<満足した理由>

- ・いろいろな不安を話せて、話を聞いて、私ももっと頑張らなくてはと思いました。お菓子おいしかったです。ありがとうございました。

<少し物足りなかつた理由>

- ・話が盛り上がり、どの方との交流も時間が足りず、選択するのも難しかった。

【21日 グループワーク①②】

	人数	%
非常に満足した	16	76.2
満足した	5	23.8
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加しなかった	-	-
無回答	-	-
合計	21	100.0

<非常に満足した理由>

- ・自分自身をよく見つめ、人の考え方をよく聞き、そこからまた考えるきっかけになりました。このモチベーション、やる気を忘れず保ち続けたいです。
- ・自分一人でなく他人の意見も聞き、自分の将来を考えることができてとてもよかったです。同じ気持ちの人と話し合えることが、すごく気持ちよかったです。
- ・「自分が仕事をする上で大切にしたいこと」「どんな社会にしたいか」を考えることで、社会が身近なものに感じられました。「女性は世界を変える」がテーマの私の大学とも被るものがあり、小さな一歩でも踏み出すことの大切さを改めて知りました。もっと深く考えていきたいと思います。

<満足した理由>

- ・大学の講義のようで楽しかったです。
- ・紙に書き出すことで、自分の考えが整理できだし、見える化ってすごいなと思った。

2 全体の満足度

	人数	%
非常に満足した	17	81.0
満足した	4	19.0
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
無回答	-	-
合計	21	100.0

<非常に満足した理由>

- ・正直こんなに充実したセミナーになると思っていませんでした。2日間でいただいた大切な経験をこれからに生かしていきたいと思います。
- ・同年代の人と将来について意見交換して、実際に働く女性のお話を聞くことができたので、より真剣に自分の将来について考えることができた。人とこんなに自分の人生、キャリアについてシェアしたのは初めてでした。とても実りあるものでした。

<満足した理由>

- ・同じ女子大生の話を量的にも質的にも多くの聞くことができた、と同時に「これはこういうこと？」と“聴き役”になることは難しいと感じた。
- ・自分が気がつかない自分の姿や役割を知ることができたことが一番の収穫でした。
- ・たくさんの人と意見を共有でき、自分の糧となったと思います。知り合った人とこの先もつながっていきたいです。
- ・ご飯おいしかったし、話も参考になりました！お菓子おいしかった！パネリストの話も参考になって、こういう見方もあるんだなって思いました。

3 全体についての感想、要望など

- チラシにもっと詳しい内容を書いていただけたと、もっと興味を持つてくれる方が増えると思います。本当に参加してよかったですと思っているので、ぜひ毎年行ってほしいです。
- 自分が働く上で大事にしていることを改めて考え直して、やっぱりこうしたいと思えることややっぱりこれは違うと感じることがあって、新しい考え方など発見があった。また、働くことに対して新しい選択肢を見つけることができたのでよかったです。
- このセミナーに参加して、高い志を持つ仲間との出会い、同じ不安を持つ仲間との出会い「仕事は本当に楽しい！」と語ってくださる企業の方や女性会館の職員の皆様との出会いがありました。明日からの生き方が変わる2日間だったなあと思います。本当にありがとうございました！！

4 「OG企画委員」希望

希望:6名

考慮中:4名

＜参考＞このセミナーを知ったきっかけ(複数回答)

	人数	% (21名中)
チラシ・ポスター	8	38.1
インターネット広告	-	-
インターネット検索	-	-
知人・友人	2	9.5
会館ホームページ	-	-
大学の就職課支援課	3	14.3
大学などの先生	4	19.0
その他	3	14.3

その他 母からの紹介
会館職員に出会って
大学のキャンパス情報システムから

平成27年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性のエンパワーメント支援と女性に対する暴力や貧困などの喫緊の課題解決を目指して、相談者への理解の深化や必要な知識・技能習得、関係機関との連携促進を図るための研修を行います。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修です。

2. 主催 独立行政法人 国立女性教育会館

3. 会場 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6725

FAX 0493-62-6720

Eメールアドレス progdiv@nwec.jp

ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>

4. 期日 平成27年6月10日（水）～6月12日（金） 2泊3日

5. 参加者 公私立の女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員

6. 定員 80名

7. 日程 (各プログラムの間に10～15分の休憩があります。)

6/10 (水)	13:15 13:30 15:15 17:15 19:00						
			開会	講義1	講義2	夕食	※ 情報 交換会
6/11 (木)	9:00	9:45	11:45	13:00	14:45	17:15	19:00
	情報 提供	講義3	昼 食	講義4	分科会1	夕 食	※ オプショ ンプログ ラム
6/12 (金)	9:00	11:15	12:25	12:30			
	分科会2	全体会	閉 会				

※印のついたプログラムは希望者のみです。

8. 内 容

第1日 6月10日（水）

（1）開会

13:15～13:30

- ① 主催者あいさつ
- ② プログラム説明

（2）講義1 「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」

13:30～15:00

女性関連施設における相談業務の意義と役割について、女性が抱える問題の解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。

講 師 須藤 八千代 愛知県立大学名誉教授

大阪市立大学人権問題センター特別研究員

（3）講義2 「女性相談の実態と支援に関する法知識」

15:15～17:15

実際によくある女性からの相談の事例などを交えながら、関係機関との連携の仕方や法的措置など、相談員として知っておくべき法知識を学びます。

講 師 白石 美奈子 とらすと法律事務所弁護士

横浜弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長

●オプションプログラム（希望者のみ）

情報交換会

19:00～20:30

相談業務における課題などの情報交換と参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 6月11日（木）

（4）情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」

9:00～9:30

女性情報ポータル Winet（ウィネット）と女性教育情報センターの紹介を通じ、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供します。

説 明 国立女性教育会館情報課専門職員

（5）講義3 「女性と貧困」

9:45～11:45

現代の複雑な社会構造の背景を学び、女性や子どもを取り巻く貧困について理解を深め支援の仕方を探ります。

講 師 川原 恵子 東洋大学 社会学部講師

（6）講義4 「DVを受けた子どもと母親への支援」

13:00～14:30

児童虐待や母親へのDVを目撃した子どもの心のケア、母親への援助や支援などを考えます。また諸機関との連携についても学びます。

講 師 春原 由紀 武蔵野大学名誉教授

(7) 分科会1 「当事者の課題別ケース検討」

14:45~17:15

課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいのか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学びます。

A : 人間関係に関する相談者への支援

夫婦、子ども等の家族の問題、また職場や男女間、近隣等に関する相談から見えてくる女性が抱える背景や課題を考えます。また、人との関係性を巡る問題をどう捉え、女性への支援につなげるかについて学びます。

講 師 景山 ゆみ子 前名古屋市男女平等参画推進センター
相談担当主幹

B : DV・性暴力の社会的構造と心理的背景

配偶者等からの暴力被害について、フェミニストカウンセリングの視点から、相談員が理解しておくべき社会的な構造やその背景などを学びます。

講 師 平川 和子 東京フェミニストセラピィセンター所長

C : DV・性暴力被害からの回復自立支援

配偶者暴力相談支援センター等における事例をとおして、支援理念、対応の仕方、相談者のエンパワーメントにつなげる支援を学びます。

講 師 近藤 恵子 特定非営利活動法人全国女性シェルターネット
理事

D : 子どもの心のケア（講義および施設見学）

「子どもの心のケアハウス嵐山学園」に入所している児童生徒が適切な教育をうけられるよう設置された学園内教室を見学。心理面・学習面・生活面でのケアを学ぶとともに関係機関との連携などについて学びます。

講 師 岩崎 広巳 埼玉県立東松山特別支援学校
こどもの心のケアハウス嵐山学園内教室教頭

見学先 埼玉県立東松山特別支援学校こどもの心のケアハウス嵐山学園

内教室

住所：〒355-0221 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷字東原 264-1

●オプションプログラム（希望者のみ）

体験～癒しの時間～クリスタルボウルで癒されよう 19:00~20:30

クリスタルボウルはその名の通り水晶でできた楽器です。大小さまざまなクリスタルボウルの波動は、演奏したり、聴いたりすることによって心身のストレスがとれ、リラクゼーション効果があります。この音色を皆さんで体感しましょう。

講 師 菊地 潤佳/小倉 由美子 クリスタルボウル演奏家

第3日 6月12日（金）

(8) 分科会2 「適切な支援を行うための力量を身につける」 9:00～11:00

相談者への対応や問題解決を目指して、相談業務に役立つヒントや知識を学びます。

A : 多文化共生社会への対応

近年増えている在住外国人からの相談や国際結婚による家族間の相談についてその背景を学びます。また、実際の相談事例の紹介もふまえながら、生活、文化についても理解を深め、今後の対応に必要な知識、連携について学びます。

講 師 加山 勤子 公益財団法人静岡県国際交流協会総務課長
石井 ナナエ 埼玉県指定・認定特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター理事長

B : ネット暴力の実情と防止策

インターネットやソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を介した女性に対する暴力やストーカー被害の実情と、その防止策について学びます。

講 師 及川 直美 埼玉県警察本部子ども女性安全対策課課長補佐

C : 配偶者からの暴力被害の相談の受け方と相談員のメンタルヘルス

配偶者からのDV相談に当たっての留意点や心の回復について学び、相談員の二次受傷などメンタルヘルスに関する知識も学びます。

講 師 竹下 小夜子 さよウイメンズクリニック院長

(9) 全体会

11:15～12:25

相談業務のあり方や相談者のエンパワーメントにつながる支援についての意見交換と共有を行い、これから相談業務の意義と役割を考えます。

コーディネーター 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員
報告者 分科会2講師

(10) 閉会・アンケート記入

12:25～12:30

9. その他

期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。ご了承ください。

平成27年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

平成27年6月12日現在

1. 性別

	合計
女性	97
男性	—
合計	97

2. 年代

	女性	男性	合計
20代	5	—	5
30代	7	—	7
40代	23	—	23
50代	37	—	37
60代以上	22	—	22
無回答	3	—	3
合計	97	—	97

3. 勤務形態

勤務形態	女性	男性	合計
常勤	22	—	22
非常勤	37	—	37
嘱託	33	—	33
無回答	5	—	5
合計	97	—	97

4. 施設区分

	女性	男性	合計
公設公営	68	—	68
公設民営	17	—	17
民設民営	9	—	9
その他	3	—	3
無回答	—	—	—
合計	97	—	97

5. オプションプログラム参加

	女性	男性	合計
①情報交換会	77	—	77
②講義・体験	66	—	66

6. 11日(木)分科会1

	女性	男性	合計
A:人間関係に関する相談者への支援	31	—	31
B:DV・性暴力の社会的構造と心理的背景	16	—	16
C:DV・性暴力被害からの回復自立支援	31	—	31
D:子どもの心のケア	18	—	18
不参加	1	—	1
無回答	—	—	—
合計	97	—	97

7. 12日(金)分科会2

	女性	男性	合計
A 多文化共生社会への対応	16	—	16
B ネット暴力の実情と防止策	20	—	20
C 配偶者からの暴力の相談の受け方と相談員のメンタルヘルス	56	—	56
不参加	5	—	5
無回答	—	—	—
合計	97	—	97

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	%
北海道・東北	11	—	11	11.3
関東	28	—	28	28.9
甲信越	10	—	10	10.3
北陸・東海	16	—	16	16.5
近畿	3	—	3	3.1
中国・四国	13	—	13	13.4
九州・沖縄	16	—	16	16.5
合計	97	—	97	100.0

定員: 80名
申込者数: 108名
応募倍率: 135.0%
参加者数: 97名

8. 都道府県別

	女性	男性	合計
北海道	1	(—)	1
青森県	1	(—)	1
岩手県	2	(—)	2
宮城県	1	(—)	1
秋田県	1	(—)	1
山形県	1	(—)	1
福島県	4	(—)	4
茨城県	1	(—)	1
栃木県	4	(—)	4
群馬県	5	(—)	5
埼玉県	5	(—)	5
千葉県	7	(—)	7
東京都	6	(—)	6
神奈川県	—	(—)	—
山梨県	1	(—)	1
新潟県	3	(—)	3
長野県	6	(—)	6
富山県	—	(—)	—
石川県	1	(—)	1
福井県	2	(—)	2
岐阜県	3	(—)	3
静岡県	8	(—)	8
愛知県	2	(—)	2
三重県	—	(—)	—
滋賀県	—	(—)	—
京都府	—	(—)	—
大阪府	2	(—)	2
兵庫県	1	(—)	1
奈良県	—	(—)	—
和歌山県	—	(—)	—
鳥取県	3	(—)	3
島根県	1	(—)	1
岡山県	1	(—)	1
広島県	1	(—)	1
山口県	3	(—)	3
徳島県	2	(—)	2
香川県	—	(—)	—
愛媛県	1	(—)	1
高知県	1	(—)	1
福岡県	3	(—)	3
佐賀県	1	(—)	1
長崎県	4	(—)	4
熊本県	1	(—)	1
大分県	1	(—)	1
宮崎県	5	(—)	5
鹿児島県	—	(—)	—
沖縄県	1	(—)	1
合計	97	(—)	97

平成27年度「女性関連施設相談員研修」参加者アンケート 集計結果

平成27年6月30日 現在

参加者	97 名
回答者	92 名
回収率	94.8 %

● 講義1 「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」の有用度

講 師 須藤 八千代 愛知県立大学名誉教授

大阪市立大学人権問題センター特別研究員

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	35	38.1	38.9	
有用だった	51	55.4	56.7	
あまり有用でなかった	4	4.3	4.4	
全く有用でなかった	—	—	—	4.4
不参加	—	—		
無回答	—	—		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・現場で体験されたことから話す言葉に説得力がありました
- ・自分の今までしてきた活動をOKと思えた。これからの新しい相談室の在り方のヒントを得た
- ・男性相談の取り組み方について、意見が聞けて良かった

「有用だった」理由

- ・時代も「聞くだけ」ではなく、ソーシャルワーク的関わり、社会資源へのアクセス等、相談の原則にプラスがますます必要とわかりました
- ・相談を受ける原点を改めて確認した気がします

「あまり有用でなかった」理由

- ・私の中に落とし込めない部分(講義内容)が多くあった。講師の著書を読んでから受講したら理解できたかも…

● 講義2 「女性相談の実態と支援に関する法知識」の有用度

講師 白石 美奈子 とらすと法律事務所弁護士

横浜弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	78	84.8	85.7	
有用だった	13	14.1	14.3	
あまり有用でなかった	—	—	—	
全く有用でなかった	—	—	—	
不参加	—	—		
無回答	—	—		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・わかりやすいレジメと説明であり、この講義を聞けただけでも参加したかいがありました
- ・法についてわかりやすく使いやすい形で知ることができ、満足した
- ・今まで聞いた法知識の中で一番わかりやすかった。とてもよかったです

「有用であった」理由

- ・話が具体的に細かい点まで教えてもらい、今後に活かせる
- ・保護命令申し立ての際、いつも感じていたが身体的な暴力以外のDV・モラハラは法的な立証が難しいと改めて感じました。何かならないのかと…

● 情報交換会の有用度(*希望者のみ)

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	40	43.5	57.1	97.1
有用だった	28	30.4	40.0	
あまり有用でなかった	2	2.2	2.9	
全く有用でなかった	—	—	—	2.9
不参加	14	15.2		
無回答	8	8.7		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- 同じ悩みや苦労していることなど共有でき、エネルギーをもらえた
- 他県の支援状況、個々の悩み等、打ち明け共有することができ明日からの支援の力となりました

「有用だった」理由

- 各地の相談員さんたちの熱意や行動に圧倒されました
- 仲間づくりが出来ておしゃべりに花が咲きました

「あまり有用でなかった」理由

- グループを作るときに近隣地方でまとめる必要はなかったと思う

● 情報提供「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」の有用度

説明 国立女性教育会館情報課専門職員

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	27	29.4	29.4	92.4
有用だった	58	63.0	63.0	
あまり有用でなかった	7	7.6	7.6	
全く有用でなかった	—	—	—	7.6
不参加	—	—		
無回答	—	—		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- アクセスしたことがなかったので、戻って検索してみます
- 自宅でも又エックの情報を活用していきたい

「有用だった」理由

- 女性相談の資料等今後ネット利用し情報を得たい

「あまり有用でなかった」理由

- 説明が早くてよく聞き取れなかった

● 講義3「女性と貧困」の有用度

講師 川原 恵子 東洋大学 社会学部社会福祉学科講師

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	46	50.0	51.7	100.0
有用だった	43	46.7	48.3	
あまり有用でなかった	—	—	—	
全く有用でなかった	—	—	—	—
不参加	—	—		
無回答	—	—		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・自分の受けた相談に重ねてお聞きしました。具体例をはじめとても分かりやすく勉強になりました
- ・貧困が高齢者の女性の大きな問題であること。相対的貧困や社会的排除について理解できた

「有用であった」理由

- ・若い女性の貧困が一見貧困に見えないがその背景を知ることにより貧困と言えるのだと気付いた
- ・改めて貧困について考えさせられました

● 講義4「DV被害を受けた子供と母親への支援」の有用度

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	71	77.1	77.8	98.9
有用だった	19	20.7	21.1	
あまり有用でなかった	1	1.1	1.1	1.1
全く有用でなかった	—	—	—	
不参加	—	—		
無回答	1	1.1		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・DVが子供に与える影響の大きさを改めて認識するとともにとてもつらくなってしまった
- ・子どもへの影響の怖さを知った。母子のケアの大切さを学んだ

「あまり有用でなかった」理由

- ・基礎的な話でなく子どものケアについてもっと話をしてほしかった

● 分科会1「当事者の課題別ケース検討」の有用度

A:人間関係に関する相談者への支援

講 師 景山 ゆみ子 前名古屋市男女平等参画推進センター相談担当主幹

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	19	63.4	65.5	100.0
有用だった	10	33.3	34.5	
あまり有用でなかった	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	
不参加	—	—		
無回答	1	3.3		
合計	30	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・ベテラン相談員さんの実践的なお話を聞いて良かったです
- ・人間関係の相談であっても奥に隠れている問題がDVであったりするので、慎重に話を聴き、支援することの重要さを学びました

「有用であった」理由

- ・難しい案件にどれだけ社会資源の提供を行えるのか。その問題について深く議論できた

「その他」理由

- ・アサーティブネスとイラショナル・ビリーフについて分かったよかったです。久しぶりにケース検討グループワークできました

B: DV/性暴力の社会的構造と心理的背景
講師 平川 和子 東京フェミニストセラピィセンター所長

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	8	57.1	57.1	100.0
有用だった	6	42.9	42.9	
あまり有用でなかった	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—
不参加	—	—		
無回答	—	—		
合計	14	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- これまで対個人として対応するのみでしたが、社会的背景を理解していると、さらに対象者の気持ちや思いを理解できると感じました。
- 平川先生にお会いできて光栄です。物静かなお話の中に信念が伝わる力のこもった講話に気づきました。日々の業務に前向きに取り組みたいと思います。またお目にかかることがあります！東北にもいらしてください

「有用であった」理由

- フェミニストカウンセラーの立場に立った対応が理解できました

C: DV/性暴力被害からの回復自立支援

講師 近藤 恵子 特定非営利活動法人全国女性シェルターネット理事

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	18	60.0	66.7	100.0
有用だった	9	30.0	33.3	
あまり有用でなかった	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—
不参加	—	—		
無回答	3	10.0		
合計	30	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- グループワークで他の人の意見も聞けよかったです。もっとケースの指導を先生から多数受けたかった
- 実際にあった事例をもとに何を優先順位にして対応していくかグループワークができるよかったです

「有用であった」理由

- 一生懸命、子どもと関わっているのが伝わってきました。これからもがんばってください先生！！

「あまり有用でなかった」理由

- 心のケアということで、ケアの部分が聞きたかったが、学校教育の部分が多く語られ、思っていたものと少し違っていた

「有用でなかった」理由

- 心のケアというテーマとはかけ離れた内容で残念。カリキュラムやルールではなく心理教育や連携の成果が知りたかった。相談員と教育者とでは、立っている位置が違う。不登校の子に登校を促す手段は、あまりにも作為的でそれが個別のプログラムとすれば生徒を矯正し社会に当てはめることが心のケアと言えるのか

● クリスタルボウル体験の有用度(希望者のみプログラム)

講師 菊池 潤佳/小倉 由美子 クリスタルボウル演奏家

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	23	25.0	39.7	91.4
有用だった	30	32.6	51.7	
あまり有用でなかった	4	4.3	6.9	8.6
全く有用でなかった	1	1.1	1.7	
不参加	15	16.3		
無回答	19	20.7		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- 本当にリラックス！疲れが取れました
- 心の疲れが取れ非常にリラックスできた時間でした 熟睡しました

「有用であった」理由

- のんびりリラックスできた

「あまり有用でなかった」理由

- リラックスできましたが、時間が長いと思った

「有用でなかった」理由

- 体育館は寒く、またまわりの話声で集中できなかった

● 分科会2「適切な支援を行うための力量を身につける」の有用度

A: 多文化共生社会への対応

講師 加山 勤子 公益財団法人静岡県国際交流協会総務課長
石井 ナナエ 埼玉県指定・認定特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター理事長

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	8	57.2	61.5	92.3
有用だった	4	28.6	30.8	
あまり有用でなかった	1	7.1	7.7	7.7
全く有用でなかった	—	—	—	
不参加	—	—		
無回答	1	7.1		
合計	14	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- 外国人在住者に対する支援について質問もさせていただいてあったのですが、詳細な資料と概要のお話によりまた幅広に知識を得ることができました。参加して本当に良かったです
- 外国人の相談者が来たときの専門的な多言語資料の作成等、参考になりました。対応の難しさも知った

「有用であった」理由

- 外国の方の現状がわかり勉強になった。今後自分のやるべき方向性がわかりよかったです

B: ネット暴力の実情と防止策

講師 及川 直美 埼玉県警察本部子ども女性安全対策課課長補佐

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	6	31.5	33.3	94.4
有用だった	11	57.9	61.1	
あまり有用でなかった	1	5.3	5.6	5.6
全く有用でなかった	—	—	—	
不参加	—	—		
無回答	1	5.3		
合計	19	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- 支援者の発する言葉の難しさと重さを改めて気づかされました
- 沢山のことを知ることができました。参加してよかったです

「有用であった」理由

- 初めてのネット暴力の研修で事案事例を知ることができました

C: 配偶者からの暴力被害の相談の受け方と相談員のメンタルヘルス
講師 竹下 小夜子 さよウイメンズクリニック院長

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	49	92.4	96.1	100.0
有用だった	2	3.8	3.9	
あまり有用でなかった	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—
不参加	—	—		
無回答	2	3.8		
合計	53	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・あつという間の2時間でした。大変考えるための元になるものをたくさんいただきました。気づきにもつながりました
- ・被害にあった方への対応の仕方を分かりやすく説明いただきました。また、相談員のメンタルヘルスについてポジティブに変える方法がわかりやすかったです
- ・すべての内容が大切なこと。もっと時間をとって様々なケースの検討指導もしていただきたかった。すべて使わせていただきます

「有用であった」理由

- ・気づきがあり、さっそく実践でやっていこうと前向きになった。相談員としても自信も持てた。元気になれた

● 全体会の有用度

<意見・感想等>

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	32	34.7	44.4	98.6
有用だった	39	42.4	54.2	
あまり有用でなかった	1	1.1	1.4	1.4
全く有用でなかった	—	—	—	—
不参加	3	3.3		
無回答	17	18.5		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

「非常に有用であった」理由

まとめていただいて、参加していない分科会がわかりました

他の分科会も興味があり、全体会の報告で概要をお聞きできてよかったです

「有用であった」理由

- ・参加できなかったプログラムの内容を垣間見れてよかったです
- ・分科会のシェアの中のQ&Aはよかったです

「あまり有用でなかった」理由

- ・要点整理ができていないように感じました

● 研修全体の有用度

	人数	%	※%	※%
非常に有用であった	67	72.8	74.4	100.0
有用であった	23	25.0	25.6	
あまり有用でなかった	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—
無回答	2	2.2		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

・「非常に有用であった」理由

- ・相談員としての悩みの共有や、そのために必要なスキルや情報について学んだ
- ・今まで行ってきた支援を見直す良い機会となりました。新たな気持ちで相談業務を行うことができます

「有用であった」理由

- ・普段の相談業務の振り返りと反省が出来た
- ・相談員2年目の私はテーマ1つ1つが大変魅力的であり、内容も濃すぎず大変有用でした

● 研修全体の満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	55	59.7	61.8	96.6
満足した	31	33.7	34.8	
少し物足りなかった	3	3.3	3.4	3.4
物足りなかった	—	—	—	
無回答	3	3.3		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

(※%は「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に満足であった」理由

- ・講義と共に大勢の仲間と交流ができました
- ・研修会が不足していると感じている中、今回集中して広範囲にわたる知識を得るために研修へ参加できて非常に満足しています。他県の相談員の方々と交流もできたため、遠方から参加してよかったです
- ・女性相談関係者の熱意が伝わった。自分がエンパワードされた

「満足であった」理由

- ・他の機関の方々の話を聞くことが出来てたくさんの気づきがありました
- ・全体のボリュームには満足でしたが分科会はもう少し長い時間でもよかったです

「少し物足りなかった」理由

- ・相談員の所属する機関がどのような役割を担っていたのか、相談員同士がつながりを持てるのが研修の大きな目的の一つだと思うが、その機会が少なかった

「その他」理由

- ・研修内容もだが、館内設備、運営、進行ともにストレスを感じることなく受講出来た。ありがとうございました。レストランメニューに幅があり、価格が安いともといい(自己負担なので)出席者が男女参画系が多く、配暴や役所関係の人と話せる機会が少なかったので残念に思いました

● 研修の開催時期

	人数	%	※%
6月でよい	66	71.7	93.0
別の時期の方がよい	2	2.2	2.8
その他	3	3.3	4.2
無回答	21	22.8	
合計	92	100.0	

● 研修に参加しやすい時期

	人数	%
5月	8	13.8
6月	24	41.4
7月	4	6.9
8月	2	3.4
9月	3	5.2
10月	10	17.2
11月	7	12.1
合計	58	100.0

<意見・感想等>

- ・今年度も、頑張ろうと意欲的になれる。新しい方達にとっても6月がいいと思います
- ・年度始めて、とてもよい研修となったので、年度始めが良いと思います

● その他(国立女性教育会館の事業や施設等についての意見)

- ・とても使いやすい施設でした。ありがとうございました
- ・よく管理されていて、部屋も気持ちよく使わせていただきました
- ・広大な敷地でゆっくりできました

● II あなた自身について

1 この研修を受講してご自身に変化はありましたか

	人数	%	※%	※%
あつた	60	65.2	66.7	
少しあつた	27	29.3	30.0	96.7
分からぬ	3	3.3	3.3	3.3
無回答	2	2.2		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

2 変化のあった方はどのようにありましたか(複数回答可)

	人数	%
社会的背景が理解できた	48	19.9
必要な知識・技能が得られた	73	30.3
関係機関との連携の仕方がわかった	15	6.2
気づきがあった	47	19.5
新たな取り組みにチャレンジしたい	18	7.5
前向きな気持ちになった	34	14.1
その他	6	2.5
合計	241	100.0

◎ 以前この研修に参加した方で実際に効果や変化があった方は具体的にお書きください

- ・地元に帰ってから、研修で出会った方たちと交流と勉強会ができそうです
- ・知識・技能を身に付けることで相談に活かすことができた

3 相談員になる前の「相談者(相談をする側)としての経験

	人数	%	※%	※%
ある	23	25.0	25.8	
ない	66	71.7	74.2	
無回答	3	3.3		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

4 この研修で他施設の参加者の方とつながりができましたか

	人数	%	※%	※%
できた	31	33.6	34.8	85.4
すこしできた	45	48.9	50.6	
あまりできなかつた	11	12.0	12.4	14.6
変わらない	2	2.2	2.2	
無回答	3	3.3		
合計	92	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

平成27年度 女子中高生夏の学校 2015

～科学・技術・人との出会い～



1 趣 旨

女子中高生が「科学技術にふれる」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながる」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」ための機会として「女子中高生夏の学校 2015～科学・技術・人との出会い」を開催します。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しています。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深めます。

2 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

3 共 催

日本学術会議 「科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会」
「科学者委員会 男女共同参画分科会」

4 後 援

男女共同参画学協会連絡会

5 会 場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

電 話 : 0493-62-6724 • 6725 F A X : 0493-62-6720

E メールアドレス : progdiv@nwec.jp WEB サイト U R L : <http://www.nwec.jp/>

6 期 日

平成27年8月6日（木）～8月8日（土）

7 参加者・定員

○科学・技術の分野に興味・関心のある女子

（中学校3年生、高校1～3年生、高等専門学校1～3年生） …… 100名

○保護者・教員 …… 50名

10 日 程（予定）

【共通】 …女子中高生、保護者、教員共通のプログラム

【女子中高生】 …女子中高生用のプログラム

【保護者】 …保護者用のプログラム

【教員】 …教員用のプログラム

<第1日 8月6日(木)>

【共通】 開校式

13:00～13:30

開会宣言	柏原 賢二	実行委員長（日本数学会）
あいさつ	内海 房子	国立女性教育会館理事長
	嶋田 透	日本学術会議会員 東京大学大学院農学生命科学教授
オリエンテーション	古澤 亜紀	茨城県立水戸農業高等学校教諭

【共通】 サイエンスアンバサダー

「自分の将来について考えよう」

13:30～14:00

夏学に参加するに当たり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA（ティーチングアシスタント）の講話などから、合宿研修のねらいや目的を理解したり、主体的に研修に参加する気持ちを高めたりします。

【共通】 キャリア講演

14:15～15:45

過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって知名度のある企業で働く女性から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深めます。

講師 木村 知代 株式会社ちふれ化粧品総合研究所 研究員
福田 陽子 東京大学大学院理学系研究科 博士課程3年

【女子中高生】 学生企画「サイエンスバトル！？」

16:15～17:45

グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深めます。

【保護者】【教員】 夏の学校を知る

16:15～17:45

今までの夏学の様子をDVDで視聴したり、担当者から説明を受けたりすることにより、3日間の研修の流れや意義を理解するとともに、グループ討議等を通じてお互いの交流を深めます。

夕 食

18:00～19:00

【女子中高生】 学生企画「i future～理系人生を体験しよう～」

19:15～20:45

はじめに女子中高生が興味関心のあるものや好きなことから将来の進路を考えられるようにマインドマップと呼ばれるイメージ図を作成します。その後ロールモデルとなる科学・技術者や学生TAの人生を疑似体験できるゲームを行います。これらを通じて女子中高生が自分自身の将来をゲーム感覚で具体的に考えます。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅠ

「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

19:15～20:45

学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知り、女子中高生への支援の在り方について考えます。

講師 松尾 由賀利 科学者委員会 男女共同参画分科会、法政大学教授
男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等から1名ずつ調整中

【共通】天体観望会

<希望者のみ参加>

21:00～22:00

自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察します。

【女子中高生】国際交流「英語相談所」

<希望者のみ参加>

21:00～22:00

翌日に行われる国際交流の時間に向けて、英語で話すことへの不安を取り除けるよう、女子中高生の相談に留学生TAが応じます。

<第2日 8月7日(金)>

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

9:00～11:30

理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組みます。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を用意します。

- A 宇宙の星から学ぶエネルギー Part.4 ～福島から考える私の未来～
- B 金属の不思議
- C バナナのDNA抽出実験と水をきれいにする実験
- D 化学への招待 - 楽しい化学実験を体験してみよう
- E 川を科学する
- F 身近に生きる生物たちの生態
- G 荒川を探検しよう！
- H シリーズ：地球惑星科学へようこそ（その1）
～作って・見て・考えよう！ 神秘の微化石・生命のかたちの不思議～
- I ゲームとビーズミニストラップ作りで遺伝子発現を体験します
- J 地磁気を測ってみよう
- K ウィルスを知ろう—ウィルス粒子模型の作製
- L シリーズ：地球惑星科学へようこそ（その2）～真夏の雪実験～
- M コンピュータで探す健康や環境浄化に関わる遺伝子
- N 作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ
- O 結び目のゲームを作って遊ぼう
- P 見えないけれどこんなに綺麗、「複素数」の世界をのぞく

【保護者】【教員】実験・実習の参加・見学

9:00～11:30

女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで、研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりします。

昼 食

11:30～12:45

集合写真の撮影

12:45～13:00

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ

「研究者・技術者と話そう」

13:00～15:50

女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次の①と②のブースを設け、様々な人と交流します。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩み等の解決に近づける場とします。

① ポスター展示・キャリア相談

30程度の展示ブースを設置し、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行います。理系の世界で活躍する人たちや最先端の技術に触れる機会とします。

また、研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じます。女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えを持てるようにする機会とします。

(別紙 平成27年度ポスター展示一覧参照)

②国際交流

海外から日本に来ている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビューします。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かします。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅡ

「研究者・技術者、大学生との座談会」

13:00～14:50

「中学、高校、大学の教員の連携」

女性の科学・技術者、学生TAとの座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とします。中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行います。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅢ

「企業における女性研究者の活躍」

15:00～15:40

渡辺 美代子

日本学術会議 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会
国立研究開発法人 科学技術振興機構 執行役

【女子中高生】学生企画「Gate Way」

16:00～17:30

女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るとともに、進路選択における悩みを相談できるよう、様々な分野や年代の人々とざっくばらんに話し合います。また、前日の学生企画「i future～理系人生を体験しよう～」で作成したマインドマップの完成に向けて、科学・技術者や学生TAからアドバイスを受ける時間を設けます。

【保護者】【教員】サイエンスカフェIV**「ポスター展示・キャリア相談」**

15:50～17:10

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会とします。また理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とします。

(別紙 平成27年度ポスター展示一覧参照)

【共通】交流会

18:00～19:00

夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。

【女子中高生】学生企画「キャリア・プランニング」

19:15～20:45

これまでの女子中高生と科学・技術者、学生TAなどの交流を踏まえ、また、研究者・技術者へのインタビューなどを通して、各グループでアドバイスを出し合いながら話し合い、一人一人の具体的な進路を模索します。

【保護者】【教員】サイエンスカフェV「海外理工系事情」

19:15～20:45

女子中高生理工系進路選択のエンカレッジを目的として、保護者、教員の方々に、海外理工系事情の理解と我が国の現状を再認識する機会を提供します。前半では、海外からの留学生、海外の理工系大学で学んだ経験のある日本人学生、科学者、技術者に、それぞれ、自国の生活、文化、科学技術の状況、海外の理工系大学での大学教育、自身のキャリアパス形成などについて話してもらいます。後半では、保護者、教員が交流する場を設け、自由に話合う展開とします。

【共通】研究者・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

<希望者のみ参加>

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生TAとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。

【女子中高生】国際交流「もっと話そう英語」

<希望者のみ参加>

21:00～22:00

国際交流の時間だけでは英語を話すことが物足りなかった女子中高生のために、留学生TAが英語での会話や質問に応じます。

<第3日 8月8日(土)>

【女子中高生】一体感型実験

9:00～11:00

科学的に視野を広げる経験を大人数で共有できるような実験を行います。参加者一同が同じテーマのもと、製作から完成までの過程を経験し、一体感を味わいます。

【保護者】夏の学校を振り返る

9:00～10:00

女子中高生の理系進路に関する保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、3日間の研修を振り返ります。

【教員】夏の学校を振り返る

9:00～10:00

それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士の忌憚のない意見交換を行って3日間の研修を振り返ります。

【保護者】【教員】一体感型実験の参加・見学

10:00～11:00

女子中高生が取り組む一体感型実験に保護者や教員も参加や見学を行います。

【共通】学生企画「夏学振り返りと表彰式」

11:15～12:00

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行います。

【共通】サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

12:00～12:45

女子中高生の参加者全員をサイエンスアンバサダーとして任命します。自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験を伝えます。

任命 柏原 賢二 実行委員長（日本数学会）

平成27年度 女子中高生夏の学校2015参加者概況

2015年8月25日 現在

1. 学年

中学生	3年	47	47
高校生	1年	35	66
	2年	27	
	3年	4	
合計		113	

2-1. 教員、保護者等

	教員	保護者	合計
女性	6	9	15
男性	4	2	6
合計	10	11	21

5. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む。

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

		中学生	高校生	中高生合計	教員	保護者
北海道・東北	北海道	2	—	2	—	—
	青森県	—	—	—	—	—
	岩手県	—	1	1	—	—
	宮城県	—	1	1	—	—
	秋田県	—	2	2	1	—
	山形県	1	3	4	—	—
関東	福島県	—	4	4	—	—
	茨城県	7	—	7	1	—
	栃木県	1	3	4	—	1
	群馬県	3	2	5	—	—
	埼玉県	3	7	10	—	1
	千葉県	1	2	3	—	—
甲信越	東京都	3	8	11	1	1
	神奈川県	3	6	9	1	—
	山梨県	2	—	2	—	—
北陸・東海	新潟県	2	—	2	—	—
	長野県	—	5	5	1	—
	富山県	—	—	—	—	—
	石川県	—	—	—	—	—
	福井県	—	—	—	—	—
	岐阜県	1	—	1	—	—
近畿	静岡県	1	1	2	—	—
	愛知県	1	3	4	1	3
	三重県	3	—	3	—	—
	滋賀県	—	—	—	—	—
	京都府	4	—	4	1	—
	大阪府	—	4	4	1	—
中国・四国	兵庫県	—	—	—	—	—
	奈良県	—	—	—	—	—
	和歌山县	—	—	—	—	—
	鳥取県	—	—	—	—	—
	島根県	1	—	1	—	1
	岡山県	—	4	4	—	—
九州・沖縄	広島県	1	—	1	—	—
	山口県	1	—	1	—	1
	徳島県	—	—	—	—	—
	香川県	1	4	5	—	1
	愛媛県	—	1	1	—	—
	高知県	—	—	—	—	—
合計	福岡県	—	—	—	—	—
	佐賀県	2	1	3	—	2
	長崎県	1	—	1	1	—
	熊本県	1	1	2	—	—
	大分県	—	—	—	—	—
	宮崎県	—	—	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—	—	—
	沖縄県	1	3	4	1	—
	合計	47	66	113	10	11

※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	教員	保護者	合 計
北海道・東北	3	11	1	—	15
関東	21	28	3	3	55
甲信越	4	5	1	—	10
北陸・東海	6	4	1	3	14
近畿	4	4	2	—	10
中国・四国	4	9	—	3	16
九州・沖縄	5	5	2	2	14
合計	47	66	10	11	134

「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(女子中高生用)

参加者 113 名
アンケート回答数 112 件
アンケート回答率 99.1 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	2	1.8	石川県	—	—	岡山県	4	3.6
青森県	—	—	福井県	—	—	広島県	1	0.9
岩手県	1	0.9	山梨県	2	1.8	山口県	1	0.9
宮城県	1	0.9	長野県	5	4.5	徳島県	—	—
秋田県	2	1.8	岐阜県	1	0.9	香川県	5	4.5
山形県	4	3.6	静岡県	2	1.8	愛媛県	1	0.9
福島県	4	3.6	愛知県	4	3.6	高知県	—	—
茨城県	7	6.3	三重県	3	2.7	福岡県	—	—
栃木県	4	3.6	滋賀県	—	—	佐賀県	3	2.7
群馬県	5	4.5	京都府	4	3.6	長崎県	1	0.9
埼玉県	10	8.9	大阪府	4	3.6	熊本県	1	0.9
千葉県	4	3.6	兵庫県	—	—	大分県	—	—
東京都	11	9.8	奈良県	—	—	宮崎県	—	—
神奈川県	8	7.1	和歌山県	—	—	鹿児島県	—	—
新潟県	2	1.8	鳥取県	—	—	沖縄県	4	3.6
富山県	—	—	島根県	1	0.9	無回答	—	—
						合計	112	100.0

◆今後の具体的な進路

(※は「無回答」を除いた割合)

		%	※%
理系	80	71.4	72.1
文系	6	5.4	5.4
まだ決めていない	25	22.3	22.5
無回答	1	0.9	
合計	112	100.0	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

		% (112 名中)
①学校・先生から	86	76.8
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	9	8.0
③新聞の記事	1	0.9
④親、家族、親戚から	20	17.9
⑤その他	4	3.6

<他の内容>

- ・友人(友達)から 3件
- ・ポスター

3. あなたが「女子中高生夏の学校2015」に参加した理由は何ですか(複数回答)。

		% (112名中)
①科学・技術分野に興味があるから	71	63.4
②将来の進路を考える参考にするから	78	69.6
③講師の先生に関心があるから	4	3.6
④おもしろそうなプログラムがあるから	50	44.6
⑤他校の生徒と話をしてみたかったから	30	26.8
⑥大学生と話をしてみたかったから	19	17.0
⑦先生に勧められたから	37	33.0
⑧親等に進められたから	18	16.1
⑨その他	4	3.6

<その他の内容>

- ・なんとなく
- ・学校の自己発見チャレンジを消化したかったから。
- ・高校進学に向けて考えたかったから
- ・友達にすすめられたから。

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

サイエンスアンバサダー

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

		%	※%
非常に有用だった	38	33.9	34.9
有用だった	62	55.4	56.9
あまり有用ではなかった	9	8.0	8.3
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	0.9	/
無回答	2	1.8	/
合計	112	100.0	100.0

<感想>

- ・中々できない体験である。
- ・サイエンスアンバサダーについて知れた。
- ・自分が学んだことを周りに広めることは大切だと思った。
- ・夏学後も活動できるのが良いと思う。
- ・親や友人に伝えるという点がとてもよいと思う。

キャリア講演① 木村 知代さん

		%	※%
非常に有用だった	58	51.8	52.7
有用だった	49	43.8	44.5
あまり有用ではなかった	2	1.8	1.8
有用ではなかった	1	0.9	0.9
参加していない	1	0.9	/
無回答	1	0.9	/
合計	112	100.0	100.0

<感想>

- ・現役の方からの貴重な体験談やアドバイスのようなお言葉をいただき、今後に活かしていくける体験だと思った。
- ・工学部(化学科ではあるが)と化粧品につながりがあるというのにおどろきました。
- ・自分のやりたいことと丁寧に向き合う事が大切と知った。
- ・身近な商品の研究だったので興味がわいた。
- ・途中で大学を変えてまで夢を叶えて、尊敬する。
- ・「やりたいことに向き合う」と言う言葉が印象に残った。
- ・化粧品が身近でなかったので視野が広がった。
- ・化粧品について(どうすればそのような方面に行けるか)が分かりました。
- ・研究職について、知らなかったことが沢山あった。

キャリア講演② 福田 陽子さん

		%	※%
非常に有用だった	56	50.0	50.5
有用だった	49	43.8	44.1
あまり有用ではなかった	6	5.4	5.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・自分の小さいころからの夢を追っててすごい！
- ・自分で見たい物を追い求める行動力がすごいと思った。
- ・オーロラを研究しているということがそもそも知らないことだった。
- ・南極観測隊なんて、すごいなーと思った。
- ・私が気になる分野と共に通していく、参考になった。

学生企画「サイエンスバトル！？」

		%	※%
非常に有用だった	79	70.5	70.5
有用だった	29	25.9	25.9
あまり有用ではなかった	4	3.6	3.6
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・グループとの仲がよりぐっと深まったような気がした。
- ・班の人と協力してゲームをクリアできてうれしかった。
- ・グループで相談しながらクリアすることができた。
- ・ゲームがぜんぶ楽しかった。クイズの難易度高い。
- ・知らない子と仲良くなるきっかけとなった。

学生企画「i future～理系人生を体験しよう」

		%	※%
非常に有用だった	80	71.4	72.1
有用だった	28	25.0	25.2
あまり有用ではなかった	3	2.7	2.7
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・自分と似ている人の経験が知れてよかったです。今後の役に立ちそう。
- ・興味のある分野の学生さんの話を聞くことができて良かった。
- ・様々なタイプの先輩のタイムラインが見られて参考になった。
- ・学生TAさんとお話しして、苦手科目の勉強のやり方を教えてくださいとてもよかったです。
- ・模擬体験で具体的に自分の進路を考えられた

天体観望会

		%	※%
非常に有用だった	17	15.2	42.5
有用だった	14	12.5	35.0
あまり有用ではなかった	8	7.1	20.0
有用ではなかった	1	0.9	2.5
参加していない	68	60.7	
無回答	4	3.6	
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・星が見えなくて残念でした。
- ・天体についてよく分かりました。
- ・星が見えなかつたのが残念だったが、3D宇宙がおもしろかった。

国際交流「英語相談所」

		%	※%
非常に有用だった	31	27.7	72.1
有用だった	10	8.9	23.3
あまり有用ではなかった	2	1.8	4.7
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	64	57.1	
無回答	5	4.5	
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・たのしかった！！今の自分の英語力をはかることができた。
- ・外国人の方とお話をしてもっと英国を学ばないといけないと改めて思った。

夏学スタッフの今

		%	※%
非常に有用だった	22	19.6	81.5
有用だった	4	3.6	14.8
あまり有用ではなかった	1	0.9	3.7
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	75	67.0	
無回答	10	8.9	
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・数学の講師の先生とお話をしてもより数学に興味をもった。
- ・進路選択の参考になった
- ・生の声をきけて良かった

【2日目】

サイエンスアドベンチャー I 「ミニ科学者になろう」

		%	※%
非常に有用だった	85	75.9	76.6
有用だった	24	21.4	21.6
あまり有用ではなかった	2	1.8	1.8
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	1	0.9	
無回答	—	—	
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・金属の実験がとても楽しかったです！
- ・実際に科学者の雰囲気を実感できた。
- ・実際にやって実験することで分かることもあった。
- ・遺伝子について新たな発見があった。
- ・科学を身近に感じることができた。

- ・結び目理論について、わかりやすく説明してくれた。
- ・話を聞き、質問するのが楽しかったです。
- ・地学に興味を少し持ちました。
- ・実際の研究者がやっていることが体験できてよかったです。
- ・自分がやってみたいことが実験したので楽しかったです。
- ・本当に実験を好きになれた。苦手を克服できた。
- ・顕微鏡が使えるのはとても良かったです。
- ・パソコン操作をやさしく教えてもらった。

サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

		%	※%
非常に有用だった	96	85.7	85.7
有用だった	16	14.3	14.3
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・生物物理の方にいろんな話をきけてよかったです。
- ・様々な実験やおみやげが嬉しかったです。
- ・進路について迷っていたけど、ポスターなどをみてひかれるものを見つかったので良かった。
- ・国際交流で英語をなんとか使って交流できた。
- ・英語→話せなくて泣きそうだった。その他→ポスターが楽しすぎた。
- ・英語で話すのが難しかったけど、国際交流できた。
- ・様々なブースに行って話が聞けて充実した。
- ・自分の知らない研究者・技術者がいていろいろな視点から学ぶことができてよかったです。
- ・きになっていることや質問について聞けてよかったです
- ・興味のない分野の人とも出会えてよかったです。
- ・聞きたいことを勇気を出していろいろきけてよかったです。
- ・自分があまり知らない分野についても知ることができた。
- ・あまり興味のなかった分野も、面白そうと思えた。

学生企画「Gate Way」

		%	※%
非常に有用だった	87	77.7	77.7
有用だった	19	17.0	17.0
あまり有用ではなかった	6	5.4	5.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・いろいろな人に話を聞けてよかったです！！
- ・サイエンスアドベンチャーⅡで興味をもつたことを質問できました！！
- ・たくさん話をきいてくれてよかったです。
- ・くわしくわかりやすく話をしてくださって、自分も参考になった。
- ・たくさん的人に相談して解決することもあった。
- ・数学の悩みが解決した。
- ・質問1つひとつに丁寧に答えてくれて嬉しかった。
- ・あまりたくさんまわれなかつたが、良い話がきけた。
- ・いろいろな人の話がきけてよかったです。
- ・数学の教員をしている方と直接お話しすることができ、数学にたいする興味がふかまつた。
- ・悩みが解消した。実践していこうと思う。
- ・聞きたいことを勇気を出していろいろきけてよかったです。
- ・自分の進路について、親身になって相談にのってもらって、すごくうれしかった。
- ・自分と似た考えをもつたTAさんに出会えて良かった。

交流会

		%	※%
非常に有用だった	66	58.9	58.9
有用だった	38	33.9	33.9
あまり有用ではなかった	8	7.1	7.1
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	---
無回答	-	-	---
合計	112	100.0	100.0

<感想>

- ・先輩からアドバイスをいただけた。
- ・ごはんがおいしかった。でも、つかれですわっている人も多かった。
- ・食べ物を充実していたし、話も盛り上がっていたと思う。
- ・スイーツがおいしかった！満足した。
- ・関わりの薄かった人たちとも話せました。

学生企画「キャリア・プランニング」

		%	※%
非常に有用だった	74	66.1	66.1
有用だった	32	28.6	28.6
あまり有用ではなかった	4	3.6	3.6
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	0.9	---
無回答	1	0.9	---
合計	112	100.0	98.2

<感想>

- ・具体的に10年後、20年後を考えるいい機会だった。
- ・班で楽しく将来の自分をそぞろすることができた。実現できるようにしたい！
- ・しっかり目標を定められたので実践していきたい
- ・自分の将来についてゆっくり考えることができた。
- ・未来を考えることで、今を大切にしようと思えた。

夏学スタッフの出発点

		%	※%
非常に有用だった	21	18.8	75.0
有用だった	7	6.3	25.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	73	65.2	---
無回答	11	9.8	---
合計	112	100.0	100.0

<感想>

- ・自分の好きな分野はどんなことつながっているのか知ることができた。
- ・自分の進路に自信を持てたのでとても良かった

国際交流「もっと話そう英語」

		%	※%
非常に有用だった	22	19.6	75.9
有用だった	6	5.4	20.7
あまり有用ではなかった	1	0.9	3.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	76	67.9	---
無回答	7	6.3	---
合計	112	100.0	100.0

<感想>

- ・日頃外国人の方と話すのが苦手でしたが、克服できました！！
- ・難しかったが、英語に興味をもつきつかけになった。

【3日目】

一体感型実験

		%	※%
非常に有用だった	39	34.8	38.6
有用だった	35	31.3	34.7
あまり有用ではなかった	21	18.8	20.8
有用ではなかった	6	5.4	5.9
参加していない	-	-	/
無回答	11	9.8	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・難しかった。途中からついていけなかつた。
- ・難しかつたのでよく分かりませんでした。
- ・最後の実験は前もってTAさんにおしえておいたほうがスムーズになるのではないでしょか。
- ・説明がもう少しまとめられているとよかったです。
- ・説明が難しくて理解するのが大変だった。
- ・十進法と二進法の数のときしかよくわからなかつた。
- ・みんなでつくる実験はなかなかしないので、楽しかつた。

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

		%	※%
非常に有用だった	75	67.0	75.8
有用だった	22	19.6	22.2
あまり有用ではなかった	2	1.8	2.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	13	11.6	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・ユーモアな賞をいただけました。
- ・1位になれなかつたのがくやしかつた。
- ・分子あつめの結果発表ちょっとドキドキした
- ・ユーモアであふれていてとっても楽しく感動した。
- ・ビデオがうれしかつた。プラナリアで賞！！
- ・絵が上手で賞、をとれてよかつたです。
- ・ヘルツが2位になつてめっちゃうれしかつた。
- ・ユニークな名前の賞をもらいました。ありがとうございます。

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

		%	※%
非常に有用だった	61	54.5	63.5
有用だった	32	28.6	33.3
あまり有用ではなかった	3	2.7	3.1
有用ではなかつた	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	16	14.3	/
合計	112	100.0	100.0

＜感想＞

- ・たくさんの人々に感謝して夏学を終えることができた。
- ・ついに終わつてしまつたなといつかんじ。
- ・手早く終わらせてくつてありがたかつた。
- ・私達のためにいろいろな方が協力してくれて感謝しないといけないと思った。
- ・3日間ありがとうございました。楽しかつたです。

5. 「女子中高生夏の学校2015」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

		%	※%
非常に満足した	92	82.1	82.1
満足した	19	17.0	17.0
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかつた	1	0.9	0.9
無回答	-	-	
合計	112	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたこと

- 今まででは学力が高い教科だから…低い教科だから…ということばかり考えていましたが、理系にはこんなにもいろいろな分野があり、それぞれに面白さがあり、学力だけではないということを知ることができました。ポスター展示は特に役立ちました。
- 友達に勧められて応募しましたが、私しか当選せず、すごく最初は不安でした。ですが、すぐに仲良くなれた子がたくさんいて、また、実験などのプログラム内容がとても面白く、今回参加して本当によかったです！ありがとうございました！！
- 将来の夢を叶えるためか、興味のある分野を研究するかで迷っていましたが、先輩方からの「まずは将来の夢を叶えることを第一にして、興味のある分野には少し手を出せばいい」というアドバイスをもらい、このまま夢に向かって進めばいいと少し安心することができた。
- 理系を目指すたくさんの人たちと出会って、自分がもっと勉強しないといけないと感じた。大学生さんたちと会って、全員、苦手な科目を夢を叶えるために克服していると知り、私も苦手な科目を克服して夢を叶えたいと思いました。
- 理系の進路について少し誤解があったようでした。あまり仕事がないのかなと思っていたのですが、たくさんの方々に会い、話をしてそんなことはないのだということを知り、夢に希望が見えました。
- 夏学に来る前は進路のことまだ迷っていたけれど、今回参加して新しい発見・経験ができて、とても参考になったし、少し自信がついた気がしました。本当に楽しかったし、忘れられない思い出ができました。ありがとうございました。
- 全国各地から来た初対面の子達と仲良くなれてよかったです。TAの方や技術者の方達の生の話を聞くことができて、進路を決める判断材料になり、いい機会に巡り合えてよかったです。最高の3日間、一生忘れないと思います。本当にありがとうございました。
- たくさんの研究者・技術者の方々の話を聞き、貴重な体験ができたなと思いました。夏学に参加して、科学への興味が一段と深くなり、新たな発見も多くありました。また、たくさんの友達とも出会い、友達になることができ、本当に楽しい3日間でした。
- 人とコミュニケーションをとるのが苦手だったけど、サイエンスバトルや、キャリアプランニングを通してグラム班の人と仲良くなれてよかったです。数学について悩んでいたことが、相談できて、すっきりしたり、それを聞いて自分の将来が少しは見えてきた。
- 今まで文理選択は、自分の得意な方を選ぶことだと思い込んでいたけど、色々な先輩や先生の話を聞いて、様々な分野の魅力を知って、自分なりの選択方法があるのだと知った。理系への進路や科学・技術分野、探究すればするほど、楽しさ、魅力がわかって、その喜びを職業で味わえることは素敵だなと思った。身近なところに科学や技術が存在しているのだとわかった。
- 同じ女子中高生のみなさんの夢や目標が知れて、参考になった。理系に進むことについて少し不安もあったが、具体的な道が開けた感じがした。そして、同じグループの人と交流し、たくさんおしゃべりして仲良くなれたのもうれしかった。
- 理系への進路決定ができなく女子中高生夏の学校に参加して、同じなやみをもっていた先輩の話を聞いたり理系の職業に就いている方の話をきいて、さらに理系への興味・関心を強めることができました。数学の教員を夢としている私は、講師の先生方の話をもとに、これからの中の進路を考えることができました。夢を実現できるようにがんばりたいです！
- 今まででは漠然と思っていただけでしたが、今回の企画を通して、とても前向きになれました。何度も選択できると聞いて、迷いが薄くなりました。私の密かな目標であった「総合力を高める」も必要なことだと聞いて、さらにやる気が沸きました。
- こんなにも理系って幅広いとは思わなかった。実際に見て、聞いて、感じることは大切だと思った。技術者さんたちや、研究者さんたちの生の声を聞いて、生物や、宇宙もいいなと思った。今の受験勉強もがんばれるキッカケになった。

「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(教員用)

参加者 10名
アンケート回答数 10件
アンケート回答率 100.0 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	-	-
宮城県	-	-	長野県	1	10.0	徳島県	-	-
秋田県	1	10.0	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	-	-	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	10.0	高知県	-	-
茨城県	1	10.0	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	-	-	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	1	10.0	長崎県	1	10.0
埼玉県	-	-	大阪府	1	10.0	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	1	10.0	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	1	10.0	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	1	10.0
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
合計			合計	10	100.0			

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

		% (9名中)
①学校・先生から	6	60.0
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	3	30.0
③新聞の記事	-	-
④生徒、子ども、家族、親戚から	-	-
⑤その他	3	30.0

<その他の内容>

- ・3年前に本校生徒が保護者と参加し、とてもよかったですと聞いていた
- ・県教育委員会から各学校に案内がきました。
- ・県からの資料

3. あなたが「女子中高生夏の学校2015」に参加した理由は何ですか(複数回答)。

		% (9名中)
①理系進路選択の知識を得るため	8	80.0
②生徒の進路について悩んでいるため	2	20.0
③理系進路選択事業に関心があるため	5	50.0
④実験やポスター展示等に関心があるため	4	40.0
⑤講師に感心があるため	1	10.0
⑥情報交換のため	4	40.0
⑦その他	3	30.0

<その他の内容>

- ・生徒引率
- ・進路指導に役立つのではないかと考えたから、関心はありました、生徒が参加したいといった時点で私も参加しようと思いました。
- ・生徒に学校以外の世界に触れてもらうため

4. 各プログラムの内容はいかかがでしたか？

【1日目】

サイエンスアンバサダー

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合: 以下同じ)

		%	※%
非常に有用だった	2	20.0	20.0
有用だった	7	70.0	70.0
あまり有用ではなかった	1	10.0	10.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 最初に夏学の目的を明確にして、スタートしたために、子どもたちも目標をもって、取り組めたと思います。
- 参加の目的意義が明確にされることでこれがスタートであることが自覚できたと思う。
- もうすこし簡潔にできるのではないか？
- アンバサダーになるという発想をここで知った。
- 生徒の活動の様子もちょっとみたかった。
- 自分で体験をしたことを他の人に伝えることを課題とすることはとても良い取り組み。

キャリア講演① 木村 知代さん

		%	※%
非常に有用だった	6	60.0	60.0
有用だった	4	40.0	40.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 夏学に参加した生徒の何年後かを思い描くことができ、しかも挫折もいたお話で、子どもたちにがんばる力をいただけたと思います。
- 木村さんの職業を目指している生徒が今回参加していた。
- それぞれの思いや気持ちを、ストレートに話されており、心にひびきました。夢を追いつづける人ってとても輝いていると思います。
- 会社員としての研究職についてお話を聞けてよかったです。
- 化粧品は子ども(女子)に興味もあり、自分自身も使用しているので良いと思う。
- 女の子が興味が高い化粧品会社の人の体験が聞けた。途中で進路を変更した話も良かった。

キャリア講演② 福田 陽子さん

		%	※%
非常に有用だった	7	70.0	70.0
有用だった	3	30.0	30.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 夢を実現することが、どういうことかが、御本人のことばで示していただけたこと。
- それぞれの思いや気持ちを、ストレートに話されており、心にひびきました。夢を追いつづける人ってとても輝いていると思います。福田さんの話の方が、より、それを感じたからです。
- (オーロラ)観測隊という男性の中で諦めずにがんばってこられた姿や思いを知れて良かった。
- オーロラの仕組み、南極での話、勉強になった。夢を追いかけても良い人だと思った。

夏の学校を知る

		%	※%
非常に有用だった	3	30.0	37.5
有用だった	4	40.0	50.0
あまり有用ではなかった	1	10.0	12.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・夏学の行なわれている意義を明確に知ることができ、教員として、多くの生徒をさらに参加させたい、すすめていきたいと思います。
- ・実験教室ではないことがよく分かった。
- ・理工系女子の魅力を感じることができました。

サイエンスカフェⅠ「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

		%	※%
非常に有用だった	3	30.0	33.3
有用だった	6	60.0	66.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	10.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・保護者と教員で感じる不安を共有できる貴重な場でした。
- ・日本の中での一般的な…という壁を越えた人たちの熱い思い、体験を聞けて良かった。

天体観望会

		%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	3	30.0	75.0
あまり有用ではなかった	1	10.0	25.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	4	40.0	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・雲がでていて、観測ができなかつたのが残念でしたが、壁にうつしたミタカがすばらしかつたです。
- ・実際に観測できず残念でしたが、発表に興味をもつた生徒も多かつたはず。
- ・ぐもっていて残念。
- ・たのしみにしていましたが天候不良のため実施できず残念。
- ・天候に恵まれず、観測ができなかつたことが残念でした。が、ムービーを壁に投影する工夫をしていただいたので楽しめました。

夏学スタッフの今

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	50.0
有用だった	1	10.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	5	50.0	/
無回答	3	30.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・生徒達がもっと活用してくれたらと思います。時間的に疲れていたかもしれません。
- ・どこでやっていたか分からなかつた。

【2日目】

実験・実習の参加、見学

		%	※%
非常に有用だった	7	70.0	77.8
有用だった	2	20.0	22.2
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	10.0	
無回答	-	-	
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・1つにずっと参加していたのですが、他の企画も参加したかったと思いました。
- ・私自身がとても楽しくとりくめました。
- ・入りづらかったです。
- ・様々な研修室でとても中身の濃い時間が過ごせました。
- ・ある分野に特化した人達ならではの雰囲気、その分野を面白いと思っている人たちが説明するの生徒たちに伝わりやすいと思う。

サイエンスカフェⅡ 「中学、高校、大学の教員の連携」

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	11.1
有用だった	7	70.0	77.8
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	1	10.0	11.1
参加していない	-	-	
無回答	1	10.0	
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・森先生へ ・大学で学ぶべきこととして専門性と柔軟性(対応力)→企業では必ずしも専門性を生かせないことがある。・PCの普及について→データを読める、エラーに気付く力を養う必要がある→PCで算出されたデータが必ずしも正しいとは限らない(ヒューマンエラーも含む)やデーターが算出される原理は知っておきたい。
- ・教え子たちがどのような道に進んだかわからなければ何をもって指導していくのか…ということを改めて考えさせられました。
- ・生徒1人1人を見て長所を見つけ、興味のあるを見付けてあげ、繋げてあげたい。

サイエンスカフェⅢ 「企業における女性研究者の活躍」

		%	※%
非常に有用だった	4	40.0	44.4
有用だった	5	50.0	55.6
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	1	10.0	
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・学会での情報や理科でネタになるようなお話をきくことができ、教員として、たいへんためになりました。学校に戻ってから還元していきたいと思っております。
- ・渡辺さんがすごく素敵でした。表の良い面だけでなく苦労したことなどもお話して頂けた為
- ・ご苦労されたお話を聞け、とても参考になりました。
- ・これから女子教育の他に男子教育の話には驚いたし、強く共感した。

サイエンスカフェIV 「ポスター展示・キャリア相談」

		%	※%
非常に有用だった	5	50.0	50.0
有用だった	5	50.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・進路選択に関するアドバイスを各ブースでもらうことができた。
- ・専門家(プロ)の方々と話ができる、今の自分の甘さを痛感させられました。自分ももっとプロになりたいと思いました。
- ・技術者の方から直接マンツーマンで話を聞くことができ、とても良い情報収集の場になりました。
- ・生徒が展示見学している時間と合わせていただくと、生徒が説明を聞いている様子を見れるのが嬉しいです。

交流会

		%	※%
非常に有用だった	5	50.0	50.0
有用だった	5	50.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	10	100.0	100.0

<感想>

サイエンスカフェV 「海外理工系事情」

		%	※%
非常に有用だった	6	60.0	60.0
有用だった	4	40.0	40.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・留学のプラス面について、体験者から聞けたことがよかったです。
- ・海外に目を向けるきっかけとなった
- ・特に奈良さんの話が心に残りました。スライド等はなくとも、思いや気持ちがよく伝わりました。
- ・外から日本や自分自身を感じることは思い込みやひとりよがりにならず視点がふえて良いと思う。
- ・海外で学べることは、たくさんあると改めて感じた。

夏学スタッフの出発点

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	50.0
有用だった	1	10.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	4	40.0	
無回答	4	40.0	
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・教師も進路指導に関して相談すればよかったですと省みています。
- ・これからもがんばってほしいです。それと伊勢さんの魅力には感心しました。

【3日目】

夏の学校を振り返る

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	11.1
有用だった	8	80.0	88.9
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	10.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・次回への課題や自分自身の課題発見となつた
- ・改めて保護者や教員がどのように感じたのか共有できて良かったです。
- ・次の夏学につないで下さい。生徒たちが自分に都合の良い所だけを見ているという話参考になつた

一体型実験の参加・見学

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	12.5
有用だった	5	50.0	62.5
あまり有用ではなかった	2	20.0	25.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・二泊三日の合宿を通して子どもたちの表情が少しづつ変化していくようすを見てたいへん感謝しております。進路選択に大きな影響を与えた学校になったと思います。
- ・何より古澤先生のお話がとても現場の声を代弁してくださつて良かったです。
- ・面白い企画だと思うがちょっと難しかったのでは？

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	12.5
有用だった	7	70.0	87.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・TAの皆さん、スライド作り・司会・準備・運営ご苦労さまでした。

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	12.5
有用だった	6	60.0	75.0
あまり有用ではなかった	1	10.0	12.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

＜感想＞

- ・最後がちょっと尻っぽみ…？時間もあつた。グループごとにステージにあげたり、各代表あげたりしてほしかつた。

5. 「女子中高生夏の学校2015」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

		%	※%
非常に満足した	7	70.0	70.0
満足した	3	30.0	30.0
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかつた	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	10	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたこと

- 本校の生徒4名が参加するということで、引率だからというぐらいで、あまりこの学校の意義も知らず、ついてきた感じです。しかし、この学校に参加し、教員として、大きな衝撃を受けました。このような女子生徒へ理系選択への意識を高め、人との出会いを多く用意していただき、たいへん感謝しています。子どもたちも各地域からきたさまざまな友達と仲良くなり、キャリアプランニングもすばらしいものをつくっていて、感動しました。もっと多くの生徒が参加できれば、とも思います。学校に戻つてから、生徒や教員にもこの合宿で学んだことを伝えたいと思います。
- 学生TA、留学生TAの存在が参加した生徒達のまず目前の目標になったと思います。自分達と近い年代の先輩達との交流が今回の一番の収穫だったと考えます。
- 進路指導をする立場の私たちは「～がしたければ○○。」ということを知りたがる傾向にあることに気付いた。今回、夏学で出会った女性たちはどちらの方々も生き生きしていて素敵で、後先考ての進路選択と言うよりその時その時で好きなことに没頭していれば、様々な巡り合せや偶然で道が拓けてきた方が多かった。確実な職業に向う進路指導という側面と、やりたいことを信じて貫く勇気とか、素晴しさ、という両面を伝えていこうという気持ちになった。
- とても良い取組に思えます。もしも私たちの学生時代にこの様なイベントが開催されていれば、恐らく人生が大きく変わっていたと思います。人の人生には必ず、その人の生き方や職業を左右する(多大な影響を与える、或いは決定づける)キーパーソンや環境、イベントがあります。その様な「出会い」によって子供たちは自分の生き方(人生)について方向を見定め、進んでいくのだと思います。改めて、大切なことは、出会いのある経験だと実感しました。ありがとうございました。
- 全国の同年代の生徒や、大学生のTAと話ができるしくみがすばらしい。「あいさつ」や「時間を守る」など、学校の外でも、自校で大切にしていることが指摘されているので、自校での教育の目標を客観的に感じられたと思う。アンバサダーという発想がすばらしい。実験教室が主ではないことが、来てみて分かった。生徒の様子を見る手段はないだろうか? ありがとうございました。
- 様々なイベントや講演、全国からの中高生たちとの活動を通じて、生徒達は理工系を目指すにあたって、とてもエンカレッジされたと思います。一方、理工系に進むことの良い面ばかりがクローズアップされていて、現実的なネガティブな側面はあまり示されていませんでした。そういった点も紹介しつつ、多面的に生徒達に考えさせることも大切だと少し感じました。全体を通して生徒も、私も大変すばらしい経験をさせていただきました。有り難うございました。
- 海外どころか、県外に進学することさえ、なかなか思いが及ばないのが現実ですが、いろいろな出会いや経験を通して「こういうのもアリなんだ」と知ってもらうよい機会になると思います。高校でコース選択するときに「理系」を選んだら、その先にどんな未来が待っているのか、特に女子はロールモデルが身近に少なく参考にできるような情報提供を適切なタイミングでしていくことは大切です。どうもありがとうございました。
- 地元武藏嵐山でこのような素晴らしい企画が行われていることを知り、誇りに思いました。ありがとうございました。来年も期待しています。
- 2日目の昼食の場所は、実験・実習で片付けが素早く終わる教室が良いと思った。急な変更があつたため。“夢を追い続ける”素晴らしさを感じたが、その前段階の夢を見付ける手助け、夢を追い続けられる力(気力・体力など)を身に付けさせる手助けについて考え中です。

「女子中高生夏の学校2015～科学・技術・人との出会い～」
アンケート集計結果(保護者用)

参加者	11名
アンケート回答数	10件
アンケート回答率	90.9%

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	1	10.0
宮城県	-	-	長野県	-	-	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	1	10.0
山形県	-	-	静岡県	-	-	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	2	20.0	高知県	-	-
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	1	10.0	滋賀県	-	-	佐賀県	2	20.0
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	1	10.0	大阪府	-	-	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	1	10.0	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	-	-	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	1	10.0	無回答	-	-
合計			合計	10	100.0			

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

		% (10名 中)
①学校・先生から	7	70.0
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	3	30.0
③新聞の記事	-	-
④子ども、家族、親戚から	2	20.0
⑤その他	-	-

3. あなたが「女子中高生夏の学校2015」に参加した理由は何ですか(複数回答)。

		% (10名 中)
①理系進路選択の知識を得るため	8	80.0
②子どもの進路について悩んでいるため	3	30.0
③理系進路選択事業に関心があるため	4	40.0
④実験やポスター展示等に関心があるため	2	20.0
⑤講師に感心があるため	2	20.0
⑥情報交換のため	-	-
⑦その他	2	20.0

＜その他の内容＞

- ・子どもに考える材料を与えることができるので
- ・思春期の娘と夏休みのひとときを共有したかったから。

4. 各プログラムの内容について

【1日目】

サイエンスアンバサダー

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合: 以下同じ)

		%	※%
非常に有用だった	4	40.0	40.0
有用だった	6	60.0	60.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 返信するシステムで、終了後の意識が維持できるから。

キャリア講演① 木村 知代さん

		%	※%
非常に有用だった	9	90.0	90.0
有用だった	1	10.0	10.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 好きなことを追いかけて、目標にたどりつけた姿が印象的。
- 現役で活やくしている若い女性からの講演は子どもの心に響いたと思います。
- 女子中高生の興味のあるテーマが講演でしたので入りやすかったです。
- 子供達の将来のイメージ作りに良いお話だと思います。

キャリア講演② 福田 陽子さん

		%	※%
非常に有用だった	9	90.0	90.0
有用だった	1	10.0	10.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 夢を追う姿を現在進行形で見えたこと、男性の中での活躍がすごい。
- 現役で活やくしている若い女性からの講演は子どもの心に響いたと思います。
- 南極のオーロラが身近に感じました。

夏の学校を知る

		%	※%
非常に有用だった	7	70.0	70.0
有用だった	3	30.0	30.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 初めて知りました。
- 「自分の将来について考える3日間」ということばが心に残った。

サイエンスカフェ I「日本学術会議、学会、大学、企業等の研究者・技術者との座談会」

		%	※%
非常に有用だった	8	80.0	80.0
有用だった	2	20.0	20.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・スタッフ陣がすごいと思いました。
- ・女性研究者の課題を知ることができてよかったです。
- ・松尾先生と永合さんとお話を聞いて、魅力的で、親しみを感じました。

天体観望会

		%	※%
非常に有用だった	2	20.0	40.0
有用だった	3	30.0	60.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	5	50.0	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・ちょっと残念でしたが、プロジェクタで見せて
- ・もう少し、雲が少なかったら、見えていたが。
- ・望遠鏡で実際に星を見たかったので残念です。

夏学スタッフの今

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	100.0
有用だった	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	9	90.0	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

【2日目】

実験・実習の参加、見学

		%	※%
非常に有用だった	7	70.0	70.0
有用だった	3	30.0	30.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・どこも楽しく学べてました。1つではもったいないくらいでした。
- ・(M)遺伝子でここまで分かることにおどろきました。
- ・娘の参加しているプログラムを中心に見た。波について体感できる濃い内容だ。
- ・実験に参加させて頂き大変楽しかったです。

サイエンスカフェⅡ 「研究者・技術者、大学生との座談会」

		%	※%
非常に有用だった	8	80.0	80.0
有用だった	2	20.0	20.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/\
無回答	-	-	/\
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- いろいろな道で研究者になれることが学べました。
- 現役の方から、貴重な話を聞くことができた。
- 学生の研究に対する想いが、初々しく、まぶしく、真摯に答えてくれる姿に好感をもった。
- 娘の班のTAさんが子供の様子を教えて下さり安心出来ました。

サイエンスカフェⅢ 「企業における女性研究者の活躍」

		%	※%
非常に有用だった	9	90.0	90.0
有用だった	1	10.0	10.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/\
無回答	-	-	/\
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- キャリアをつみ重ねるモデルとして、感動しました。
- 今であれば男女共同参画の話となっているのでは…
- 理系女性が、これから期待されている。キャリアを途やさないこと、今後の課題、興味深かったです。
- 渡辺先生の家庭と仕事を両立して頑張られている姿に感動しました。

サイエンスカフェⅣ 「ポスター展示・キャリア相談」

		%	※%
非常に有用だった	3	30.0	30.0
有用だった	7	70.0	70.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/\
無回答	-	-	/\
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 数ヶ所でしたがポスターの話と女性研究者からキャリア形成の話をきけよかったです。
- 日立での女性技術士の集まりがあることが分かった。
- ポスター展示は全部行きたかったですがあまりに時間が無く残念でした。

交流会

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	12.5
有用だった	7	70.0	87.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	10.0	/\
無回答	1	10.0	/\
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ちょっとしたパーティイベントがあっても良かったかなと思う

サイエンスカフェV 「海外理工系事情」

		%	※%
非常に有用だった	9	90.0	90.0
有用だった	1	10.0	10.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・話されてる方がすばらしかったです。
- ・貴重な留学体験が聞けた。
- ・マシュリさんが、日本への留学のきっかけに好感をもった。留学への選択肢もあることを知った。
- ・海外留学については興味深く思いました。

夏学スタッフの出発点

		%	※%
非常に有用だった	1	10.0	100.0
有用だった	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	9	90.0	/
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

【3日目】

夏の学校を振り返る

		%	※%
非常に有用だった	5	50.0	55.6
有用だった	4	40.0	44.4
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	10.0	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・ふりかえり、夏学を再確認できました。
- ・参加者の意見が興味深かったです。
- ・吉澤先生の現実的なお話をとても良かったです。

一体型実験の参加・見学

		%	※%
非常に有用だった	5	50.0	62.5
有用だった	2	20.0	25.0
あまり有用ではなかった	1	10.0	12.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	10.0	/
無回答	1	10.0	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- ・理解はできなかつたが、体を動かして楽しそう

学生企画「夏学振り返りと表彰式」

		%	※%
非常に有用だった	6	60.0	75.0
有用だった	2	20.0	25.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

- 子どもたちの充実した3日間を見ることができて、楽しく仲間と思い出をつくったり、出会いがあったのだと、実感できました。
- 発表されていた賞の名前が楽しかったです。TAさんが作った写真の出来がとても良かったです。もう一度見たいです。

サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

		%	※%
非常に有用だった	6	60.0	75.0
有用だった	2	20.0	25.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	20.0	/
合計	10	100.0	100.0

<感想>

5. 「女子中高生夏の学校2015」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

		%	※%
非常に満足した	10	100.0	100.0
満足した	-	-	-
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかった	-	-	-
無回答	-	-	/
合計	10	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、「女子中高生夏の学校」に参加して感じたこと

- ・選択に迷った時は“すき”を大切にする
- ・多くの理系の先輩方と話すことができて大変嬉しかったです。理系選択、科学が好きなことが、珍しいことではなく、ありふれたふつうことと感じられたことが何よりです。手厚い支援にも大変感謝しています。ありがとうございました。
- ・進路や職業にイメージをもつことができた。親として見守ることの大切さもわかった。
- ・本当にたくさんの講師の先生方・スタッフの方々に関わっていただき、ぜいたくな、有意義な3日間でした。娘が今後どのような進路選択をするのか、見守ろうと思いますが、どういう結果であれ、この3日間での経験は必ず今後の人生に生きてくると信じています。ありがとうございました。
- ・このようなすばらしい企画を開催していただきありがとうございます。期間中も夜遅くまで打合せをしていただいているところを見て頭が下がる思いです。生物、生き物が好きということで子どもが参加しましたが、まだ中3で研究室にいる姿や観察・実験している姿は想像できません。が、この夏の学校に参加したことは、自分の進路を決めるうえで良い経験であったと思います。自分の好きな実習で学び、同じ理系を目指す仲間や先輩と交流したこと、自分の目標す進路がはっきりと見えてくれればと思います。私にとっても、大学院や留学などが少し分かった、有意義な3日間でした。
- ・素粒子に興味を持つ娘が将来研究者になりたいとの夢に就職の面で不安がありました。活き活きと活躍されている理系女性の講演や大学生たちとの座談会などでロールモデルを見聞きし、背中を押してもらいました。今後は娘のやりたいことを見守り、サポートしてあげようと思いました。また、夏の学校で、とても感心したのは、一人で参加している子どもも、すぐ打ち解けられる仕組みがあつたことです。友達同士で参加している場合は、同じグループにならない様分けられていることや、学生企画はアイスブレイクできる様考えられていました。学生TAの存在もいいですね。身近に気軽に話せたり、相談できる先輩は頼しいです。
- ・保護者という立場で、十分に学ばせて頂けたと思っています。様々な方向の研究者の方に一度にお会いできて視野が広がり、自分の進路を考える上で、この上なくぜいたくな3日間だと感じました。貴重な体験をありがとうございました。もっと日本中の子どもたち、保護者、進路担当の先生にこのような機会を与えていただけたらと思いました。
- ・今回参加し、娘の勉強に対する意識が良い方向へ変わったと思います。将来の進路について目標や夢をより現実に感じているようです。今回私自身も勉強になり、あつという間の3日間でしたが、四国から参加して本当に良かったと思います。なかなか都会へ足を運ぶ事が出来ませんが、情報等を調べるきっかけを学ぶ事も出来ましたので、インターネット、学校等で参考にし、情報収集に励みたいと思います。そしてささやかな夢も出来ました。娘がTAさんの様なボランティアをしたいと話してくれました。将来娘が夢を叶えてくれたら嬉しいです。皆様大変お世話になりました。これからもどうぞ宜しくお願ひ致します。

平成27年度「学習オーガナイザー養成研修」実施要項

1. 趣旨

国立女性教育会館では、「男女共同参画の視点に立つキャリア開発」をテーマとした体系化された学習プログラムを企画・実施する「学習オーガナイザー」を養成する研修を開催します。

キャリアを個人の発達と社会参画の両面からとらえ、男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について整理するとともに、学習方法や評価など、事業運営に関する実務的な学びの機会を提供することで、経験者の知見・技能の向上と人材養成をもって男女共同参画の推進を図ります。

2. 目的

- (1) 男女共同参画意識の醸成、キャリア開発の基礎的理解、実態・課題把握をふまえた課題解決に結びつくプログラムの企画・実践力を形成します。
- (2) 「男女共同参画」と「キャリア開発」の二つの視点に立った学習プログラムを企画・実施できる人材の育成を通じ、男女共同参画社会の形成を推進します。

3. 主催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 会場 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720

5. 期日 平成28年1月13日（水）～1月15日（金）2泊3日

6. 対象及び定員

女性関連施設、公民館、行政、大学、NPOなどで、研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進に係る事業等の企画・実施経験を有する方 30名

7. 日程・内容（各プログラムの間に10～15分の休憩が入ります）

1/13 (水)	12:30 13:00 14:00 15:45 17:15 19:00 20:30								
			受付	開会	講義	講義	チェックイン 夕食	ワーク ショップ1	
1/14 (木)	9:00	10:00	11:15	12:00	13:30	15:15	17:15	18:30	20:00
	講義	講義	講義	昼 食	キャリア インタビュー	ワークショップ2	休憩	情報交換会	
1/15 (金)	9:00	11:30	13:00	14:30					
	ワークショップ3		昼 食	発表 まとめ	閉 会				

第1日 1月13日（水）

- (1) 開会 13:00～13:50
①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
②オリエンテーション 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員
・日程説明
・「プログラム・デザイン」について
・参加者同士の自己紹介
- (2) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」 14:00～15:30
男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係などを踏まえ、男女共同参画の今日的な理解について講義を行います。
また、併せて、国立女性教育会館が考える男女共同参画の視点をもった学習オーガナイザーの意義と役割について学びます。
講師：神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- (3) 講義「キャリア開発の基礎的理解を深めるために」 15:45～17:15
キャリア開発の基礎的理解およびその現代的意味についての理解を深め、またキャリアの持つ個人的側面と社会的側面について学習します。
講師：亀田 温子 十文字学園女子大学人間生活学部教授
- (4) ワークショップ1 「キャリア開発上の課題共有」 19:00～20:30
学習プログラムを企画するためには、対象となる学習者の実態や課題を把握する必要があります。年齢・性別・所属など、属性や状況に起因する課題について、職業及び社会活動上のキャリアの多様性を踏まえ、ワールドカフェ形式で共有します。
講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

第2日 1月14日（木）

- (5) 講義「統計から考える男女共同参画の現状」 9:00～9:50
意識調査、国際比較調査などの豊富な統計データについての解説を交えながら、日本の男女共同参画の現状を読み解きます。
講師：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員
- (6) 講義「協働型学習の理論・方法について」 10:00～11:00
協働型学習（グループワーク）を単なる「意見交換の場」にとどめず、その場の学びをどう振り返り意味づけするか、学びをとおして価値意識の差異を認識し、それらの意味づけの中から実践につながる「気づき」を得ることの重要性について、社会教育の視点から考えます。
講師：笹井 宏益 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部部長
- (7) 講義「男女共同参画の視点に立った事業企画のポイント」 11:15～12:00
学習プログラムを企画するまでの現状把握、実施、評価までのP D C Aサイクル

に基づく運営について、注意点・留意点を学びます。

講師：松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか代表理事

(8) キャリア・インタビュー 13:30～15:00

ライフコースにおけるキャリア開発のプロセスについて、個人の視点と社会参画の視点の双方から、3名のキャリアモデルよりインタビュー形式で伺います。

報告者：荒谷 信子 元東広島市教育長、尾道市立大学非常勤講師

井上 智美 CORAL理事、キャリアコンサルタント

佐伯 加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

インタビュアー：

亀田 温子 十文字学園女子大学人間生活学部教授

松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか代表理事

(9) ワークショップ2 「キャリア事例分析」 15:15～17:15

キャリア・インタビューでの事例を参考に、キャリア上の転機や節目とその乗り越え方、ライフイベントとの関係を具体的につかみ、キャリア開発を進める要因は何かを探ります。

講師：西山 恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

(10) 情報交換会 18:30～20:00

全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深めます。

第3日 1月15日（金）

(11) ワークショップ3 「キャリア開発に向けた事業計画案づくり」 9:00～11:30

①「男女共同参画の視点に立つキャリア開発プログラム」のためのプログラム・デザインについて

説明：櫻田 今日子 国立女性教育会館事業課長

②事業計画案づくり

ファシリテーター：西山 恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

学習支援：平成27年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

国立女性教育会館事業課専門職員

(12) まとめと成果の共有 13:00～14:30

ワークショップ3で作成した事業案についてグループ毎に発表を行い、成果を共有するとともに出来上がったプログラムを検証します。また、これまでの学習をふまえ、学習オーガナイザーの役割を再確認します。

コメンテーター：

神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員

西山 恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

(13) 閉会 14:30

8. 平成27年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員（五十音順、敬称略）

- ・亀田 溫子 十文字学園女子大学人間生活学部教授
- ・神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・西山 恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか代表理事

9. その他

研修期間中に職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成27年度 学習才一ガナイザー養成研修 参加者概況

2016/2/15

1. 性別

	合計
女性	33
男性	2
合計	35

定員 30名
申込者 36名
(※内キャンセル 1名)
参加者 35名
応募倍率 120.0 %

2. 参加日別

	女性	男性	合計
全日程	27	1	28
13日のみ	1	—	1
13日、14日	3	1	4
14日のみ	2	—	2
15日のみ	—	—	—
合計	33	2	35

※「全日程」28名には、13日WS1からの参加2名、15日WS3までの参加1名を含む

3. 年代

	女性	男性	合計
20代	1	—	1
30代	4	—	4
40代	8	—	8
50代	10	1	11
60代以上	7	—	7
無回答	3	1	4
合計	33	2	35

4. 情報交換会参加

	合計
女性	26
男性	1
不参加	8
合計	35

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計
北海道・東北	7	—	7
関東	12	2	14
甲信越	2	—	2
北陸・東海	3	—	3
近畿	4	—	4
中国・四国	1	—	1
九州・沖縄	4	—	4
合計	33	2	35

5. 都道府県別

	女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	3	—
	青森県	—	—
	岩手県	2	—
	宮城県	—	—
	秋田県	1	—
	山形県	—	—
	福島県	1	—
関東	茨城県	—	1
	栃木県	3	—
	群馬県	—	1
	埼玉県	3	—
	千葉県	1	—
	東京都	4	—
	神奈川県	1	—
甲信越	山梨県	—	—
	新潟県	—	—
	長野県	2	—
	富山県	—	—
	石川県	1	—
	福井県	1	—
	岐阜県	—	—
北陸・東海	静岡県	1	—
	愛知県	—	—
	三重県	—	—
	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	大阪府	1	—
	兵庫県	2	—
近畿	奈良県	—	—
	和歌山县	1	—
	鳥取県	—	—
	島根県	—	—
	岡山県	—	—
	広島県	—	—
	山口県	1	—
中国・四国	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	—	—
	高知県	—	—
	福岡県	1	—
	佐賀県	—	—
	長崎県	—	—
九州・沖縄	熊本県	1	—
	大分県	1	—
	宮崎県	—	—
	鹿児島県	—	—
	沖縄県	1	—
	合計	33	2
			35

平成27年度「学習オーガナイザー養成研修」 参加者アンケート集計結果

平成28年2月15日現在

参加者数	35名
回答者	33名
回答率	94.3 %

1. 各プログラムについて

講義 男女共同参画の基礎的理解を深めるために

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	18	54.6	62.1	100.0
有用だった	11	33.3	37.9	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	3	9.1		
無回答	1	3.0		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・時代の流れに沿って話を伺えて良かった。男女共同参画基本法について、じっくり考えてみることがなかつたので、勉強になった。社会と自分との結びつけは考えたことがなかったので、勉強になった。
- ・歴史的背景を知ることで今の立ち位置をきちんと理解することにつながることが納得できた。
- ・「キャリア」について深く考えたことがなかったので、新鮮かつショッキングだった。男女共同参画の視点でのキャリア開発は支援する側もされる側も一人ではできない。深い。

「有用だった」理由

- ・キャリアは、社会へのアプローチ、社会とのつながり、それも主体的にとった視点が、とても納得のいくものでした。
- ・具体例でお話していただけたらもっと分かりやすかったように思う。

講義 キャリア開発の基礎的理解を深めるために

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	21	63.7	72.4	100.0
有用だった	8	24.2	27.6	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	3	9.1		
無回答	1	3.0		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・「仕事を通した格差の形成」気付かないうちに男女格差が出来てしまっていることに女性自身も気付かなくてはならないと思った。そういう格差も少しでもなくすよう学習方法を考えていく必要があると更に感じた。
- ・全体の概略説明から個別の説明が大変わかりやすかった。
- ・キャリア開発は自己実現とジェンダー平等社会づくりにつながるという視点の獲得。
- ・「複合キャリア」。自己実現ための「個」のキャリアだけでなく社会活動のキャリアの両方がこれからは必要だということに大いに感銘を受けた。

「有用だった」理由

- ・とてもわかりやすく、講義してくださった。再確認の意味でも有用であった。
- ・多くの様々な事情で、社会となかなか接点をもつことができない方々についても、反対に考える機会となりました。
- ・これまで、なかなかキャリアについてつかめていなかったが、何となく分かってきた。

ワークショップ1

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	18	54.5	60.0	100.0
有用だった	12	36.4	40.0	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	3	9.1		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- 対話をしながら意見を交換し、とてもためになり、楽しかった。
- 若年層の時はコミュニケーション能力が低いと出ており、中高年の女性には高いと上げられており、これこそが、女性特有の時間軸じゃないかと思った。女性自身が自信をもてるよう、研修等企画していくのもよいのかなと少し感じた。
- 地域特性が異なる方々と対話ができるのがよかったです。
- ファシリテーターができる職員のレベルアップ研修も重要。

「有用だった」理由

- 課題は出せても「なぜ」の答えを考えづくに至らず、部屋に戻ってからも考えてしまった。
- ネガティブな意見の方が多かった(ワールドカフェで)、キャリア開発したい人のみ対象ではいけないのか？！私たちの仕事は…(開発したくない人だっている？？？)
- 課題共有するのに、有効な手法を用いて深い話がグループでできた。

講義 統計から考える男女共同参画の現状

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	18	54.6	56.2	100.0
有用だった	14	42.4	43.8	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	1	3.0		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- データを参照して問題・課題に対し、説得力を持たせるということ、改めて大事だと思いました。また、全国や地域と自分の自治体比較やってみたいです。
- 統計は難しく苦手意識があるが逆に一番目で見て分かる説得性があるものだとあらためて分かることができました。
- 課題を発見したり、説得力を持って事業を進めるために統計やその分析が必要だと認識した。
- 統計を読み解く力と有効に活用する力を身につけたいと思った。信頼性と説得性を高めるために。また、現状分析もしなくては…！

「有用だった」理由

- 人を説得するツールとして、又、自分がやりたいと思うことの後押しとして、とても有用で、かつ地道なことだと思いました。
- M字カーブが少しずつ改善されてきているが、その内訳が、非正規雇用の割合が大きいことを説明してもらい、別府市でも全国よりもM字カーブが柔らかい事が調査の中で見えてきたが、本来の数値に疑問もあり今回やはりもっと分析しひらがから問題点を出せれるようにならないといけないと感じた。
- 統計はとても説得力がある。世界・国・県・そして暮らしている市町、“私の町では”を発奮材料にしたい。

講義 協働型学習の理論・方法について

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	23	69.8	71.9	96.9
有用だった	8	24.2	25.0	
あまり有用でなかった	1	3.0	3.1	3.1
有用でなかった	-	-	-	
不参加	1	3.0		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・学習の種類、普段行っている講座の意味を、改めて学べた。「気づき」の大切さがわかった。
- ・自分が今、センターでの講座を企画していますが、ここが足りていない点が明確になった気がします。これまでの内容はただの学習しかなっていなかった気がします。子どもと大人との違い、そして大人の自分の世界があること、すっかり頭から消えてしまっていたような気がします。再度気付きを促すプログラムを作成してみたいと思います。
- ・教育と学習、生涯学習と社会教育の違いと、大人の学習にとって協働型学習の大切な視点がわかった。
- ・生涯学習の行きづまり感があったのでこの講義があつてよかったです。職場で「生涯学習担当なのに他部署の男女共同参画の研修に行くの？」という質問があつたので…

「有用だった」理由

- ・社会教育を含めた教育の位置付けについて、初めて考える機会となりました。理論として非常に納得がいきました。ただ、自分の中で、どう実践に活かすか、まだつながりができていないので考えたいです。
- ・公民館としての考え方で、わかりやすく、事業展開にむけての考え方を再度、教わった気がします。
- ・もう少し時間をかけて知りたかった。(学びたかった)

講義 男女共同参画の視点に立った事業企画のポイント

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	26	78.8	81.2	100.0
有用だった	6	18.2	18.8	
あまり有用でなかった	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	
不参加	1	3.0		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・実践という意味では、即戦力になる講義でした。
- ・評価の方法を知ることができた。ニーズをきちんと拾い事業を通して人のネットワークを広げ持続可能なシステムを構築したことはすごい。
- ・事業を計画し、実施するための視点やコツが伺えて頭がクリアになりました。必要なこと、ニーズにアクセスするための具体策が知れて良かったです。
- ・事業企画の深さに驚いた。年間計画を立てる際にある程度、意図・目的を明確にしてきたつもりだが、もっと具体的に掘り下げる企画する必要があると思った。

「有用だった」理由

- ・講座実施チェックリストもつけてくださりとても充実した内容でした。

キャリアインタビュー

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	29	87.9	90.6	100.0
有用だった	3	9.1	9.4	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	1	3.0		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・分析から、共通点へという流れがよく考えられている。個の部分→グループ→全体となり、全員がひとつのことにむかっていけた。
- ・すぐ近くのロールモデルにパワーをもらいました。やっぱり生モデルだと、わかりやすいし、自分に重ねやすいと思いました。
- ・すごく良かったです。とても元気をもらいました。実際、女性の仕事をしていく上での大変さなどを聞けて良かったです。このような輝いている女性の方々の話を聞くことは、自分の人生にもあてはめて、振り返るチャンスになり、これからステップにもつながると思いました。
- ・3人の方の壁やどのようにして乗り越えたかを具体的に聞けたことは非常に参考になった。しかし、言えないこともあったのでは。
- ・様々な経験を生かしステップアップされチャレンジしてきた3人のお話を聞くことができてよかったです。男女共同参画の学びによる“気づき”的重要性を感じました。
- ・3人のモデルさんそれぞれのライフヒストリー興味深かった。やはり当事者のお話は一番興味を引かれるし、説得力がある。

ワークショップ2

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	24	72.8	75.0	100.0
有用だった	8	24.2	25.0	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	1	3.0		
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・チャンスを逃がすな。長になって！人とちがうことを！
- ・3人3様の生き方に感動しました。今後の生き方に勇気をいただいた。3人共通のチャレンジを今後の講座に役立たせたい。
- ・個人的な事は社会的(?)な事である。固定的性別役割分業からはなたれて。
- ・3名のそれぞれを細分析していくことで、いろいろ見えてきました。また、グループで話し合うことで、また違った感じ方も知れて、そこにも気付きがありました。3名の共通点から見えてきた、これから自分たちが取り組んでいかなければならない事や、必要性についての気付きもとても勉強になりました。
- ・人の人生を通じて、自分の問題を感じることができた。
- ・具体的な課題を出せたが、見えない部分もあり少し難しかった。
- ・深く事例を分析することで普遍的ともいえるジェンダー意識の深さを知るとともに見方を変えるとプラスに動くことが多いと気づいた。
- ・3つのロールモデルさんから共通項を見出すと課題が見えた。短い時間だからこそよい話し合いができるのだなど感じた。

「有用だった」理由

- ・作業がむずかしく、何をするのかが、わかりにくかったように思います。
- ・人に歴史あり！ですね。人つながることの醍醐味を感じ、人を知ることは、自分を知ることだと思いました。
- ・同じことを聞いてもいろんなとらえ方があると思いました。

情報交換会

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	20	60.6	71.4	100.0
有用だった	8	24.2	28.6	-
あまり有用でなかった	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	3	9.1		
無回答	2	6.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・男女共同参画のことから～いろいろなことが話せて有意義でした。
- ・30～40人というちょうどいい顔の見える人数なので話もしやすかった。何より職員さんのプログラム全体をよくしようという思いがこういう会からも伝わる。
- ・それぞれの現場の方から聞く生の声は参考になるし、勇気をもらいました！
- ・宿泊研修の良さ。ここでの情報交換とネットワーク構築は価値がある。

「有用だった」理由

- ・意欲的に活動しておられる方の話を聞くことができ、交流の場となった。
- ・若い人達のことがいろいろと聞けた（生の声で）。私の40代、50代の時と同様に形を変えての大変さがあると知った。

ワークショップ3

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	19	57.5	73.1	100.0
有用だった	7	21.2	26.9	-
あまり有用でなかった	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	5	15.2		
無回答	2	6.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・とても難しいタイトルでしたが、4人のメンバーでとりくめて、本当に良かったです。今回つくりあげたプログラム、新年度実践していきたいと思います。つくりあげる難しさもあり、軸がぶれないように取り組むことを学ぶことが出来て良かったです。
- ・時間も十分にあった。ファシリテーターの方がたくさんいるので質問もしやすく、スムーズに進められた。
- ・プログラムデザインにもう少し時間を割きたかった。ここにもっと比重を置くべきでは？
- ・男性の社会活動キャリアについて深く考える機会でした。
- ・プログラムデザインに落とし込むことで課題がしっかりと見え、内容を落とし込む作業がやりやすかったです。これから活用していきたい。

「有用だった」理由

- ・なかなか発言を自分でもまとめられず、つたない意見ばかり言ってしまいました。反省。やり方は難しかつたですが、プログラムデザインのやり方がわかってよかったです。
- ・短時間で行うことの難しさ。時間が足りなかつた。
- ・グループみんなでとても楽しく問題を出し合つたのでとても深まつた。

まとめと成果の共有

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	19	57.5	79.2	100.0
有用だった	5	15.2	20.8	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
不参加	7	21.2		
無回答	2	6.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・発表とフィードバックを通して、様々な気づきが得られました。
- ・オーガナイザー講座の目的を吸收出来たという実感はないですが…
- ・みなさんからのピンクとブルーのふりかえりを、もらえてよかったです。また、他の方々のもとてもすばらしくて、沢山の刺激がありました。
- ・フィードバックの時間が有意義だった。
- ・キャリア形成とキャリア開発の違いが明確になって良かった。
- ・20分間だけでもブラッシュアップをしたかった。良かった点、悪かった点をいただけたことがためになった。
- ・良い。改善シートでブラッシュアップ。受講する側、対象者に肉薄する距離をきちんと自覚する。

「有用だった」理由

- ・各グループのアウトプットしたものをお土産にもらえたらしい。事例発表の危うさの指摘。
- ・ワークショップになりとても良かったと思います。これを地域に持ち帰って実践できればと思っています。
- ・自グループのプレゼンに感動しました。神田先生と西山先生のコメントありがとうございました。

その他

- ・今後どのようなところに留意しないとなならないか、誰に対して何のために、自分の目線ではなく学習する人がどのような問題があるのかしっかりと考えること。

2. 研修全体の有用度について

	人数	%	※%	※%
非常に有用だった	28	84.8	84.8	100.0
有用だった	5	15.2	15.2	
あまり有用でなかった	-	-	-	
有用でなかった	-	-	-	-
無回答	-	-		
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に有用だった」理由

- ・密度のこい時間でした。構造的に講座が組み立てられていて、昨日のアレは--とつなげられるのが、とても勉強になり、身についた気がします。
- ・講座に人があつまらないと思ってた自分自身のまちがいに気付けました。データやニーズ、そして振り返り等きちんとていなかつた点に反省しました。やらなければいけない事、やるべき事など沢山の気付きがあり、来て本当によかったです。
- ・理論→具体的な実例→実践へのプログラムの組み方が有効であった。すごく考えられた内容であったなと感じております。
- ・講座の企画は常に迷いがつきもので、担当者の孤独な作業になりがち。今回は全国の仲間と力強い指導者の先生方、NWECAのスタッフの皆様に会え、勇気づけられた。
- ・趣旨・目的が明確であり、「男女共同参画学習」と「キャリア開発」について学び、話し合えたこと。特に高齢期のキャリア開発は今後の目標です。
- ・視野が広がり、視点が少しあはっきりし、新たな視座が得られました。今後、現場で困難な場面に出会ってもブレずにチューニングしてめげずに進められそうです。
- ・半歩…いえ、一步も二歩も先を行く研修だと思います。地域によって活用できるタイミングが違うと思いますが、それまで温めておいて新鮮なうちに有効活用したいと思います。

3. 研修全体の満足度について

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	26	78.8	78.8	100.0
満足した	7	21.2	21.2	
少し物足りなかった	-	-	-	-
物足りなかつた	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-
合計	33	100.0	100.0	100.0

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

「非常に満足した」理由

- ・できれば、もう少し長く講義時間があれば、良かったと思えるぐらい中身の濃いセミナーでした。ありがとうございました。
- ・2泊3日というプログラムでシャワーのように男女共同参画を考え言葉にしていく時間にまずは満足した。
- ・①講座内容とこの成果を持ち帰り活かすヒントがあった。
②参加者同志のつながりができた。
③企画された先生方の意気が感じられ元気になりました。
- ・情報センターの見学もとてもよかったです。解説・利用方法を聞きながら、NWECと「女性」の学びや運動の歴史を感じました。今回の学習オーガナイザー養成研修も全国で行われている様々な実践も日々の生活も、その歴史を作っていて、その歴史をきちんと保管し活用しやすく研究している方がいるのだということがわかつて、もっと深く考え実践していこうと思いました。仕事で最終日午後のプログラムに参加できず本当に残念。ありがとうございました。
- ・一方的なセミナーをやるだけの時代はもう終わりだ…と思いつつどうやればいいか迷っていたが、そのノウハウを得たことはとても満足しています。あとはいつ、どのように私の地域で取り入れていくか、です。

「満足した」理由

- ・100%の満足は、進歩がないと思うので。満足したけれど、まだできるんじやないかと、さらに、もっと、と欲深く思ってしまったので「非常に」をはずしました。期待としての満足です。
- ・発表時間内に発表する、を終えることができなかった。フォローアップ講座を是非開いてください。参加します。
- ・インプットだけでなく、最後にアウトプットする講座もあったので、力をつけられたかなと思います。ヌエックの方々との交流もありがたい時間です。ホワイトボードの質問コーナーも良かったと思います。(使用に至れませんでしたが…)

4. 研修の達成度について

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

1. 男女共同参画の基礎的理解を深めることができた

	人数	%	※%	※%
1できた	17	51.4	54.8	93.5
2おおむねできた	12	36.4	38.7	
3あまりできなかつた	2	6.1	6.5	6.5
4できなかつた	-	-	-	-
無回答	2	6.1	-	-
合計	33	100.0	100.0	100.0

2. キャリア開発の基礎的理解を深めることができた

	人数	%	※%	※%
1できた	16	48.5	53.3	90.0
2おおむねできた	11	33.3	36.7	
3あまりできなかつた	3	9.1	10.0	10.0
4できなかつた	-	-	-	-
無回答	3	9.1	-	-
合計	33	100.0	100.0	100.0

3. キャリア開発における、現状とその課題の把握ができた

	人数	%	※%	※%
1できた	12	36.4	41.4	86.2
2おおむねできた	13	39.4	44.8	
3あまりできなかつた	4	12.1	13.8	13.8
4できなかつた	-	-	-	
無回答	4	12.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

4. 学習理論及び事業運営に関する理論・方法を学ぶことができた

	人数	%	※%	※%
1できた	11	33.3	37.9	89.7
2おおむねできた	15	45.5	51.8	
3あまりできなかつた	3	9.1	10.3	10.3
4できなかつた	-	-	-	
無回答	4	12.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

5. キャリア開発に向けた事業の企画・運営力を得ることができた

	人数	%	※%	※%
1できた	4	12.1	15.4	88.5
2おおむねできた	19	57.6	73.1	
3あまりできなかつた	3	9.1	11.5	11.5
4できなかつた	-	-	-	
無回答	7	21.2		
合計	33	100.0	100.0	100.0

6. 参加者同士のネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	人数	%	※%	※%
1できた	13	39.4	43.3	93.3
2おおむねできた	15	45.4	50.0	
3あまりできなかつた	2	6.1	6.7	6.7
4できなかつた	-	-	-	
無回答	3	9.1		
合計	33	100.0	100.0	100.0

5. 今後の事業実施予定

実施予定がある	16
今後の実施に向け検討したい	13
実施予定はない	1
無回答	3

6. 研修全般への要望、意見等

- 今回の研修を終えた人達が現場に戻って実践した講座内容について知りたい。そして、その講座の反省点や、結果、振り返りをとても知りたいです。「事件は現場でおこっている」ので。
- 子育てのみ期は、社会とつながっていない面があって、キャリア開発とは言いにくい面もあると思うが、そんな社会とつながっていない期間も、キャリア開発の要素を十分にたくわえている時期ととらえたい。
- 大学教職員にとってセンターテスト前なので参加しにくい日程。対象としてはいなかったのかも知れないが。もう少し男性の参加者があると良い。半々とは言わないまでも。
- 女性教育情報センターの説明をしていただきとても良かった。時間をつくって利用したい。企画委員・職員の皆様が温かく接してください、スムーズに研修ができしっかりと期待していた内容を受けとり学ぶことができました。地元での実施をしていきます。
- 毎年実施していただきたい。職場のスタッフで入れ替わり受講したい。
- 又エック職員の皆様の事前準備とおもてなしにいつも“ほっ”します。また企画される皆様のチームワークの良さにも学ぶことができました。又エックに来るとまた頑張ろうという気になります。

**埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携
平成27年度「短期大学生のためのキャリア形成講座」実施要項**

1. 趣旨

埼玉県私立短期大学協会に加盟する短期大学と国立女性教育会館（N W E C）が連携し、学生と教職員の交流を図りながら進める「キャリア教育」の一環として、「男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラム」を実施する。

2. テーマ及びねらい

テーマ：「キャリアを考える～これから的人生を意義あるものとするために～」

本講座は、男女共同参画社会における生涯（ライフキャリア）形成の考え方を学び、人と人の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ（関係力の育成）とともに、他大学の学生と交流することなどにより、多様性（ダイバーシティ）をお互いに認め、他の人や文化などを尊重する態度を養うことをねらいとする。

3. 主催

埼玉県私立短期大学協会、独立行政法人国立女性教育会館（N W E C）

4. 会場

国立女性教育会館

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6725（事業課直通）

FAX 0493-62-6720

URL <http://www.nwec.jp/>

5. 期日

平成27年9月8日（火）～9月10日（木）2泊3日

6. 参加者

埼玉県私立短期大学協会会員校学生23名

7. 科目名及び単位数

各短期大学の該当科目（「キャリアデザイン」等）において単位認定を行う。講義・演習科目として2単位とする。

8. 日程

別添のとおり

埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム

平成27年度「短期大学生のためのキャリア形成講座」日程表

平成27年9月8日（火）～9月10日（木）

期日	時間	コマ数	実施場所	授業内容	担当者（敬称略）
9月8日（火）	13:00		101研修室	開会挨拶	大野会長（埼短協） 内海理事長（NWEC）
	13:10 13:50	1	101研修室	プログラムオリエンテーション（事前アンケート）	佐伯専門職員（NWEC事業課）
	13:50 14:50	2	101研修室	講義「もっと素敵にワーキングライフ」	内海理事長（NWEC）
	15:00 16:00	3	101研修室	講義「これからのキャリアを考えてみよう」	大野会長（埼短協）
	16:20 17:00	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	森専門職員（NWEC情報課）
	18:00 19:00		レストラン	夕食	自由に館内散策
	19:00 20:30	5	101研修室	自己紹介・レクリエーション ～友達をつくろう～	安倍大輔氏（埼玉純真短大）
	7:30 8:30		レストラン	朝食	
9月9日（水）	9:00 10:00	6	101研修室	講義「女性のキャリアを考える」	島研究員（NWEC研究国際室）
	10:15 ～	7	101研修室	グループワーク 「女性のキャリアパスの事例分析」	島研究員（NWEC研究国際室）
	14:30			（グループごとに適宜昼食） グループ発表	アシスト：埼短協教員
	14:40 15:40	8	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	森専門職員（NWEC情報課）
	15:50 ～	9	101研修室	卒業生からのアドバイス（キャリア講座）	栄養分野：島野僚子氏 保育分野：萩原基雄氏 保育分野：森田直子氏
	17:20				
	18:00 19:00		レストラン	夕食	自由に館内散策
	19:00 20:30	10	101研修室	「社会人（ビジネス）マナー」の基本	細田咲江氏（埼玉女子短大）
9月10日（木）	7:30 8:30		レストラン	朝食	
	9:00 9:15	11	101研修室	事後アンケート記入	佐伯専門職員（NWEC事業課）
	9:15 10:10	12	101研修室	講義「キャリアに学ぶ」	埼短協教員
	10:20 11:10	13	101研修室	まとめ・振り返り「自分自身のキャリアを考える」	佐伯専門職員（NWEC事業課）
	11:20 ～	14	101研修室	アンケート集計結果について、各先生からの言葉	櫻田課長（NWEC事業課）・埼短協
	12:00			修了証の授与	藤田副会長（埼短協）
				閉会の挨拶	

埼玉大学・国立女性教育会館連携事業
平成27年度授業科目「男女共同参画社会を考える」 実施状況

1. 趣旨

現在の日本は性別を問わずにさまざまな人々が対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められているにもかかわらず、ジェンダー格差が非常に大きく残されている部分が多くあり、国連女性差別撤廃委員会などからもその是正に対する勧告を受けている。また私たち個々人もすでに「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。

本授業では、男女共同参画社会をつくるにあたって、現在どのような課題があり、そのことに私たちがどのようにかかわり、社会を変えていくことができるのかということを、調べ学習（文献、聞き取り、訪問観察等）およびグループディスカッション、プレゼンテーション等と通して学ぶ。

本授業は埼玉大学男女共同参画室と国立女性教育会館（NWEC）との連携プログラムであり、会館の女性教育情報センターの資料等の情報、調査研究の資料および人的資源、その他の機関の資源をも活用しながら進める。

2. 実施概要

担当教員 渡辺 大輔 対象年次 1~4年

単位数 2 曜日時限 木曜・3限（13:00~14:30）全15回授業

受講生 18名（女性11名、男性7名）

＜国立女性教育会館担当部分実施状況＞

◎講義「男女共同参画とは：男女共同参画社会の形成に向けた国立女性教育会館の取り組み」

実施日：5月14日（木）

講 師：研究国際室長 中野洋恵

参加人数：16名（女性11名、男性5名）

実施内容：NWECの事業紹介と、関連した現在の日本の男女共同参画の現状について講義が行われた。アンケートの結果、本講義について、非常に満足12人、満足4人であった。

◎講義「専門情報を使う、男女共同参画統計を学ぶ」及び調べ学習

実施日：5月30日（土）

講 師：情報課専門職員 森 未知

参加人数：12名（女性8名、男性4名）

実施内容：学生はパソコンを実際に操作しながら、レポート作成や専門データベースからの情報収集の方法、統計データの活用について学んだ。その後、NWEC女性教育情報センターにて、グループ毎に設定したテーマに関する資料やデータの収集を行った。

女性教育情報センターの運営

収集資料統計(平成28年3月末現在)

項目	和		洋		計	
	年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	1,541	78,871	170	24,348	1,711 103,219
	地方行政資料	435	26,351	-	8	435 26,359
	計(冊数)	1,976	105,222	170	24,356	2,146 129,578
逐次刊行物	雑誌	34		1	763	35 3,907
		中止3	3,144	中止1	(62か国)	
	新聞	-	74	-	1	- 75
その他	新聞切り抜き	23,774	411,245	-	-	23,774 411,245
	AV資料※	18	244	-	-	18 244
	研修貸出用資料※	-	14	-	-	- 14

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成26年度・平成27年度(平成28年3月31日現在)

	平成26年度	平成27年度
資料等利用者数	9,384	8,138
貸出資料総数(冊)	10,579	9,499
図書資料	9,111	8,157
地方行政資料	14	22
雑誌類	794	623
新聞記事	120	302
研修貸出(冊数)	200	98
その他	340	297
レファレンスサービス件数	443	560
内情報検索利用件数	142	167
文献複写サービス(件数)	764	909
情報研修プログラム(件数)	5	3
情報研修プログラム(人数)	47	13
相互貸借貸出件数	294	267
内パッケージ貸出件数	77	65

展示実施状況一覧

	期間	テーマ・目的	冊数	会場
テーマ展示	4~6月	家計簿から見る女性の生活史	56	本館1階 ロビー
	7~9月	日本の男女共同参画の現在 一世界女性会議(北京会議)から20年	58	
	10~12月	女性と宇宙	26	
	H28年1~3月	貧困の連鎖	88	

女性情報ポータルの整備充実

<文献情報データベース データ件数> (平成 28 年 3 月末現在)

	27 年度增加件数	累計
図書	2,480	89,334
雑誌	35	3,907
地方行政資料	151	21,714
和雑誌記事	2,050	69,690
新聞記事インデックス	23,774	411,245
計	28,490	567,409

<その他のデータベースのデータ件数> (平成 28 年 3 月末現在)

	27 年度增加件数	累計
女性関連施設 DB	2,788	36,542
女性情報レファレンス事例集	7	287
男女共同参画人材 DB	61	826
女性と男性に関する統計 DB	※	551
国立女性教育会館リポジトリ*1	63	6,750
国立大学における男女共同参画状況 DB*2	—	86
女性学・ジェンダー論関連科目 DB*3	—	28,168
計	2,911	73,202

※「女性と男性に関する統計 DB」(551 件 (表)) は、既存の表にデータを追加しているため、件数は変化しない。

*1 「国立女性教育会館リポジトリ」は平成 26 年 4 月公開した。

*2 「国立大学における男女共同参画状況 DB」は 2010 年調査結果をデータベース化したもの。

*3 「女性学・ジェンダー論関連科目 DB」は 2000~2008 年調査結果をデータベース化したもの。

平成27年度「女性情報アーカイブスト養成研修（基礎コース）+（実技コース）」開催要項

独立行政法人国立女性教育会館では、女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくために、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の保存と活用に取り組んでいます。

その活動の一環として、アーカイブの保存や整理について新しい情報を求めの方や、これから業務にとりくむ方のために、平成21年度からアーカイブスト養成研修を実施しています。

平成27年度は、昨年度に引き続き、アーカイブの基礎的な保存技術や整理方法を紹介する基礎コースと、実習を通してより実践的に学んでいただく実技コースを開催します。

女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方、大学・機関等の図書館職員の方のご参加をお待ちしております。

1. 期　　日　　平成27年12月9日（水）～12月11日（金）

①基礎コース：12月9日（水）～12月10日（木）　　1泊2日（どちらか一日だけの参加も可）

②実技コース：12月10日（木）～12月11日（金）　　1泊2日

2. 主　　催　　独立行政法人 国立女性教育会館

3. 会　　場　　国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地（東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩12分）

URL: <http://www.nwec.jp/>

4. 募集人員　　女性関連施設職員、図書館の実務担当者、地域女性史編纂関係者

① 基礎コース：30名

② 実技コース：20名（過去に実技コースを受講済の方は受講できません）

5. 日程・内容

12月9日（水）

<基礎コース 第1日>

12:40～13:05	受付	
13:05～13:15	開会挨拶	国立女性教育会館理事長 内海房子
	オリエンテーション	
13:15～14:35	アーカイブの実践 アーカイブ機関における実践事例について学びます。	①市川房枝記念会女性と政治センター　山口美代子 ②虎屋文庫　今村規子
14:50～15:50	アーカイブと著作権・肖像権・プライバシー デジタルアーカイブ構築時に役立つ著作権・肖像権・プライバシーの基礎知識を学びます。	骨董通り法律事務所 弁護士　小林利明
16:00～17:00	女性アーカイブ概論 女性に関する原資料の基礎的な知識を学びます。	国際資料研究所代表・ 藤女子大学教授　小川千代子
17:15～17:45	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学（希望者のみ） 国立女性教育会館におけるアーカイブ構築事例を中心にお紹介します。	
19:30～20:30	情報交換会（希望者のみ） 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。	

12月10日(木)

<基礎コース 第2日>

9:00～10:10	女性アーカイブの収集・選定・活用 女性アーカイブの収集・選定方法や国内外の収集事例について学びます。	国立女性教育会館情報課客員 研究員 青木玲子
10:20～11:30	フィルム・写真の保存とデジタルアーカイブ フィルム・写真の管理・保存やデジタルアーカイブの構築について、基礎的な知識を学びます。	(株)堀内カラー 肥田康
11:30～11:35	閉会	

<実技コース 第1日>

13:30～13:45	受付	
13:45～14:00	開会 オリエンテーション	
14:00～17:00	アーカイブ展示の手法 資料展示のポイントや展示スペースデザインなどについて、ワークショップや事例紹介を通じて学びます。	空間演出コンサルタント 尼川ゆら

12月11日(金)

<実技コース 第2日>

9:00～12:00	紙資料の修復関連実習① 実技を通して紙資料の保存・修復方法の基礎を学びます。	(株)資料保存器材 伊藤美樹・安藤早紀
12:00～13:00	昼休み	
13:00～15:00	紙資料の修復関連実習② 午前の実習の続きを行います。	(株)資料保存器材 伊藤美樹・安藤早紀
15:00～15:05	閉会	

6. 所要経費

- (1) 参 加 費 ①基礎コース：無料、②実技コース：実習用材料費等実費（予定）
- (2) 宿 泊 費 1泊 1,200円
- (3) 食 費 朝食 バイキング 870円
昼食 カフェテリア形式 550円～750円程度
夕食 バイキング 1,080円
- (4) 情報交換会費 500円（軽い飲食物をご用意します）

7. 申込み手続

- (1) 方 法 下記①または②のいずれかにてお申し込みください：

①電子メール：ホームページ (<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2015.html>)

掲載の申込書様式に入力のうえファイル添付にて送信

（必要事項をメール本文に入力のうえ送信しても可）

②FAX：
ホームページ掲載の申込書様式またはチラシ裏面の申込書に記入の上送信
(様式がなければ必要事項を記入した紙でも可)

- (2) 期 限 11月20日

8. 申込み・問い合わせ先

国立女性教育会館情報課 山崎、星野、関森

TEL: 0493-62-6195 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

H27年度アーカイブスト養成研修(基礎)アンケート(2014.12.9-12.11) 集計結果

1. 今回の研修を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報（ホームページ、チラシなど）	16
他団体の広報(ホームページ、ブログなど)	3
所属している団体・グループからの呼びかけ	2
友人・知人からの誘い	5
その他	4
無回答	1

3. 研修の内容について

	アーカイブの実践①	アーカイブの実践②	アーカイブと著作権	アーカイブ概論	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学(希望者のみ)	情報交換会(希望者のみ)	女性アーカイブの収集・選定・活用	フォルム・写真の保存とデジタルアーカイブ
非常に有用だった	12	14	16	19	12	12	15	14
概ね有用だった	10	7	6	1	5	3	2	3
あまり有用でなかった	—	1	—	—	—	—	1	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	2	2	2	2	3	4	2	2
無回答	1	1	1	3	5	6	5	6
計	25	25	25	25	25	25	25	25

* 研修の内容(%)

	アーカイブの実践①	アーカイブの実践②	アーカイブと著作権	アーカイブ概論	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学(希望者のみ)	情報交換会(希望者のみ)	女性アーカイブの収集・選定・活用	フォルム・写真の保存とデジタルアーカイブ	有用度(平均)
非常に有用だった	54.5%	63.6%	72.7%	95.0%	70.6%	80.0%	83.3%	82.4%	98.7%
概ね有用だった	45.5%	31.8%	27.3%	5.0%	29.4%	20.0%	11.1%	17.6%	
あまり有用でなかった	—	4.6%	—	—	—	—	5.6%	—	
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4. 参加した全体の感想

	回答数	%	満足度
非常に満足した	15	68.0%	100.0%
概ね満足した	7	32.0%	
少し物足りなかった	—	—	
物足りなかった	—	—	
無回答	3		
計	25	100.0%	

5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	18
もっと長い日程がよい	—
春の時期がよい	4
夏の時期がよい	3
秋の時期がよい	6
冬の時期がよい	2
その他	2
無回答	—

6. あなた自身について

(1) 所属	
女性・男女共同参画センター	7
図書館	8
文書館・文学館	2
女性史グループ	1
その他	7
無回答	—
計	25

(2) 性別	
女性	23
男性	—
無回答	2
計	25

(3) 年齢	
20歳代	5
30歳代	4
40歳代	9
50歳代	6
60歳代以上	1
無回答	—
計	25

(4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。	
知っていて、利用したことがある	8
利用したことないが知っていた	8
知らなかった	9
無回答	—
計	25

1 今回の研修を何でお知りになりましたか。

- 勤務先の一斉メール (図書館、女性、50歳代)
- 大学史料協 (その他、女性、50歳代)
- メーリングリスト (文書館・文学館、女性、30歳代)
- NWE C からメールでご案内があった。 (女性・男女共同参画センター、女性、20歳代)
- メルマガ (その他、女性、50歳代)

2-1 【アーカイブの実践(①山口美代子)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 一から資料整理に取組まれたという貴重なお話がきけてよかったです。 (文書館・文学館、女性、30歳代)
- 大先輩(?)のお話は、とても味わい深いものでした。 (その他、女性、50歳代)
- 膨大にある資料の保存に対する想いが伝わりました。 (その他、女性、50歳代)
- 具体例から入り分かりやすかった。 (文書館・文学館、女性、50歳代)
- 実務で、様子を知れてよかったです。 (図書館、女性、30歳代)
- 具体的な事例で参考になりました。 (その他、女性、40歳代)
- 内容の説明は理解出来ましたが資料が小さい字で見えにくかったです。 (無回答、女性、70歳以上)
- 文書のみならず、写真や手紙など現物を残すことの意義がわかつた (その他、女性、70歳以上)
- 山口さん、今村さんお二人の熱意が感じられ、ぜひアーカイブズを拝見したいと思いました。 (女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 婦人や房枝の誤字指摘された。ご高齢にもかかわらず、さすが～ (無回答、無回答、無回答)
- 資料整理の大変さに納得するとともに市川房枝資料の多様さに驚いた。 (図書館、女性、20歳代)
- 具体的事例として参考になりました。 (図書館、無回答、50歳代)
- まず初めのお話で、アーキビストとはという姿を示して下さり、奥深さを実感しました。 (図書館、女性、50歳代)

2-2 【アーカイブの実践(②今村規子)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 虎屋の展示やアーカイブについて知らなかつたのでおもしろかったです。 (文書館・文学館、女性、30歳代)
- 現場感が伝わりとても参考になりました。 (その他、女性、50歳代)
- 企業内にきちんと部署があるのは素晴らしい。 (その他、女性、50歳代)
- 虎屋文庫、興味をもちました。 (図書館、女性、30歳代)
- 具体的な事例で参考になりました。 (その他、女性、40歳代)
- (お菓子の件) 面白く昔を知りました。 (無回答、女性、70歳以上)
- 物の保存の難しさなど、現在進行中の事業の記録の意義 (その他、女性、70歳以上)
- 山口さん、今村さんお二人の熱意が感じられ、ぜひアーカイブズを拝見したいと思いました。 (女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 企業の難しさも。とらやさん応援。 (無回答、無回答、無回答)
- 虎屋さん文化について太っ腹です！ (その他、女性、50歳代)

- 企業のアーカイブや何も知らず廃棄されてしまうこと、勉強になりました。
(図書館、女性、20歳代)
- 企業の資料収集の内情が聞けて良かったです。
(図書館、無回答、50歳代)
- なかなか聞くことのできない企業資料室のお話は興味深かったです。
(図書館、女性、50歳代)

2-3 【アーカイブと著作権(小林利明)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 著作権は仕事上常に関わりのあることなので、とても勉強になりました。公文書法についてもう少し話が聞きたかったです。
(文書館・文学館、女性、30歳代)
- 知識がないことで、必要以上に神経質になる面を、段階的に検討する手法で、解決の方向にめざす安心感がありました。
(その他、女性、50歳代)
- 著作権について一度しっかり話を聞いてみたかったのでよかったです。
(その他、女性、50歳代)
- 説明のフローチャートが分かりやすかったです。
(文書館・文学館、女性、50歳代)
- 著作権テキスト、手元にあるものをよみかえして、今後役立てたい。
(図書館、女性、30歳代)
- とても理解しやすい説明と資料でした。映像を見ることが出来参考になりました。
(無回答、女性、70歳以上)
- 著作権の法は内容や思考方法、また運用面の微妙な問題などをわかりやすく説明された
(その他、女性、70歳以上)
- 非常にわかりやすい講義で著作権について理解できました。
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- かなりむずかしいが最新動向も知った。例外を研究する必要がある事がわかつた。
(無回答、無回答、無回答)
- もう少し詳しく聞きたい位でした。
(その他、女性、50歳代)
- 著作権の研修は以前も受けたことがあるが、混乱することが多い。アーカイブや公開に絞って教えていただき、わかりやすかったです。
(図書館、女性、20歳代)
- さらにもっと深く具体的にお聞きしたかったです。判断に悩むことが多いです。
(図書館、無回答、50歳代)
- 常に向き合う著作権について、再認識出来ました。
(図書館、女性、50歳代)
- 寄贈された資料群をどうとりかかっていくかが分かった。
(その他、女性、50歳代)

2-4 【アーカイブ概論(小川千代子)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- アーカイブに携わりながらも、きちんと教わったことがなかったので、改めて教えて頂けてよかったです。
(文書館・文学館、女性、30歳代)
- バイブルにしたいです
(その他、女性、50歳代)
- アーカイブの考え方、基本的なこと、原点を考えることができ、良かったです。
(その他、女性、50歳代)
- 日本のアーカイブを切り開いて来られた大先輩のお話を伺えて大感激
(文書館・文学館、女性、50歳代)
- 基礎から具体的なことも知れて有用。資料も参考図書もぜひよみたい。
(図書館、女性、30歳代)
- アーカイブの概論（なる程と思いました。）
(無回答、女性、70歳以上)
- アーカイブ資料と図書のちがい、また女性アーカイブの特別な意義がとても説得的だった
(その他、女性、70歳以上)
- 実践的で、しかもアーカイブの何たるかがよくわかりました。
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- とてもわかりやすくて、有益なお話をいただけてうれしかったです。
(女性・男女共同参画センター、女性、20歳代)
- アーカイブ基本を理解した気がする。
(無回答、無回答、無回答)
- アーカイブの際に重要な考え方を知るとともに、なぜあえて女性資料にターゲットを絞るのかについて教えていただき、勉強になりました。
(図書館、女性、20歳代)
- 「アーカイブ」の定義が良くわからました。さらに掘り下げて知りたいと思いました。
(図書館、無回答、50歳代)
- 日本では、まだ認知度が低いと思われているアーカイブに対する知識を得ることが出来有意義でした。
(図書館、女性、50歳代)

2-5 【女性アーカイブセンター見学】の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 展示を興味深く見させて頂きました。
(文書館・文学館、女性、30歳代)
- 新聞スクラップの力 案内の山崎さんの目の輝きも印象的でした。
(その他、女性、50歳代)
- 書架ごと色分けされているなど工夫されていると思った。
(文書館・文学館、女性、50歳代)
- NWECのコレクションの厚みと幅広さがわかった。家計簿記録などもアーカイブとして価値することがわかり納得
(その他、女性、70歳以上)
- 2回目になりますが、いつも地道な取り組みに励されます。明日からもセンターでがんばろうと。
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- パッケージ貸出でいつもお世話になっていますが、資料の多様性やあの情報量の展示を少数で行っていること、驚きました。
(図書館、女性、20歳代)
- 新聞のスクラップとデータベース化、家計簿など興味深いものがありました。
(図書館、無回答、50歳代)
- 情報センター、アーカイブセンター資料の特色を掴むことが出来今後に役立てていきたいと思いました。
(図書館、女性、50歳代)
- 自分の資料室にどう活かしたらよいかのヒントが得られた。
(その他、女性、50歳代)

2-6 【情報交換会】の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- あつという間でしたが、何人かの方と情報交換できてよかったです・全員と例えば2分ずつくらい話せるような、何か工夫して頂ければより多くの方と話せたと思いました。
(文書館・文学館、女性、30歳代)
- フランクで、とてもよいですね。お土産を持ってきて差し入れしたかったです。
(その他、女性、50歳代)
- 多くの方と話が出来て有益だった。
(文書館・文学館、女性、50歳代)
- とてももり上がり、有益な時間でした。みなさんの専門性に少し気おくれしましたが・・・
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 図書館所属ではない多様な方がいたので面白かった。
(図書館、女性、20歳代)
- 色々な場所の方とお会いできで良かったです。
(図書館、女性、20歳代)
- 色々な立場で、資料に関わる仕事をしている方々とお話出来良かったです。
(図書館、女性、50歳代)
- 大変楽しい時間をすごしました。
(その他、女性、70歳以上)

2-7 【女性アーカイブの収集・選定・活用(青木玲子)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- ”女性”に特化したアーカイブは直接は関わりがないのですが、アーカイブについて参考になった。特にヨーロッパの事例が興味深かったです。
(文書館・文学館、女性、30歳代)
- 自分にとっては未知の分野ですけどとても興味がわきました。
(その他、女性、50歳代)
- 海外の事例がわかり、興味深かったです。
(その他、女性、50歳代)
- アーカイブセンターの歴史、意義を改めて確認できた。
(文書館・文学館、女性、50歳代)
- フェミニストアーカイブズという言葉が印象的でした。
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 本論になるのかも。私達の地域、私達の機関にも女性アーカイブを作ろう。
(無回答、無回答、無回答)
- 参考になりました。
(その他、女性、50歳代)
- 海外の例の紹介もあり、勉強になりました。民間の資料所有者と市立図書館の関わり、興味深かったです。
(図書館、女性、20歳代)
- イキイキとしたお話しぶりでとても楽しく拝聴しました。わかりやすかったです。
(その他、女性、40歳代)
- 多様な例の紹介が参考になりました。
(図書館、無回答、50歳代)
- 具体例もまじえ、現状やこれからの課題や掴むべき視点を分かりやすく説明いただけ、とても役立ちました。
(図書館、女性、50歳代)

- 女性アーカイブの意義が分かった。

(その他、女性、50歳代)

2-8 【フォルム・写真の保存とデジタルアーカイブ(肥田康)】講座の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 普段から疑問に思いながらも、独自に工夫して写真保存をしていたので、今回専門的なところがわかり、とても勉強になりました。
- 具体的な知識が得られました。機器購入の可能性も。
- 写真が膨大であり、収集・整理方法には悩んでいましたので有益でした。
- 実践的なお話で考えさせられた。
- すぐに必要な内容ではありませんでしたが、実践的で重要な講義でした。
- とてもよかったです。
- 自分の写真整理にも活用できます。
- 資料保存の勉強になりました。経験や伝授をもとにいつも保存をしているので。
- お話もとてもわかりやすかったです。紙焼写真の管理をどうするかとても困っているので、具体的なお話がありがたかったです。
- 紙資料のデジタル化についてご質問したかったので、良い機会を得られてよかったです。
- 具体的に説明していただきわかりやすかったです。
- 現状に対する必要な知識の詳しい説明が伺え概略がつかめました。
- データベース構築方法が分かった。

(文書館・文学館、女性、30歳代)

(その他、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

(文書館・文学館、女性、50歳代)

(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)

(無回答、無回答、無回答)

(その他、女性、50歳代)

(図書館、女性、20歳代)

(その他、女性、40歳代)

(図書館、女性、20歳代)

(図書館、無回答、50歳代)

(図書館、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

3 「基礎コース」全体のご感想で「少し物足りなかった」「物足りなかつた」を選んだ方は、その理由をお書きください。

- 概論も関係分野も充実していました。
- 人選、内容ともすばらしい企画だった。参加して本当にお得感がありました。こうした研修機会をさらに多くの人たちが参加できるといいですね。ぜひ再度、再々度の企画を！
- 女性資料のアーカイブに関する研修でしたが、アーカイブ全体に係ることも多く、自分の仕事や関わり合いを考えさせられ、とても勉強になりました。女性関係資料あまり興味なかったのですが、色々な側面を見て、考えが変わりました。

(その他、女性、50歳代)

(その他、女性、70歳以上)

(図書館、女性、20歳代)

4 今回の研修は12月10日(水)～11日(木)の1泊2日で開催しました。あなたが望ましいと思われる日程について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。【その他】

- 今まで
- 年末から年度末にかけては研修に行きづらいので。
- 日程（長さ）はよくわかりません。すみません。

(図書館、女性、30歳代)

(図書館、女性、20歳代)

(その他、女性、40歳代)

5 今後、同様の研修が実施される場合、どんな内容のものに参加したいと思われますか。

- 史料保存の方法（写真、モノ資料、など色々）
・修復（革の本なども）
実践型の研修に参加したいです。
- 実践例の具体的なお話。日本におけるアーカイブの歴史。施設見学、展示または資料整理のワークショップ。

(文書館・文学館、女性、30歳代)

(その他、女性、50歳代)

- 実例に則した内容。権利処理の話など。実例など具体的なイメージがわかられば有り難いです。とかく、権利関係の話は難しく（線引きが）さらに実行も難しいので。
- 基礎I, II 応用I （実例）
 (その他、女性、50歳代)
- 今回は一部しか参加できなかつたので、再度参加したいと思います。大変勉強になりました。
 (図書館、女性、30歳代)
- リピーターも意味があるとは思うが、今回同様の基礎コースを何度も開催し、関心を持つ層を広げることに力を入れてはいかが？
 (その他、女性、40歳代)
- 女性センターの情報事業支援
 (その他、女性、70歳以上)
- 何年かに1回プラッシュアップ研修みたいなものをうけたい。概論もだが様々な事例とか
 (女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- アーキビストの実践編を学習したいです。関連して、図書司書等の研修に参加したいです。60分程度で講義がくまれていて、集中して聴くことができました。
 (その他、女性、50歳代)
- データベース化、簡易目録作成などの実習、デジタルアーカイブの簡易構築、模擬製作（民間で出来る範囲の）
 (女性・男女共同参画センター、女性、20歳代)
- 概論＋実践例でよろしいと思います。
 (無回答、無回答、無回答)
- アーカイブにおける図書館、文書館、博物館、（企業も？）の役割分担。概論的なことを
 (その他、女性、50歳代)
- 女性に特化せず、男性も参加しやすくしていただけるとうれしいです。
 (図書館、女性、20歳代)
- アーキビストとしての知識を深める講義及び実技コースなど
 (図書館、女性、20歳代)
- 実務的な要素がもっと入るとより良いと思う。
 (図書館、女性、50歳代)
- 実務的な要素がもっと入るとより良いと思う。
 (その他、女性、50歳代)

6 国立女性教育会館の施設、宿泊、お食事等についてご自由にご意見をお書きください。

- よかったです。
 (文書館・文学館、女性、30歳代)
- リーズナブルで驚きました。サービスも充分です。施設は…お風呂のお湯の調節が難しかった。ラジオのボリュームがちょっとこわれていました。
 (その他、女性、50歳代)
- コーヒーが無料だとうれしい。宿泊の部屋は清潔に保たれていて気持ち良く使えました。
 (その他、女性、50歳代)
- スタッフが親切だった
 (図書館、女性、60歳代)
- ・宿泊費は安く助かる
 ・食事は全体的に高い。システムが変わりましたね。
 (文書館・文学館、女性、50歳代)
- 立派な施設に感動しました。
 (図書館、女性、30歳代)
- 食堂・食券機が導入され、メニューも限定されたことに驚きました。以前のようなカフェテリア方式は、財政的に無理なのでしょうか？
 (その他、女性、70歳以上)
- 食事高いです。コモパンに救われたりして・・・
 (その他、女性、50歳代)
- 暖房設備等とても快適に過ごせました。広大な庭園
 (女性・男女共同参画センター、女性、20歳代)
- 大変心地良かったです。
 (その他、女性、50歳代)
- 良かったです。
 (図書館、女性、20歳代)
- 研修会場が寒かった（1日目）スタッフの皆様の対応が親切丁寧でした。
 (図書館、無回答、50歳代)
- 掃除などが行き届いており清潔感があり良かったです。
 (図書館、女性、50歳代)
- 適当でよい
 (その他、女性、50歳代)
- O.Kです。
 (その他、女性、70歳以上)

7 あなた自身についてお聞かせください。【ご所属】(その他)

- 資料館
 (その他、女性、50歳代)
- 学校史料室
 (その他、女性、40歳代)

- 國際ジェンダー学会 (その他、女性、70歳以上)
- 学生 (その他、女性、50歳代)
- 教育施設 (その他、女性、50歳代)
- 民間女性会館（団体） (その他、女性、40歳代)
- コンサルタント (その他、女性、70歳以上)

8 國立女性教育会館女性アーカイブセンターに期待すること等、自由にお書きください

- 研修について事前のご連絡等、細やかにありがとうございます。立地は不便かもしれません、ネット等でアクセスしての利用に期待します。
- ナショナルセンターとして、各地のアーカイブ事業取組施設の求心力になれば。
- 本日は貴重な機会をありがとうございました。基礎や周辺知識に興味をもち、同時に司書としても基本の概念をふりかえり、多くつかんだ時間をすごしお勉強させて頂きました。又、機会がありましたらお願ひします。
- 毎年となると大変ですね。お疲れさまでした。
- 充実した内容の研修だと思います。沢山の人が参加する機会があればと思います。参考になりました。映像もあればと思いました。
- こんなにすばらしい女性アーカイブセンターであることを知りませんでした。もっと広報活動を盛んにしてはいかがですか。名前と存在は知っていますが、実際に足を運んでみるとすばらしさがわかります。
- 今後も唯一の女性アーカイブセンターとして、蓄積した情報やノウハウを地方のセンターに積極的に伝えていただきたいと思います。今回もたくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 今後も研修や講演会など様々な学習機会を提供してくださることを期待しています。
- パッケージなどでの貸し出しや、土日なども開いていることなどPRして下さい。全体的に親切で、環境も良く、個人的に宿泊したいと思いまし
- アーカイブ構築、資料保存などの相談にのってほしい。個別相談はお互い大変だし、相談するハードルも高いので。ウェブなどで事例を出すなど、参考になる情報を発信してほしい。
- 多くの方に知ってもらい活用されて行く事を期待致します。

H27年度アーカイブスト養成研修(実技コース)アンケート(2015.12.9-12.11) 集計結果

1. 今回の研修を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報(ホームページ、チラシなど)	10
他団体の広報	3
所属している団体・グループからの呼びかけ	5
友人・知人からの誘い	3
その他	1
無回答	—
計	22

2. 研修の内容はいかがでしたか。

	アーカイブ展示の手法		紙資料修復の実践		有用度 100.0%
	回答数	%	回答数	%	
非常に有用だった	12	80.0%	16	100.0%	
概ね有用だった	3	20.0%	—	—	
あまり有用でなかった	—	—	—	—	
有用でなかった	—	—	—	—	
参加していない	2	—	1	—	
無回答	—	—	—	—	
計	17	100.0%	17	100.0%	

4. 参加した全体の感想

	回答数		満足度 100.0%
	回答数	%	
非常に満足した	14	82.4%	
概ね満足した	3	17.6%	
少し物足りなかった	—	—	
物足りなかった	—	—	
無回答	—	—	
計	17	100.0%	

5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	11
もっと長い日程がよい	1
春の時期がよい	—
夏の時期がよい	2
秋の時期がよい	3
冬の時期がよい	1
その他	3
無回答	—
計	21

6. あなた自身について

(1) 所属

女性・男女共同参画センター	1
図書館	9
文書館・文学館	1
女性史グループ	1
その他	5
無回答	—
計	17

(2) 性別

女性	17
男性	—
計	17

(3) 年齢

20歳代	2
30歳代	2
40歳代	2
50歳代	11
60歳代以上	—
無回答	—
計	17

(4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	3
利用したことないが知っていた	7
知らないかった	7
無回答	—
計	17

1 今回の研修を何でお知りになりましたか。

- 図書館の連絡 (図書館、女性、50歳代)
- 大学史資協 (その他、女性、50歳代)

2-1 【アーカイブ展示の手法(尼川ゆら)】研修の内容はいかがでしたか。

- 美しく楽しく展示したいなあ～と思いました。お金をかけないアイディアも⑩ (女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 新しい発想、着眼点など軽視されがちな点を改めて分かり良かった。 (その他、女性、50歳代)
- 基本的な展示空間の作り方がわかりよかったです。どのように相手を歩かせたいか、目線はどこにいくかを実際考えるワークショップがおもしろく、また、今までの事例も参考になりました。 (文書館・文学館、女性、30歳代)
- 展示を見る人がどんな所に目が行くのかを知るためにふせんを使った作業がありましたが、とてもわかりやすく参考になりました。 (図書館、女性、20歳代)
- 実践的で、とても参考になりました。今までのイベントで展示品を並べることに重点をおき、「見てもらう」ことに重きをおいてなかつたと反省しました。次のイベントに即実行しようと思います。 (図書館、女性、50歳代)
- そこまでは…と思い込んでいた空間演出でしたが、そこから生まれる発想から始める事もできるのだと思いました。 (その他、女性、50歳代)
- 展示方法、効果的な見せ方、動線を具体的に考えることができ、とても実践的でした。 (その他、女性、50歳代)
- 展示は苦手とするところなのですが、いろいろな例を見たことにより、こういう方法もあるのかと参考になりました。 (図書館、女性、20歳代)
- 空間の利用については初めて学んだ。新しい着眼点に驚いた。 (女性史グループ、女性、50歳代)
- 今まで自分では気付かなかった展示の動線について、改めて考えることができた。実際の展示例で、”色の使い方”が重要よいうこと、”何を伝えたいか”を明確にする方法を教えていただきました。 (その他、女性、50歳代)
- 展示は「センスの問題」と思っていたけれど、知識・技術でできることがたくさんあると分かって参考になりました。事例がたくさん知ることができたのも良かった。 (図書館、女性、40歳代)

2-2 【紙資料修復の実践(伊藤美樹、安藤早紀)】研修の内容はいかがでしたか。(ご意見・ご感想等)

- 自分の手でできることができがとてもうれしくて、何でも直してみたくなります。今あるものを大事にしていきたいです。 (女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
- 大変有益な話でよかったです。早速とり入れます。 (その他、女性、50歳代)
- 久しぶりの補修実習。感覚を思い出すきっかけになった。今、まさに糸とじが必要な資料があるので、早速対応したいと思った。 (図書館、女性、30歳代)
- 修復の研修は初めての参加だったので、基本的なことがわかり、とても有用でした。ただ、傷んだ古い資料が莫大にあるので、全てを一度に修復するのは難しく、優先順位をつけて徐々にすることを感じました。 (文書館・文学館、女性、30歳代)
- 補修する方法など、いろいろとおしえていただけて参考になりました。 (図書館、女性、20歳代)
- 実際に使える道具の提供はうれしいです。(今後の作業に大いに役立ちます)
さらに高度な修復実習も望みます。
質問に対するお答えを全体的にしていただきたかった。(たくさん知りたい) (図書館、女性、50歳代)
- 身近な修復用品や対処方法はとても参考になりました。修復用品を職場に持ち帰れることも、とてもありがたいです。 (その他、女性、50歳代)
- 修復・保存について、これほど深く考えたことがなかったので、大変勉強になりました。実践します。 (その他、女性、50歳代)

- ほこりやカビの除去を教えていただいだだけでなく、とじ直しの方法を教えてもらい良かった。普段の仕事に役立てます。補修キット一式をそろえていただき、持って帰れることもよかったです。
- 伊藤美樹先生、すばらしいです（欄外）
- 講師の方の手先の美しさに思わず見とれてしまった。
- 実技を通して楽しく受講できました。道具や機器など工夫された品々を紹介いただき、大変参考になりました。講師の方々は”職人”だと感心しました。
- 内容は知りたかったことばかりで、基本的な知識・技術を身につけることができて良かった。実習で自信もついた。ただ、前半はもう少し内容を詰め込んでいただきたかった。

3 「実技」全体のご感想で「少し物足りなかった」「物足りなかつた」を選んだ方は、その理由をお書きください。

- 時間の制約もあり、実習内容を更に盛り込むのは難しいとは思いますが、そして刃物やノリを使う工程を入れてしまうと收拾がつかなくなるだろうとも思うのですが、プロにお願いする前に現場でできることを増やして持ち帰りたい、という気持ちから、物足りなさを感じてしまいました。すみません。
上記は個人的な感想です。コースとしては良く内容を考えられており、職場に持ち帰り共有すると有益だと思います。1日ありがとうございました。

(図書館、女性、40歳代)

4 今回の研修は、12月9日(水)～10日(木)の「基礎コース」と続けて、12月10日(木)～11日(金)の1泊2日で開催しました。あなたが望ましいと思われる日程について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。【もっと長い日程がよい】を選んだ場合の内容

- 3泊4日（もっと長い日程でもよい）

(その他、女性、50歳代)

5 今後、同様の研修が実施される場合、どんな内容のものに参加したいと思われますか。

- 基礎コースに記入しました。
- 実務的要素を増やして欲しい
- 実習たっぷりコース。アーカイブの事例、キソも、色々興味あります。
- 今回のような展示に関する事や、修復の研修に興味があります。
- 自前でデジタル化する場合のカメラ等の使い方の実技。小さな史料室などは予算を多くとれないで、自前でできる方法を具体的に知りたい。
- 初級、中級とレベルUPできるようなもの
- 西日本での開催もご検討いただけるうれしいです。京都では事情が難しく…とは言いましたが、潜在的な需要は多いと思いますので、京都もよいのかもしれません。何かお手伝いできることができればお声かけください。
- 補修関係なら、ハードカバーの補修（背の糸の直し方、背表紙が壊れた時の対処）
それをやると教えるのにもう1日必要だと言われましたが、一番必要になることが多いので。
- 和綴じの本の修復
- 実技的な研修

(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

(文書館・文学館、女性、30歳代)

(図書館、女性、20歳代)

(その他、女性、50歳代)

(図書館、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

(図書館、女性、20歳代)

(その他、女性、50歳代)

(女性史グループ、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

6 国立女性教育会館の施設、宿泊、お食事等についてご自由にご意見をお書きください。

- 快適です。
- 宿泊代以上のサービスだった
洗面台以外に鏡が欲しい
- 施設はじめて知りました。立派。
研修施設も整ってすごい
ランチおいしかったです
- リーズナブルで、とても利用しやすかったです。

(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)

(その他、女性、50歳代)

(図書館、女性、30歳代)

(文書館・文学館、女性、30歳代)

- よかったです。
 - 食事がやはり高いです。1日1000円に納まるような廉価メニューがひとつでもあるとよい。
 - 朝のバイキングメニューにバリエーションを… (連泊の方には変化がほしい)
 - スタッフが親切だった
 - 宿泊が安く充実している。
お食事はセットメニューに
 - 食事の味つけが、あまり良くない。朝食等内容が同じ。値段の割には内容が悪い
 - 今回は、宿泊の部屋にタオル等アメニティが備え付けられていたので、大変ありがとうございました。朝夕のバイキング形式は、自由に好みの物を選んで食べられるのでよかったです。
 - 食堂のお昼、おいしかったです。
 - 安い料金で十分な設備でした。ありがとうございました。
- (図書館、女性、20歳代)
(その他、女性、50歳代)
(図書館、女性、50歳代)
(図書館、女性、50歳代)
(女性史グループ、女性、50歳代)
(図書館、女性、50歳代)
(その他、女性、50歳代)
(図書館、女性、40歳代)
(図書館、女性、40歳代)

7 あなた自身についてお聞かせください。【ご所属】(その他)

- 学生
 - 資料館
 - 情報サービス企業
- (その他、女性、50歳代)
(その他、女性、50歳代)
(その他、女性、50歳代)

8 国立女性教育会館女性アーカイブセンターに期待すること等、自由にお書きください

- 講習の際の投影の下の部分がみづらかったので (今回展示の全体をみたかった) 少し画面を上にずらしていただけると、前の人をさけて見なくても良かったと思います。
 - 基礎コースに記入しました。
 - 今回ありがとうございました。又、研修の機会がありましたらうれしいです。今後ともどうぞよろしくおねがいします。
 - 3日間ほんとうにありがとうございました。
 - 唯一の国立のアーカイブセンターとして本当に大変だと思います。期待しています。
 - 飛び込み的な参加希望にご対応くださいり、ありがとうございました。
- (図書館、女性、50歳代)
(女性・男女共同参画センター、女性、50歳代)
(図書館、女性、30歳代)
(その他、女性、50歳代)
(女性史グループ、女性、50歳代)
(図書館、女性、40歳代)

平成27年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー実施要項

1. 趣 旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、会館の第三期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。
平成27年度のリーダーセミナーでは、「女性の起業と経済的エンパワーメント」をテーマとして設定し研修を行う。
2. 主 題 女性の起業と経済的エンパワーメント
3. 開催期日 平成27年9月28日（月）～10月2日（金）
4. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
5. 募集人員 10名（女性10名）
6. 参 加 国 カンボジア、インド、フィリピン、ミャンマー、ベトナム
7. 研修日程 別紙参照

**平成27年度「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程
テーマ:女性の起業と経済的エンパワーメント**

平成27年9月28日(月)～10月2日(金) (受け入れ期間 9月27日～10月3日)

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師（敬称略）
9月	日		日本到着		
28日	月	8:00-9:45	会館へ移動		
		10:00-10:45	開会挨拶・職員紹介		内海 房子 NWEC理事長
		11:00-12:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレーク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWEC研究国際室専門職員
		14:00-15:00	会館概要説明	国立女性教育会館について	渡辺 美穂 NWEC研究国際室・研究員
		15:15-16:00	情報提供 若年男女のキャリア形成に関する意識及び支援 に関する調査研究	会館の調査研究について	島 直子 NWEC研究国際室研究員
		16:15-16:45	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	森 未知 NWEC情報課専門職員
29日	火	9:00-15:00	カントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 NWEC研究国際室専門職員
		15:00-15:30	理事長室表敬訪問		
		16:00-17:00	ポスターセッション	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 NWEC研究国際室専門職員
30日	水	10:30-12:00	講義 女性の起業支援等に関する施策	女性の起業支援等に関する施策	坂井 萌 経済産業省 経済社会政策室 室長補佐
		13:30-15:30	講義 農山漁村女性の起業支援		安倍澄子 農山漁村女性・生活活動支援協会 会長理事
		16:00-17:00	研修の振り返り	研修前半の振り返り	研修生・会館職員
10月 1日	木	10:00-10:45	講義 女性起業UPルームの成果と課題 川名理事長 ご挨拶	男女共同参画センター横浜の女性起業支援事業	吉武恵美子 男女共同参画センター横浜 事業 課
		10:45-11:45	視察 施設見学	施設見学	
		13:00-15:00	講義とディスカッション 女性起業家との意見交換	起業たまご塾卒業生の報告と意見交換	吉枝ゆき子 ソフィットウェブプランニング代表 樋口ユミ 株式会社ヒューマン・クオリティ 代表取締役 佐久間矩子 Natural Sweets Toitoi代表
2日	金	9:30-12:00	講義 昭和女子大学 キャリアカレッジ 起業家・新規事業創造コースについて 坂東 真理子学長ご挨拶(冒頭10分)	女性のキャリア形成を支援する高等教育の カリキュラム	熊平美香 株式会社 エイティックマヒラ 代表取締役 松尾由紀子 Star Communications 扇谷まどか The Opener株式会社代表取締役
		14:00-15:00	成果報告書(リーダーセミナーレポート)について の打ち合わせ 評価会・閉講式	アンケート記入・修了書の授与	中野洋恵・渡辺美穂・越智方美
3日	土		帰国		

「平成 27 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」アンケート集計結果

1. 研修の参加動機

Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	9 人	男女共同参画の推進に資する知識と技能の向上のため Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	8 人	男女共同参画の推進に従事する女性リーダーとしての能力向上のため Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	8 人	研修で得た知識・能力を時刻で活用するため Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	10 人	会館職員や研修参加者とのネットワーク構築のため Build a collaborative network with NWEC and the seminar participants
5	1 人	その他 Others (please specify:)

2. 研修の満足度

How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

←Satisfied		Unsatisfied→	
4	3	2	1
9 人	1 人	—	—
満足度 : 90.0%	10.0%	—	—

3. 研修の有用度

Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country? What part of the training program was most beneficial to you?

←Satisfied		Unsatisfied→	
4	3	2	1
7 人	3 人	—	—
有用度 : 70.0%	30.0%	—	—

- 男女共同参画センター横浜の日本の女性起業家との意見交換が有益だった。また、女性起業家間の連携について学ぶことができた(インド、フィリピン、カンボジア)
- 経済産業省での日本政府の女性支援施策についての講義(フィリピン)
- (マイクロソフト社と横浜市による)官民連携の取組み(P-P-P)についての説明が帰国後の業務に役立つ(カンボジア)
- 研修の運営手法が参考になった(ベトナム)
- カントリー・レポートの報告は各国の状況を知ることができ、とても有益だった(インド、ベトナム、カンボジア)
- 昭和女子大学キャリアカレッジ修了生の方々と、意見交換できたことが印象に残っている(ミャンマー、カンボジア)
- 行政、NGO という異なる立場の研修生が参加したことにより、女性の起業という共通のテーマについて、多角的な視点から情報交換をすることができ、そのことが深い学びにつながった(ミャンマー)

4. 研修内容等に関する質問

What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

	←Very Good				Very Poor→	Other
テキストブック Textbook	4	3	2	1	—	
	8人	1人	1人	—	—	
	満足度 80.0%	10.0%	10.0%	—	—	
研修機材 Training Equipment	4	3	2	1	—	
	9人	1人	—	—	—	
	満足度 90.0%	10.0%	—	—	—	
研修環境 Lecture facilities	4	3	2	1	—	
	9人	1人	—	—	—	
	満足度 90.0%	10.0%	—	—	—	
宿泊 Accommodation	4	3	2	1	—	
	6人	3人	1人	—	—	
	満足度 60.0%	30.0%	10.0%	—	—	
担当職員 Staff	4	3	2	1	—	
	10人	—	—	—	—	
	満足度 100.0%	—	—	—	—	
総合満足度 (平均)	84.0%	12.0%	4.00%	—	—	—

5. 研修の管理運営方法について

**What did you think of the general administration and management of the training program?
Please provide details.**

←Very Good				Very Poor→	
4	3	2	1	Other	
9人	1人	—	—	—	—
満足度 90.0%	10.0%	—	—	—	—

6. 追加した方がよい内容

If any topics were to be added to the program, what should they be?

- 農山村女性についての講義は非常に興味深かったが、起業した女性農業者との意見交換の機会や「道の駅」を実際に訪問したかった(インド、カンボジア)
- 日本の男女共同参画推進に果たす男性の役割について議論できるプログラムがあるとよかったです(フィリピン)
- 次年度以降は、男性講師の招聘を検討してはどうか(女性の専門家のみで議論をしていると、結局男女共同参画の問題が「女性問題」の枠にとどまってしまうため) (ミャンマー)
- 女性が経営している企業を訪問し、意見交換をおこないたかった(ベトナム)

平成27年度 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」実施要項

1. 趣 旨 国際協力機構（JICA）がアセアン諸国において実施する、人身取引被害者保護・社会復帰・被害の予防の分野でのプロジェクトのカウンターパート及びアセアン地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修の3年計画の第1年次。

人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。

2. 主 催 独立行政法人国際協力機構(JICA)

3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館

4. 協 力 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、国際移住機関(IOM)、東京都、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、一般社団法人社会包摂センターほか

5. 期 日 平成27年10月19日（月）～10月31日（日）

6. 対 象 14名（女性11名、男性3名）

ミャンマー、ベトナム、ラオス、タイ、カンボジア、フィリピン、マレーシアの人身取引対策の予防と保護の分野に携わっている者（中央・地方政府機関）

7. 研修項目

- (1) 日本政府の人身取引対策および日本の人身取引被害者保護支援策について理解する
- (2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する
- (3) 日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶ
- (4) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて、各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う

8. 使用言語 英語

9. 研修日程 別添参照

平成27年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先
	10月 18日	日			来日 移動 成田国際空港 → 幡ヶ谷(TIC)			TIC
集 団 研 修	19日	月	9:30- 12:00	ブリーフィング	JICAブリーフィング	JICA	TIC 別館会議室 A、B連絡	TIC
			13:00- 13:30	オリエンテーション・プログラム説明	オリエンテーション、関係者紹介	岩瀬 倫代(国際協力機構(JICA)) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
			13:30- 14:00	講義	人身取引問題とアジア:JICAの取組	田中由美子(国際協力機構専門家)		
			14:15- 17:00	各国紹介	自己紹介と研修に向けた抱負	研修員		
			17:00- 18:00	講義	研修課題に関する基礎講義	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
	20日	火	10:30- 11:30	講義	日本政府の人身取引対策:「人身取引対策行動計画2014に基づく日本の取組み」(内閣官房)	高塚 洋志(内閣官房) 小寺 次郎(内閣官房)	内閣府8号館8階 中会議室	TIC 別館会議室 A、B連絡
			14:00- 16:00	講義	日本政府の人身取引対策:警察庁	高坂 精一(警察庁生活安全局保安課)		
			16:15- 16:45	基礎講義	日本の人身取引対策まとめ	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
	21日	水	10:00- 12:00	講義	日本政府の人身取引対策:厚生労働省	小林 昌彦(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課)	JICA研究所 601, 602号室	TIC
			14:00- 16:30	講義・見学	日本の人身取引対策(自治体):女性相談所の被害者保護	平井 陽子(東京都女性相談センター所長)		
			18:30- 21:30	スタディーツアー	日本の人身取引対策(民間団体):若年女性・女児をとりまく実態	一般社団法人Colabo		
	22日	木	10:15- 10:30	挨拶・職員紹介	理事長挨拶・職員紹介	中野 洋恵(国立女性教育会館研究国際室長)	国立女性教育会館 事務局棟2階 会議室・大	国立女性教育会館 (NWEC)
			10:45- 11:45	講義・意見交換	男女共同参画の現状と課題	越智 方美(国立女性教育会館研究国際室専門職員)		
			13:30- 14:30	講義	支援を必要とする若年女性の現状	斎藤百合子(明治学院大学准教授)		
			14:30- 15:30	講義	在住外国人支援者の活動紹介	武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)		
			15:30- 17:30	グループディスカッション	若年女性と成人女性に対する支援について	斎藤百合子(明治学院大学准教授) 武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)		
	23日	金	8:30- 11:00	講義	米国における人身取引被害者支援の取組	新倉 久乃(女性の家サークル理事) フランク・オカンボス(ソーシャルワーカー)	国立女性教育会館 宿泊棟2階 ミーティングルーム	TIC
			11:00- 12:00	グループ討議	当事者視点の支援、人権取引被害者の支援方策について	フランク・オカンボス(ソーシャルワーカー) 新倉 久乃(女性の家サークル理事)		
			13:00- 13:30	日本文化体験	お茶室見学と茶道体験	会館職員		
			13:30- 15:30	ワークショップ	「被害者視点に立った支援」についてのロールプレイ	新倉 久乃(女性の家サークル理事) フランク・オカンボス(ソーシャルワーカー) JICA専門家		
			15:30- 16:30	1週間のまとめと振り返り	学習支援者:女性教育・男女共同参画	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
	24日	土		日本を知る	日本ツアーア			TIC
	25日	日	終日		自由研究			TIC
26日	月	9:30- 12:00	講義	日本政府の人身取引対策:厚生労働省	池田 陽平(厚生労働省職業能力開発局海外協力課)	TIC SR201	TIC	
		13:30- 14:30	講義	グローバル課題:ジェンダーと移住労働(現状と課題)	大曲由起子(移住者と連帯する全国ネットワーク事務局次長)			
		14:30- 15:30	講義	グローバル課題:ジェンダーと移住労働(法的側面)	吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)			
		15:30- 17:30	意見交換	移住労働の実態と課題	大曲由起子(移住者と連帯する全国ネットワーク事務局次長) 吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)			
27日	火	10:00- 11:00	講義	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	花崎みさ(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長)	社会福祉法人 一粒会	TIC	
		11:00- 12:00	講義	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	砥上 正樹(社会福祉法人一粒会「野の花の家」施設長)			
		13:00- 14:00	講義	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	小林 晶子(社会福祉法人一粒会「FAHこすもす」センター長)			
		14:00- 16:00	見学・討議	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援 グループ1	フランク・オカンボス(社会福祉法人一粒会「ファミリーセンター・ヴィオラ」外国人ソーシャルワーカー)			
		14:00- 16:00	見学・討議	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援 グループ2	鳥海 典子(社会福祉法人一粒会「FAHこすもす」センター主任・母子指導員)			
28日	水	9:00- 12:00	講義・意見交換	民間の取組:伴走型支援(主講師)	遠藤 智子(一般社団法人社会的包摶センター事務局長)	一般社団法人 社会的包摶センター	TIC	
				民間の取組:全国的電話相談支援(サブ講師)	和久井みちる(一般社団法人社会的包摶センター全国コーディネーター)			
				民間の取組:全国的電話相談支援(サブ講師)	原 ミナ汰(共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク 代表)			
		14:00- 17:00	講義	日本政府の人身取引対策:法務省入国管理局	横川なるみ(法務省入国管理局)	法務省	TIC	
				日本政府の人身取引対策:法務省刑事局	坪井麻友美(法務省刑事局公安課)			

平成27年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先
29日	木	10:30-16:00	発表・意見交換	各国の取組、成果発表と意見交換会	外務省、法務省刑事局、入国管理局、厚生労働省(2名)、マレーシア大使館、清谷 典子(国際移住機関(IOM)プログラム・マネージャー)、遠藤 智子(一般社団法人社会の包摂センター事務局長)、花崎みさを((社福)一粒会理事長)、武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)、新倉 久乃(女性の家サークル理事)、フランク・オカンボス(ソーシャルワーカー)、斎藤百合子(明治学院大学教授)、大谷美紀子(弁護士)、大曲由起子(移住者と連帯する全国ネットワーク事務局長次長)、マリア・ロザリオ・ハレスカス(東洋大学教授)ほか、JICA(岩瀬 優代、田中由美子、甲木 京子、小川専門家ほか)、渡辺 美穂(国立女性教育会館)、越智 方美(国立女性教育会館)	JICA本部 113 (110控室)	TIC
					国際協力機構、研修参加者、渡辺 美穂(国立女性教育会館)		
					国際協力機構、渡辺 美穂(国立女性教育会館)		
30日	金	10:00-11:00 11:00-11:30	評価 閉講式	評価会 JICA挨拶、NWECC挨拶、研修員代表挨拶、修了証書授与		TIC	TIC
31日	土		帰国	帰国			

課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」アンケート結果

アンケート回答

研修目標について

完全に達成	かなり達成	達成	未達成
7名	7名	—	—
50.0%	50.0%	—	—

記述回答（一部抜粋）

- ・研修を通じて学んだ知見の中で、自国の課題解決に貢献しうる知見（手法、業務・組織、制度、概念）、技術、技能
- ・とても有益なコースだった。研修で学んだ当事者視点に立った理解や知識を、各国において、それぞれ関係する福祉、司法、検察、裁判官、民間団体などを含むステークホールダーで共有できるようにしてほしい。
- ・このテーマは我々の仕事に非常に効果的で重要である。
- ・セミナーで取り上げたテーマは、日々の現状に直接役立つ。
- ・受入国と送出国の労働問題の解決に向けて活用できる内容であり、仕事に役立てることができる。
- ・すべての科目が人身取引に関係しており、必要な科目である。
- ・手と頭と心を使うという支援のための基本知識とスキルをロールプレイを通じて学ぶことができた。
- ・支援の際の基本的なプロセスについてのスキルや社会福祉法人という組織について学んだことが役に立つ。自国では公立の女性センターを設置する必要があるが、そのためにはスタッフの人材養成が必要である。
- ・民間団体が、特に人身取引の防止や被害者支援の分野で参画していることが印象に残った。政府とNGOの連携がとてもよくとれている。
- ・人身取引対策行動計画2014が参考になる。
- ・女性相談所と匿名通報ダイヤルの制度が参考になった。
- ・技能実習制度についての説明は仕事に役立つ。

平成27年度NWE C国際シンポジウム実施要項

1. 趣 旨 「NWE C国際シンポジウム」は、女性の人権、女性の能力開発・人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、研究者や行政関係者・女性団体等指導者間のネットワーク構築を目的として、国立女性教育会館が毎年実施している事業です。平成27年度の国際シンポジウムでは、「ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント」をテーマとしてとりあげます。フィリピンで男女共同参画の推進を牽引されてきた専門家を招へいし、議論をおこなうことを目的としています。
2. 主 題 ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント
3. 開催期日 平成28年2月12日（金）13：30－17：00
4. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
5. 会 場 主婦会館プラザエフ クラルテ
東京都千代田区六番町15
6. 使用言語 日本語、英語（同時通訳付き）
7. 募集人員 研究者、男女共同参画の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等のリーダー等 100名程度

8. プログラム

開会 13：30－14：40 主催者挨拶・イントロダクション

第一部 基調講演 13：40－14：40

・エミリン・ベルゾーサ フィリピン女性委員会委員長

「女性の経済的エンパワーメントに相乗効果をもたらすジェンダーに対応した

フィリピンの取組み」

フィリピンの男女平等政策を牽引されてきたフィリピン女性委員会のヴェルゾーザ
局長が、同国における女性の経済的自立支援「ジェンダーに対応した女性のための経
済活動プロジェクト(GREAT Project)」等について講演します。

第二部 パネルディスカッション 15：00－16：50

「女性の経済的エンパワーメント～その課題と挑戦」

パネリスト：

・エミリン・ベルゾーサ

・原田 文代 日本政策投資銀行女性起業サポートセンター長

女性力を成長力と変革力に～日本政策投資銀行の女性起業支援

・萩生田 愛 アフリカの花屋 代表

アフリカの薔薇で雇用を生み出すビジネス

コーディネーター：

・矢島 洋子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 経済・社会政策部主席

研究員 兼 女性推進・ダイバーシティマネジメント戦略室室長

閉会 16：50－17：00

平成 27 年度「NWEC 国際シンポジウム」アンケート集計

「ジェンダー平等と女性の経済的エンパワーメント」

日時：平成 28 年 2 月 12 日(金)

会場：主婦会館プラザエフ 国際会議場クラルテ

当日来場者 63 人 女性 51 人 男性 12 人

アンケート回答 28 人 アンケート回収率 44.4%

1 シンポジウム全体の満足度

非常に満足 70.4% (19 名) 、満足 29.6% (8 名)

2 有用度 基調講演

非常に有用 66.6% (18 名) 、少し有用 33.3% (9 名)

3 有用度 パネルディスカッション

非常に有用 73.9% (17 名) 、少し有用 26.1% (6 名)

4 アンケートに記載された意見

4-1 基調講演

- ・フィリピンの女性支援施策が、「グレート・ウイメン・ブランド」を立ち上げるところまで、施策のシステムが機能していることを学んだ。
- ・地方自治体と政府が、積極的に女性の社会進出を支援していることがわかった。
- ・フィリピンの実践的な取組みについて具体的に学ぶことができた。
- ・国家政策や省庁による多面的な働きかけが、女性の経済的自立を助けている点に感銘を受けた。

4-2 パネルディスカッション

- ・ファシリテーターの矢島氏の冒頭のコメントがとても示唆に富み、もう少し時間をとってもよかったです。
- ・女性起業家支援サイドと、女性起業家、双方からのお話を聞くことができてよかったです。
- ・女性起業推進のコンペティションについて詳しく知ることができた。
- ・ケニアのバラの美しさと、起業家の女性の行動力に感服した。
- ・萩生田様の直接輸入、直接販売の方法に、その自立心に感動させられた。

5. 回答者の属性

5-1 年齢

- ① 19歳以下 1人 ② 20歳代 3人 ③ 30歳代 2人 ④ 40歳代 5人 ⑤ 50歳代 4人
⑥ 60歳以上 6人 ⑦ 無回答 7人

5-2 性別

- ① 女性 17人 ② 男性 1人 ③ 無回答 10人

5-3 お住まいの都道府県

- ① 東京都 12人 ② 茨城 2人 ③ 神奈川 2人 ④ 埼玉 2人 ⑤ 沖縄 1人
⑥ 無回答 9人

5-4 所属

- ① 女性関連施設 0人 ② 行政 1人 ③ NPO/NGO 3人 ④ 教育機関 8人
⑤ 企業 4人 ⑥ 学生 4人 ⑦ その他 6人 (通訳者・開業医・主婦・自営業)
⑧ 無回答 2人

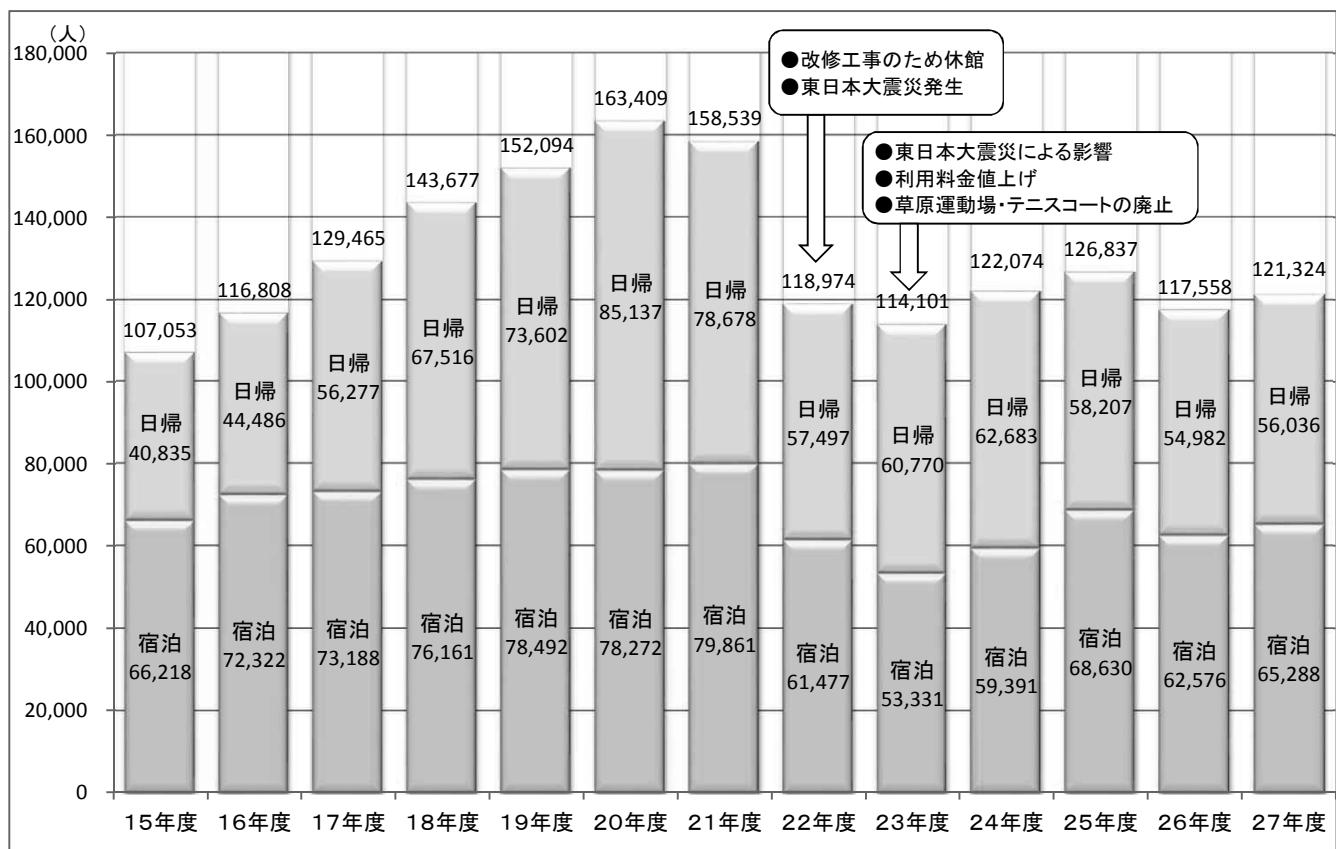
5-5 シンポジウムに参加したきっかけ

- ① 国立女性教育会館ホームページ・FBページ 3人 ② メールマガジン 6人
③ 新聞 1人 ④ ポスター・チラシ 5人 ⑤ その他 1人 ⑥ 無回答 12人

以上

平成27年度 国立女性教育会館利用状況 (平成28年4月11日現在)

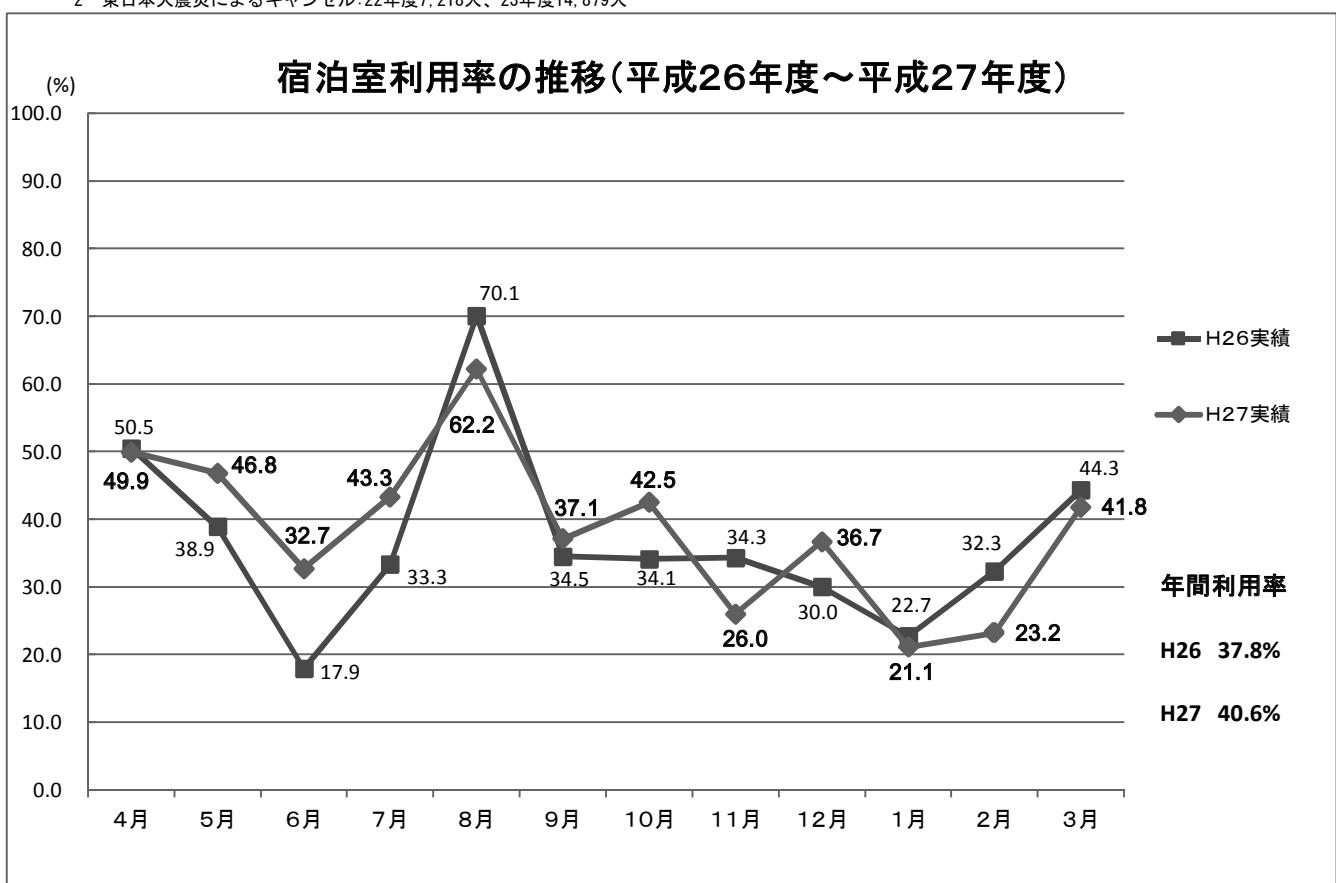
国立女性教育会館延利用者数の推移（平成15年度～平成27年度）



(注) 1 22年度11月15日～2月28日まで改修工事のため休館(前年度実績31,119人)

2 東日本大震災によるキャンセル:22年度7,218人、23年度14,879人

宿泊室利用率の推移(平成26年度～平成27年度)

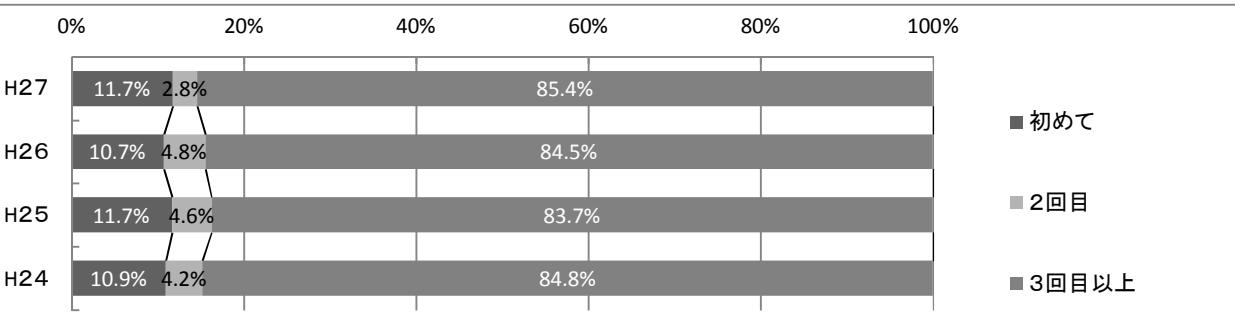


利用回数別利用状況

(1) 団体数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて	2回目	3回目以上	団体数				
H27	91	11.7%	22	2.8%	662	85.4%	775	100.0%
H26	310	10.7%	140	4.8%	2,446	84.5%	2,896	100.0%
H25	329	11.7%	129	4.6%	2,360	83.7%	2,818	100.0%
H24	306	10.9%	118	4.2%	2,371	84.8%	2,795	100.0%

※H27は、4月～6月までの利用状況

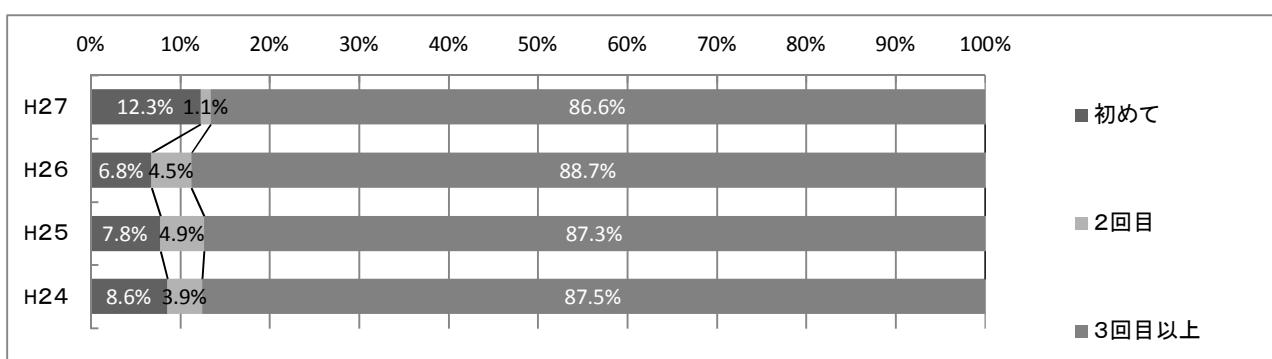


※H27は、4月～6月までの利用状況

(2) 実利用者数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて	2回目	3回目以上	利用者数				
H27	2,295	12.3%	210	1.1%	16,161	86.6%	18,666	100.0%
H26	5,742	6.8%	3,765	4.5%	74,954	88.7%	84,461	100.0%
H25	6,962	7.8%	4,386	4.9%	78,226	87.3%	89,574	100.0%
H24	7,824	8.6%	3,545	3.9%	79,897	87.5%	91,266	100.0%

※H27は、4月～6月までの利用状況



※H27は、4～6月までの利用状況

平成27年度目的別利用状況

		目的利用		一般利用		合計
		利用者数	割合	利用者数	割合	
宿泊	実利用者	28,731	94.6%	1,641	5.4%	30,372
	延利用者	33,422	95.7%	1,494	4.3%	34,916
日帰り	実利用者	16,632	29.7%	39,404	70.3%	56,036
合計	実利用者	45,363	52.5%	41,045	47.5%	86,408
	延利用者	78,785	64.9%	42,539	35.1%	121,324